(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第96集

師(もろ)遺跡・鎌倉遺跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集—

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料 No. 1-2524
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団保管
平成2年3月31日
01-320
48
(6)

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第96集

師(もろ)遺跡・鎌倉遺跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集—

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月１日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先立って調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告によるところの鎌倉遺跡は、沼田市岡谷町、師Ｂ遺跡は利根郡月夜野町師に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、前者は昭和55年６月から同年10月、後者は昭和56年６月から同年12月にかけて、当事業団が調査しました。鎌倉遺跡は弥生時代の集落跡、師Ｂ遺跡は、古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史、特に利根沼田市地方の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。これら両遺跡の資料は、昭和62年４月から報告書作成のための整理作業が行なわれ、本年３月にその作業が完了し、報告書を作成することができました。

両遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、沼田市教育委員会、月夜野町教育委員会、地元関係者等多くの方々からのご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表すとともに、本報告書が県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、広く活用されることを願い序とします。

平成元年５月31日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　清水一郎

例　　言

1．本書は関越自動車道新潟建設に伴う事業名称師B遺跡・鎌倉遺跡の発掘調査報告で文化財保護法とその施行令等に基づいて作成されたものである。

2．発掘調査は事業主体である日本道路公団の委託を受けて(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査主体として実施し、整理作業も同団が行なったものである。

3．調査期間と調査体制

○発掘調査

師B遺跡試掘・本調査　昭和56年6月17日～同年12月24日　　調査担当　平野進一、調査員　反町正巳

鎌倉遺跡試掘調査　昭和54年10月2日～同年12月14日　本調査昭和55年6月9日～同年8月下旬　調査担当　平野進一、調査員　反田正巳

○事務・接渉　(昭和56年度以降)

白石保三郎、梅沢重昭、松本浩一、井上唯雄、上原啓己、大沢秋良、田口紀雄、平野進一、定方隆史、住谷進、国定均、小林昌嗣、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏

4．整理期間と整理体制

期間　昭和62年10月1日～平成元年3月31日　整理担当　大江正行

整理従事者　高橋真樹子、下境マサ江、星野春子、千代谷和子、木暮芳枝、長岡美和子、小池緑

遺物保存の化学処理　関邦一（技師）、北爪健二（嘱託員）、小材浩一（補助員）

遺物写真撮影　佐藤元彦（技師）

5．本書の作成にあたり、次の調査機関、諸先生、諸兄の教示を受けた。

月夜野町教育委員会、沼田市教育委員会、群馬県工業試験場、県下在住の文化財担当職員および当団職員

貽土分析……花岡紘一氏と化学課の皆さん（群馬県工業試験場）

石材鑑定……飯島静男（群馬地質研究会々員）

6．本書の作成・編集は大江正行が担当し、最終責任は大江にある。

7．本遺跡の記録保存資料および出土遺物は現在、群馬県埋蔵文化財調査センターおよび(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管、仮管理されている。

8．遺跡名称は事業名称師B・鎌倉遺跡であったのを、第一篇第2章のとおり師遺跡・鎌倉遺跡とした。また関越自動車道地域新潟遺跡略称は師遺跡がＫＫ42で、鎌倉遺跡がＫＫ37で表記され遺物注記、記録図面表記はこの略称が用いられている。

9．本書の凡例は次のとおりである。

(1)　遺構方位は国家座標系第Ⅵ系の座標を示し、グリットと方位との関係は第2篇第1章に詳しい。

(2)　縮少率は住居跡図を1：80、同竈図を1：40としたが図毎に表記してある。遺物実測図は1：3を原則とし、小さな遺物種については1：2の縮小率とした。

(3)　遺物写真はおよそ1：3を原測としたが、小さな遺物種についてはおよそ1：2の縮小率を用いた。遺構写真については平野進一が撮影した。

(4)　細かな凡例は各篇か各章の冒頭で触れているので参照されたい。

(10)　本書の作成にあたり、鎌倉遺跡調査担当者としての所感を平野進一（当団　調査研究第一課長）に、同遺跡出土の縄文式土器について桜岡正信（当団　調査研究第一課主任調査研究員）に原稿依頼し、目次は大江を除く執筆者名を明記した。

本 文 目 次

第１篇　発掘調査の経緯と経過 …… 9
　第１章　発掘調査に至る経緯 …… 9
　第２章　発掘調査の過程 …… 10
第２篇　調査方法と基本層位 …… 12
　第１章　調査方法 …… 12
　第２章　基本層位 …… 13
第３篇　周辺の環境 …… 14
第４篇　検出された遺構と遺物 …… 16
　第１章　師遺跡 …… 16
　　住居跡 …… 18
　　ＳＪ01～ＳＪ09 …… 18～39
　　ＳＪ10～ＳＪ19 …… 39～49
　　ＳＪ20～ＳＪ29 …… 49～56
　　ＳＪ30～ＳＪ39 …… 56～66
　　ＳＪ40～ＳＪ49 …… 66～79
　　ＳＪ50～ＳＪ59 …… 79～88
　　ＳＪ60～ＳＪ69 …… 88～99
　　ＳＪ70～ＳＪ79 …… 99～108
　　ＳＪ80～ＳＪ90 …… 108～117
　　井戸遺構 …… 117
　　ＳＥ01 …… 117
　　墓跡 …… 117
　　ＳＺ01 …… 117
　　さく遺構 …… 117
　　Ａ群～Ｇ群 …… 118～120
　　特殊遺物 …… 120
　第２章　鎌倉遺跡 …… 128
　　住居跡 …… 131
　　ＳＪ01～ＳＪ05 …… 131～139
　　ＳＪ06～ＳＪ09 …… 139～154
　　井戸遺構 …… 154
　　墓跡 …… 154
　　土壙 …… 154
　　さく遺構 …… 154
　　Ａ群～Ｈ群 …… 155
　　縄文土器（桜岡正信） …… 157
第５篇　遺物観察 …… 159
　第１章　師遺跡 …… 159
　　ＳＪ01～ＳＪ40 …… 159～173
　　ＳＪ41～ＳＪ60 …… 173～176
　　ＳＪ61～ＳＪ80 …… 177～181
　　ＳＪ81～ＳＪ89 …… 181～183
　　特殊遺物 …… 184～185
　第２章　鎌倉遺跡 …… 186
　　ＳＪ01～ＳＪ09・ほか 186～197
第６篇　師・鎌倉・後田遺跡出土土器の胎土分析
　（花岡紘一・大江正行） …… 198
第７篇　まとめ（平野進一） …… 209

図 版 目 次

師 遺 跡

第 1 図 師・鎌倉遺跡標準土層概念図 …… 13
第 2 図 鎌倉遺跡台地上土層断面 …… 13
第 3 図 鎌倉遺跡低地土層断面 …… 13
第 4 図 周辺遺跡分布図 …… 15
第 5 図 師遺跡周辺地形と小字界図 …… 17
第 6 図 師遺跡遺構全体図 …… 19・20
第 7 図 S J 01遺構図 …… 21
第 8 図 S J 01遺物図 …… 21
第 9 図 S J 02遺構図 …… 22
第 10 図 S J 02遺物図 …… 22
第 11 図 S J 02遺物図 …… 23
第 12 図 S J 03遺構図 …… 24
第 13 図 S J 03遺物図 …… 24
第 14 図 S J 03遺物図 …… 25
第 15 図 S J 03遺物図 …… 26
第 16 図 S J 03遺物図 …… 27
第 17 図 S J 03遺物図 …… 28
第 18 図 S J 03遺物図 …… 29
第 19 図 S J 04遺構図 …… 30
第 20 図 S J 04遺物図 …… 30
第 21 図 S J 04遺物図 …… 31
第 22 図 S J 05遺構図 …… 32
第 23 図 S J 05遺物図 …… 32
第 24 図 S J 05遺物図 …… 33
第 25 図 S J 06・07遺構図 …… 33
第 26 図 S J 05～07遺物図 …… 33
第 27 図 S J 08遺構図 …… 34
第 28 図 S J 08遺物図 …… 34
第 29 図 S J 09遺構図 …… 35
第 30 図 S J 09遺物図 …… 36
第 31 図 S J 09遺物図 …… 37
第 32 図 S J 09遺物図 …… 38
第 33 図 S J 10遺構図 …… 39
第 34 図 S J 10遺物図 …… 39
第 35 図 S J 11遺構図 …… 40
第 36 図 S J 11遺物図 …… 40
第 37 図 S J 12・90遺構図 …… 41
第 38 図 S J 12遺物図 …… 41
第 39 図 S J 12遺物図 …… 42
第 40 図 S J 13遺構図 …… 42
第 41 図 S J 13遺物図 …… 42
第 42 図 S J 14遺構図 …… 43
第 43 図 S J 14遺物図 …… 43
第 44 図 S J 15遺構図 …… 44
第 45 図 S J 15遺物図 …… 44
第 46 図 S J 16遺構図 …… 46
第 47 図 S J 16遺物図 …… 46
第 48 図 S J 16遺物図 …… 47
第 49 図 S J 17・18・19遺構図 …… 48
第 50 図 S J 17遺物図 …… 48
第 51 図 S J 20遺構図 …… 49
第 52 図 S J 21遺構図 …… 49
第 53 図 S J 21遺物図 …… 49
第 54 図 S J 22遺構図 …… 50
第 55 図 S J 22遺物図 …… 50
第 56 図 S J 22遺物図 …… 51
第 57 図 S J 23遺構図 …… 52
第 58 図 S J 23遺物図 …… 52
第 59 図 S J 24遺構図 …… 53
第 60 図 S J 25遺構図 …… 53
第 61 図 S J 26遺構図 …… 53
第 62 図 S J 27遺構図 …… 54
第 63 図 S J 27遺物図 …… 54
第 64 図 S J 28遺構図 …… 55
第 65 図 S J 28遺物図 …… 55
第 66 図 S J 29遺構図 …… 55
第 67 図 S J 29遺物図 …… 55
第 68 図 S J 30遺構図 …… 57
第 69 図 S J 30遺物図 …… 57
第 70 図 S J 31遺構図 …… 58
第 71 図 S J 31遺物図 …… 58
第 72 図 S J 31遺物図 …… 59
第 73 図 S J 32遺構図 …… 60
第 74 図 S J 32遺物図 …… 60
第 75 図 S J 32遺物図 …… 61
第 76 図 S J 33遺構図 …… 63
第 77 図 S J 33遺物図 …… 63
第 78 図 S J 34遺構図 …… 64
第 79 図 S J 34遺物図 …… 64
第 80 図 S J 35遺構図 …… 64
第 81 図 S J 35遺物図 …… 65
第 82 図 S J 36遺構図 …… 65
第 83 図 S J 36遺物図 …… 65
第 84 図 S J 37遺構図 …… 66
第 85 図 S J 37遺物図 …… 66
第 86 図 S J 38遺構図 …… 67
第 87 図 S J 38遺物図 …… 67
第 88 図 S J 38遺物図 …… 68
第 89 図 S J 38遺物図 …… 69
第 90 図 S J 39遺構図 …… 70
第 91 図 S J 40遺構図 …… 70
第 92 図 S J 40遺物図 …… 71
第 93 図 S J 41遺構図 …… 72
第 94 図 S J 41遺物図 …… 72
第 95 図 S J 42遺構図 …… 73
第 96 図 S J 42遺物図 …… 73
第 97 図 S J 42遺物図 …… 74
第 98 図 S J 43遺構図 …… 75
第 99 図 S J 43遺物図 …… 75
第 100 図 S J 44遺構図 …… 75
第 101 図 S J 45遺構図 …… 76
第 102 図 S J 46遺構図 …… 76
第 103 図 S J 46遺物図 …… 76
第 104 図 S J 47遺構図 …… 77
第 105 図 S J 47遺物図 …… 77
第 106 図 S J 48遺構図 …… 78
第 107 図 S J 48遺物図 …… 78
第 108 図 S J 49遺構図 …… 78
第 109 図 S J 49遺物図 …… 79
第 110 図 S J 50遺構図 …… 80
第 111 図 S J 50遺物図 …… 81
第 112 図 S J 51遺構図 …… 82
第 113 図 S J 52遺構図 …… 82
第 114 図 S J 52遺物図 …… 82

第115図　ＳＪ53・54遺構図 …… 83
第116図　ＳＪ53・54遺物図 …… 83
第117図　ＳＪ55遺構図 …… 84
第118図　ＳＪ55遺物図 …… 84
第119図　ＳＪ56・57遺構図 …… 85
第120図　ＳＪ56遺物図 …… 85
第121図　ＳＪ57遺物図 …… 87
第122図　ＳＪ58遺構図 …… 87
第123図　ＳＪ58遺物図 …… 87
第124図　ＳＪ59遺構図 …… 87
第125図　ＳＪ59遺物図 …… 87
第126図　ＳＪ60遺構図 …… 89
第127図　ＳＪ60遺物図 …… 89
第128図　ＳＪ60遺物図 …… 90
第129図　ＳＪ61遺構図 …… 91
第130図　ＳＪ61遺物図 …… 91
第131図　ＳＪ62遺構図 …… 92
第132図　ＳＪ62遺物図 …… 92
第133図　ＳＪ63遺構図 …… 93
第134図　ＳＪ64遺構図 …… 94
第135図　ＳＪ64遺物図 …… 94
第136図　ＳＪ65遺構図 …… 94
第137図　ＳＪ65遺物図 …… 94
第138図　ＳＪ66遺構図 …… 95
第139図　ＳＪ66遺物図 …… 95
第140図　ＳＪ67遺構図 …… 96
第141図　ＳＪ67遺物図 …… 96
第142図　ＳＪ68遺構図 …… 96
第143図　ＳＪ68遺物図 …… 96
第144図　ＳＪ69遺構図 …… 97
第145図　ＳＪ69遺物図 …… 97
第146図　ＳＪ70遺構図 …… 97
第147図　ＳＪ71遺構図 …… 98
第148図　ＳＪ71遺物図 …… 98
第149図　ＳＪ72遺構図 …… 98
第150図　ＳＪ72遺物図 …… 100
第151図　ＳＪ73遺構図 …… 100
第152図　ＳＪ73遺物図 …… 100
第153図　ＳＪ74遺構図 …… 101
第154図　ＳＪ74遺物図 …… 101
第155図　ＳＪ75遺構図 …… 101
第156図　ＳＪ75遺物図 …… 101
第157図　ＳＪ76遺構図 …… 102
第158図　ＳＪ76遺物図 …… 102
第159図　ＳＪ77遺構図 …… 103
第160図　ＳＪ77遺物図 …… 103
第161図　ＳＪ78遺構図 …… 103
第162図　ＳＪ79遺構図 …… 104
第163図　ＳＪ79遺物図 …… 104
第164図　ＳＪ80遺構図 …… 105
第165図　ＳＪ80遺物図 …… 106
第166図　ＳＪ81遺構図 …… 107
第167図　ＳＪ81遺物図 …… 107
第168図　ＳＪ82遺構図 …… 107
第169図　ＳＪ82遺物図 …… 107
第170図　ＳＪ83遺構図 …… 107
第171図　ＳＪ84遺構図 …… 108
第172図　ＳＪ85遺構図 …… 109
第173図　ＳＪ85遺物図 …… 110
第174図　ＳＪ85遺物図 …… 111
第175図　ＳＪ86・87遺構図 …… 112
第176図　ＳＪ86遺物図 …… 113
第177図　ＳＪ88遺構図 …… 114
第178図　ＳＪ88遺物図 …… 114
第179図　ＳＪ89遺構図 …… 115
第180図　ＳＪ89遺物図 …… 116
第181図　ＳＥ01遺構図 …… 118
第182図　さく遺構図 …… 119
第183図　須恵器特殊器種 …… 123
第184図　小形粗製土師器 …… 123
第185図　雛土製支脚と用途不明土製品 …… 124
第186図　土　玉 …… 124
第187図　紡錘車 …… 124
第188図　砥　石 …… 124
第189図　羽　口 …… 124
第190図　灰釉陶器 …… 125
第191図　墨書土器 …… 125
第192図　中近世・軟質陶器 …… 125
第193図　近世陶・磁器 …… 125
第194図　石　板 …… 126
第195図　古　銭 …… 126
第196図　鉄製品 …… 126
第197図　石器実測図 …… 126
第198図　平野部からの搬入土器とそれに類した新土の一群 …… 127

鎌倉遺跡

第199図　鎌倉遺跡周辺地形と小字区界図 …… 129
第200図　鎌倉遺跡遺構全体図 …… 130
第201図　ＳＪ01遺構図 …… 132
第202図　ＳＪ01遺物図 …… 132
第203図　ＳＪ01遺物図 …… 133
第204図　ＳＪ01遺物図 …… 134
第205図　ＳＪ02遺構図 …… 135
第206図　ＳＪ02遺物図 …… 135
第207図　ＳＪ02遺物図 …… 136
第208図　ＳＪ03遺構図 …… 137
第209図　ＳＪ03遺物図 …… 137
第210図　ＳＪ03遺物図 …… 138
第211図　ＳＪ04遺構図 …… 139
第212図　ＳＪ04遺物図 …… 140
第213図　ＳＪ05遺構図 …… 141
第214図　ＳＪ05遺物図 …… 141
第215図　ＳＪ05遺物図 …… 142
第216図　ＳＪ06遺構図 …… 143
第217図　ＳＪ06遺物図 …… 143
第218図　ＳＪ06遺物図 …… 144
第219図　ＳＪ07遺構図 …… 145
第220図　ＳＪ07遺物図 …… 146
第221図　ＳＪ07遺物図 …… 147
第222図　ＳＪ08遺構図 …… 148
第223図　ＳＪ08遺物図 …… 148
第224図　ＳＪ09遺構図 …… 149
第225図　ＳＪ09遺物図 …… 149
第226図　土壙集成図　ＳＫ01～06 …… 150
第227図　土壙集成図　ＳＫ07～14 …… 151
第228図　土壙集成図　ＳＫ15～19 …… 152
第229図　土壙集成図　ＳＫ20～26 …… 153
第230図　土壙集成図　ＳＫ27～29 …… 154
第231図　土壙・グリット遺物図 …… 154
第232図　さく遺構図 …… 156
第233図　縄文土器図 …… 158

写真図版目次

師　遺　跡

写真図版1　上　師遺跡と利根川・三国連山
　　下　師遺跡と後田遺跡
写真図版2　上　師遺跡を北上空より望む
　　下　師遺跡を西上空より望む
写真図版3　上　師遺跡A区近景
　　下　師遺跡B・C区近景
写真図版4　1左　SJ01遺物出土状態
　　右　SJ02遺物出土状態
　　2左　SJ03遺物出土状態
　　右　SJ03竈周辺遺物近接
　　3左　SJ04遺物出土状態
　　右　SJ08竈近景
　　4左　SJ09・10遺物出土状態
　　右　SJ09竈近景
写真図版5　1左　SJ11遺物出土状態
　　右　SJ12・90床面状態
　　2左　SJ13遺物出土状態
　　右　SJ15遺物出土状態
　　3左　SJ16遺物出土状態
　　右　SJ23床面状態
　　4左　SJ29床面状態
　　右　SJ30遺物出土状態
写真図版6　1左　SJ32遺物出土状態
　　右　SJ32竈周辺遺物近景
　　2左　SJ33・34遺物出土状態
　　右　SJ35遺物出土状態
　　3左　SJ36・37遺物出土状態
　　右　SJ36竈近景
　　4左　SJ38遺物出土状態
　　右　SJ38遺物出土状態
写真図版7　1左　SJ39・40遺物出土状態
　　右　SJ40竈周辺遺物近景
　　2左　SJ41遺物出土状態
　　右　SJ42遺物出土状態
　　3左　SJ42竈周辺遺物近景
　　右　SJ47床面状態
　　4左　SJ49遺物出土状態
　　右　SJ49竈近景
写真図版8　1左　SJ50遺物出土状態
　　右　SJ51床面状態
　　2左　SJ48・52遺物出土状態
　　右　SJ55遺物出土状態
　　3左　SJ56遺物出土状態
　　右　SJ58床面状態
　　4左　SJ60遺物出土状態
　　右　SJ60竈近景
写真図版9　1左　SJ59・72遺物出土状態
　　右　SJ61遺物出土状態
　　2左　SJ62遺物出土状態
　　右　SJ64遺物出土状態
　　3左　SJ65床面状態
　　右　SJ72竈周辺遺物近景
　　4左　SJ74床面状態
　　右　SJ75床面状態
写真図版10　1左　SJ76遺物出土状態
　　右　SJ79床面状態
　　2左　SJ80遺物出土状態
　　右　SJ84・85遺物出土状態
　　3左　SJ86遺物出土状態
　　右　SJ88遺物出土状態
　　4左　SJ89遺物出土状態
　　右　SE01近景
写真図版11　SJ01・02遺物
写真図版12　SJ03遺物
写真図版13　SJ03遺物
写真図版14　SJ03遺物
写真図版15　SJ03・04・05遺物
写真図版16　SJ05・08・09遺物
写真図版17　SJ09遺物
写真図版18　SJ09遺物
写真図版19　SJ09・10・11・12遺物
写真図版20　SJ12・13・15遺物
写真図版21　SJ16遺物
写真図版22　SJ17・21・22・23・27遺物
写真図版23　SJ27・28・29・30・31遺物
写真図版24　SJ31・32遺物
写真図版25　SJ32・33遺物
写真図版26　SJ34・35・36・37・38遺物
写真図版27　SJ39遺物
写真図版28　SJ40・41遺物
写真図版29　SJ41・42遺物
写真図版30　SJ42・43・46・49・50遺物
写真図版31　SJ50・52・53・54・55・56遺物
写真図版32　SJ58・59・60・61・62遺物
写真図版33　SJ64・65・66・68・71・72遺物
写真図版34　SJ74・75・76・77・79・80遺物
写真図版35　SJ80・81・82・85遺物
写真図版36　SJ85遺物
写真図版37　SJ85・86遺物
写真図版38　SJ86・88・89遺物
写真図版39　石器・石・有孔土製品・紡錘車・石板・羽口・砥石・鉄製品・古銭
写真図版40　小形模製土師器・竈土製支脚・墨書土器
写真図版41　須恵器特殊器種・灰釉陶器・用途不明土製品・胎土分析試料
写真図版42　中世軟質陶器・近世陶・磁器

鎌倉遺跡

写真図版43　上　調査地近景
　　下　調査地近景
写真図版44　1左　ＳＪ01遺物出土状態
　　右　ＳＪ01床面状態
　　2左　ＳＪ02遺物出土状態
　　右　ＳＪ02床面状態
　　3左　ＳＪ03遺物出土状態
　　右　ＳＪ03床面状態
　　4左　ＳＪ04遺物出土状態
　　右　ＳＪ04床面状態
写真図版45　1左　ＳＪ04入口の柱穴状態
　　右　ＳＪ04炉跡近景
　　2左　ＳＪ05遺物出土状態
　　右　ＳＪ05炉跡近景
　　3左　ＳＪ06遺物出土状態
　　右　ＳＪ06床面状態
　　4左　ＳＪ06炭化垂木出土状態
　　右　ＳＪ06入口の柱穴状態
写真図版46　1左　ＳＪ07遺物出土状態
　　右　ＳＪ07床面状態
　　2左　ＳＪ07炉跡近景
　　右　ＳＪ07遺物出土状態
　　3左　ＳＪ08床面状態
　　右　ＳＪ08遺物出土状態近景
　　4左　ＳＪ09遺物出土状態
　　右　ＳＪ09床面状態
写真図版47　1左　ＳＫ01近景
　　右　ＳＫ02近景
　　2左　ＳＫ03近景
　　右　ＳＫ04近景
　　3左　ＳＫ10近景
　　右　ＳＫ11近景
　　4左　ＳＫ24近景
　　右　ＳＫ28近景
写真図版48　　ＳＪ01・02・03遺物
写真図版49　　ＳＪ04・05・06遺物
写真図版50　　ＳＪ07・08・09・ＳＫ１・円形土壙遺物

第1篇　発掘調査の経緯と経過

第1章　発掘調査に至る経緯(1)

関越自動車道（新潟線）は東京都練馬区から埼玉県東松山、花園、本庄、児玉を通り、群馬県藤岡、高崎、前橋、渋川、沼田、月夜野町をへて新潟県に至る総延長約300kmの高速道である。このうち東松山―渋川間は、昭和44年1月22日に建設の基本計画が、昭和45年6月9日に整備計画と施行命令が建設省から日本道路公団に出され、以北にある渋川―新潟県六日町間は昭和45年6月18日に基本計画が示されたあと、渋川―月夜野間については昭和46年6月1日に整備計画と施行命令が、さらに月夜野―湯沢間については昭和47年6月20日に整備計画と施行命令が出された。路線発表は、藤岡―渋川間が昭和46年8月、渋川―月夜野間が49年1月、月夜野以北は50年10月であった。

一方、関越自動車道とほぼ同じ段階に上越新幹線、国道17号バイパス（上武国道）の建設計画が公にされ、群馬県にとってかつて例を見ない大型交通幹線時代を迎えることとなった。

関越自動車道の路線地域は、本県でも遺跡分布の濃密な地域を通過するため当初から埋蔵文化財の保護対策が大きな課題で、事業主体者である日本道路公団は既に昭和42年9月30日に文化財保護委員会（文化庁の前身）との間で締結していた「日本道路公団の建設事業等工事施工に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」にもとづき、群馬県教育委員会と昭和46年度より協議を続けてきた。その結果、昭和48年以降、群馬県教育委員会が直営事業で、建設に伴って破壊が予想される埋蔵文化財包蔵地について発掘調査を実施することとなった。係わる埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は藤岡―渋川間で22遺跡が該当し、昭和54年度までに前橋インターチェンジ以南の15遺跡の発掘調査が終了し、東松山―前橋インターチェンジ間が開通したのは昭和55年7月17日であった。

県内における開発事業の大規模化、件数の多様化に対し、県教育委員会は昭和47年度に文化財保護室から文化財保護課へと拡充を計った。しかし東松山―前橋インターチェンジ間の開通時には既に対応能力に限界が生じていたため県は昭和53年7月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を設立し、従来、県教育委員会文化財保護課で実施していた現地における発掘調査事業を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団へ移管することとした。そして関越道をはじめ、上越新幹線、上武国道等公団、県事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の調整等の事務は引続き県教育委員会文化財保護課を窓口として行ない、いわゆる埋蔵文化財行政とその現業部門の分離が計られるようになった。

当初の計画では前橋インターチェンジまでの現地調査が終了した時点で整理、報告書作成の作業に入り、その作業終了後に前橋以北を対応することとしていたが、次いで昭和58年の赤城国体に合せる開通目途が県政側から出され、整理、報告と調査作業とを並行ないし、断続しながら実施する方向性は変更せざるを得ず計画としては、月夜野インター以南、渋川インター間の沼田工事区内を（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の実施が予定であった。一方道路建設の進展は上越国境の関越トンネルが最大の難工事と見られていたが、昭和59年には開通予定であることなどから前橋―湯沢間については一度に全面開通をはかる計画であることが明白となり、埋蔵文化財調査が先行しないと建設計画が進歩しない状況となってきた。

前橋以北の埋蔵文化財包蔵地の存在について昭和55年度まで、数次にわたる分布調査の結果、前橋―月夜野間で26遺跡、月夜野―水上間で17遺跡の多きに達し、および渋川以北の利根川左岸については榛名山二ツ

岳噴出物の堆積があり、表面的な分布調査だけで発掘対象地域を明確化することはできず、該当地域に対し試掘調査を実施し、流動要素を減じた結果、前橋―月夜野間26遺跡、月夜野―水上間で17遺跡の多きに達し、総面積は61万㎡が予測された。その面積量は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の関越自動車道対応能力人員20名、従来からの年間実績面積11万㎡をあてはめた場合に、約6年間を有することが明白であった。

それに対応すべく、群馬県教育委員会は、県交通対策課とも連絡をとり、昭和56年度の重要事項として、10月以降、全庁的な対策会議等を数回に亘って開催し、日本道路公団との協議および関係八ケ市町村の協力を得て次のような基本方針をとることとなった。だが師遺跡は既に55年度以前の計画に基づいて調査を開始していた。

(1) 前橋―月夜野間については県埋蔵文化財調査事業団と関係市町村がそれぞれ調査を分担して実施する。このうち遺跡の大規模なもの計約33万㎡については県埋蔵文化財調査事業団が20人体制で担当し、比較的小規模でまとまりのある遺跡については市町村（教育委員会）が担当する。

(2) 関係市町村（群馬町、吉岡村、北橘村、赤城村、昭和村、沼田市、月夜野町は各2人、渋川市は3人）は計17人の調査担当者とし、教職員を県から派遣する。

(3) 月夜野インターチェンジ以北関越トンネルまでの遺跡の約15万㎡については、月夜野・水上両町にそれぞれ遺跡調査会を設立し、千葉県成田市の山武考古学研究所が担当する。

(4) 県埋蔵文化財調査事業団、関係市町村、調査会とも、現地における発掘調査作業は57、58年度までには終了し、以後の整理、報告書のとりまとめは調査対象面積に応じ1年又は2年とするが、県埋蔵文化財調査事業団については、従来の未整理個所もあるので、総合的な計画の中で消化する。

(5) 発掘及び整理、事務に要する経費は日本道路公団の負担とし、委託契約については一括して日本道路公団が群馬県教育委員会に委託したものを、さらに月夜野町、水上町遺跡調査会（会長は何れも町長）に再委託する。

このようにして群馬県としては未曾有の埋蔵文化財調査体制がとられ、目下未曾有の整理が進行しているさ中である。その記録保存資料、永久保存遺物についての帰属は未だ定まっておらず今後を考える時、文化財における関越道新潟線の終点は将来の課題となっている。

第2章　発掘調査の過程

両遺跡の存在は昭和38年度、昭和46年度に刊行された『群馬県の遺跡』[3]、B群馬県遺跡台帳[5]Ⅰ（東毛編）に記載はなく、昭和46年度に関越自動車道の計画に伴なって実施された分布調査[4]のおり師遺跡は「No311月夜野町師」として小字青岳をあげ包蔵地とされた。小字青岳に所在した包蔵地は関越道の発掘調査時に師A遺跡という事業名称があたえられ、小字師に位置する散布地を師B遺跡と仮称された。師A遺跡は位置からすると昭和46年度の『群馬県遺跡台帳Ⅰ（東毛編）』[5]ではNo3293後田集落跡として既周知された遺跡であるので整理時点で改めて後田遺跡と正式名称があたえられ、師B遺跡は小字千沢と師分に存在するが大字師一帯が大集落であるためそのまま師を冠し、師遺跡とした。鎌倉遺跡は、昭和46年度刊の『関越自動車道地域埋蔵文化財分布調査報告書』[6]でNo386、沼田市岡谷町「薄根川北岸の河岸段丘上の標高約400m付近の旧薄根村に続く一帯の畑中にわたって土器片の散布が見られる。」記載に一致の遺跡である。鎌倉遺跡の事業名称は小字名称が用いられ、整理結果からしても小字名称が相応と考えられたため事業名称鎌倉遺跡をそのまま引継ぐこととした。

渋川インター以北の関越道に係わる遺跡認知は、既周知のほか、遺跡範囲や調査前の流動要素が個々の遺跡に介在しているため昭和54～56年度にかけ県教育委員会により試掘調査が実施された。昭和54年度[6]は沼田―月夜野インターチェンジ直前までの間に在在する沼田市横塚Ａ・Ｂ、鎌倉、諏訪神社、戸神諏訪、善桂寺、大釜Ａ・Ｂ、原、宇楚井（各事業名称）が、昭和55年度[7]に月夜野インターチェンジにかかる月夜野町師Ａ（後田遺跡）、師Ｂ（師遺跡）が、昭和56年度[8]には棒名山二ツ岳軽石が堆積し、不確定要素のある勢多郡北橘村間の分郷八崎、竹之原、房谷戸、三原田城、三原田団地、中畦、諏訪西、見立溜井、勝保沢中山、中柳、糸井宮前の12遺跡が実施された。この渋川インターチェンジ以北においての一連の試掘調査が終了するに先立ち、県埋蔵文化財調査事業団は県教育委員会の委託を受け昭和55年度に鎌倉・大釜遺跡を、翌56年度には金山古墳群、師Ａ・Ｂ遺跡について、本調査に入った。本調査入りは試掘結果から出された対象面積61万㎡、およそ30遺跡に対処すべくなされた県の方策に先立つ段階であり、関越道本来の調査計画に基づいていた。その理由は大規模遺跡は難航が予測されたため早期着手するという事業実施の合理観および建設工程からである。

師遺跡と鎌倉遺跡の試掘概要は次のとおりであるが師Ｂは試掘から直接本調査入りしている。

試掘　（概報を要約）

師Ｂ遺跡[9]　所在地―利根郡―月夜野町大字師、発掘期間―昭和56年６月17日～同年12月24日。
調査担当―平野進一（調査研究員）、反町公己（嘱託員）。調査対象面積―18,100㎡。トレンチ―1.5×7.5ｍで39本。発掘面積―438.75㎡。遺構分布範囲―18,100㎡。発見された遺構―古墳時代住居址・土壙・溝など。

鎌倉遺跡[10]　所在地―沼田市岡谷町小字鎌倉。発掘期間―昭和54年10月～同年12月14日
調査担当―平野進一（調査研究員）、反町公己（嘱託員）。調査対象面積―9,600㎡。トレンチ―1.5×6～8ｍで26本。発掘面積―182㎡。遺構分布範囲―60×160ｍ。発見された遺構―弥生時代住居跡、土壙、小溝多数。

鎌倉遺跡の本調査は昭和55年６月９日より始められ同年８月下旬に終了している。調査担当者および調査員は試掘時と同じである。報告書作成のための整理は昭和62年10月１日より始められ、平成元年３月31日をもって終了した。

(1)　森田秀策「調査に至るまでの経過」『関越自動車道（新潟線）月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』（月夜野遺跡調査会・群馬県教育委員会）1985を基として作成した。
(2)　（群馬県教育委員会）『関越自動車道地域埋蔵文化財調査報告書』1972
(3)　（群馬県教育委員会・群馬県遺跡台帳作成委員会）『群馬県の遺跡』1963
(4)　（群馬県教育委員会）『群馬県遺跡地図』1973
(5)　（群馬県教育委員会）『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財試掘調査報告（沼田地区）』プリント1979
(6)　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査概報』プリント1980
(7)　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査概報』プリント1981

第２篇　調査方法と基本層位

第１章　調　査　方　法

師遺跡

調査区の設定は日本道路公団関越道路新潟線中心杭を用いた２ｍグリッドである。師遺跡の位置は月夜野第一インターチェンジ内の、ループ状に大きく弧を描いた個所にある。そのため中心杭には本線で用いられた新潟線杭通番は用いられておらず月夜野第一インターチェンジ番号が用いられている。師遺跡のグリット杭はNo０杭とNo２杭の200ｍ間を視準して設定された。No０杭はグリッド番号30Ｃ10で、No２杭はグリッド番号30Ａ20である。グリッドは国家座標と結合されていないが、方位角を公団現形図１：1,000から求めると、グリッド南北ラインは東偏しおよそＮ15°Ｅを指す。本遺跡のグリッド番号の呼称法は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が行なう新潟線調査の一般型を用いた。

本遺跡のグリッドは東京側に若い番号を、新潟側に若い数字を配しているため呼称点は北東隅部をさして呼び、50グリッド毎に東からＡ・Ｂ・Ｃの大区分がある。呼称法は39Ｂ20で例えるなら０点より39グリッド西に進み、０点よりさらに西にＢ20グリッド北に進んだ位置にあると云った具合である。

水準は新潟線中心杭から引照して用いた標高値で、本報告書中の数値はそれである。

遺構名称は略称とし、ＳＪ＝住居跡、ＳＥ＝井戸跡、ＳＫ＝土壙、Ｐは小土壙をあらわし、本文中と、遺構平面にそれらを用いた。

遺構重複の認定は発掘調査では困難であったとのことであり、事実、なされていないか、遺物認定については、現場所見を尊守したが、現場写真と比較して、現場所見が危ぶまれる場合は本文中に理由と扱い方を図示の遺物図番号・遺物観察表中に示した。詳しくはＰ.16を参照されたい。

測図はグリッド杭を使用し、作図は基本的には１：20図を用い、平板実測の図化である。

写真は６×９㎝判のモノクローム、35㎜のモノクローム、カラー・リバーサルフィルムを用いて記録された。

鎌倉遺跡

調査区の設定は師遺跡と同様で、（財）群馬県埋蔵文化調査事業団が行なう新潟線調査の一般型を用いた。視準した基軸中心杭はNo221（20Ａ10）とNo222＋20（20Ｂ00）である。呼称法は師遺跡の場合と同様である。グリッドと方位角の関係はグリッドが座標北より約Ｎ14°30′Ｗ傾く。

水準は新潟線中心杭から引照して用いた標高値で、本報告書中の数値はそれである。

遺構名称は略称とし、師遺跡の場合と同様である。

遺構重複は発掘調査時において困難であったとは聞いていないが、遺跡地内における遺構重複はそう多くなく、全体図として示した第200図は、新・古の関係に基づいて作成することができた。遺物認定については現場所見を尊守したが、現場所見が危ぶまれる場合は理由と扱い方を本文、図中、遺物観察表中に示した。

測図はグリッド杭を使用し、作図は基本的には１：20図を用い、平板実測の図化である。

写真は６×９㎝判のモノクローム、35㎜のモノクローム、カラー・リバーサルフィルムを用いて記録された。

第2章　基　本　層　位

師遺跡

群馬県における紀元後の主要火山灰のうち、師遺跡で確認されているのは榛名山二ツ岳噴源によるＦＰ（６世紀後半頃）であるが、本遺跡内住居跡の中で順堆積はなく、少なからず汚れた状況であったと聞いている。住居跡埋土の注記中にそうした内容が見える。

標準土層について良好な順堆積の図、写真はなく第１図は合成の概念である。

Ⅰ層。黒色土。耕作土または表土層。粗質で黒色土味は強いが粗質である。乾燥し易い土壌である。

Ⅱ層。榛名山給源のＦＰを多く含む黒色土。粗質で有機分強く、ＦＰは純層ではない。

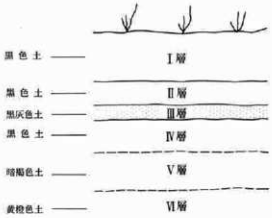
Ⅲ層。榛名山給源のＦＰ層。隣接の後田遺跡内ＳＪ60（住居跡）埋土に認められている。

Ⅳ層。黒色土層。旧表土に相当し、火山軽石粒をわずかに含む。粘性にとみ、有機質。

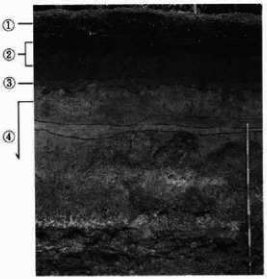
Ⅴ層。ローム層と黒色土層との漸移層。場所によっては軟らかで暗褐色を呈す。下方にしたがい黄色土味を増し、硬くなる。Ⅵ層がローム層。地山の大石はⅤ層の堆積前である。

鎌倉遺跡

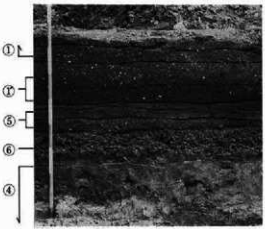
土層概念は師遺跡と同様である。調査時点で堆積土層観察が台地上と南側低地部分でなされた。①は、Ⅰ層　①′はⅡ層、②はⅣ層、③はⅤ層、④はⅥ層に相当し、師遺跡とそれらは共通する。鎌倉遺跡で問題とされたのは⑤である。⑤は灰色の粘土層をはさみ上・下に砂質層がある。その質感は浅間山噴源のＣ軽石層（４世紀頃）にやや似ていたそうであるが確証は得られず、弥生時代住居跡にその堆積は見られず、むしろ流出の砂層ではないかと考える要素の方が多かったそうである。⑥は流出の小礫層である。



第１図　師・鎌倉遺跡標準土層概念図



第２図　鎌倉遺跡台地上土層断面



第３図　鎌倉遺跡低地土層断面

第3篇　周辺の環境

遺跡環境については、第4図と次表に分布状態を示した。通史的な内容については「第4篇周辺の環境」『後田遺跡』（財群馬県埋蔵文化財調査事業団）1988、大江正行「古代利根郡の歴史的背景について」『群馬文化　第214号』1988に詳しいので参照されたい。

番号	名　称	種　別	時　代
1	後田遺跡	集落・包蔵地	旧・古～平安
2	師遺跡	集落	古墳
3	鎌倉遺跡	集落	弥生
4	戸神渡跡遺跡	集落・包蔵地	旧石器
5	三峰神社表遺跡	散布地	旧・古～平安
6	大舘遺跡	集落・包蔵地	旧・古～平安
7	門前A遺跡	包蔵地	古代～平安
8	前原遺跡	包蔵地	縄文
9	門前B遺跡	包蔵地	縄文
10	善上遺跡	包蔵地	縄文
11	大貫原遺跡	包蔵地	縄文
12	宮ノ前縄文遺跡	包蔵地	縄文
13	滝谷遺跡	包蔵地	縄文
14		包蔵地	縄文
15		包蔵地	縄文
16		包蔵地	縄文
17		包蔵地	縄文
18		包蔵地	縄文
19		包蔵地	縄文
20		包蔵地	縄文
21		包蔵地	縄文
22		包蔵地	縄文
23		包蔵地	縄文
24		包蔵地	縄文
25		包蔵地	縄文
26		包蔵地	縄文
27		包蔵地	縄文
28		包蔵地	縄文
29		包蔵地	縄文
30		包蔵地	縄文・弥生・古墳
31		包蔵地	縄文・弥生・古墳
32		包蔵地	縄文・弥生
33		包蔵地	縄文・弥生
34		包蔵地	縄文・弥生
35		包蔵地	縄文・弥生
36	石墨遺跡	集落・包蔵地	縄～古・平安
37	八束脇洞窟遺跡	包蔵地	縄文～奈良
38	豆塚遺跡	包蔵地	弥生
39	後閑駅構内遺跡	散布地	弥生
40	御詰平遺跡	包蔵地	弥生
41	下河曽遺跡	包蔵地	弥生
42	吹張遺跡	包蔵地	弥生
43	宿遺跡	包蔵地	弥生
44		包蔵地	弥生
45		包蔵地	弥生
46		包蔵地	弥生
47		包蔵地	弥生
48		包蔵地	弥生
49		包蔵地	弥生

番号	名　称	種　別	時　代
50		包蔵地	弥生
51		包蔵地	弥生
52		包蔵地	弥生
53		包蔵地	弥生・古墳
54		包蔵地	古墳
55	吹張土師遺跡	包蔵地	古墳
56		包蔵地	古墳
57		包蔵地	古墳
58		包蔵地	古墳
59		包蔵地	古墳
60		包蔵地	古墳・弥生
61	原町「経塚」	経塚	縄文・弥生
62	土塔原遺跡	寺院関連	平安
63	寺院跡伝承地	寺院跡	鎌倉・室町
64	稗田古墳群	墳墓	古墳
65	大沢田古墳群	墳墓	古墳
66	狐塚古墳	墳墓	古墳
67	丸山古墳群	墳墓	古墳
68	トリタツ古墳	墳墓	古墳
69	真庭・政所・古墳群	墳墓	古墳
70	金山古墳群	墳墓	古墳
71	恩田古墳群	墳墓	古墳
72	薄枫2号古墳	墳墓	古墳
73	堀田古墳群	墳墓	古墳
74	宇楚井・原町古墳群	墳墓	古墳
75	大釜古墳群	墳墓	古墳
76	大釜瀬1号古墳	墳墓	古墳
77	雷木古墳群	墳墓	古墳
78	秋塚古墳群	墳墓	古墳
79	天神古墳群	墳墓	古墳
80	八日市遺跡	墳墓	古墳
81	赤井古墓	墳墓	鎌倉
82	大友館跡遺跡	城館跡	旧・縄文・平安
83	明徳寺城址	城館跡	室町
84	下川田城跡	城館跡	室町
85	沼張城跡	城館跡	室町
86	関口城跡	城館跡	室町
87	井上上屋敷	城館跡	室町
88	荘田城址	城館跡	室町
89	小沢城跡	城館跡	室町
90	善正寺館跡	城館跡	室町
91	石墨館跡	城館跡	室町
92	発知館跡	城館跡	室町
93	木内館跡	城館跡	室町
94	高王山城跡	城館跡	安土・桃山
95	沼田城跡（曾内城）	城館跡	江戸
96	幕岩城跡	城館跡	江戸
97	西藤陣屋跡	城館跡	江戸

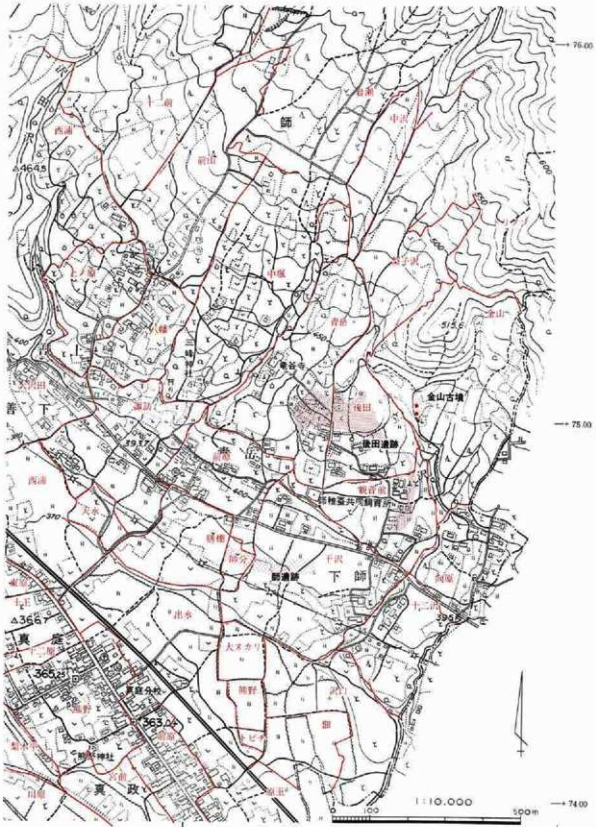
第4図 周辺遺跡分布図 1：50,000

第４篇　検出された遺構と遺物

第１章　師　　遺　　跡

師遺跡は三峰山裾と利根の間に生じた上位段丘・中位段丘・下位段丘面のうち、下位段丘面に位置している。遺物散布は上位段丘面までの広域にあり、三峰山麓の地形勾配が急となり山林に覆われる直前の畑地から、段丘端まで散布していた。散布状況は、隣接地にある後田遺跡の調査終了間際に実施した分布調査からすれば、粗な状態で後田・師遺跡を含む台地全面にわたり、古墳時代から平安時代まで存在していた。時期区分をしっかり行なわなかったが、余りにも広域にわたるための集落密度は地区毎で時期別に異なると考えられる。後田遺跡（第12図）は中位段丘面にあり、古墳時代から平安時代まで約250棟の住居跡が検出されている。師遺跡とは小谷地を挟んだ位置関係にあるので、直接的な繋がりでは捉えづらいが巨視的に見れば、後田遺跡・師遺跡周辺は利根地方において有数の古墳群（第８図）地帯を周辺にひかえており後田・師遺跡などがある程度まとまった形で古代利根郡の中心的な一集落となっていたものと推測される。古墳と集落との関連は、隣接の金山古墳群（第９図）調査の際に、同古墳群の被葬者は後田遺跡側に存在していた家父長であったとする所見は、師・後田遺跡の集落規模と両者の立地からしても妥当性がある。北西側に存在するトリクソ古墳周辺は、本遺跡とは近接地であるので関係はより直接的であったと考えられる。また後田遺跡に近接した位置関係は両遺跡との関連を思わせる。要するに後田・師遺跡の周辺に関連性が高いと考えられる古墳が多く存在する。昭和10年の県下一斉調査時に古馬牧村として97基が数えられ、利根郡内の町村中では最も多い。後田遺跡に伴う生産跡（水田）は西側の低地に想定されたが、調査では、検証されなかった。しかし利根郡全体の古墳群と集落の立地傾向からすれば谷水田を想定せざるを得ず、当然水田活用地であったと考えられ、師遺跡においても、南と北側に存在する谷地形に生産基盤があったものと考えられる。

次に検出遺構と遺物に触れるが、実測図についての凡例・例言を触れたい。掘方図は、発掘調査時点では捉えられておらず、床面平面を基本図として掲げた。出土遺物は仮りに埋土出土遺物であっても住居跡壁上棚から落下した場合もあり得るので記入してある。遺物の中で石は点描、土器は線描を用いて区分した。柱穴は明らかな時はＰ１、Ｐ４などの番号を略記してあり、Ｐはピットの意味である。貯蔵穴は当遺跡の６～10世紀までの例を通じて見た場合、貯蔵機能を果すためであったか疑わしいが、おおむね位置は竈脇に見られ、出土土器もその周辺に片寄って存在する、そうした土壙には貯と記入した。竈図は廃棄時を捉えて図示してある。住居平面図、竈平面図中のトーンは、灰、焼土、粘土を示し、各図中に例記してある。また重複遺構は、重複の認定調査時点では、困難であったとのことであり、明記できた場合は少ない。したがって重複遺構の輪郭線があり、遺構名があった場合でも重複実態ではなく、掘り上りの状態である。その中でＳＪは竪穴住居跡、Ｐは小土壙、ＳＤは溝遺構を現わす。出土土器は破片個体で回転実測の個体は中軸を一点鎖線で、直接実測した場合は実線を用いている。一点鎖線は多かれ、少なかれ、大破があり、各住居跡出土遺物の中で遺構共存がやや危まれる。土器番号が○で囲まれているのは現場確認された個体で床面出土を表わし、埋は埋没土中、貯は貯蔵穴内、カとあるのは竈から、未記入は認定困難な場合を示している。トーンは黒色処理を表わす。なお、整理作業をへて、現場所見と不一致の出土状態が認められた場合には、遺物番号の後に△記号を附した。たとえばＳＪ３―④△は、ＳＪ３住から出土し、遺物番号４で丸印は調査時点で床面からと判断され、△印は整理時に写真照合の結果、床面とは認められない意味を示す。また、貯・カ・埋については現場・整理の両者の結果をふまえ、読者に対しある程度推薦し得る状況を現わした。



第5図　師遺跡周辺地形と小字界図　　1：10,000　　（月夜野町　昭和49年　1：10,000による）

住　居　跡

ＳＪ01

遺構　位置は31～34（37～39で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はなく、住居跡群の開散とした一角にある。平面形は方形気味で、主軸は南東壁でＮ54°Ｅを測る。規模は南東壁下で4.7ｍ、北東壁下で4.5ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径38㎝、深さは床面から44㎝、Ｐ２は径38㎝、深さ36㎝、Ｐ３は径62㎝、深さ42㎝、Ｐ４は径60㎝、深さ27㎝であった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径47㎝、深さ36㎝を測る。

竈　竈は南西壁下のやや南西寄りにあり、調査による検出状況はよくない。袖材は暗褐色の粘性土でローム層粒を混じえている。

遺物　１～８があり、４は中破のある個体で、５・６は脚部を失なっている。遺物の出土は貯蔵穴内とその周辺に１・２・３・７の出土があり、２・３は床面から離れているもののその因果関係において本住居跡に供伴した可能性が強い。また４・５・６・８は遺存率の高さから本住居に伴なう可能性があり、４・５・６・８は床面出土である。

ＳＪ02

遺構　位置は36～39Ｃ29～32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複住居はなく住居群の開散とした一角にある。床面に後世の土壙が重複してある。平面形は隅のやや丸い方形気味で、主軸は北東壁でＮ31°Ｗを測る。規模は北西壁下で5.6ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で30㎝を残す。柱穴は４箇所に検出されＰ１は径28㎝、深さは床面から52㎝、Ｐ２は径29㎝、深さ35㎝、Ｐ３は径42㎝、深さ47㎝、Ｐ４は径20㎝、深さ85㎝であった。貯蔵穴は南隅部に検出され、径85㎝、深さ37㎝を測る。

竈　竈は南西壁下の中央寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土である。

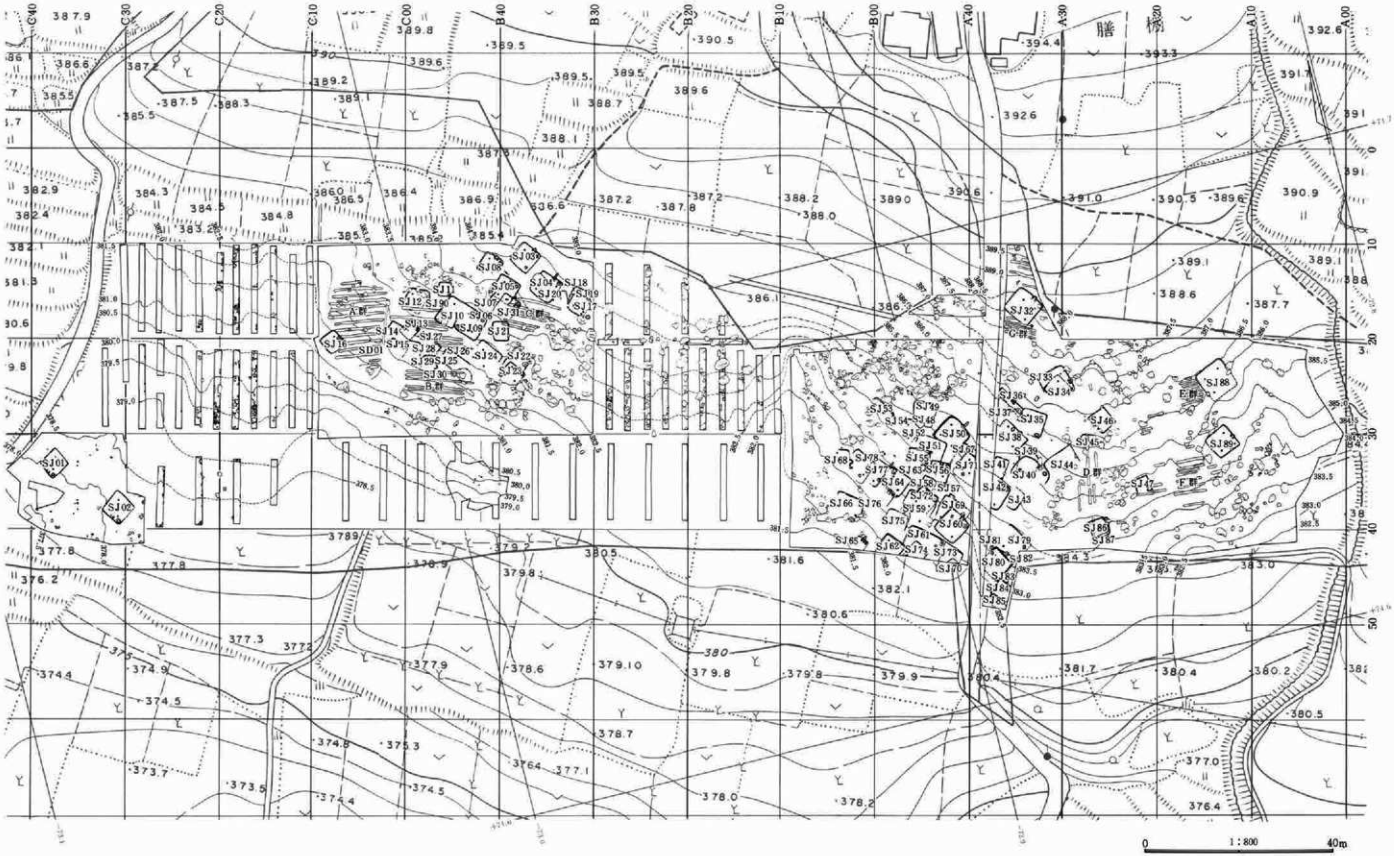
遺物　１～10を掲げた。そのうち１・３・４・５・７・８が貯蔵穴とその周辺から出土し、いずれも貯蔵穴上面、床面とは離れているものの因果関係において本住居跡に供なう可能性は高い。９は床面からの出土である。２・６も同個所で出土しているが遺存量が少ないため、本住居との供伴関係の意味あいは薄い。

ＳＪ03

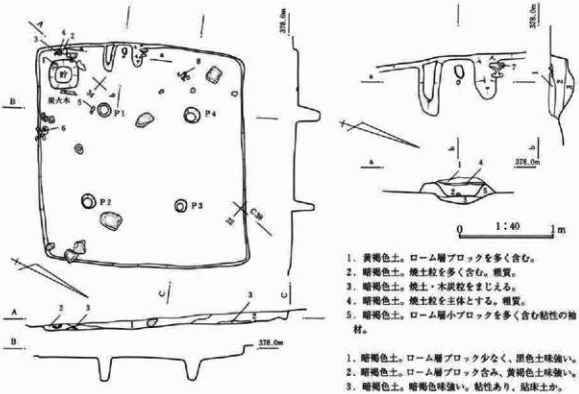
遺構　位置は10～13Ｂ35～39で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は開散とした一角により認められなかった。なお完掘のために調査地の拡張が行なわれた。平面形はやや隅丸方形気味で、主軸は南東壁でＮ54°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.46ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径38㎝、深さは床面から44㎝、Ｐ２は径38㎝、深さ36㎝、Ｐ３は径62㎝、深さ42㎝、Ｐ４は径60㎝、深さ27㎝であった。貯蔵穴は当遺跡の可成りが壁際に設けているのに対し、Ｐ１とＰ４との間に類似形状の土壙が検出され、径46㎝、深さ36㎝を測る。またＰ４の南東側と、Ｐ３とＰ４との間の西寄りに扁平な40㎝大の河原石が据えられて存在していた。

竈　竈は北東壁下の中央やや東寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含み再築の可能性がある。

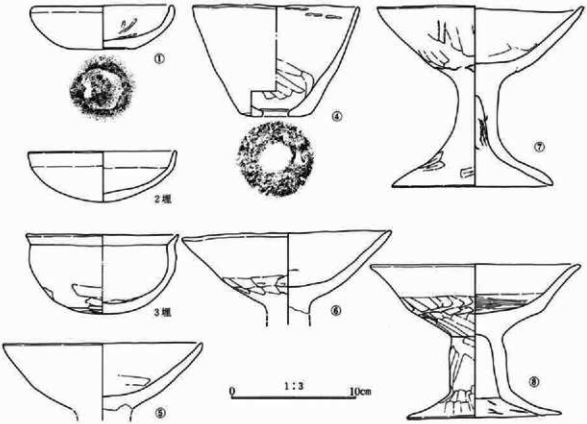
遺物　多量で、しかも完存に近い土器個体と特殊遺物が多く、１～48を掲げた。１～５は小形粗製土師器とそれに類した個体で、７～９が竈支脚である。支脚は大量な存在であるが７・８・９は埋没土出土である。発掘時点での床面出土土器は４～６・13～21・23・24・26・27・29～35・37・48であるが、調査時点の写真を見ると明らかに床より離れている個体が多く、あえて床面出土としえる個体は６・13・17・22・23・25～



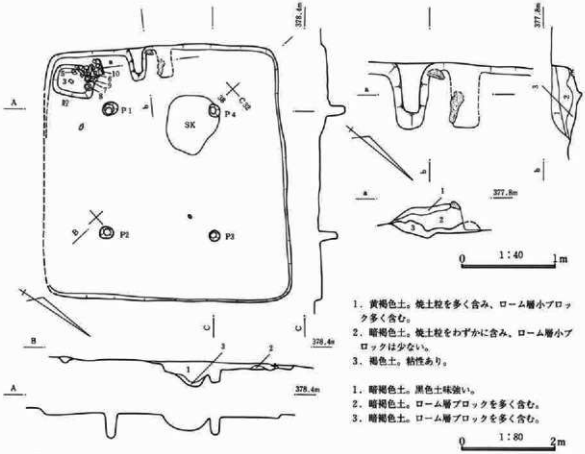
第6図　鄙遺跡遺構全体図



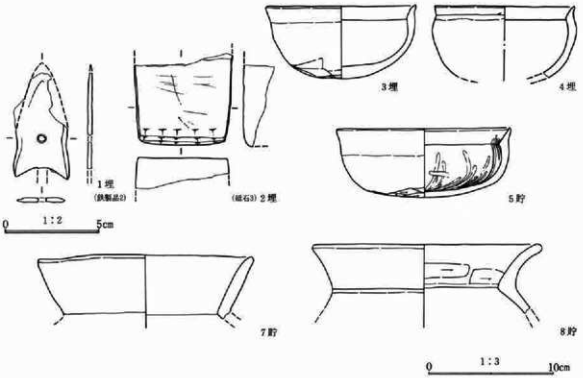
第7図 ＳＪ01遺構図



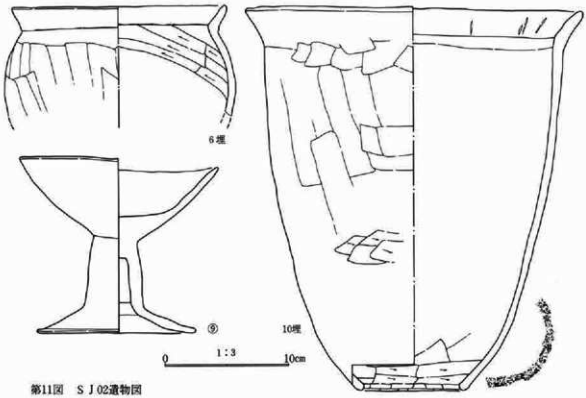
第8図 ＳＪ01遺物図



第9図　ＳＪ02遺構図



第10図　ＳＪ02遺物図



第11図 ＳＪ02遺物図

27・29・33・44である。このうち22・25は調査で埋土出土とされたが明らかに床面に接して出土している。また床面から多少浮いていて、調査時点で床面とされた個体の中で単に投込みなどということではなく、本住居跡の廃棄と直結していた可能性が高い個体がある。それについて、竈跡・貯蔵穴周辺を見ると、壁側から床面側に落下したと見られる個体に35・37～39・43があり個体の遺存も良く、竈跡・貯蔵穴との因果関係を考えざるを得ない。そのほか18・19・24・30・34・36・48は竈跡や貯蔵穴とは距離があり関係はやや薄いと考えられる。

ＳＪ04

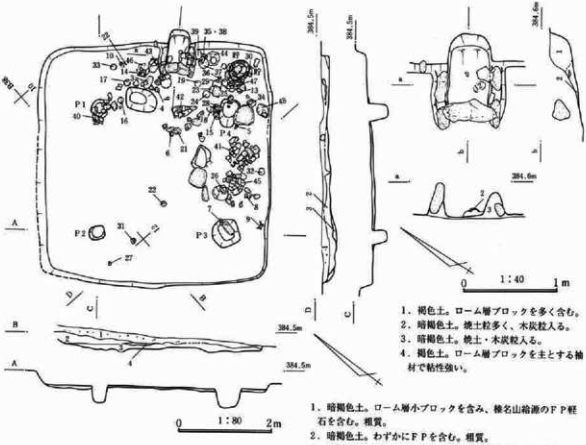
遺構　位置は12～16Ｂ33～36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ20と重なっていたが、重複確認はできなかった。ＳＥ01とは平面確認されＳＥ01が後出する。平面形は各辺ともわずか膨んだ方形気味で、主軸は北東壁でＮ53°Ｗを測る。規模は南東壁下で4.9m、南西壁下で4.8m、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で16cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径26cm、深さは床面から54cm、Ｐ２は径28cm、深さ55cm、Ｐ３は径30cm、深さ56cm、Ｐ４は径30cm、深さ44cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深さ37cmを測る。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあり、長大で特徴的な竈であった。袖材は暗褐色の粘性土で部分的に架構されて石材が、袖芯にも石材が存在していた。

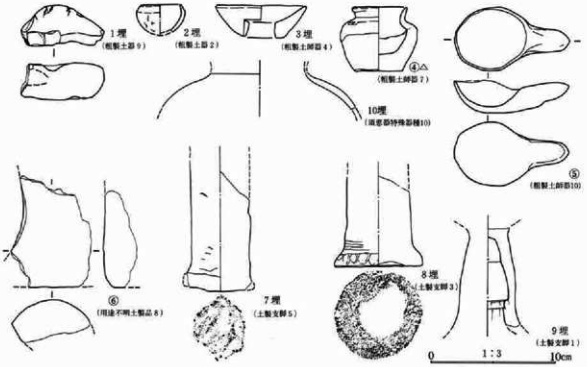
遺物　１～７を掲げたが、４・６が破片個体である。図示した２・６を除く５点は本住居の床面より離れているので、貯蔵穴に近い位置であっても明らかに埋没土層を置いているため廃棄時点より後出して廃棄された遺物と見なされ、扱いは埋没土出土である。４は竈内の埋土中である。１～７の各々は距離的な隔たりがあり、全体での一括性の可能性は薄い。

ＳＪ05

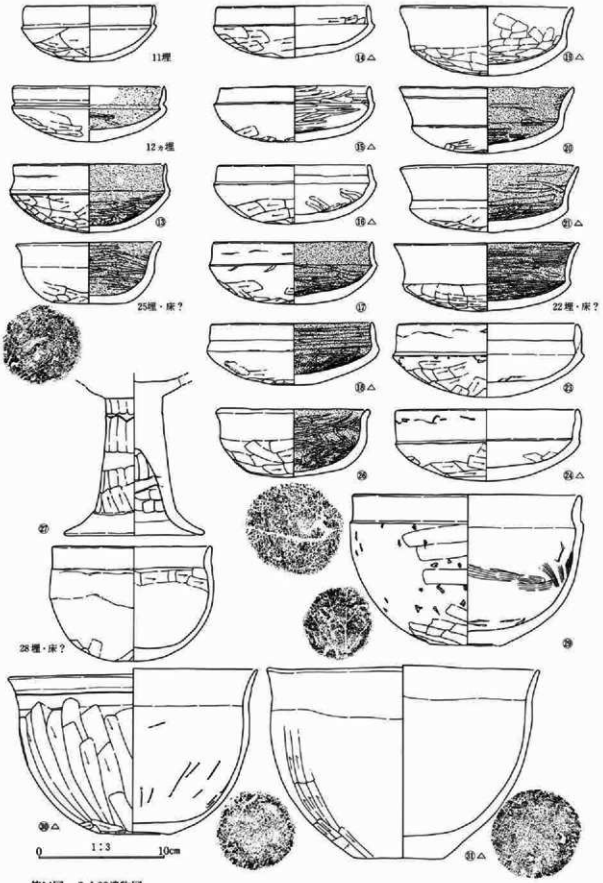
遺構　位置は13～16Ｂ38～41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ07・31と重



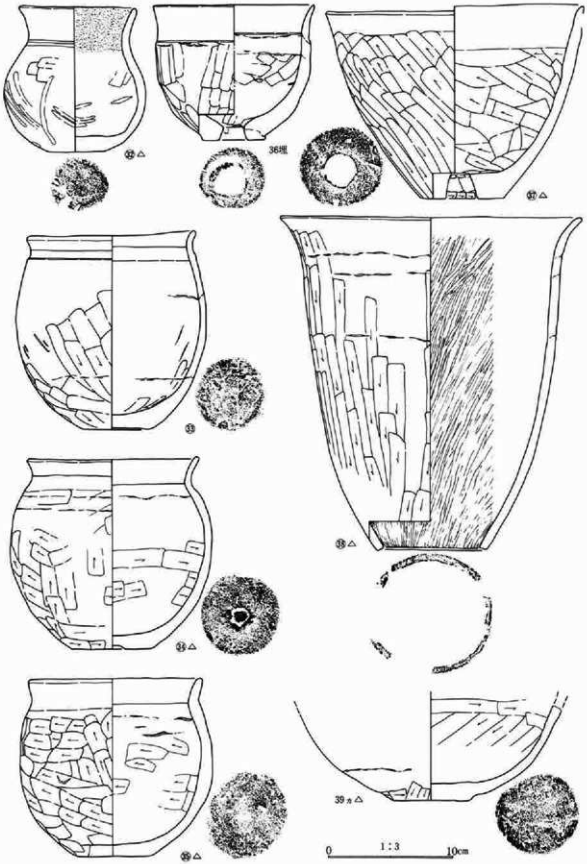
第12図　ＳＪ03遺構図



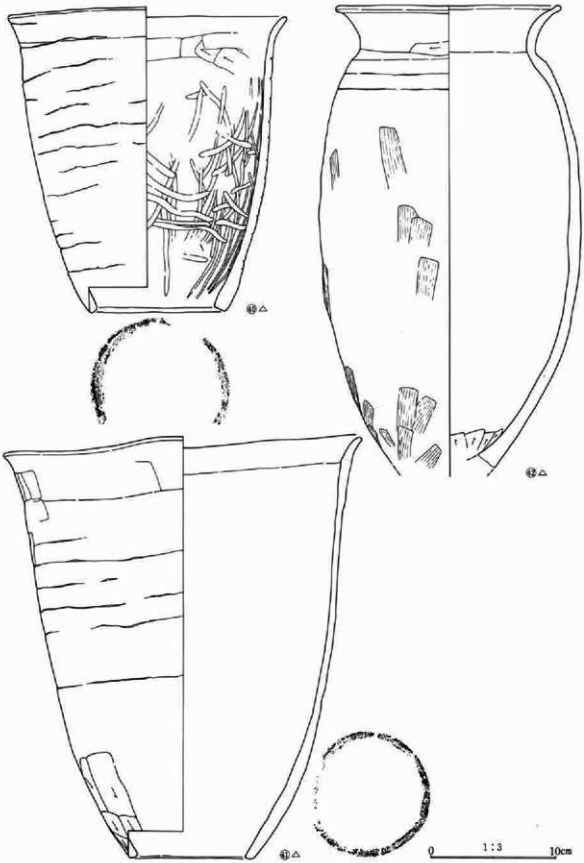
第13図　ＳＪ03遺物図



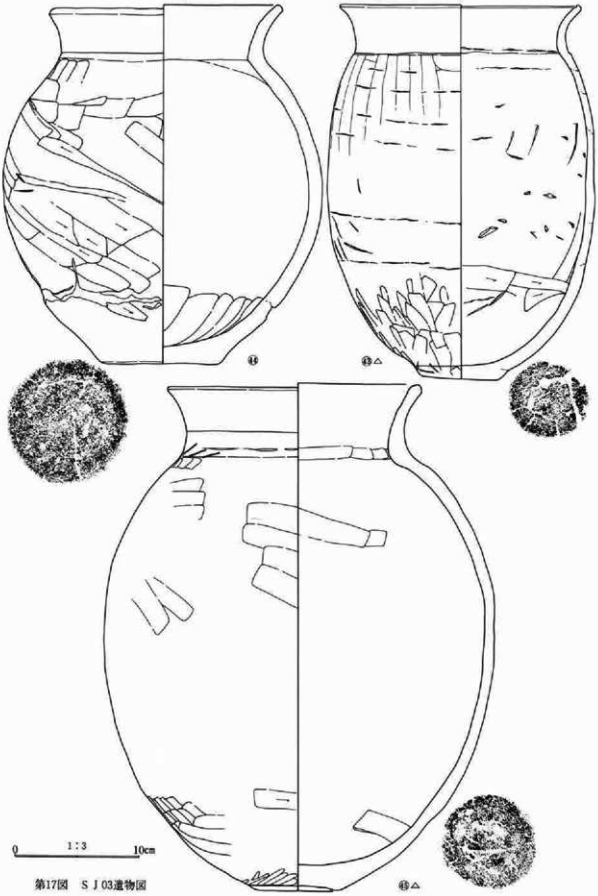
第14図 ＳＪ03遺物図



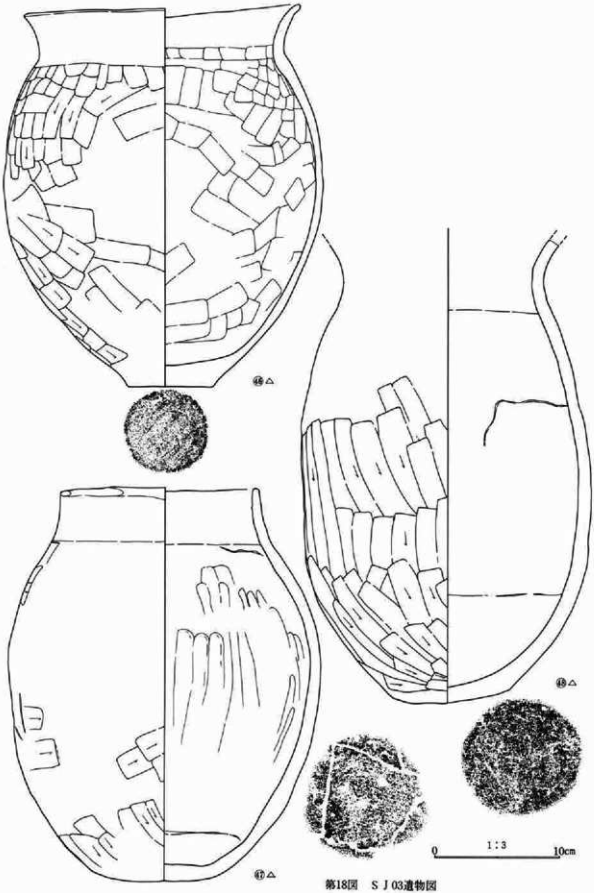
第15図　ＳＪ03遺物図



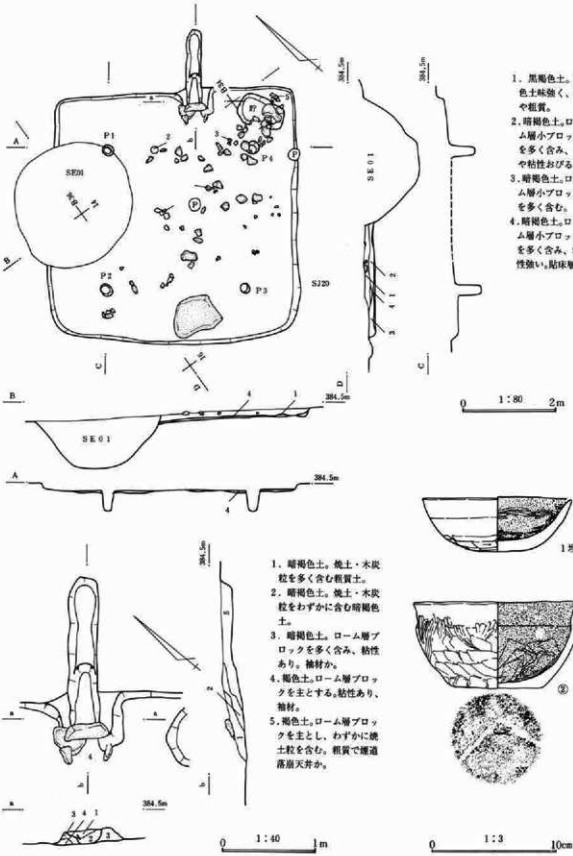
第16図 ＳＪ03遺物図



第17図　ＳＪ03遺物図

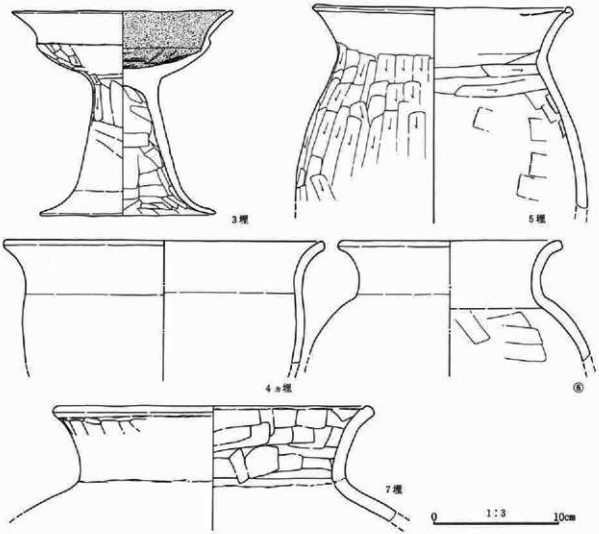


第18図 ＳＪ03遺物図



第19図　ＳＪ04遺構図

第20図　ＳＪ04遺物図



第21図 ＳＪ04遺物図

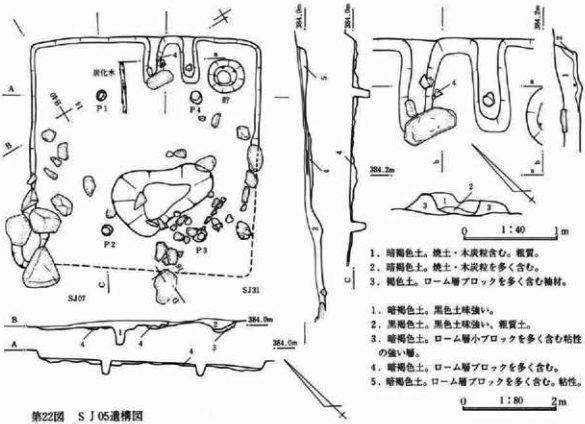
なってたが、新・古の関係は明らかにできなかった。平面形は方形気味で、主軸は北西壁でＮ46°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.7ｍ、北西壁下4.5ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で26㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径22㎝、深さは床面から32㎝、Ｐ２は径24㎝、深さ34㎝、Ｐ３は径32㎝、深さ26㎝、Ｐ４は径28㎝、深さ24㎝であった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径80㎝、深さ47㎝を測る。なお竈左傍に炭化材が存在している。

竈　竈は北東壁下の南寄りにあり、その前方に用材と見られる大石が存在していた。

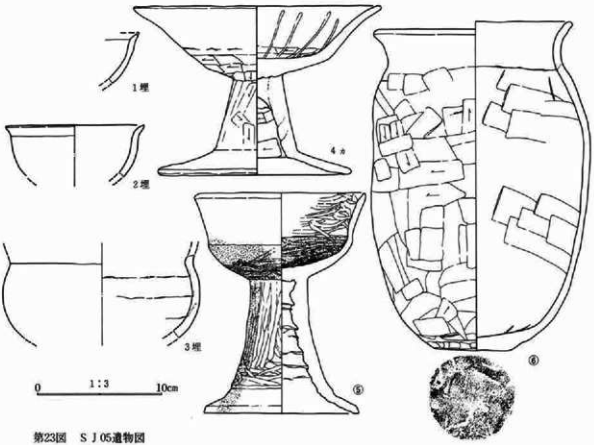
遺物　１～７を掲げた。１～３は破片個体であるため本住居との一括性は薄い。４は完存に近い個体で竈内から出土し、本住居跡との共存を認めてよい個体であり、また５・６・７も遺存の割合が高く、調査時も床面出土を認め本住居跡との共存の可能性は高い。

ＳＪ06

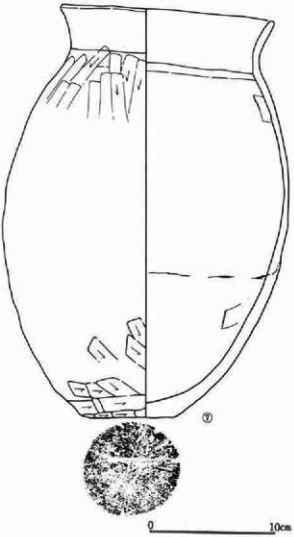
遺構　位置は16・17Ｂ40・41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ05・07・31と重なっていたが重複関係を明らかにすることができなかった。平面形は掘り方に近い面での検出で形状は明確でない。主軸は北東壁でＮ54°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.3＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で５㎝を残す。柱穴、周溝、貯蔵穴は検出されていない。



第22図　ＳＪ05遺構図



第23図　ＳＪ05遺物図



第24図 ＳＪ05遺物図

竈 竈は検出されていない。

遺物 本住居跡の床に伴なっての遺物はないが、第25図にＳＪ06・07の両住居の埋土から出土した特徴的な個体を選んで図示した。

ＳＪ07

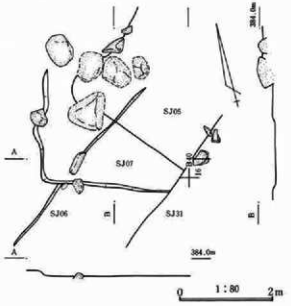
遺構 位置は14～16Ｂ40・41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ05・06・31と重なっていたが、新・古の関係を明瞭にすることはできなかった。平面形は南西隅部しか検出されず、明瞭でない。主軸は北西壁でＮ18°Ｅを測る。規模は北西壁下で2.3＋αｍ、南西壁下で2.7＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で10cmを残す。柱穴、周溝、貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

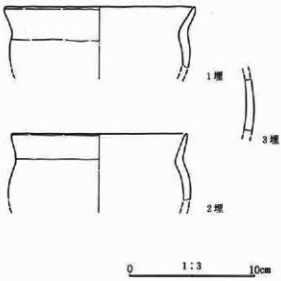
遺物 本住居跡の床面に伴っての遺物はないが第25図１～３にＳＪ06・07の両住居跡の埋土中から出土した特徴的な破片個体を図示した。

ＳＪ08

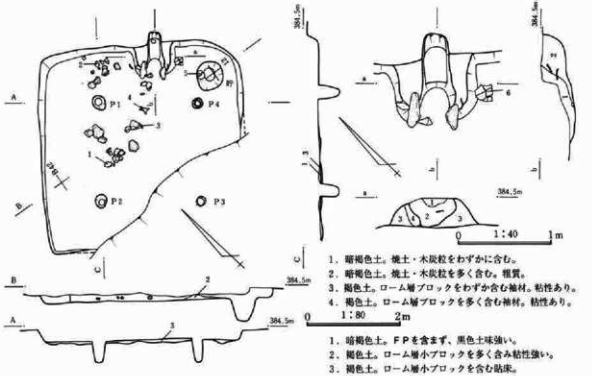
遺構 位置は10～13Ｂ39～42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は東隅がやや丸く北と西隅が直に曲る方形気味の形で、主軸は北西壁でＮ45°Ｅを測る。規模は北東壁下で3.9ｍ、北西壁下で3.8ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で32cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径34cm、深さは



第25図 ＳＪ06・07遺構図



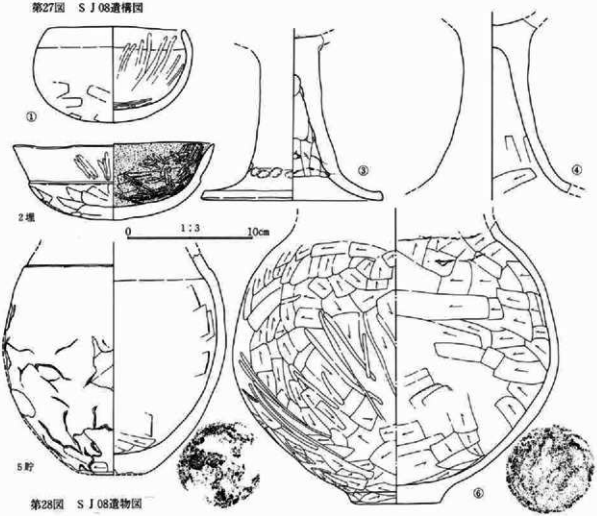
第26図 ＳＪ05～07遺物図



1．暗褐色土。焼土・木炭粒をわずかに含む。
2．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。粗質。
3．褐色土。ローム層ブロックをわずか含む袖材。粘性あり。
4．褐色土。ローム層ブロックを多く含む袖材。粘性あり。

1．暗褐色土。ＦＰを含まず、黒色土味強い。
2．褐色土。ローム層小ブロックを多く含み粘性強い。
3．褐色土。ローム層小ブロックを含む貼床。

第27図　ＳＪ08遺構図



第28図　ＳＪ08遺物図

床面から46cm、Ｐ２は径28cm、深さ40cm、Ｐ３は径20cm、深さ51cm、Ｐ４は径24cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径66cm、深さ52cmを測る。

竈　竈は北東壁下の中央やや東寄りに検出された。袖材は褐色の粘性土でローム層を主として用い、袖に石材が使用され、前面に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況が偲ばれる。

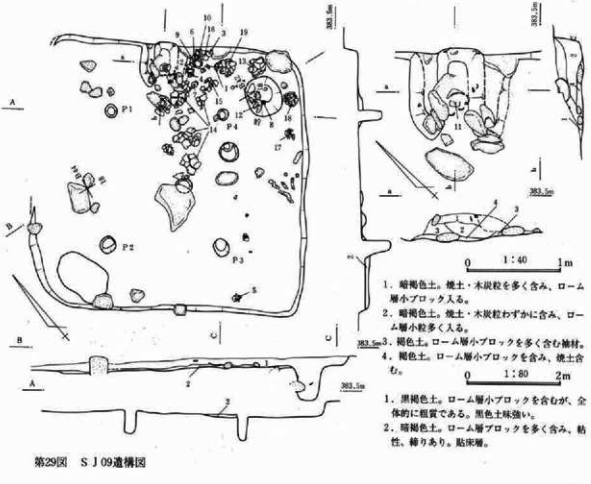
遺物　１～６までの６点を図示したが、１・３・４・６が床から出土している。２は完器に近い個体であるが埋土出土である。５は貯蔵穴から出土しているが、埋土中からである。６は竈傍から出土しているが欠損部が多い。

ＳＪ09

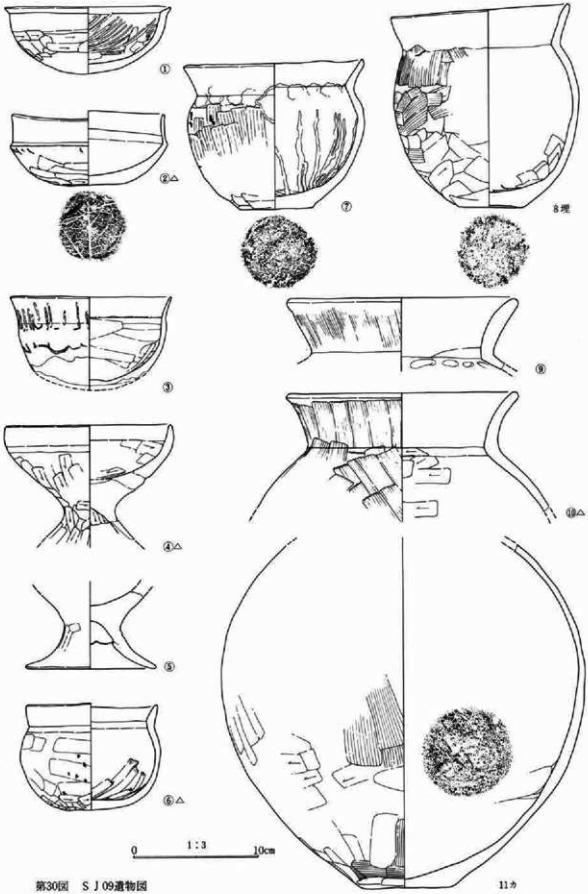
遺構　位置は16～20Ｂ41～44で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ10と重なっていたが、新・古の関係を明らかにすることはできなかった。平面形は方形気味で、主軸は北西壁でＮ47°Ｅを測る。規模は南西壁下で5.1m、南東壁下で5.1m、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で30cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径30cm、深さは床面から46cm、Ｐ２は径40cm、深さ62cm、Ｐ３は径38cm、深さ62cm、Ｐ４は径24cm、深さ52cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径90cm、深さ79cmを測る。なお位置関係から平面図左下の土壙はＳＪ10の貯蔵穴と考えられる。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあり、前方に用材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色のローム層を主体とした粘性土で、焼土粒を含み再築の可能性がある。竈内中央から11が据えられたような状態で出土している。

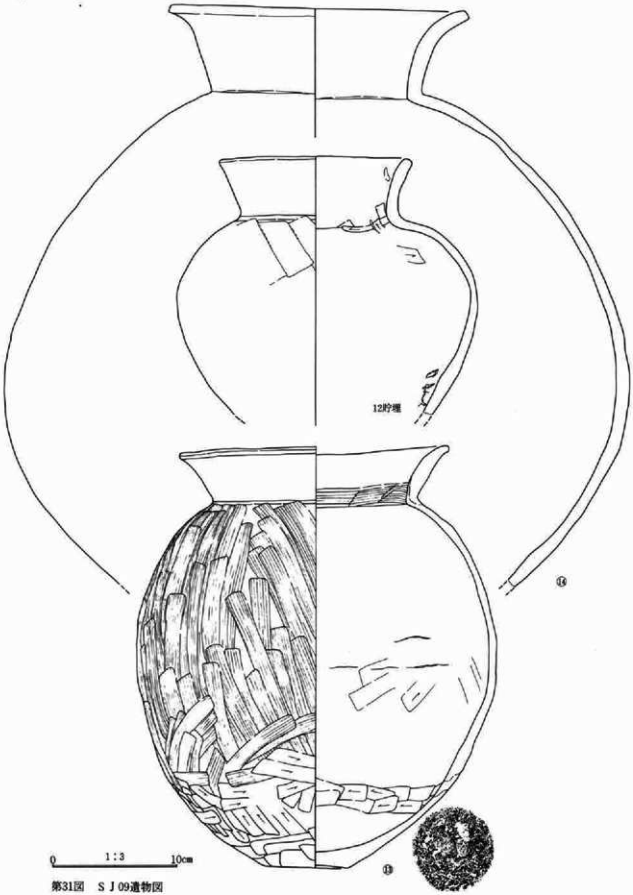
遺物　発掘調査所見によれば１～７・９・10・13・14・16・17・19が床面から出土している。調査時点の



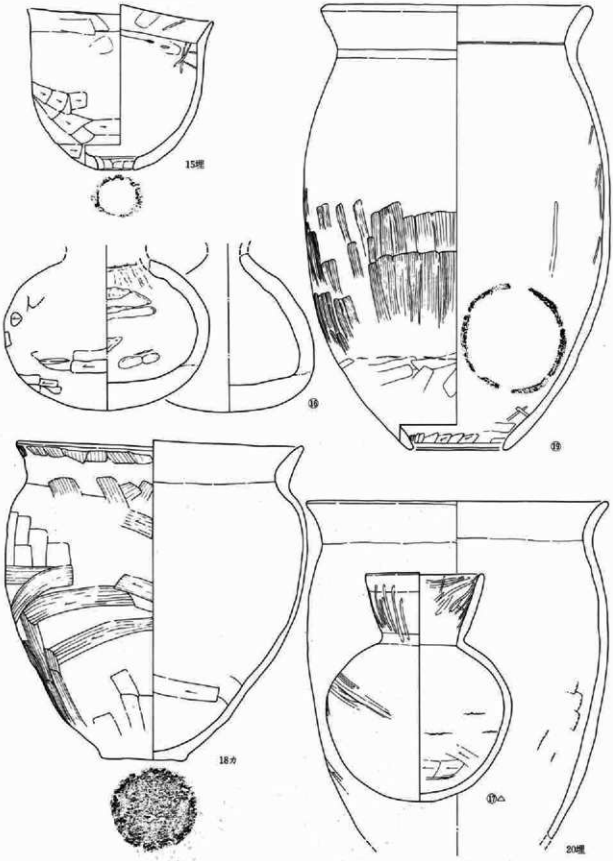
第29図　ＳＪ09遺構図



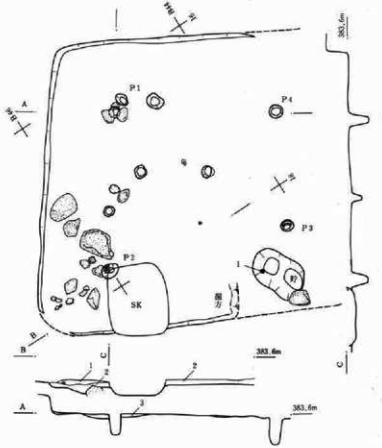
第30図　ＳＪ09遺物図

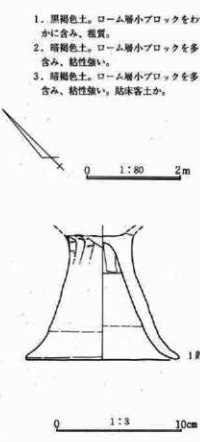


第31図 ＳＪ09遺物図



第32図　ＳＪ09遺物図





第33図 ＳＪ10遺構図　　第34図 ＳＪ10遺物図

写真を見ると３・４・６・10・17は床から離れており、床面出土とすることはできない。しかし３・４・６・10の出土状況は竈に近接した位置関係にあるため住居跡の壁上方からの流入も考えられる条件下にある。17は竈や貯蔵穴から離れているため、因果関係は薄いと考えられる。床面出土とされる大多数については、竈跡、貯蔵穴とに接近しており、因果関係は濃いと考えられる。

ＳＪ10

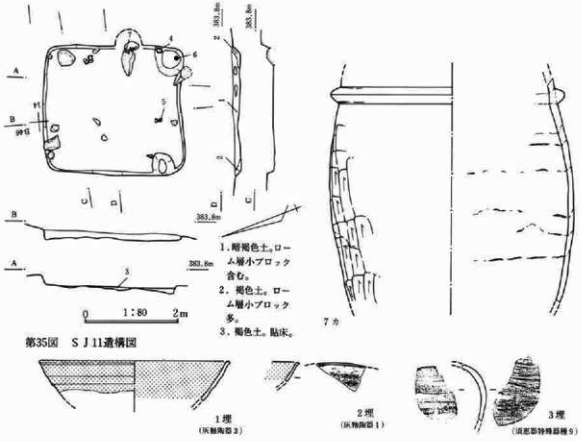
遺構　位置は15～19Ｂ44～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ09と重なっていたが、新・古の関係を明らかにすることはできなかった。平面形は一辺の長い長方形気味で、主軸は北西壁でＮ50°Ｅを測る。規模は北西壁下で5.7ｍ、北東壁下で4.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で46cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径24cm、深さは床面から46cm、Ｐ２は径41cm、深さ38cm、Ｐ３は径26cm、深さ38cm、Ｐ４は径30cm、深さ58cmであった。貯蔵穴は南寄りに検出され、径120cm、深さ64cmを測る。Ｐ３は４柱穴方形の対応関係からすると不一致であるが、南西壁の方向性はＰ２・Ｐ３とを結ぶ線とほぼ平行の関係にある。

竈　竈は検出されていない。

遺物　出土遺物は少なく１点を掲げた。１は調査時点で床と注記されていたが貯蔵穴出土である。

ＳＪ11

遺構　位置は14・15Ｂ45・46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味の小形で、主軸は東壁でＮ20°Ｅを測る。規模は西壁下で2.7ｍ、北壁下で2.4ｍ、立ち上がりは遺存のよい北壁下で22cmを残す。周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は南西隅に検出され、径72cm、深さ17cmを測る。な



第35図　ＳＪ11遺構図

第36図　ＳＪ11遺物図

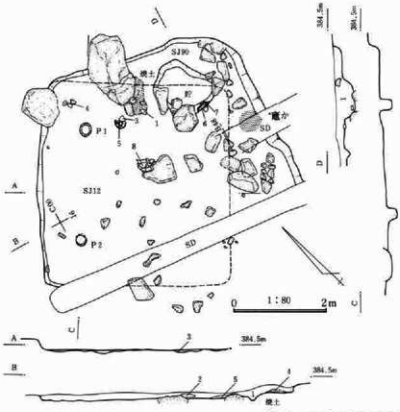
お南西隅の小土壙については本住居跡に伴なうかは不明である。

竈　竈は東壁下の中央にあるが、調査時点の実測図が行方不明で図化できなかった。

遺物　７個体を掲げたが１～３は埋土出土である。いずれも破片個体で住居との供伴、関連は薄い。灰釉陶器１・２は作行から同一個体と考えられる。４・６は貯蔵穴内とそれに近接して出土している。両例ともに遺存率が高く、本住居の供伴とし得る。５は床面からの出土であるが半欠品であるので供伴関係はやや薄い。７は竈内から出土しているが遺存率は悪いが竈との因果において本住居に供伴した可能性は強い。

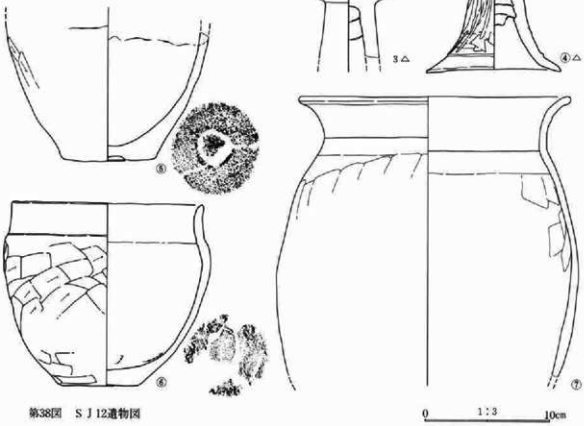
ＳＪ12

遺構　位置は14～16Ｂ47～49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はＳＪ90と重なっていたが平面確認できなかった。整理時に図面合成した結果、ＳＪ12の竈がＳＪ90内に喰込んで存在したことからＳＪ90が古く、ＳＪ12が新しいと考えられた。遺物との比較は、ＳＪ90の床面から出土遺物がないため明瞭でない。

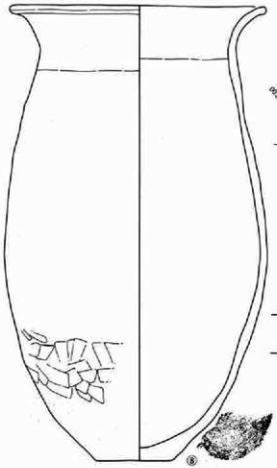


1. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含み、粗質で、ローム層小ブロックは少ない。
2. 褐色土。ローム層小ブロック塊。
3. 褐色土。ローム層小ブロックを多く含む粘性土。貼床客土層。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ＳＪ90の竈の可能性あり。
5. 褐色土。ローム層小ブロックを多く含み、粘性あり、部分的な貼床か。地山石に接する。

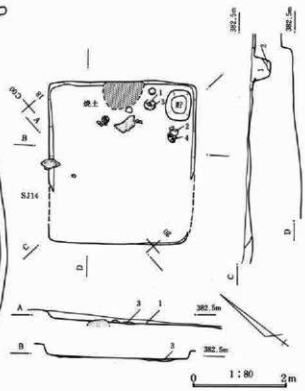
第37図　ＳＪ12・90遺構図



第38図　ＳＪ12遺物図

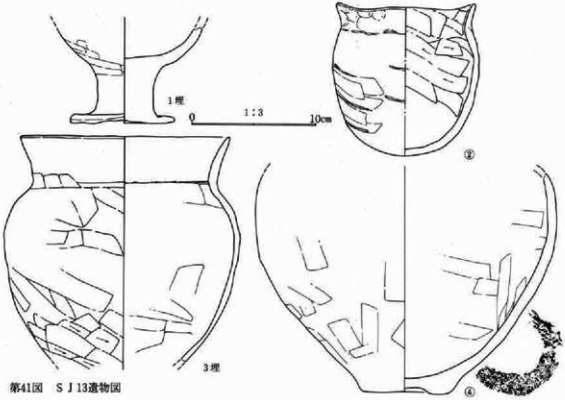


第39図　ＳＪ12遺物図

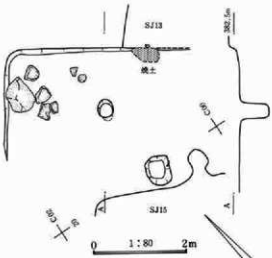


1．黒褐色土。ローム層小ブロックをわずかに含むが黒色土味強く、粗質である。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。粘性強い。
3．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む貼床客土。

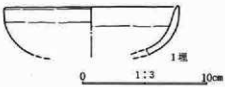
第40図　ＳＪ13遺構図



第41図　ＳＪ13遺物図



第42図　ＳＪ14遺構図



第43図　ＳＪ14遺物図

平面形は推定では方形気味で、主軸は北西壁でＮ45°Ｅを測る。規模は北西壁下で4.1ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で22㎝を残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径26㎝、深さは床面から26㎝、Ｐ２は径22㎝、深さ24㎝であった。貯蔵穴は東隅に土器類が近接する状態で検出され、径140㎝、深さ36㎝を測るが極端に大きく、また推定される住居域を越えているため、調査時点での掘り過ぎの可能性がある。調査中の写真によれば径60㎝ぐらいの大きさでその経過が写されている。

竈　竈は北東壁下の中央にあったと推定される。調査実測図に焼土粒を混じえた範囲の記載がある。仔細は竈図がないので不明である。

遺物　７点を掲げた。調査では３・４を除き床面出土とされているが、写真照合すると３・４ともに床面と見られる。４を除き竈・貯蔵穴周辺に近接しているので本住居と供伴の可能性は高いと考えられる。

ＳＪ13

遺構　位置は18～20Ｂ49・50で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ14と重なっていたが明確にできなかったという。ＳＪ14からは、床面出土遺物がなく、遺物比較において、新・古の関係は計りかねる。住居跡の平面形からも残念ながらＳＪ14が部分残存であるので比較がむずかしい。平面形は方形気味の小形の住居跡である。主軸は北西壁でＮ55°Ｅを測る。規模は北東壁下で3.0ｍ、北西壁下で推定2.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で24㎝を残す。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径70㎝、深さ52㎝を測る。

竈　竈は調査実測図に該当記載があり、北東壁と考えられるが、竈記録図はない。現場写真によると竈前と見られる位置に石材があり、２つに割れ被熱を思わせ、しかも長いことから天井架材かも知れない。

遺物　４点を掲げたが２・４が床とあり、写真からもその点は確認できる。１・３は埋土の下層出土である。１・３は同一個体の可能性があり、台付甕かも知れない。

ＳＪ14

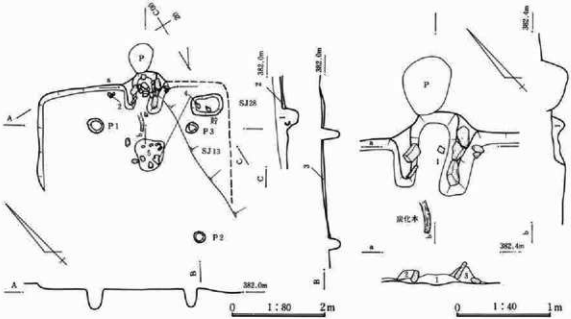
遺構　位置は18・19Ｂ50～Ｃ02で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ13・15と重なっていたが、新・古の確認はできなかった。平面形は大半を失い明瞭ではない。主軸は北西壁でＮ55°Ｅを測る。規模は北西壁下で2.2＋αｍ、北東壁下で3.7＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で16㎝を残す。柱穴はなし。貯蔵穴なし。

竈　竈は現場実測図によると東壁下に焼土粒の記載があり、そう考えられるが、竈実測図はないので明瞭でない。

遺物　遺物は現場で床面出土とされる例はなく、写真照合の結果も見られなかった。

ＳＪ15

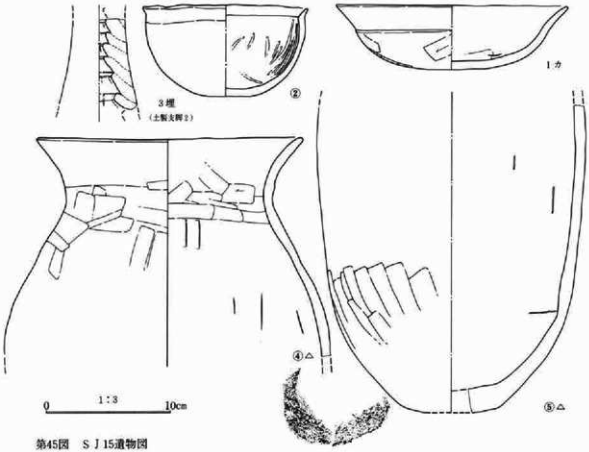
遺構　位置は20～22Ｂ49～Ｃ02で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ28と重なっ



1．黒褐色土。ローム層小ブロックをわずかに含み黒色土味が強く、粗質。
2．暗褐色土。ローム層の漸移層的な土層で軟らか。木炭粒わずかに入る。
3．暗褐色土。ローム層小ブロックを多く含む客土層。

1．暗褐色土。ローム層小ブロック・焼土・木炭粒を多く含み、粗質である。
2．黄褐色土。ローム層小ブロックを多く含む袖材。粘性。
3．黄褐色土。ローム層小ブロックを多く含む袖材。粘性。

第44図　ＳＪ15遺構図



第45図　ＳＪ15遺物図

ていたが、新・古の関係は得られなかった。出土遺物からすると本住居跡が先行したと考えられる。平面形は南西半を失なっており明瞭でない。主軸は北東壁で N50°W を測る。規模は北東壁下で3.2＋αm、南東壁下で推定2.4＋αm、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で12cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P1は径38cm、深さは床面から42cm、P2は径28cm、深さ26cm、P3は径30cm、深さ40cm、P4に相当する位置で柱穴の検出はない。貯蔵穴は東隅に検出され、径68cm、深さ34cmを測る。

竈　竈は北東壁下の中央にある。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒を含み、再築の可能性がある。

遺物　5点を掲げた。床面に伴なうとされたのは2・4・5であるが、写真を見ると4・5は床面より若干離れており、埋土下層出土と考えられるが、遺存率さらに竈や貯蔵穴に近いことの因果関係からは、供伴したかも知れない。1は竈内埋土、3は埋土出土である。

ＳＪ16

遺構　位置は17−21Ｃ06〜09で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形はやや歪んだ方形で、主軸は北西壁で N70°E を測る。規模は北西壁下で3.7m、南西壁下で3.4m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で28cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径24cm、深さは床面から28cm、P2は径38cm、深さ36cm、P3は径32cm、深さ50cm、P4は径28cm、深さ34cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径72cm、深さ70cmを測る。掘方調査時に別住居跡の可能性もある貯蔵穴が検出されている。

竈　竈は北東壁下の中央にあり、部分的に石材を用いて、それが残されていた。焚口周辺には横架材と見られる石材があった。袖材はローム層を多用した粘性土である。

遺物　11点を掲げた。調査時点で床面とされたのは2・3・4・5・7・9・10・11であるが写真照合の結果、4・5・10は床面から若干、離れている。しかし、個体の遺存率からすれば4・5は高くまた10の下半部も遺存が良いため、近接して出土した4・5・10と合せ相互の供伴関係は成立しえると考えられる。1・6・8は埋土出土である。

ＳＪ17

遺構　位置は15−17Ｂ30〜33で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はＳＪ18・19と重なっていたが確認できなかった。土層断面Ｃ図からするとＳＪ19の床面がＳＪ17上に乗る。平面形は隅丸の方形気味で、主軸は北西壁で N45°W を測る。規模は南西壁下で4m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で20cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径40cm、深さは床面から52cm、P2は径48cm、深さ38cm、P3は径34cm、深さ48cm、P4は径26cm、深さ49cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈　竈は検出されていない。

遺物　8点を掲げた。調査時点で床面出土とされたのは3である。しかし遺物出土状態写真がなく照合できない。その他は埋土出土である。3については重複関係ＳＪ17・18・19の間で明らかにされていないので確実にＳＪ17に伴なうか、疑問が持たれる。

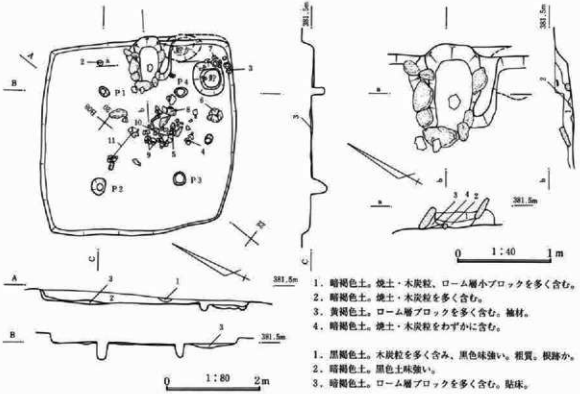
ＳＪ18

遺構　位置は14〜16Ｂ30〜32で北東上がりの勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ17・19と重なっていたが確認できなかった。平面形は推定では方形気味で、主軸は北西壁で N43°W を測る。規模は北東壁下で3.0m、北西壁下で2.9m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で35cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

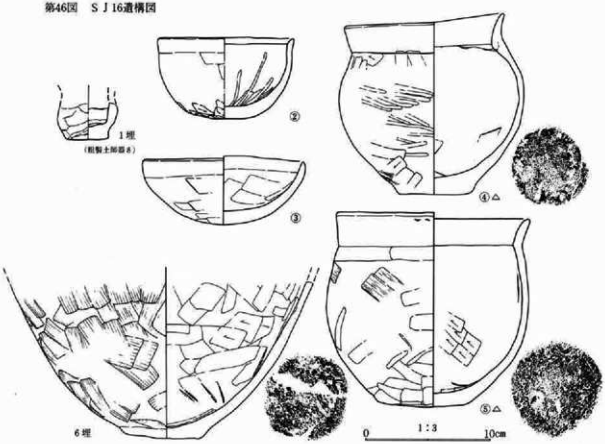
竈　竈は検出されていない。

遺物　床面出土の遺物はない。現場写真との照合からも同様であった。

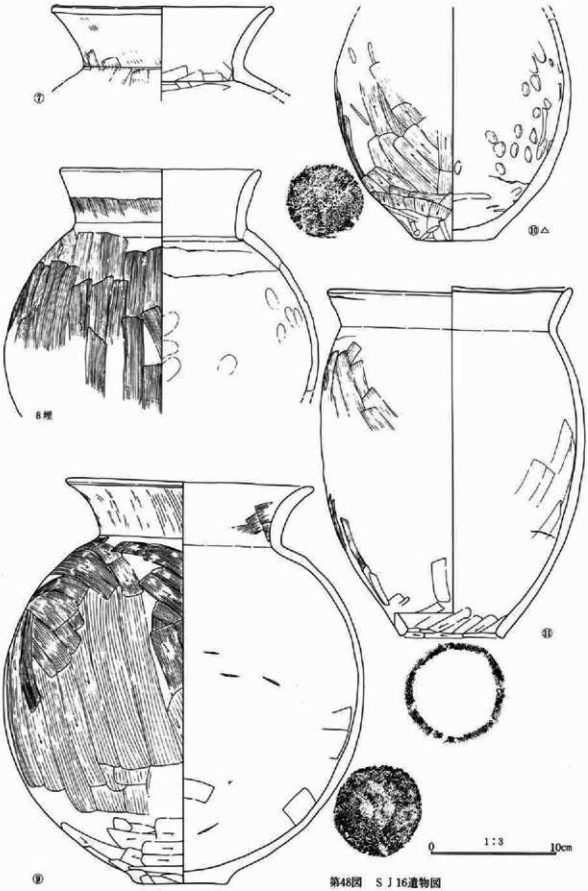
ＳＪ19



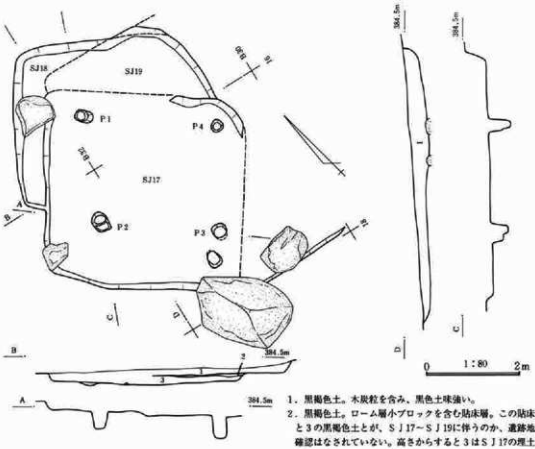
第46図　ＳＪ16遺構図



第47図　ＳＪ16遺物図

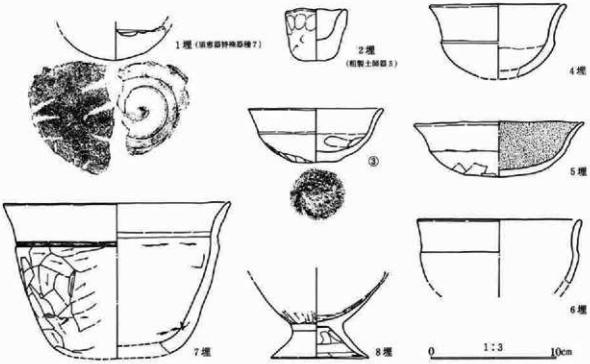


第48図 S J 16遺物図

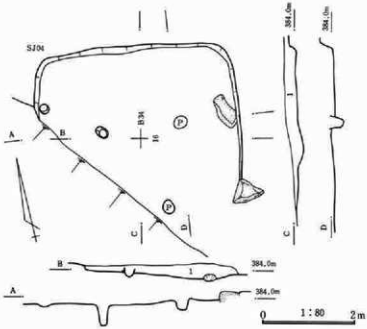


1．黒褐色土。木炭粒を含み、黒色土味強い。
2．黒褐色土。ローム層小ブロックを含む貼床層。この貼床層と3の黒褐色土とが、ＳＪ17～ＳＪ19に伴うのか、遺跡地内確認はなされていない。高さからすると3はＳＪ17の埋土。

第49図　ＳＪ17・18・19遺構図



第50図　ＳＪ17遺物図



1．暗褐色土。焼土・木炭粒を含む。根質である。

第51図 ＳＪ20遺構図

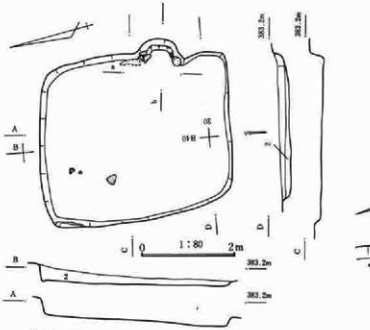
遺構 位置は14～16Ｂ30～32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ17・18と重なっていたが確認できなかった。土層断面Ｃ図からするとＳＪ19の床面がＳＪ17上に乗る。平面形は部分調査のため不明瞭。主軸は北壁でＮ75°Ｗを測る。規模は北壁下で推定2.6＋αｍ、北西壁下で推定0.3＋αｍを測る。貯蔵穴は明らかにされていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土の遺物はない。現場写真との照合からも同様であった。

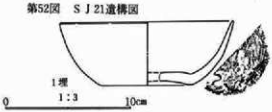
ＳＪ20

遺構 位置は15・16Ｂ32～35で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ04と重なっていたが、明瞭にできなかった。平面形は隅丸方形気味で、主軸は北壁でＮ83°Ｗを測る。規模は北壁下で3.7ｍ東壁下で2.8ｍ、立ち上がりは遺存のよい北壁下で32㎝を残す。柱穴は認められていない。貯蔵穴は認められてていない。

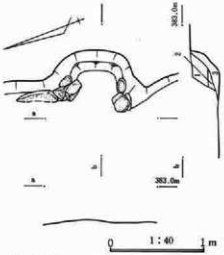


1．暗褐色土。黒色土味強い。ＦＰ入る。
2．暗褐色土。ローム層小ブロックを含み、やや粘性あり。

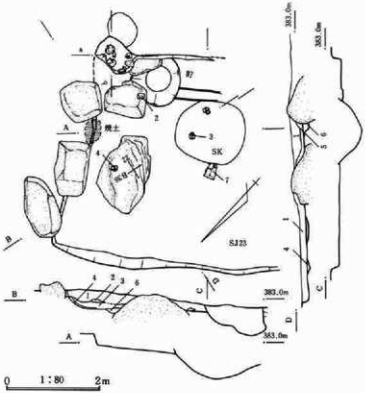
第52図 ＳＪ21遺構図



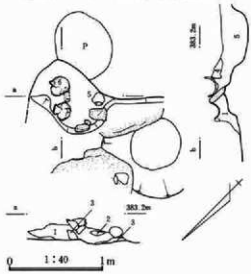
第53図 ＳＪ21遺物図



1．暗褐色土。木炭・焼土粒、ローム層小ブロックを多く含み根質。
2．暗褐色土。1と同様であるが、焼土粒はやや多い。
3．暗褐色土。木炭・焼土粒含み、ローム層小ブロック入る。焼土粒が入ることから再築か。

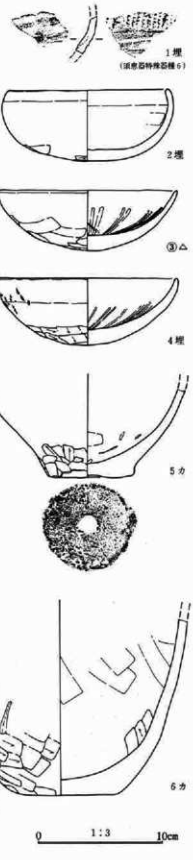


1．黒褐色土。ＦＰを含み、黒色土味強く、木炭粒入り根質。
2．褐色土。ローム層ブロックを主とする。
3．褐色土。ローム層ブロックを含む。
4．褐色土。ローム層ブロックを含む。貼床客土か。
5．褐色土。ローム層ブロックを含む。
6．褐色土。ローム層ブロックを含む。貼床客土か。

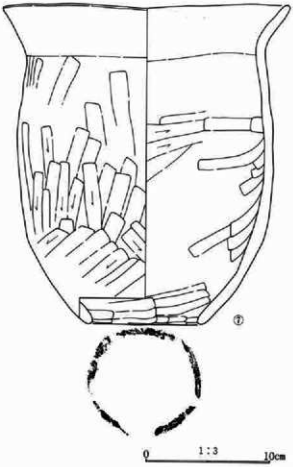


1．暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む。根質。
2．褐色土。ローム層ブロック。
3．褐灰色土。粘性土で袖の芯材。締り強い。
4．暗褐色土。ローム層ブロックを主とし粘性強い。
5．暗褐色土。下部にしたがい黒色土味が強くなる。ピットと竈との、新・古の関係は明らかにされていない。

第54図　ＳＪ22遺構図



第55図　ＳＪ22遺物図



第56図 ＳＪ22遺物図

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土の遺物はない。現場写真との照合からも同様であった。

ＳＪ21

遺構 位置は32～35Ｂ39・40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は認められなかった。平面形はひずんだ小形の隅丸方形で、主軸は北壁でＮ80°Ｗを測る。規模は西壁下で3.5ｍ、北壁下で2.9ｍ、立ち上がりは遺存のよい北壁下で38㎝を残す。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は検出されなかったが平面図を見ると東南隅がわずか張り出しその可能性を幾分考えることができる。

竈 竈は東壁下の中央寄り南側に片寄ってあり、袖に石材を使用している。袖材は断面図がなく不明瞭である。

遺物 1点を掲げた。1は埋土出土の半欠片である。

ＳＪ22

遺構 位置20～23Ｂ36～39で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ23と重なっていたが明確にできなかった。出土遺物からするとＳＪ23が先行し、ＳＪ22が後出した可能性がある。平面形は地山石が多いのとＳＪ23と同時調査をしたため不明瞭箇所が多い。主軸は北東壁でＮ30°Ｗを測る。規模は北西壁下で4.7＋αｍ、北東壁下で4.0ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で16㎝を残す。柱穴は認められなかった。貯蔵穴は東隅に検出され、径110ｍ、深さ37㎝を測り、少し大き過ぎるきらいがある。

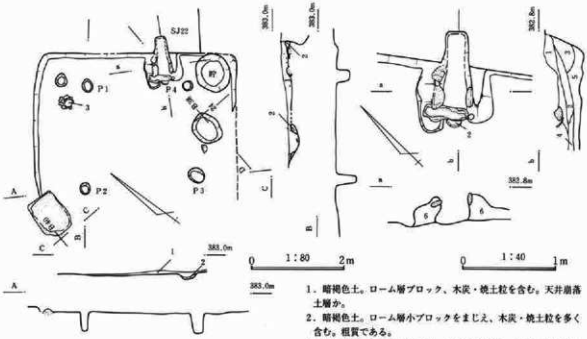
竈 竈は北東壁下の中央に焼土粒を含んだ箇所があり、竈と考えられる。発掘調査で竈とされた遺構は写真によると、本住居の床面よりもはるかに高い位置にあり疑問視される。

遺物 7点を掲げた床面出土とされたのは3・7であるが3は、後世の土壙中から出土しており、床面出土ではない。5・6は竈内出土とされているが、前述の通り別住居の遺物であろう。埋土から1・2・4の出土がある。

ＳＪ23

遺構 位置は22～25Ｂ37～40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ22と重なっていたが明確に出来なかった。出土遺物からすると、ＳＪ23が先行しＳＪ22が後出した可能性がある。平面形は南西半を失うが、柱穴の存在からほぼ方形と考えられた。主軸は北西壁でＮ58°Ｅを測る。規模は北東壁下で3.9ｍ、北西壁下で2.9＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で10㎝を残す。柱穴は4箇所に検出され、Ｐ1は径28㎝、深さは床面から30㎝、Ｐ2は径24㎝、深さ44㎝、Ｐ3は径36㎝、深さ44㎝、Ｐ4は径22㎝、深さ29㎝であった。貯蔵穴は東隅に検出され、径84㎝、深さ39㎝を測る。また別住居の貯蔵穴と思われる土壙がＰ3・Ｐ4の間で検出された。

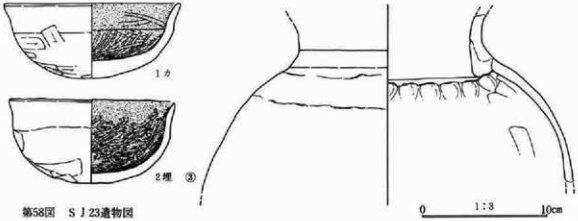
竈 竈は北東壁下のやや南寄りにあり、袖を天井に石材を残す。袖材は褐色の粘性土である。



1．暗褐色土。黒色土味強い。粗質である。下方にしたがい粘性を増す。
2．褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締り強い。部分的に木炭粒入る。

1．暗褐色土。ローム層ブロック、木炭・焼土粒を含む。天井崩落土層か。
2．暗褐色土。ローム層小ブロックをまじえ、木炭・焼土粒を多く含む。粗質である。
3．暗褐色土。ローム層小ブロックを多くまじえ、焼土・木炭粒を含む。
4．暗褐色土。ローム層小ブロックをわずかまじえ、焼土・木炭粒を含む。
5．暗褐色土。ローム層小ブロック少なく、焼土・木炭粒含む。
6．褐色土。ローム層ブロックを主とする袖材。

第57図　ＳＪ23遺構図



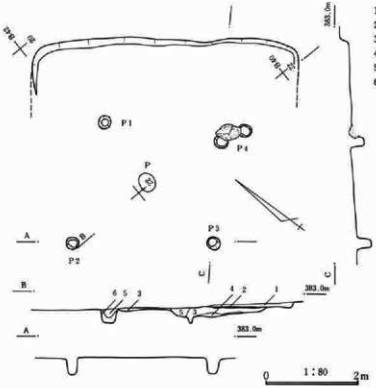
第58図　ＳＪ23遺物図

遺物　３点を掲げた。床面出土とあるのは３である。１は竈内埋土、２は埋土である。１は遺存率が高く竈出土という因果を認めれば本住居に供伴した可能性は高い。

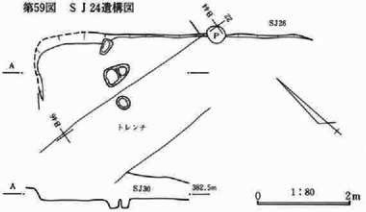
ＳＪ24

遺構　位置は20～22Ｂ39～42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ26と重なっていたが明確にできなかった。平面形は４柱穴から見て方形と考えられた。主軸は北東壁でＮ35°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.4ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径28㎝、深さは床面から52㎝、Ｐ２は径26㎝、深さ36㎝、Ｐ３は径32㎝、深さ32㎝、Ｐ４は径32㎝、深さ30㎝であった。貯蔵穴は不明瞭であった。

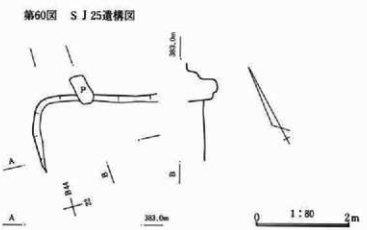
竈　竈は検出されていない。



第59図 ＳＪ24遺構図



第60図 ＳＪ25遺構図



第61図 ＳＪ26遺構図

1．暗褐色土。ローム層小ブロック多い。粗質。
2．暗褐色土。ローム層小ブロックを含む。貼床。
3．暗褐色土。ローム層ブロックを含む床下土壌埋土。
4．暗褐色土。ローム層ブロック多い。
5．黒褐色土。黒色土味強い。
6．暗褐色土。ローム層ブロックやや多い。

遺物　床面出土の遺物はない。

ＳＪ25

遺構　位置は21～23Ｂ43～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はＳＪ26・30と重複してもよい位置関係にあるが各住居の残存状況が悪く確認されなかった。平面形は部分的な残存で明瞭でない。主軸は北東壁でＮ41°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.7＋αｍ、北西壁下で1.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で24cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は検出されなかった。

遺物　床面出土の遺物はない。

ＳＪ26

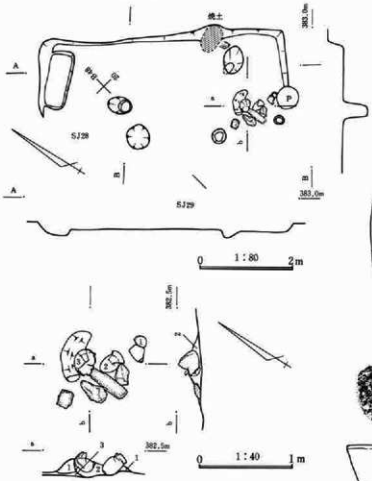
遺構　位置は21Ｂ43・44で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はＳＪ25・30としてもよい位置関係にあるが、各住居の遺存状況が悪く確認されなかった。平面形は部分的な残存で明瞭でない。主軸は北西壁でＮ58°Ｗを測る。規模は北西壁下で2.4＋αｍ、南西壁下で1.4＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で24cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は検出されなかった。

遺物　床面出土の遺物はない。

ＳＪ27

遺構　位置は19～21Ｂ46～48で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ28・29と重複してよい位置関係にあるが、各住居の遺存状況が悪く不明瞭であった。平面形は部分的な遺存で明瞭でない。



1．褐色土。ローム層ブロックを多く含む。締りあり。軸材か。
2．暗褐色土。木炭・焼土粒を含む。ローム層ブロックを含み、根質である。
3．褐色土。ローム層ブロックを多く含む。

第62図　ＳＪ27遺構図

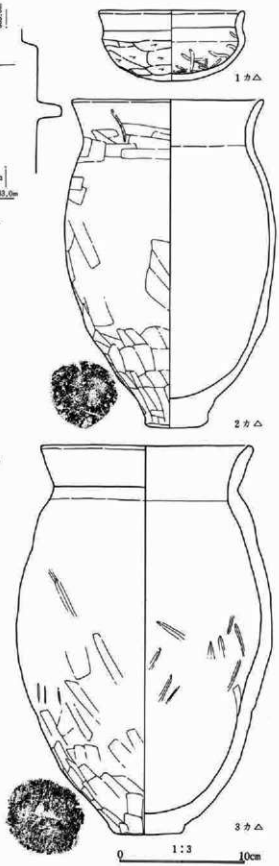
主軸は北東壁でＮ34°Ｗを測る。規模は北東壁下で4.8m、南東壁下で1.0＋αm、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で34cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は北東壁下にあり、調査時点の平面図には焼土粒の多い範囲として、記載されている。本住居の竈とされた遺構は、竈の廃棄に伴なう竈材の集石と考えられる。竈図の記録はない。

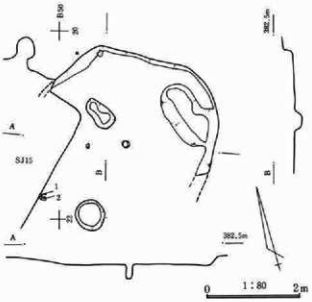
遺物　３点を掲げた。いずれも竈内出土とあるが集積内からの出土である。２・３は床面から出土している。

ＳＪ28

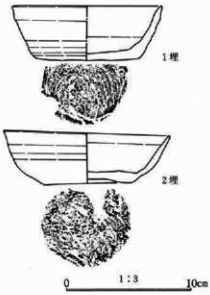
遺構　位置は20・21Ｂ48～50で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ15と重なっていたが明確にできなかった。



第63図　ＳＪ27遺物図



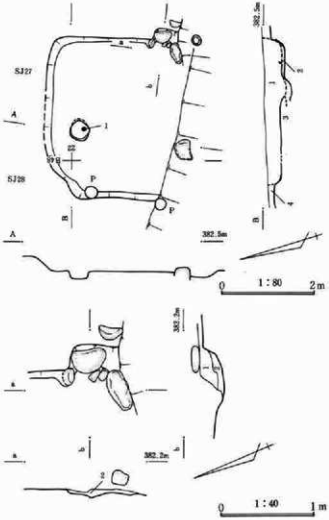
第64図　ＳＪ28遺構図



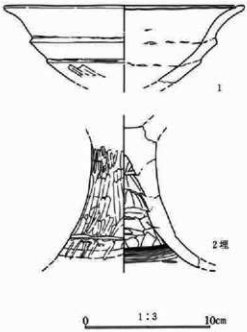
第65図　ＳＪ28遺物図

1．黒褐色土。ローム層ブロックを多く含みＦＰ多く入る。粗質。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締りあり。
3．暗褐色土。ローム層ブロックを含む貼床層。
4．褐色土。ローム層ブロックを多く含む。

1．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み木炭・焼土粒入る。粗質。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを含み、木炭・焼土粒を多く含む。粗質。



第66図　ＳＪ29遺構図



第67図　ＳＪ29遺物図

平面形は不明瞭箇所が多くはっきりしない。主軸は南東壁でN32°Eを測る。規模は北東壁側で約2.6m、南東壁下で1.5＋αm、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。なお北東部の床下には小土壙が存在している。

竈　竈は明瞭でない。

遺物　2点を掲げた。1・2は埋土出土である。2は遺存率が高く、本住居との関連が考えられる。

ＳＪ29

遺構　位置は21～23Ｂ48～50で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ27・28と重複してもよい位置関係にあるが、各住居の残存が少なく、明確にされなかった。平面形は南半を削り取られるが、隅丸の長方形と想定される。主軸は東壁でＮ18°Ｅを測る。規模は北壁下で2.8m、東壁下2.5＋αm、立ち上がりは遺存のよい西壁下で24cmを残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈　竈は東壁下にあり袖と天井部に石材が残る。

遺物　2点を掲げた。1は西側にあるピット内から出土し、2は埋土出土である。2点とも遺存量が少なく、本住居との関連性は危ぶまれる。

ＳＪ30

遺構　位置は23・24Ｂ44～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はＳＪ25・26と重複してもよい位置関係にあるが各住居の残存状況が悪く確認されなかった。平面形は残存箇所が少なく、明瞭でない。主軸は北東壁でＮ31°Ｗを測る。規模は北東壁下で1.6＋αm、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で8cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈　竈は明確ではない。

遺物　床面出土とされたのは、6・7・8・10・12である。調査時点の写真を見ると、12は床から離れている。また7・8・10は残存率が少なく、供伴関係を認めるには危ぶまれる。その他埋土出土として、1・2・3・4・5・9・11がある。1～3は完器に近く、本住居の上面に8世紀頃の別住居があったのかも知れない。4・5もその頃の遺物である。

ＳＪ31

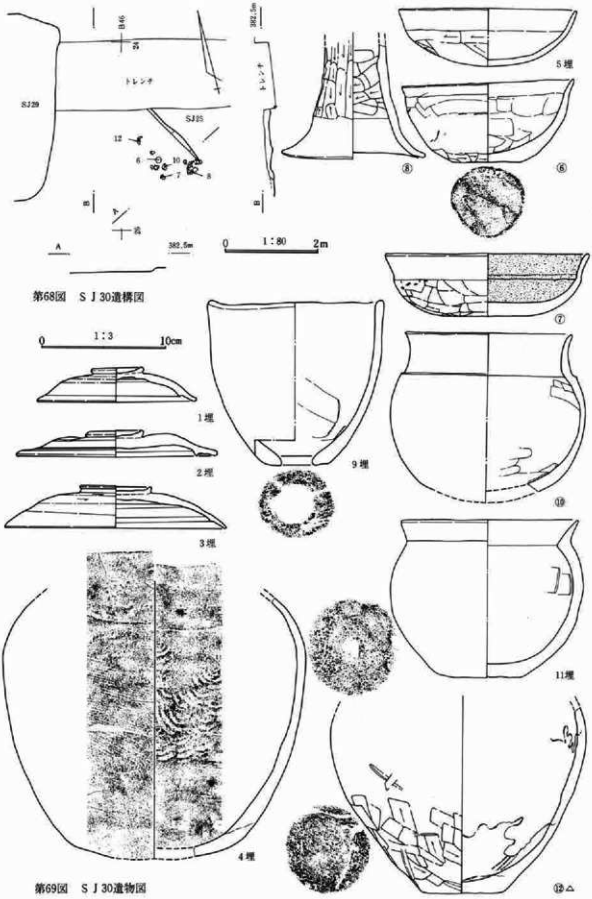
遺構　位置は15～18Ｂ37～40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ05・06・07と重なっていたが、新・古の関係は明瞭にできなかった。平面形は長方形気味で、主軸は北西壁Ｎ46°Ｅを測る。規模は北西壁下で4.4m、北東壁下で3.9m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で8cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、Ｐ1は径56cm、深さは床面から48cm、Ｐ2は径72cm、深さ64cm、Ｐ3は径44cm、深さ56cmを測るが南西側の一穴は明瞭でない。貯蔵穴は東隅に検出され、径90cm、深さ40cmを測る。

竈　竈は北東壁下の中央にあり、竈前に天井石材が落下して存在し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土で石材を多用していた。

遺物　8点を掲げた。そのうち床面出土とされたのは4・6・7・8である。4・7・8は貯蔵穴際から出土しており本住居との因果と合わせ供伴した可能性は強いと考えられる。5は竈内埋土の出土である。1・2・3は埋土出土である。

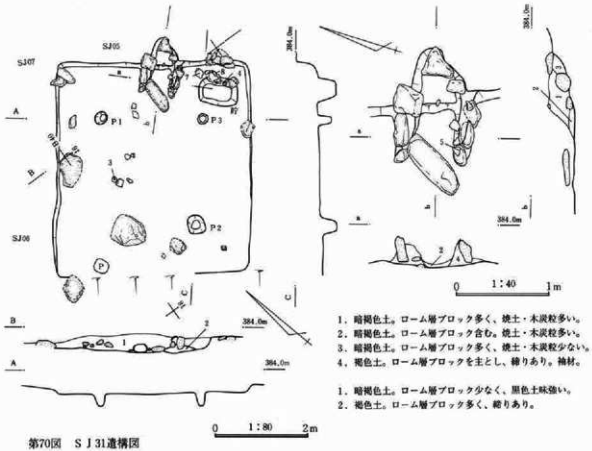
ＳＪ32

遺構　位置は14～18Ａ32～36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はなく一部が後世溝に切られる。平面形は各辺がわずかはらむ方形気味で、主軸は北東壁でＮ33°Ｗを測る。規模は北東壁下で6.1m、北西壁下で5.2m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で60cmを残す。施設として東側に周溝を施し、柱穴は4箇所

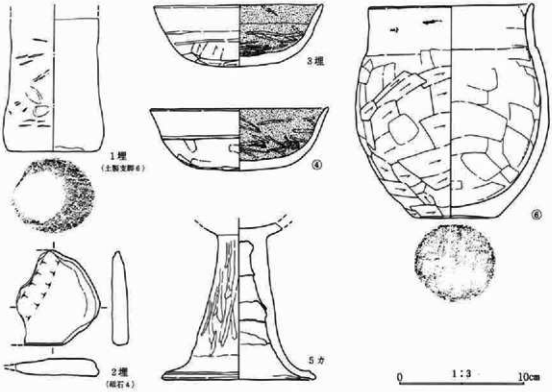


第68図 S J 30遺構図

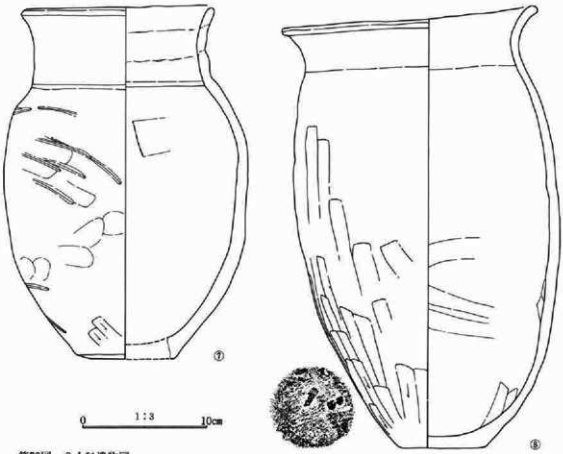
第69図 S J 30遺物図



第70図　ＳＪ31遺構図



第71図　ＳＪ31遺物図



第72図 ＳＪ31遺物図

に検出され、Ｐ１は径30cm、深さは床面から50cm、Ｐ２は径30cm、深さ49cm、Ｐ３は径25cm、深さ36cm、Ｐ４は径20cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径94cm、深さ36cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央よりやや南寄り竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐灰色の粘土で、石材を袖に用いている。

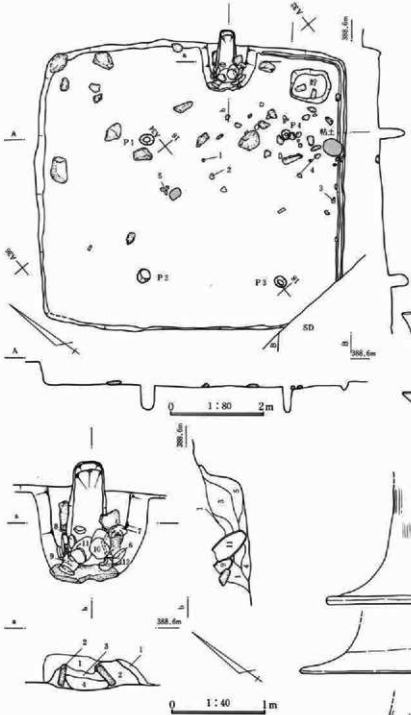
遺物 12点を掲げた。床面とされたのは３・４であり、調査時点の写真を見ると共に床面出土である。竈内から６・７・８・９・10・11・12がある。そのうち６・７・８は脚部のみであるが、９・10・11は遺存率が良く、本住居と供伴した可能性は強い。

ＳＪ33

遺構 位置は23～25Ａ28～32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ34と重なっていたが確認できなかった。土層断面図からするとＳＪ34が古くＳＪ33が新しい。平面形は方形気味で、主軸は東壁でＮ15°Ｗを測る。規模は東壁下で5.7m、北壁下で5.5m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で21cmを残す。施設として北西壁下に部分的に周溝を施し、柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径22cm、深さは床面から41cm、Ｐ２は径20cm、深さ50cm、Ｐ３は径32cm、深さ46cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され長径160cm、深さ52cmを測るが、少し大き過ぎるきらいがある。

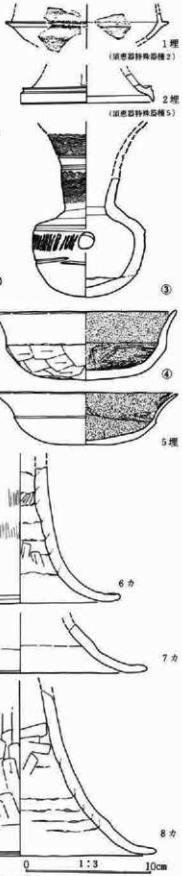
竈 竈は東壁下の中央より南寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可能性がある。

遺物 ７点を掲げた。床面出土とされたのは１・３・４・５・７である。２・６は貯蔵穴内出土である。このうち６は破片個体であるので本住居との供伴の意味はやや薄らぐであろう。写真照合の結果は床面につ

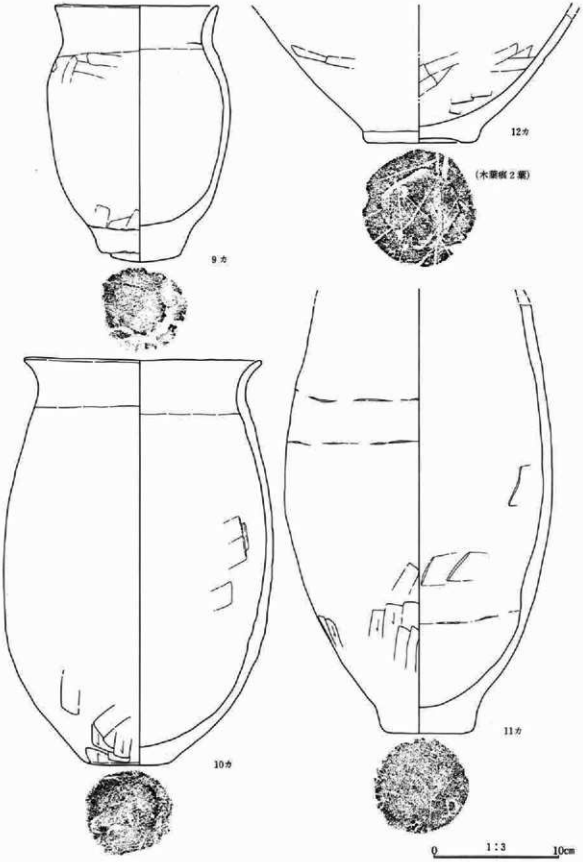


1．暗褐色土。ＦＰ粒を多く含み、黒色味強い。焼土・木炭粒を含む。粗質。
2．褐灰色土。灰色粘土で袖材。粘性あり。
3．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み焼土・木炭粒をわずか含む。天井崩落土か。
4．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、焼土・木炭粒を多く含み、粗質。
5．褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒やや少ない。煙道部埋土か。

第73図　ＳＪ32遺構図



第74図　ＳＪ32遺物図



第75図 S J 32遺物図

いて現場所見と同様であった。

ＳＪ34

遺構　位置は23～26Ａ28～31で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ33と重なっていたが、新・古の関係は確認できなかった。土層断面図からするとＳＪ34が古くＳＪ33が新しい。平面形は推定長方形気味で、主軸は北西壁でＮ62°Ｅを測る。規模は北西壁下で4.1ｍ、北東壁下で2.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で40㎝を残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径21㎝、深さは床面から30㎝、Ｐ２は径30㎝、深さ48㎝であった。貯蔵穴は検出されていない。

竈　竈は検出されていない。

遺物　１点を掲げた。１は床面とされているが破片個体であり、本住居との供伴関係は危ぶまれる。

ＳＪ35

遺構　位置は27～30Ａ31～34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ36・38と重なるが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁でＮ33°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.1ｍ、南東壁下で4.8ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で30㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径25㎝、深さは床面から41㎝、Ｐ２は径28㎝、深さ41㎝、Ｐ３は径28㎝、深さ40㎝、Ｐ４は径30㎝、深さ42㎝であった。貯蔵穴は南隅に検出され、径106㎝、深さ56㎝を測る。

竈　竈は南西壁側に存在したと考えられるが後世の攪乱を受け明瞭でない。

遺物　３点を掲げた。１・２が床面から３が埋土出土である。写真照合の結果も同様であった。

ＳＪ36

遺構　位置は24～28Ａ34～36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ35と重なるが新・古の関係は明確でない。平面形は欠損部分が多く明瞭でない。主軸は北東壁でＮ30°Ｗを測る。規模は北東壁下で6.8ｍ、北西壁下で1.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で31㎝を残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径30㎝、深さは床面から50㎝、Ｐ２は径38㎝、深さ45㎝を測る。貯蔵穴は２穴が重なるようにして南東隅に検出され、その長径150㎝、深さ62㎝を測る。

竈　竈は北東壁下の中央にあり竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘土である。

遺物　５点を掲げた。竈内埋土から３・４・５が出土し、３点とも大形破片個体である。２は竈左袖外面に接して出土し欠損が少ない個体であるため、本住居との供伴の可能性は高い。１は埋土である。

ＳＪ37

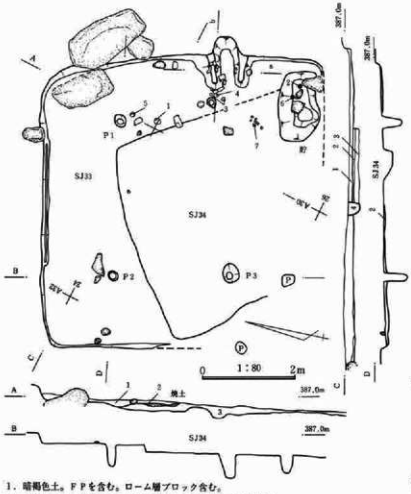
遺構　位置は26～28Ａ34～36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ36・38と重なるが、新・古の関係は明瞭にでない。平面形は不明瞭で、主軸は北東壁でＮ24°Ｗを測る。規模は北東壁下で推定5.9ｍ、北西壁下で0.4＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で10㎝を残す。貯蔵穴は不明瞭。

竈　竈は東壁下にあり、調査し得たのは袖のみである。

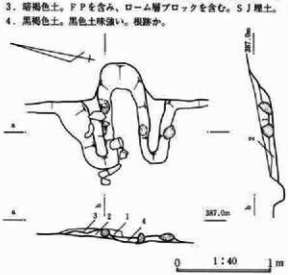
遺物　２点を掲げた。ともに欠損の少ない個体で床面出土である。

ＳＪ38Ａ・Ｂ

遺構　位置は28－31Ａ33～36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ39と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。整理作業の過程でＳＪ38は新・旧２つの住居が北東壁を合わせたような形で存在したものとわかった。８世紀頃と６世紀初頭頃の２棟で前者をＡとし後者をＢとした。図中のＡ・Ｂはそれを示す。平面形は西半を欠くため明瞭でない。主軸はＡの北東壁でＮ31°Ｗを測る。規模はＡの北

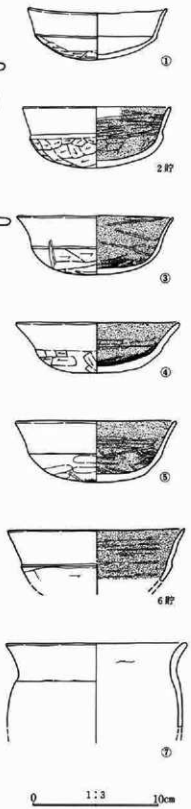


1. 暗褐色土。ＦＰを含む。ローム層ブロック含む。
2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。締りあり。焼土粒含む。
3. 暗褐色土。ＦＰを含み、ローム層ブロックを含む。ＳＪ埋土。
4. 黒褐色土。黒色土味強い。根跡か。

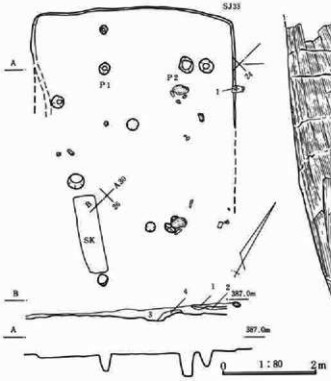


1. 暗褐色土。焼土・木炭粒含み根質。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。ローム層ブロック入る。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒含み根質。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒含み、根質。ローム層小ブロック多く入る。

第76図　ＳＪ33遺構図

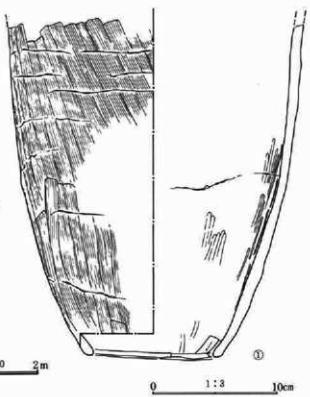


第77図　ＳＪ33遺物図



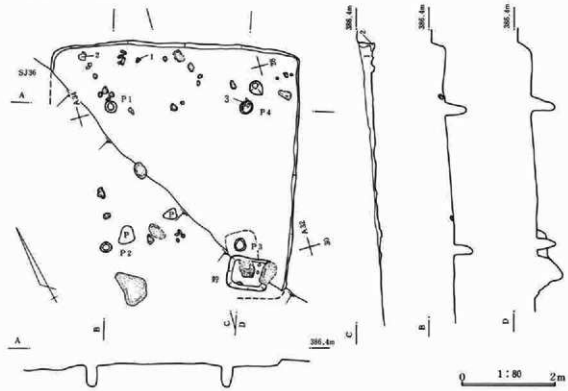
1．暗褐色土。ローム層ブロックを含み、ＦＰ入る。軟らか。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを主とし、縞りあり。焼土入る。
3．暗褐色土。ローム層ブロックわずかに含む。
4．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む個所。

第78図　ＳＪ34遺構図

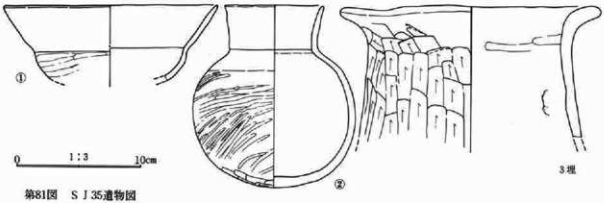


1．暗褐色土。木炭・焼土粒・ＦＰ入り、軟らか。
2．暗褐色土。ローム層ブロック含む。

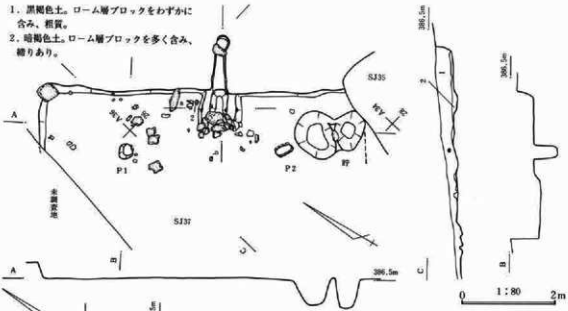
第79図　ＳＪ34遺物図

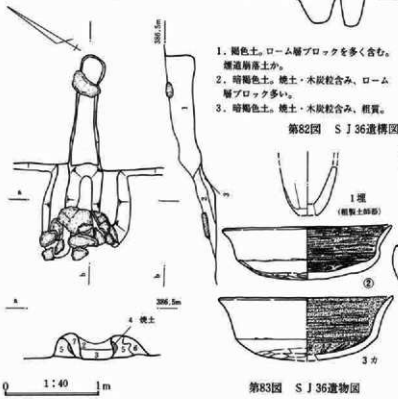


第80図　ＳＪ35遺構図

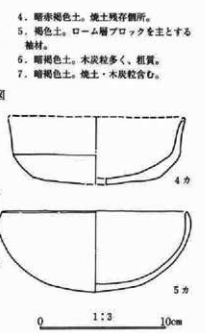


第81図 ＳＪ35遺物図

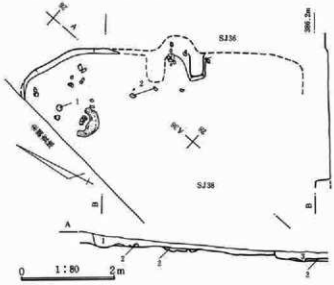




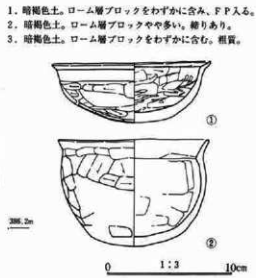
第82図 ＳＪ36遺構図



第83図 ＳＪ36遺物図



第84図　ＳＪ37遺構図



第85図　ＳＪ37遺物図

東壁下で推定4.24ｍ、南東壁下で3.0＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で15cmを残す。Ｂの主軸はＮ31°Ｗで規模は南西壁で3.08＋αｍである。柱穴は４箇所にあるがどちらの住居に伴なうか、または別の住居に伴なうのか判然としない。Ｐ１は径31cm、深さは床面から40cm、Ｐ２は径27cm、深さ38cm、Ｐ３は径27cm、深さ40cm、Ｐ４は径25cm、深さ45cmであった。貯蔵穴は北東隅に検出され、径55cm、深さ41cmを測る。

竈　Ａの竈は北東壁下にあり竈前には多量の石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。また石材の南端が住居跡の南壁の可能性もあるので図中に破線を加えておいた。袖材は暗褐色の粘性土で右袖には石材が残されていた。Ｂの竈は北東壁にあり袖材は褐色の粘性土であった。

遺物　Ａの遺物は竈内埋土と左袖上から１・２・４が出土している。３・５は床面出土である。２・５は半欠品であるため本住居との供伴関係はやや危ぶまれる。Ｂの遺物は15点を示した。床面出土は６・８・９・12・13・15・17・18・19・20があり、埋土中に７・10・11・14・16がある。この中で11・12・18は破片個体である。このため本住居との供伴関係はやや危ぶまれるがＢの貯蔵穴周辺と竈周辺に６・８・９・12・13・15・16・17・18があり、何らかの形で住居とのかかわりを考える事ができ、供伴の可能性がある。

ＳＪ39

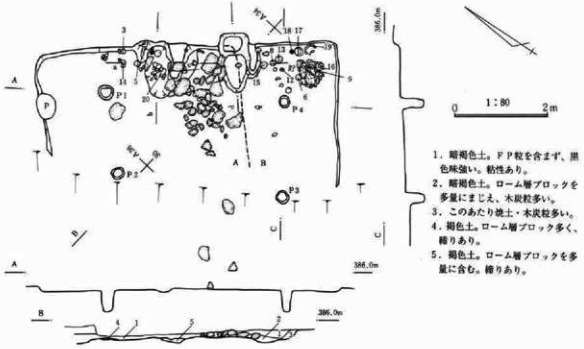
遺構　位置は31～34Ａ32～34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ40と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は隅丸長方形と考えられ、主軸は北西壁でＮ61°Ｅを測る。規模は短辺で4.2ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で14cmを残す。貯蔵穴は南西隅に検出され、長径70cm、深さ22cmを測る。

竈　竈は現場図面では南西壁中央と考えられる位置に焼土粒の分布があり本住居の竈跡と考えられる。

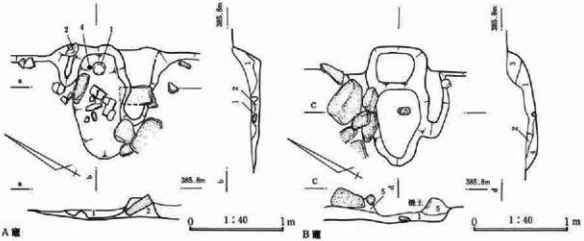
遺物　床面に伴う土器類はなく、写真照合の結果も同様であった。

ＳＪ40

遺構　位置は32～35Ａ31～35で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ39･44と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でなかった。本住居跡はさらに２つの住居が重なり、あたかも１棟の住居として調査されたと考えらる。というのは貯蔵穴と考えられる土壙が２箇所にあり、更に北東壁は竈部分の食い違いを見せるなどの理由による。主軸は北東壁でＮ40°Ｗを測る。規模は北東壁下で6.2ｍ、北西壁下で4.7ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で18cmを残す。北東の貯蔵穴は径96cm、深さ42cmを測る。



1．暗褐色土。ＦＰ粒を含まず、黒色味強い。粘性あり。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多量にまじえ、木炭粒多い。
3．このあたり焼土・木炭粒多い。
4．褐色土。ローム層ブロック多く、締りあり。
5．褐色土。ローム層ブロックを多量に含む。締りあり。



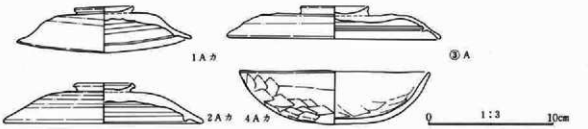
A窟

1．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、焼土・木炭粒多い。焚口右前に石材が多く散乱し、廃棄時の破壊を思わせる。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを主とし、焼土・木炭粒を含む。そのことは再祭か。

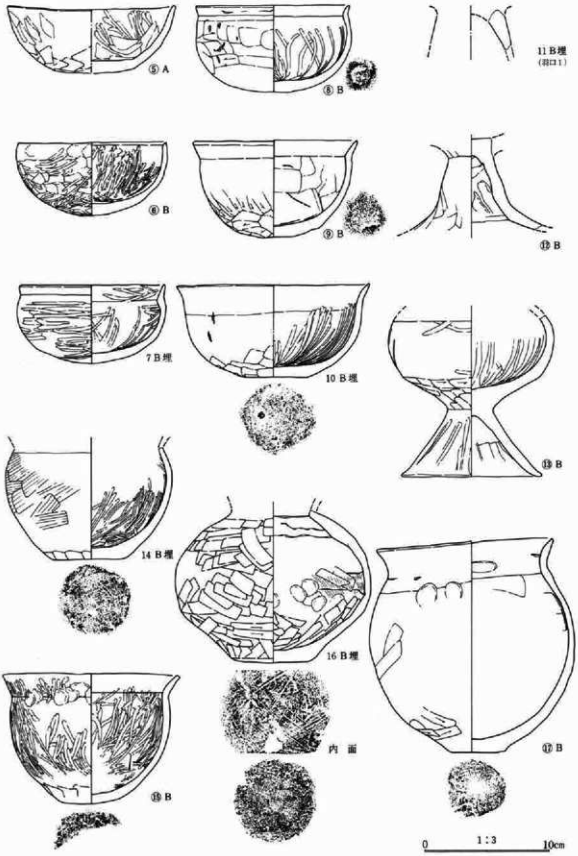
B窟

1．暗褐色土。ローム層ブロックをわずかに含み、木炭・焼土粒入る。
2・3．1に同じ。
4．褐色土。ローム層小ブロックを含み、木炭・焼土粒多い。
5．褐色土。ローム層を主体とした軸材。

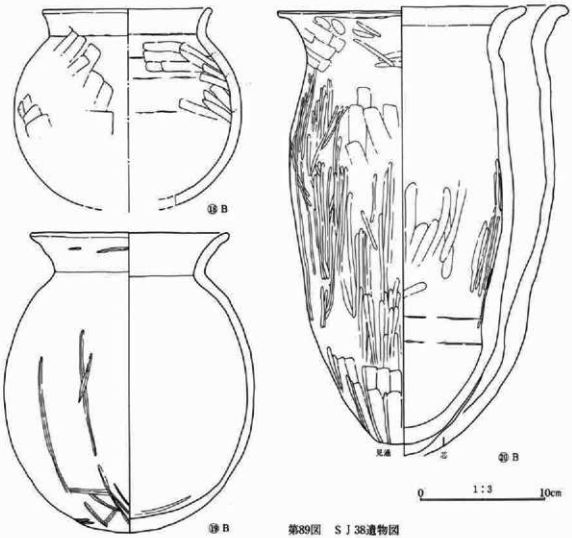
第86図 ＳＪ38遺構図



第87図 ＳＪ38遺物図



第88図　ＳＪ38遺物図



第89図 ＳＪ38遺物図

竈 竈は北東壁下の南寄りにあり、竈前東方に粘土ブロックや石材が散乱し廃棄時の破壊を偲ばせる。袖材は褐色の土である。

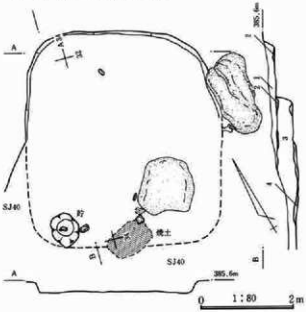
遺物 13点を掲げた。床面出土とされているのは２・８・13である。竈内からは７の出土がある。埋土からは１・３・４・５・６・９・10・11・12がある。埋土出土の一群は大半が貯蔵穴周辺から出土しているが、写真照合の結果、床面から大きく離れているため、４・８・11・12相互での組合は考えられても本住居跡との直接の関連性はやや薄いであろう。

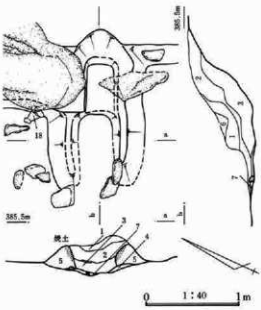
ＳＪ41

遺構 位置は32～34Ａ35～37で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ42と重なっていたが、新・古の関係は明確にならなかった。平面形は長方形気味で、主軸は東壁でＮ37°Ｅを測る。規模は東壁下で4.0＋αｍ、北壁下で2.9ｍ立ち上がりは遺存のよい北壁下で40cmを残す。貯蔵穴は南寄りに検出され、径46cm、深さ51cmを測る。

竈 竈は東壁下にあったと考えられ、土層断面注４に、焼土・木炭粒が見え、竈が後世土壙に削られた可能性があるであろう。

遺物 ６点を掲げた。床面とされた例には３・４・５・６があり、埋土中から１・２がある。写真照合の結果、４は床面、５は貯蔵穴に接しており、本住居跡との直接的な係わりは認められるがともに破片個体で

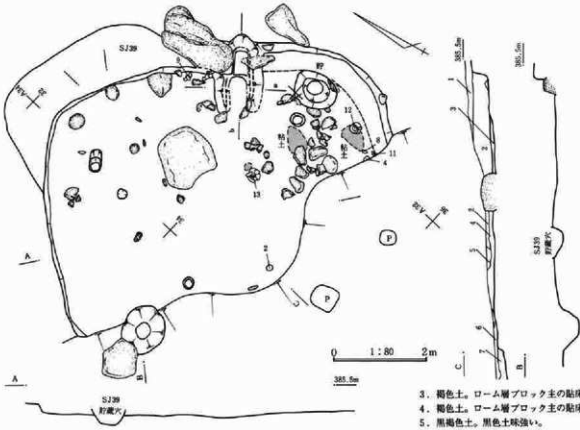




1．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入り、ＦＰわずかに含む。
2．褐色土。ローム層ブロックを主体とする貼床層。
3．暗褐色土。ローム層ブロック少なく。焼土・木炭粒入る。ＦＰ微劣である。
4．褐色土。ローム層ブロックを主とする貼床層。

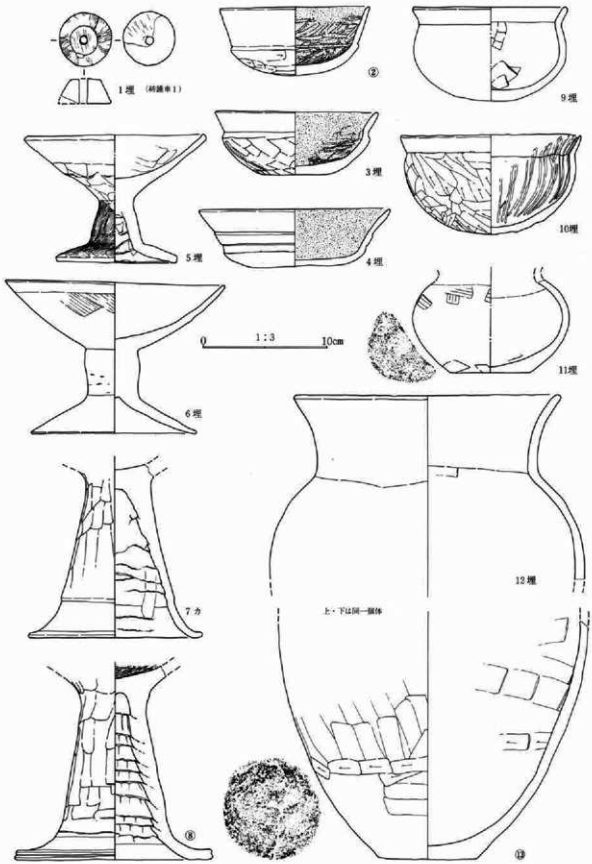
1．暗褐色土。ローム層小ブロック含み、焼土・木炭粒多く含む。
2．暗褐色土。ローム層小ブロック含み、焼土粒多く、木炭粒入る。
3．暗褐色土ローム層小ブロック含み、焼土・木炭粒多く含む。
4．褐色土。ローム層ブロックを主体とする。粘性、締りあり。
5．褐色土。ローム層ブロックを主体とする抽材。
6．褐色土。ローム層ブロックを主とし、焼土・木炭粒含む。
7．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。

第90図　ＳＪ39遺構図

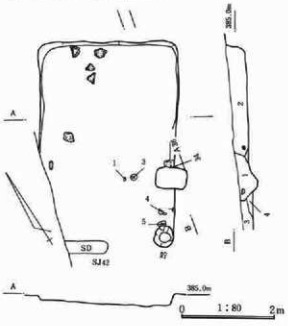


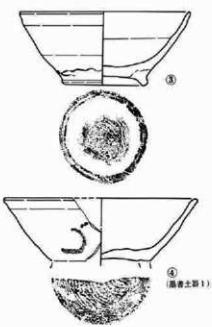
1．暗褐色土。ローム層ブロック含む。
2．暗褐色土。ローム層ブロック含む。
3．褐色土。ローム層ブロック主の貼床。
4．褐色土。ローム層ブロック主の貼床。
5．黒褐色土。黒色土味強い。
6．暗褐色土。ローム層ブロック含む。
7．褐色土。ローム層ブロック多い。

第91図　ＳＪ40遺構図



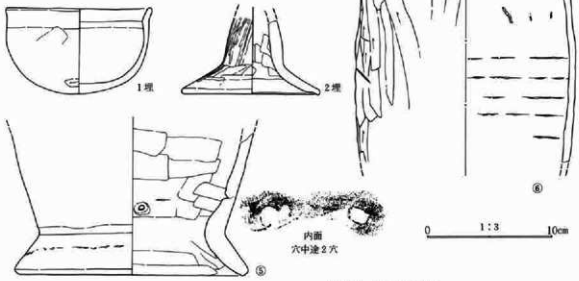
第92図 ＳＪ40遺物図





1．暗褐色土。黒色土味強い。土壌堆土。
2．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、ＦＰをわずかに含む。
3．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、ＦＰをわずかに含む。
4．褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒わずかに入る。

第93図　ＳＪ41遺構図

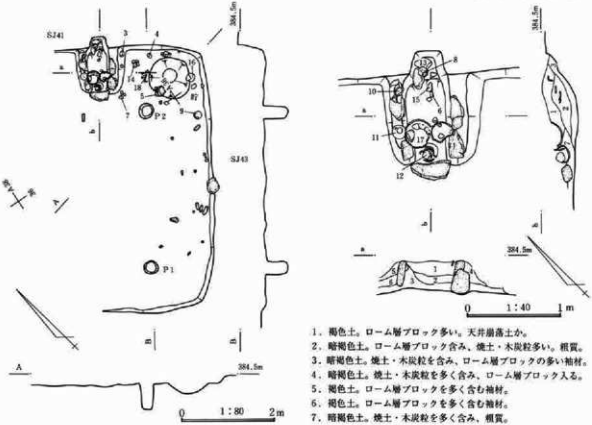


第94図　ＳＪ41遺物図

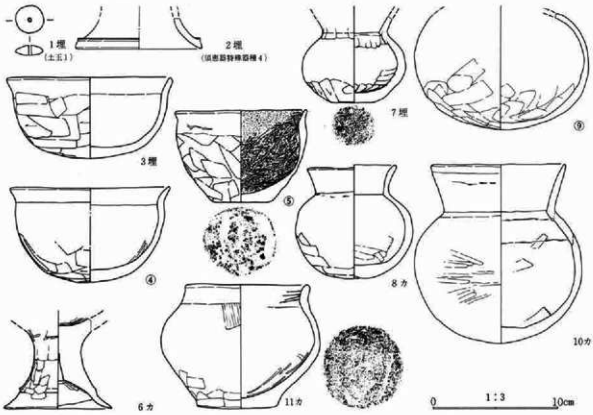
ある。

ＳＪ42

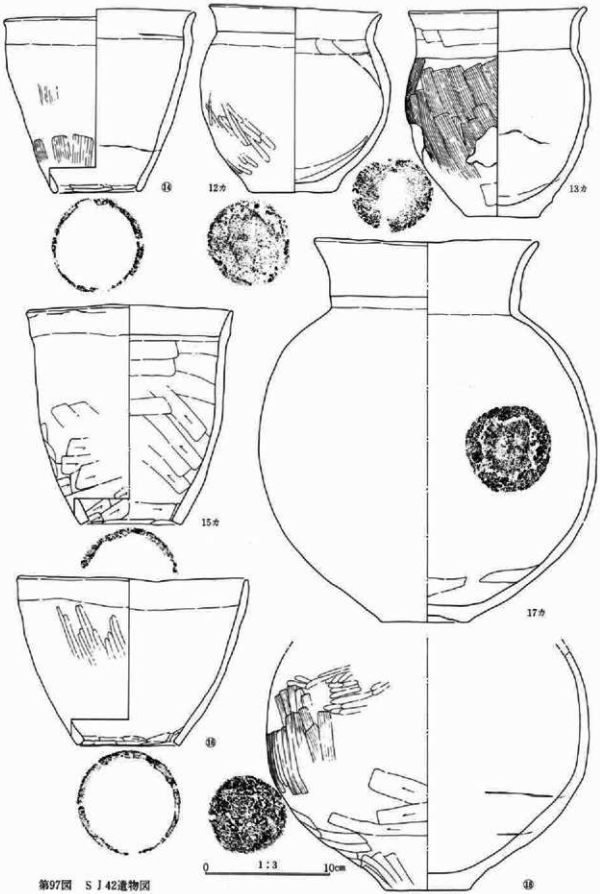
遺構　位置は34～37Ａ35～37で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ43と重なっていたが、新・古の関係は捉えられなかった。出土遺物からするとＳＪ42が６世紀代、ＳＪ43が10世紀代であるのでＳＪ42が先行する。平面形は推定隅丸方形気味で、主軸は南東壁でＮ47°Ｅを測る。規模は南東壁下で5.1ｍ、北東壁下で3.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で54cmを残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径30cm、深さは床面から50cm、Ｐ２は径30cm、深さ51cmであった。貯蔵穴は北東隅に検出され、径94cm、



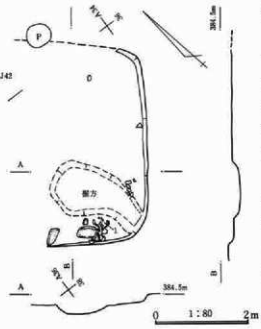
第95図 ＳＪ42遺構図



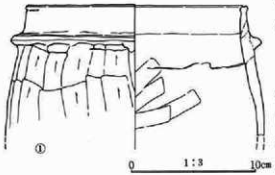
第96図 ＳＪ42遺物図



第97図　ＳＪ42遺物図



第98図 ＳＪ43遺構図



第99図 ＳＪ43遺物図

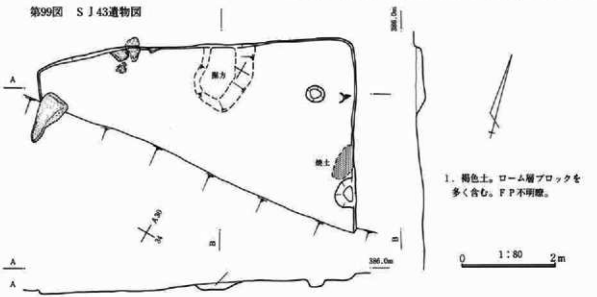
深さ40cmを測る。

竈 竈は北東壁下にある。廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可能性がある。袖には石材が用いられ焚口には天井架構石材があり、竈内には３個体の土器が置かれたような状態で出土している。ほか５個体の出土がある。

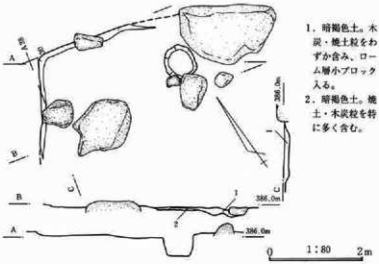
遺物 18点掲げた。調査時点で竈から６・８・10・11・12・13・15・17がある。床面から４・５・９・14・16・18がある。埋土から１・２・３がある。そのうち４・６・15・17・18については欠損がある。写真照合においては竈内出土の一群は、まとまりがあり、６・15・17については大きな欠損があるため供伴の意味あいはやや危ぶまれるが、そのほかについては供伴関係は成立すると見られる。また床面出土個体の多くが貯蔵穴周辺から出土しているのでその因果において供伴の可能性は高いであろう。

ＳＪ43

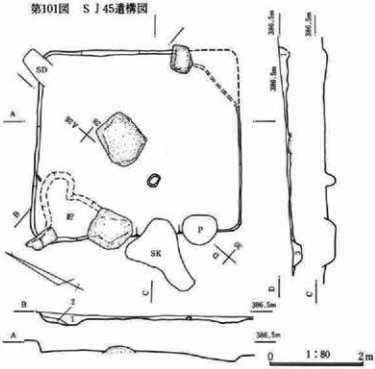
遺構 位置は35～37Ａ33～34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ42と重なっていたが、新・古の関係は捉えられなかった。出土遺物からするとＳＪ42が６世紀代、ＳＪ43が10世紀代であるのでＳＪ43が後出する。平面形は欠失個所が多く明瞭でない。主軸は南東壁でＮ50°Ｅを測る。規模は短辺



第100図 ＳＪ44遺構図

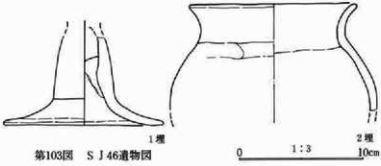


第101図　ＳＪ45遺構図



1．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。
2．褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締りあり。
3．黒褐色土。黒色味強い。

第102図　ＳＪ46遺構図



第103図　ＳＪ46遺物図

で3.8m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で25cmを残す。貯蔵穴は掘方調査時に南東隅に土壙が検出されている。その土壙の規模は214cm、深さ42cmを測る。

竈　竈は検出されていない。

遺物　１点を掲げた。１は床面とある。

ＳＪ44

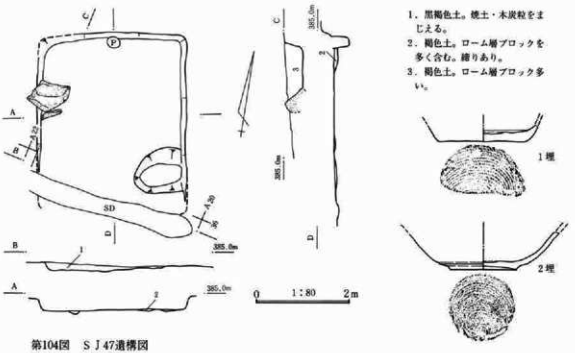
遺構　位置は31～33Ａ28～31で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半が欠損し不明瞭であるが長方形と思われる。主軸は東壁でＮ17°Ｗを測る。規模は北壁下で6.7m、東壁下で3.9＋αm、立ち上がりは遺存のよい東壁下で10cmを残す。貯蔵穴は不明瞭であるが焼土粒の多い箇所が東壁にあり、それに南接して小さな土壙があり、貯蔵穴かと考えられる。

竈　竈は東壁下にあり、焼土の多い箇所があり竈かと考えられるが竈実測図は作成されていない。

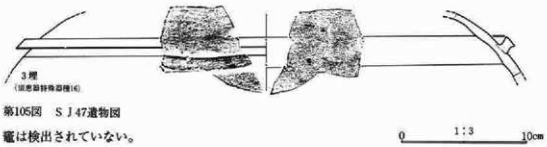
遺物　掲げてないが現場実測図平面に土器１点が記載されているが、取り上げ番号がなく個体照合ができなかった。

ＳＪ45

遺構　位置は30･31Ａ26～28で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は大半を失っているため不明瞭。主軸は西壁でＮ36°Ｅを測る。規模は北壁下で2.5＋αm、西壁下で2.0＋αm、立ち上がりは遺存のよい西壁下で６cmを残す。貯蔵穴は東側に自然石の山石があり、その直下に径約40cm、深さ約15cmの土壙があり、貯蔵穴かも知れない。



第104図　ＳＪ47遺構図



第105図　ＳＪ47遺物図

竈　竈は検出されていない。

遺物　床面出土とされる個体はない。

ＳＪ46

遺構　位置は27～30Ａ24～27で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主軸は西壁でＮ32°Ｗを測る。規模は西壁下で4.3ｍ、北壁下で3.9ｍ、立ち上がりは遺存のよい東壁下で20㎝を残す。貯蔵穴は調査時に西隅に小土壙が検出され、貯蔵穴かと思われる。その規模は径156㎝、深さ29㎝を測る。

竈　竈は検出されていない。

遺物　２点を掲げた。１・２とも埋土出土である。２は破片個体で１も坏部を失っているため、本住居との供伴の可能性は極めて薄い。

ＳＪ47

遺構　位置は34～36Ａ20～22で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は長方形気味で、主軸は東壁でＮ９°Ｗを測る。規模は東壁下で推定3.6ｍ、北壁下で2.9ｍ、立ち上がりは遺存のよい西壁下で22㎝を残す。貯蔵穴は南東隅に小土壙があり、径約52㎝、深さ８㎝である。それが貯蔵穴とも考えられる。

竈　竈は検出されない。

遺物　３点を掲げた。３点ともに埋土から出土している。いずれも破片個体であるが埋土中から出土した個体の多くが８世紀以後である点と重複住居がない点から３点ともに本住居と関連した可能性がある。

ＳＪ48

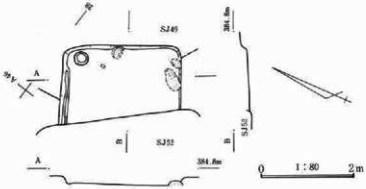
遺構　位置は28・29Ａ44～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ49・52と重なっていたが明瞭でなかった。出土遺物から見ると遺物量が少なく明言できない。平面形は西半を欠くため明瞭でない。主軸は東壁でＮ27°Ｗを測る。規模は東壁下で2.4ｍ、立ち上がりは遺存のよい東壁下で35cmを残す。貯蔵穴は北隅に径約25cm、深さ約８cmの小土壙があり、貯蔵穴と考えられる。

竈　竈は検出されない。

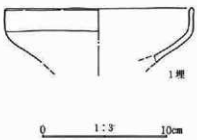
遺物　１点を掲げた。１は埋土中からの出土である。

ＳＪ49

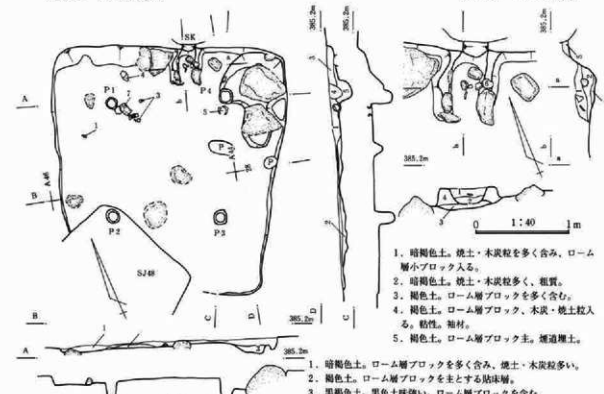
遺構　位置は26～29Ａ43～45で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ48と重なるが



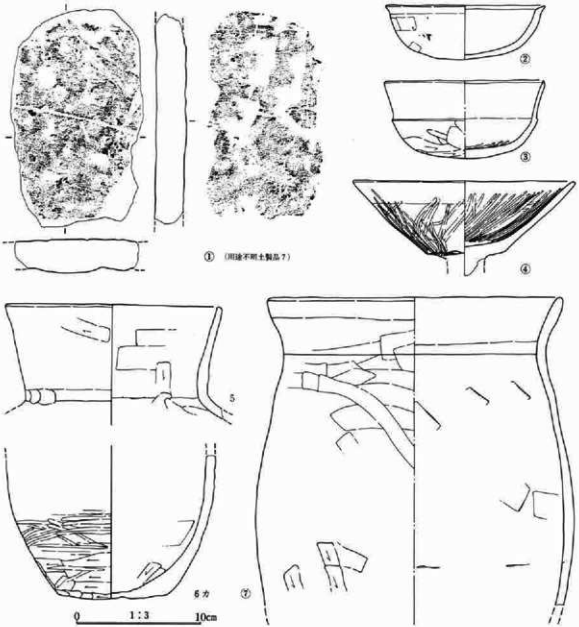
第106図　ＳＪ48遺構図



第107図　ＳＪ48遺物図



第108図　ＳＪ49遺構図



第109図 ＳＪ49遺物図

明確にできなかった。平面形は一辺の短かい逆台形気味で、主軸は東壁でN29°Wを測る。規模は東壁下で4.8m、北壁下で4.8m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で20cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、Ｐ１は径26cm深さは床面から30cm、Ｐ２は径30cm、深さ39cm、Ｐ３は径31cm、深さ34cm、Ｐ４は径30cm、深さ42cmであった。貯蔵穴はあいまいであるが、北東隅側が凹んで写真に見える。

竈　竈は北壁下のほぼ中央に山石を避けるようにして存在した。袖材は褐色の粘性土で石材を多用している。

遺物　７点を掲げた。調査時点に床面とされたのは１・２・３・４・５・７である。６は竈埋土とある。写真照合の結果１・２・３・４・５・７について床面から出土し、本住居に伴なうと考えられた。しかし３・７については大きく欠損があり供伴の可能性はやや落ちる。

ＳＪ50

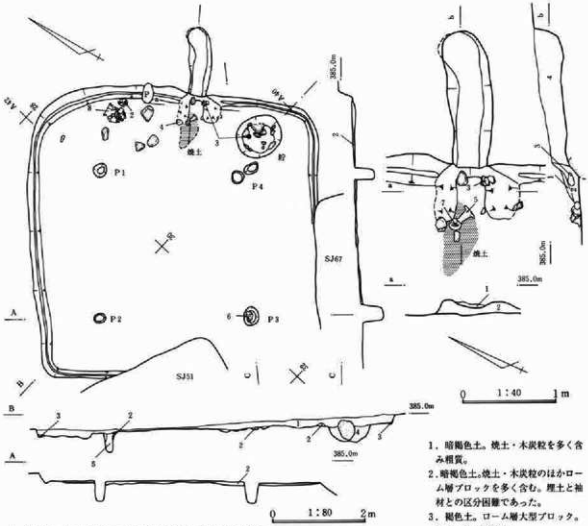
遺構　位置は28～31Ａ40～43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ51・57と重複しているが明瞭でない。平面形は隅丸方形気味で、主軸は北東壁でＮ25°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.5ｍ、北西壁下で5.0ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で10㎝を残す。施設としてはめずらしく周溝が全周している。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径30㎝、深さは床面から29㎝、Ｐ２は径25㎝、深さ38㎝、Ｐ３は径40㎝、深さ41㎝、Ｐ４は径32㎝、深さ41㎝であった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径100㎝、深さ40㎝を測る。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあり、煙道部をよくとどめる。袖材は褐色の粘性土である。

遺物　８点を掲げた。調査時点で床面とされたのは２・４・８で、竈内から１・５・７が、竈内と貯蔵穴から出土した３が接合関係にある。貯蔵穴から６の出土がある。写真照合の結果、床面出土個体については床面と確認でき、竈出土の５・７についても底面に近く存在していた。供伴関係は３に大きな欠損があり、やや危ぶまれるが、他については供伴の可能性は高いであろう。

ＳＪ51

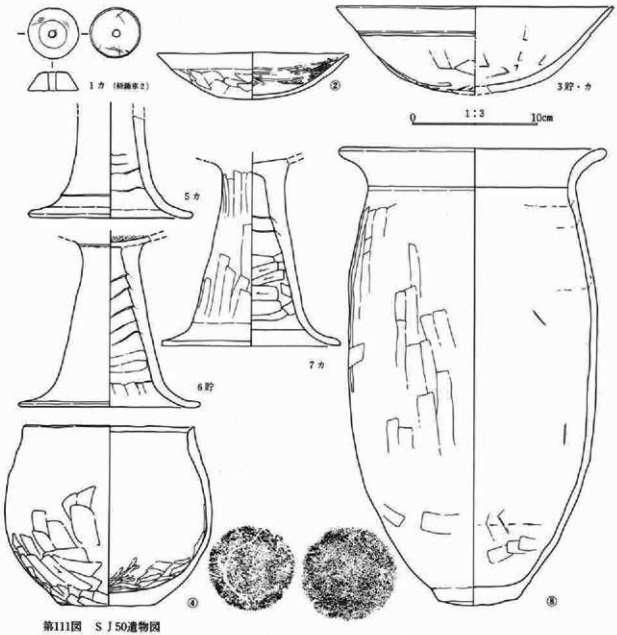
遺構　位置は30～33Ａ42～45で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ55・56と重



1．褐色土。ローム層ブロックを多量に含み、焼土・木炭粒入る。
2．褐色土。ローム層ブロックを主とする貼床。締り強い。
3．暗褐色土。ローム層小ブロックを含むが、黒色土味強く、軟らか。周壁溝の埋土。
4．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。5．暗褐色土。やや黒色土味強い。柱穴埋土。

1．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み相質。
2．暗褐色土。焼土・木炭粒のほかローム層ブロックを多く含む。埋土と袖材との区分困難であった。
3．褐色土。ローム層大型ブロック。掘抜天井の崩落か。
4．褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム層ブロックを主体とする。煙道崩落土か。

第110図　ＳＪ50遺構図



第111図 ＳＪ50遺物図

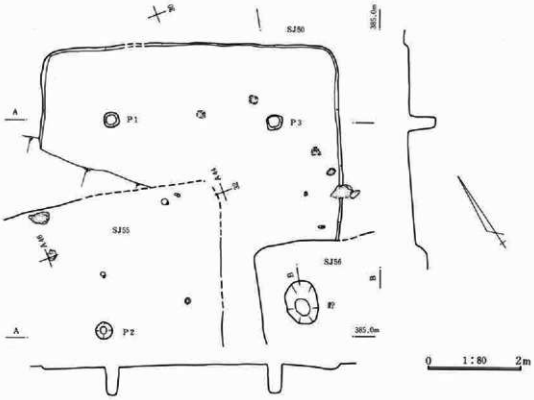
なっていたが明確でない。平面形は柱穴から推定して方形気味で、主軸は北西壁でＮ43°Ｅを測る。規模は北東壁下で6.1ｍ、南東壁下で4.0＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で80cmを残す。柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径31cm、深さは床面から60cm、Ｐ２は径45cm、深さ51cm、Ｐ３は径31cm、深さ60cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径約94cm、深さ56cmを測る。

竈　竈は検出されていないが貯蔵穴との関連から南壁か東壁のどちらかに存在したと考えられる。

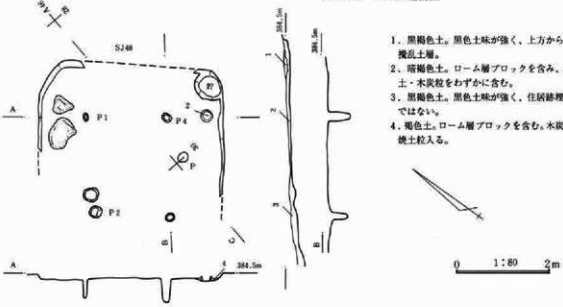
遺物　床面出土とされた遺物はない。

ＳＪ52

遺構　位置は28～30Ａ43～47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ48と重複していたが明確でなかった。平面形は柱穴から考えれば長方形気味で、主軸は北西壁でＮ37°Ｗを測る。規模は北西壁下で4.8ｍ、南東壁下で2.6＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で15cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径10cm、深さは床面から35cm、Ｐ２は径25cm、深さ34cm、Ｐ３は径18cm、深さは30cm、Ｐ

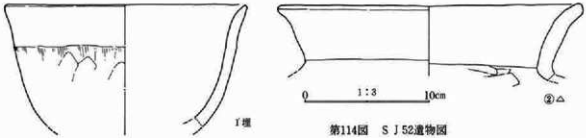


第112図　ＳＪ51遺構図

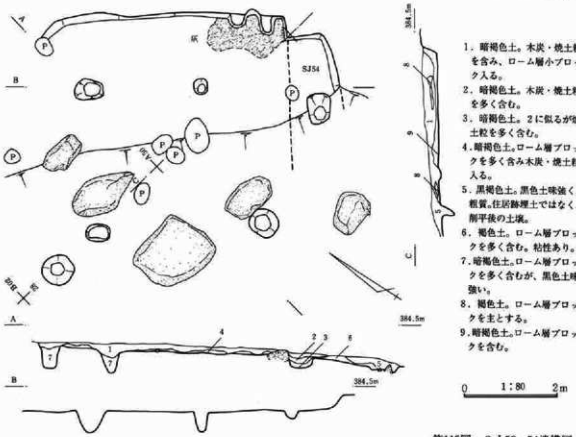


1．黒褐色土。黒色土味が強く、上方からの撹乱土層。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを含み、焼土・木炭粒をわずかに含む。
3．黒褐色土。黒色土味が強く、住居跡埋土ではない。
4．褐色土。ローム層ブロックを含む。木炭・焼土粒入る。

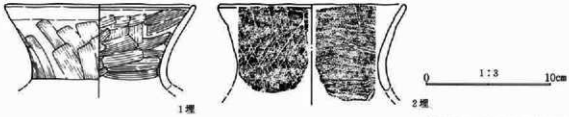
第113図　ＳＪ52遺構図



第114図　ＳＪ52遺物図



第115図 ＳＪ53・54遺構図



第116図 ＳＪ53・54遺物図

4は径20cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深さ37cmを測る。

竈 竈は検出されない。

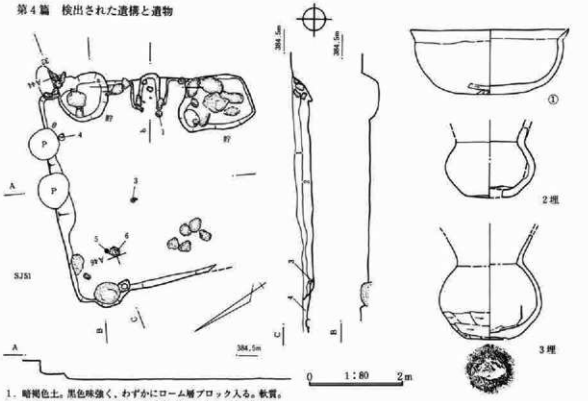
遺物 2点を掲げた。床面から2が、埋土から1がある。写真照合の結果、2は床面よりわずか離れているので床面出土とは認めがたい。しかし口縁部が一周する個体であるので遺存の上から本住居とのかかわりを考えることができる。

ＳＪ53

遺構 位置は26～28Ａ48～Ｂ00で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ54と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は西半を失っており明瞭でない。主軸は北西壁でＮ37°Ｗを測る。規模は北西壁下で5.0m、南東壁下で0.5＋αm、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で29cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は南東隅にあり、袖材は褐色の粘性土で竈前に多量の木炭粒と灰が存在していた。

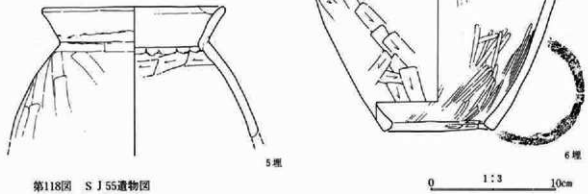
遺物 2点を掲げた。床面とされた遺物はなく1・2とも埋土出土であり、ＳＪ53・54のどちらに関連す



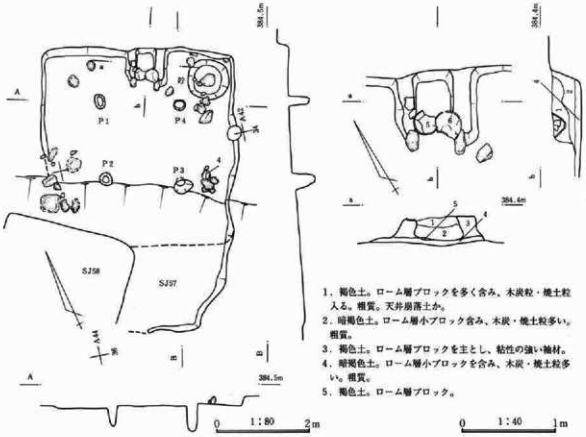
1．暗褐色土。黒色味強く、わずかにローム層ブロック入る。軟質。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、全体、褐色味強い。
3．暗褐色土。黒色土味強く、軟らか。
4．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、褐色味強い。

1．暗褐色土。ローム層小ブロックを含み、木炭・焼土粒入る。
2．暗褐色土。木炭・焼土粒多い。
3．暗褐色土。木炭・焼土粒多く、粘性強い。
4．褐色土。ローム層ブロックを主とする。掘材。
5．暗褐色土。木炭・焼土粒多い。

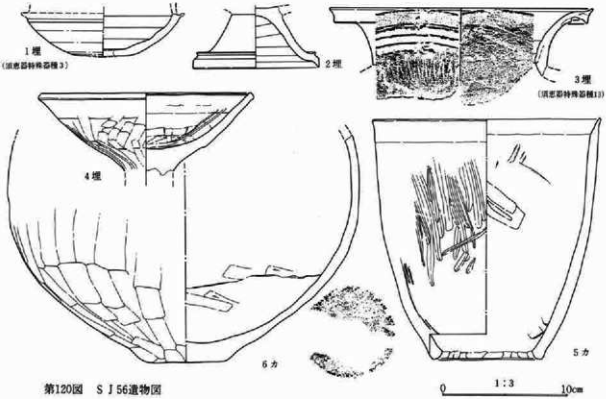
第117図　ＳＪ55遺構図



第118図　ＳＪ55遺物図



第119図 S J 56・57遺構図



第120図 S J 56遺物図

るかはわからない。

ＳＪ54

遺構　位置は28・29Ａ47・48で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ53と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形はＳＪ53とその多くが重なるため明瞭でない。主軸は北西壁でＮ40°Ｗを測る。規模は北西壁下で0.7＋αｍ、南西壁下で1.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で20㎝を残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は検出されない。

遺物　床面出土の遺物はない。

ＳＪ55

遺構　位置は31～33Ａ44～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ51と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。出土遺物からは、ＳＪ51に出土遺物がなく明瞭にできない。平面形は一辺の長い台形気味で、主軸は西壁でＮ22°Ｅを測る。規模は北壁下で4.2ｍ、東壁下で4.2ｍ、立ち上がりは遺存のよい東壁下で27㎝を残す。貯蔵穴は竈の左右にそれと考えられる小土壙があり、北側は径110㎝、深さ36㎝、南側は径160㎝、深さ33㎝を測る。

竈　竈は東壁下の中央にあり、南側の小土壙中に竈用材と考えられる石材が散乱していた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可能性がある。

遺物　床面とされたのは１・４である。埋土中から２・３・５・６がある。２は破片個体、３は上半、５は下半を失い遺存率という面から本住居との供伴の可能性を考えれば薄いであろう。

ＳＪ56

遺構　位置は32～35Ａ42～44で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ57・58と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半を失っているが柱穴で考えれば方形と考えられる。主軸は南東壁でＮ30°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.0ｍ、北西壁下で3.9＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で60㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径24㎝、深さは床面から36㎝、Ｐ２は径28㎝、深さ38㎝、Ｐ３は径30㎝、深さ43㎝、Ｐ４は径24㎝、深さ51㎝であった。貯蔵穴は東隅に検出され、径90㎝、深さ22㎝を測る。

竈　竈は北東壁下の中央にあり、竈前に石材が散乱していた。袖材は褐色の粘性土である。

遺物　６点を掲げた。床面出土とされた遺物はないが、竈内から５・６の出土がある。５・６は竈内にあたかも据えられた様な形で出土し本住居との供伴の可能性は極めて高い。１・２・３・４は埋土中の出土である。１・３は破片個体である。

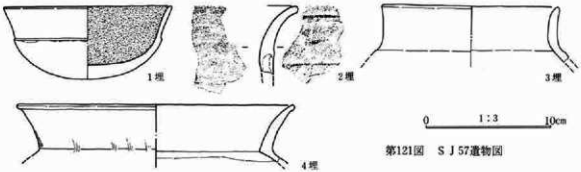
ＳＪ57

遺構　位置は35Ａ42・43で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ56・58と重なっていたが、新・古の関係を明瞭にすることは出来なかった。平面形は重複のため不明瞭で、南隅部を残すに過ぎない。主軸は東壁でＮ44°Ｅを測る。規模は東壁下で2.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい東壁下で５㎝を残す。床面は傾斜地のため失われ掘方を残すのみである。貯蔵穴は明瞭でない。

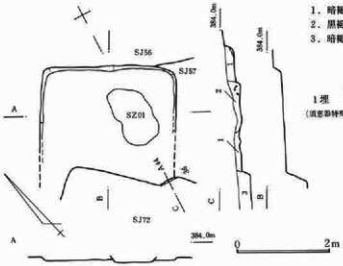
竈　竈は検出されていない。

遺物　掘方のみの遺存のため、床面出土遺物は調査地内グリットからの出土遺物を４点上げた。いずれも破片個体のため本住居と直結するかは明瞭でない。

ＳＪ58

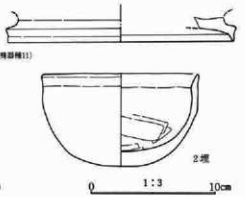


第121図 S J 57遺物図

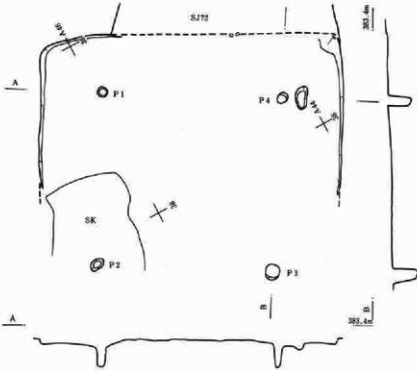


第122図 S J 58遺構図

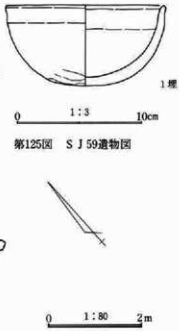
1．暗褐色土。木炭・焼土粒入り、ローム層ブロック含む。
2．黒褐色土。黒色土味強く骨入る。墓構理土。
3．暗褐色土。木炭・焼土粒入り、ローム層ブロック含む。



第123図 S J 58遺物図



第124図 S J 59遺構図



第125図 S J 59遺物図

遺構　位置は34・35A43～45で北東上がり勾配の微傾斜地がある。重複は平面確認時にSJ56・72と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は欠損が著しく明瞭でない。主軸は南東壁でN45°Eを測る。規模は北東壁下で2.7m、北西壁下で1.4＋αm、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で25cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈　竈は検出されていない。

遺物　2点を掲げた。ともに埋土出土であるが、2は部分的に小欠損があるものの遺存率は高く、本住居との関連性がわずかながら持たれる。

SJ59

遺構　位置は35～38A43～47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ72と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁でN29°Eを測る。規模は北東壁下で6.2m、北西壁下で2.9＋αm、立ち上がりは遺存のよい西壁下で10cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径21cm、深さは床面から38cm、P2は径30cm、深さ33cm、P3は径32cm、深さ51cm、P4は径21cm、深さ41cmであった。貯蔵穴は不明瞭である。

竈　竈は検出されていない。

遺物　1点を掲げた。1は埋土中からの出土であるが、遺存率が高く本住居との関連性がわずかながら考えられる。

SJ60

遺構　位置37～41A40～43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ69と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は方形気味で、主軸は南西壁でN30°Wを測る。規模は北西壁下で5.3m、北東壁下で5.1m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で55cmを残す。施設として北西壁下より南西壁下に周溝があり、柱穴は4箇所に検出され、P1は径52cm、深さは床面から51cm、P2は径41cm、深さ46cm、P3は径40cm、深さ42cm、P4は径60cm、深さ58cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径106cm、深さ35cmを測る。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にある。袖材は褐色土で部分的に石材を用いている。

遺物　5点を掲げた。床面出土とされたのは3のみであるが、調査時点の写真を見ると、竈内から4・5が据えられた様な状況で出土しており、また1も竈内とされている。2は埋土出土である。

SJ61

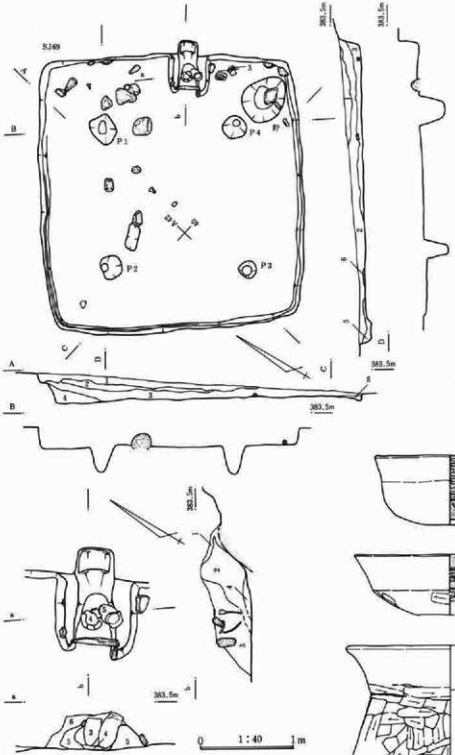
遺構　位置は39～43A42～47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ62・73・74と重複していたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半部が未調査地に入るため明確にはできないが、柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁でN35°Eを測る。規模は北東壁下で7.7m、南東壁下で4.1＋αm、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で36cmを残す。施設として北東壁下に周溝があり、柱穴は3箇所に検出され、P1は径50cm、深さは床面から42cm、P2は径45cm、深さ30cm、P3は径65cm、深さ46cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径68cm、深さ18cmを測る。

竈　竈は北西壁の延長側でSJ62上に焼土塊があり、SJ61の竈の可能性が持たれる。

遺物　3点を掲げた。床面から出土したのは2のみである。1・3は埋土中からの出土である。

SJ62

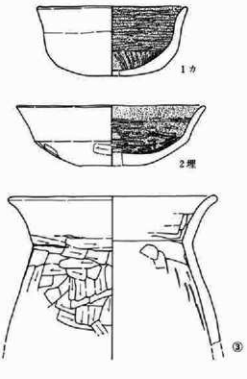
遺構　位置は40～42A46～B00で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ61と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半部が未調査地に入り不明瞭であるが、柱穴からすれば



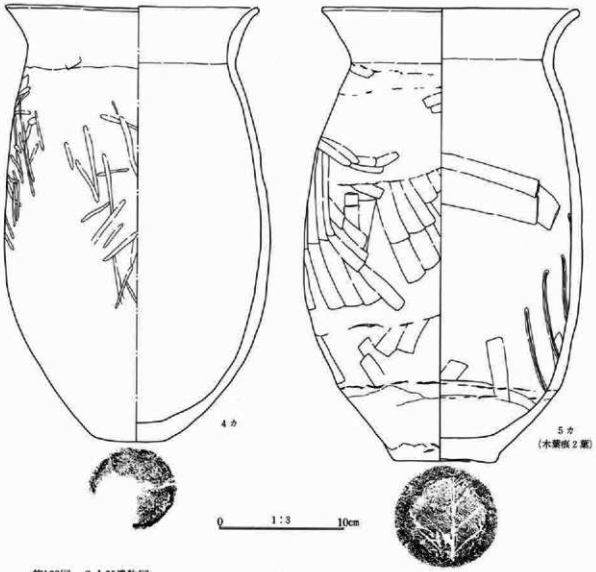
1. 黒褐色土。黒色味強く、上方からの撹乱土層。
2. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。
3. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、木炭・焼土粒入る。
4. 褐色土。木炭粒入り、ローム層ブロック多く、軟らか。
5. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強い。軟らかな、周壁下溝の埋土。
6. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。締り強い。

1. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、木炭・焼土粒わずか。
2. 暗褐色土。ローム層ブロック、木炭・焼土粒多い。根賀。
3. 暗褐色土。ローム層ブロック多い。木炭・焼土粒入る。天井崩落を含む。
4. 暗褐色土。木炭・焼土粒多い。ローム層ブロック少ない。
5. 褐色土。ローム層ブロックを主とする。袖材、粘性あり。
6. 褐色土。ローム層ブロックを含み、わずかに木炭・焼土粒入る。

第126図 S J 60遺構図



第127図 S J 60遺物図



第128図　ＳＪ60遺物図

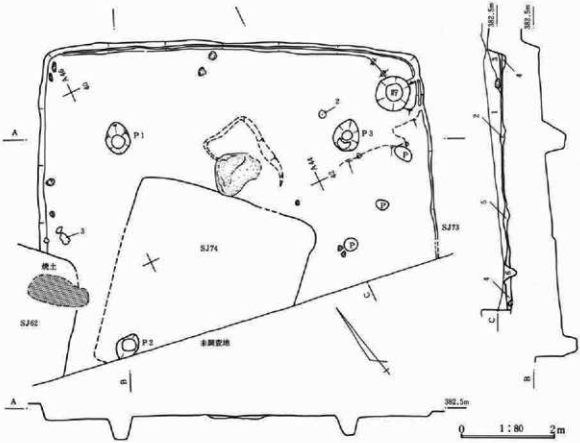
方形気味で、主軸は北東壁でＮ39°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.5ｍ、北西壁下で3.8＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で60㎝を残す。施設として調査された壁下全体に周溝がある。柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径16㎝、深さは床面から50㎝、Ｐ２は径18㎝、深さ48㎝、Ｐ３は径20㎝、深さ32㎝であった。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は南東壁上にＳＪ61の竈の可能性のある焼土塊が乗る。

遺物　10点を掲げた。床面出土とされたのは10のみである。１～９は埋土中の出土である。調査時点の写真を見ると住居跡の中央に土器群の集中した個所がある。２・３がそこから出土している。２は９世紀、３は５世紀後半の遺物でありその点から本住居の埋没土中には数次にわたり小遺構の重複が考えられる。

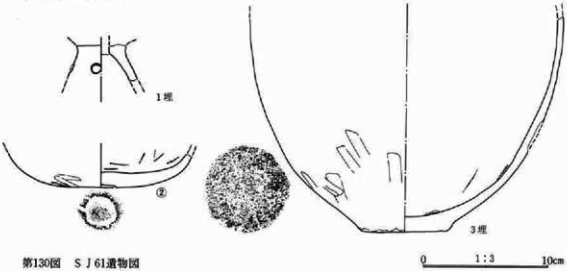
ＳＪ63

遺構　位置は33・34Ａ47・48で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ64と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は部分的な検出で明瞭でない。主軸は北東壁でＮ47°Ｗを測る。規模は北東壁下で2.5＋αｍ、南東壁下0.84＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で31㎝を残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径120㎝、深さ38㎝を測る。



1．暗褐色土。木炭・焼土粒・ローム層小ブロックを含む。粗質。
2．褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。締りあり。
3．黒褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強く、軟らか。
4．褐色土。ローム層ブロック多く、焼土粒含む。
5．暗褐色土。黒色土味強く、焼土粒含む。軟らか。
6．暗褐色土。黒色土味強く、軟らか。

第129図 ＳＪ61遺構図

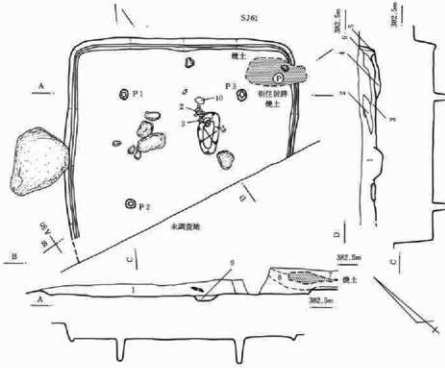


第130図 ＳＪ61遺物図

竈 竈は北東壁下の北寄りにあり、煙道部の地山天井を残す遺存のよい竈であった。袖材は褐色の粘性土で両袖に石材を用いている。

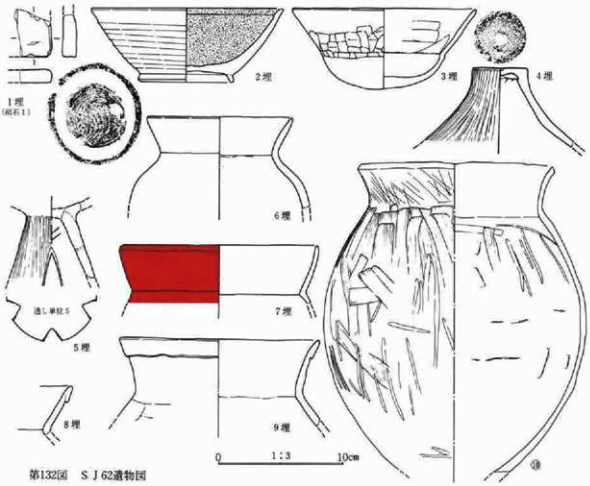
遺物 床面出土とされた遺物はない。

ＳＪ64

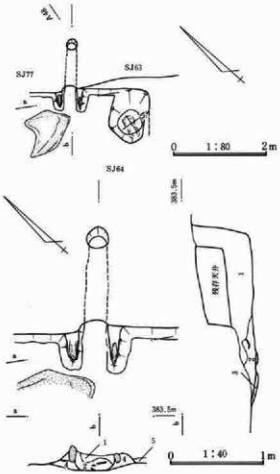


1. 暗褐色土。ローム層ブロック含み、焼土粒入る。全体に軟らか。
2. 褐色土。ローム層ブロック多く入り、黒褐色土ブロックも目立つ。
3. 褐色土。ローム層ブロック多く、黒褐色土ブロック入る。
4. 暗褐色土。黒色味強く、焼土粒入る。貼床層か。
5. 暗褐色土。黒色土味強く、軟らか。
6. 褐色土。ローム層ブロック多い。
7. 暗褐色土。ローム層ブロック含み、焼土・木炭粒をまじえる。粗質。別住居跡埋土。
8. 暗褐色土。ローム層ブロックを含み、軟らか。
9. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締りあり。

第131図　ＳＪ62遺構図



第132図　ＳＪ62遺物図



1．暗褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒入る。
2．暗褐色土。焼土・木炭粒多く、全体に粗質。
3．暗褐色土。ローム層ブロック含み、焼土・木炭粒多く粗質。
4．褐色土。ローム層ブロックを主体とする袖材。
5．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、焼土・木炭粒を含む。

第133図　ＳＪ63遺構図

遺構　位置は33～36Ａ46～49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ63・76・77と重なっているが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は部分的に欠損するが柱穴からすると各辺がわずか胴張の方形で、主軸は南東壁でＮ55°Ｅを測る。規模は北東壁下で5.1ｍ、南東壁下で4.6ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で60cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は18cm、深さは床面から35cm、Ｐ２は径21cm、深さ34cm、Ｐ３は径40cm、深さ32cm、Ｐ４は径18cm、深さ28cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径50cm深さ43cmを測る。

竈　竈は検出されないが、貯蔵穴と思える小土壙の位置からすればＳＪ76との重複部分である南西壁に存在した可能性が持たれる。

遺物　３点を掲げたが、いづれも埋土出土である。

ＳＪ65

遺構　位置は40～42Ｂ00～02で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は傾斜地のため南半部を失う。残存現況では長方形気味で、主軸は南東壁でＮ55°Ｅを測る。規模は北西壁下で2.2＋α ｍ、北東壁下で2.1ｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で25cmを残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径52cm、深さ21cmを測る。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にある。煙道部天井は落下していたが、掘方の遺存はよかった。袖材は褐色の粒性土でわずか石材を用いていた。

遺物　３点を掲げた。２のみが貯蔵穴内から出土し、１・３は埋土中からの破片個体である。そのため本住居との関連性は２のみにもたれる。

ＳＪ66

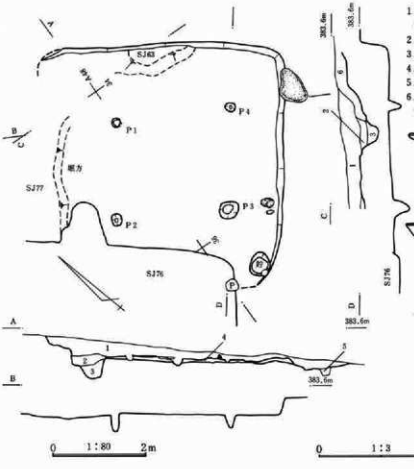
遺構　位置は35～38Ｂ01～04で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半部を失なうため明瞭でない。主軸は南東壁でＮ29°Ｅを測る。規模は北東壁下で5.9ｍ、南東壁下で2.2＋α ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。施設として北東壁下に部分的に周溝があり、柱穴はない。貯蔵穴は明瞭でないが、削平された南半中に径110cm、深さ43cmを測る小土壙がありそれと目される。

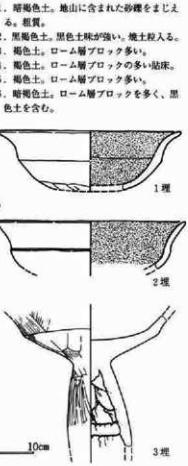
竈　竈は検出されていない。

遺物　６点を掲げたが、いずれも埋土出土遺物である。このうち２・４・５は遺存率が高く本住居とある程度の関連性を考える事ができる。

ＳＪ67

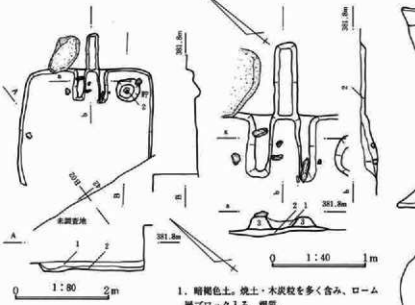
遺構　位置は31～33Ａ39～42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ71と重なって





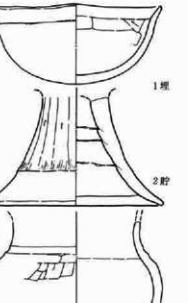
第134図　ＳＪ64遺構図

第135図　ＳＪ64遺物図



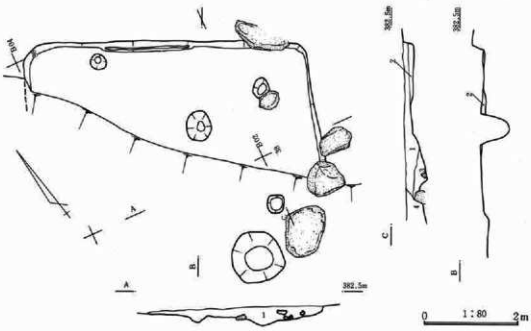
1. 暗褐色土。黒色土味強く、ローム層小ブロック入る。粗質。
2. 褐色土。ローム層ブロック多く、締りあり。

1. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム層ブロック入る。粗質。
2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、焼土・木炭粒入る。
3. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む粘材で粘性あり。



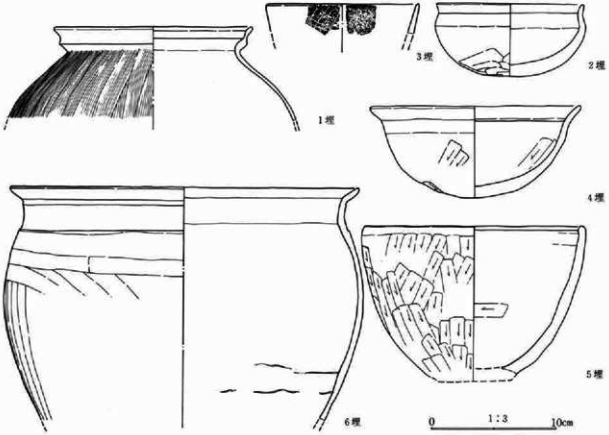
第136図　ＳＪ65遺構図

第137図　ＳＪ65遺物図

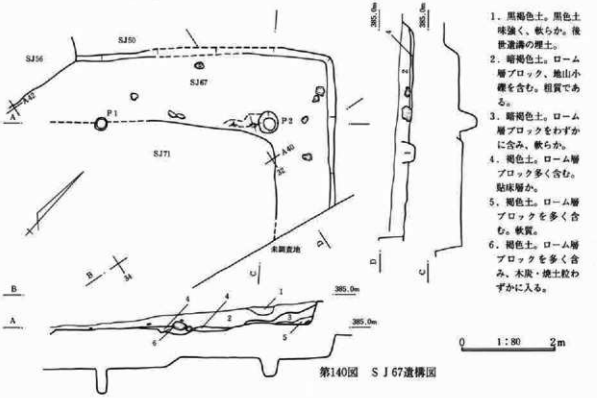


1．暗褐色土。軽石粒はほとんど含まれていない。ローム層ブロックを多く含み、焼土・木炭粒わずかに入る。全体的に粘性強い。
2．褐色土。ローム層ブロック多く含み、木炭・焼土粒をわずかに含む。締りあり、貼床か。
3．暗褐色土。黒色土味強い。この土層中に人頭大の礫が入り、土層は軟らか。
4．黒褐色土。削平後に堆積した黒色土味の強い土層。

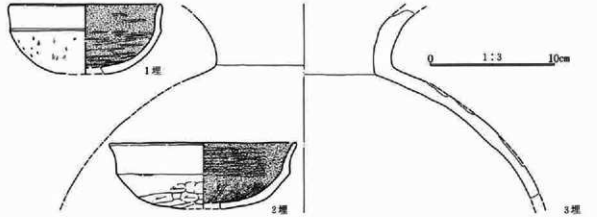
第138図　ＳＪ66遺構図



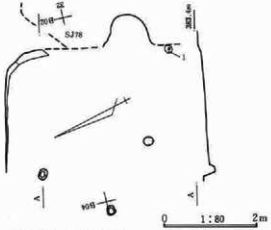
第139図　ＳＪ66遺物図



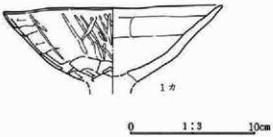
第140図　ＳＪ67遺構図



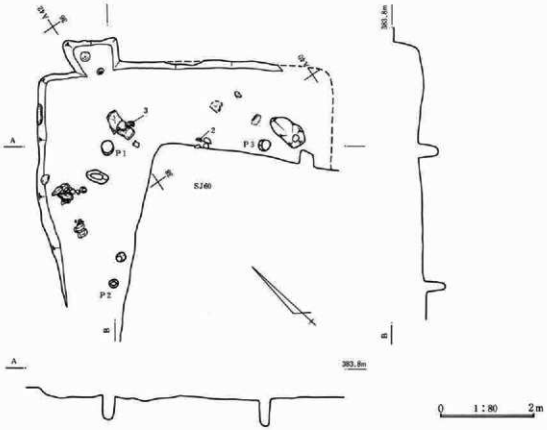
第141図　ＳＪ67遺物図



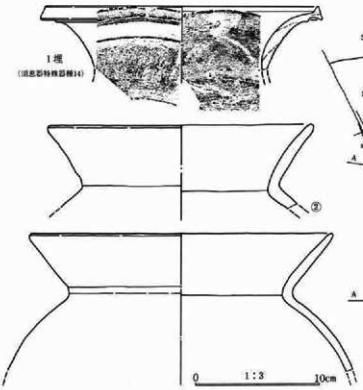
第142図　ＳＪ68遺構図



第143図　ＳＪ68遺物図

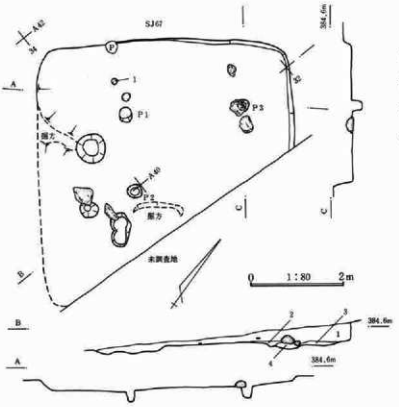


第144図 ＳＪ69遺構図

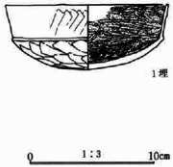


第145図 ＳＪ69遺物図

第146図 ＳＪ70遺構図

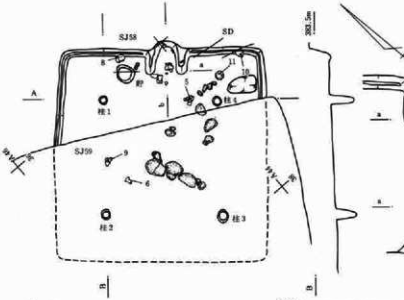


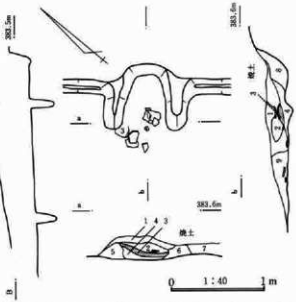
1．暗褐色土。ローム層ブロック多く入り、黒褐色土ブロックも目立つ。
2．暗褐色土。黒色土味強く、焼土粒入る。貼床層か。
3．暗褐色土。黒色土味強く、焼土粒入る。貼床層か。
4．褐色土。ローム層ブロック多い。



第147図　ＳＪ71遺構図

第148図　ＳＪ71遺物図





1．暗褐色土。焼土・木炭粒をわずかに含み、ローム層ブロック多い。
2．暗褐色土。焼土・木炭粒多く、下層に土器片含む。
3．暗褐色土。焼土層であるが、使用時の旧壁ではない。
4．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み粗質。
5．褐色土。ローム層ブロックを主とする強材。粘性締りあり。
6．褐色土。ローム層ブロックを主とするが、焼土・木炭粒多い。
7．暗褐色土。焼土・木炭粒多く含む。
8．褐色土。ローム層ブロックを主とするが焼土・木炭粒含む。
9．暗褐色土。ローム層ブロック・焼土・木炭粒ともに多く含む。

第149図　ＳＪ72遺構図

いたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は南半をＳＪ71が重複するため明瞭でない。主軸は北東壁でＮ46°Ｗを測る。規模は北西壁下で5.3ｍ、北東壁下で3.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で50cmを残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径40cm、深さは床面から38cm、Ｐ２は径24cm、深さ51cmであった。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は明瞭でない。

遺物　３点を掲げたが、いずれも埋土中から出土した破片個体である。

ＳＪ68

遺構　位置は31～33Ｂ02・03で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ78と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は西半が削平されており明瞭でない。主軸は南東壁でＮ29°Ｅを測る。規模は南東壁下で0.6＋αｍ、北東壁下で2.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で９cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は南東壁下にあるが、調査時点の竈図がないため不明瞭である。

遺物　１点を掲げた。１は竈右袖側外面から出土し、破片個体である。そのため本住居とのかかわりはやや薄い。

ＳＪ69

遺構　位置は36～39Ａ40～43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ60と重なっているが、新・古の関係は明瞭でない。平面形はＳＪ60と重なっているため南半を失う。主軸は北東壁でＮ58°Ｗを測る。規模は北東壁下で推定6.0ｍ、北西壁下で4.6＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で18cmを残す。柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径28cm、深さは床面から48cm、Ｐ２は径20cm、深さ40cm、Ｐ３は径23cm、深さ52cmであった。貯蔵穴は東隅にそれらしき土壙があり径88cm、深さ25cmを測る。

竈　竈は検出されていない。

遺物　３点を掲げた。２・３が床面から、１は埋土から出土している。いずれも破片個体で本住居との係わりはやや危ぶまれる。

ＳＪ70

遺構　位置43Ａ41・42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ61・73と重複していたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は北東隅部しか検出されず不明瞭である。主軸は北東壁でＮ56°Ｗを測る。規模は北東壁下で1.4＋αｍ、北西壁下で1.2＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下20cmを残す。

竈　竈は検出されていない。

遺物　床面から検出された遺物はない。

ＳＪ71

遺構　位置は31～35Ａ39～41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ67と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴位置からすると隅丸方形気味である。主軸は北東壁でＮ37°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.4ｍ、南東壁下で2.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で15cmを残す。柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径28cm、深さは床面から20cm、Ｐ２は径30cm、深さ21cm、Ｐ３は径23cm、深さ20cmであった。貯蔵穴は不明瞭である。

竈　竈は検出されていない。

遺物　埋土から１の出土があり、欠損はあるものの遺存はよく本住居とのかかわりを若干考えさせられる。

ＳＪ72

①
（粗製土師器1）

②△

3カ

4埋

8埋

⑦

9埋

10埋

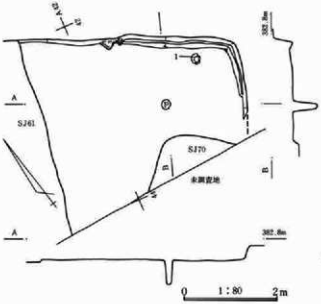
⑤

6埋

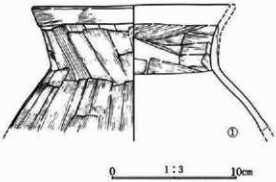
11貯

0　1:3　10cm

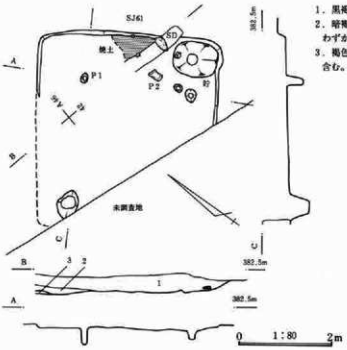
第150図　ＳＪ72遺物図



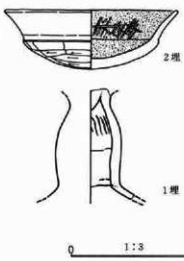
第151図　ＳＪ73遺構図



第152図　ＳＪ73遺物図

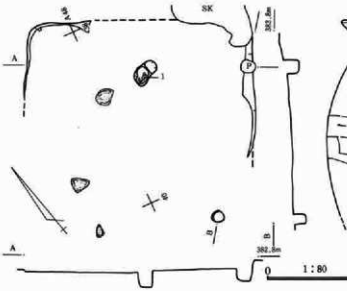


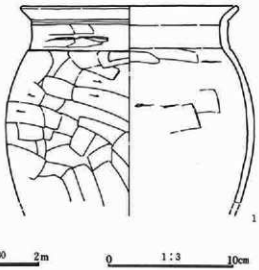
1．黒褐色土。近年の機乱土で、黒色土味強い。
2．暗褐色土。ローム層ブロック、黒色土ブロックを多く含み、わずか木炭・焼土粒を含む。
3．褐色土。ローム層ブロックを主とし、わずか木炭・焼土粒を含む。縞りあり。



第153図　ＳＪ74遺構図

第154図　ＳＪ74遺物図



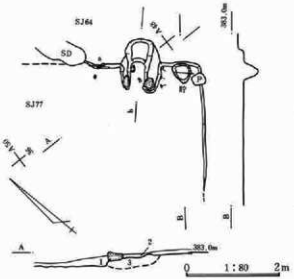


第155図　ＳＪ75遺構図

第156図　ＳＪ75遺物図

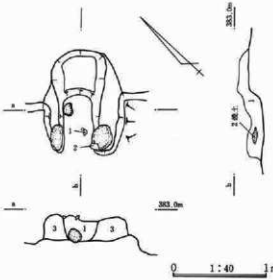
遺構　位置は35～38Ａ43～46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ58・59と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は方形気味で、主軸は北東壁でＮ35°Ｗを測る。規模は北東壁下で4.1ｍ、北西壁下で2.8＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で50cmを残す。施設として３壁に周溝が認められ、柱穴には４箇所に検出され、Ｐ１は径18cm、深さは床面から42cm、Ｐ２は径21cm、深さ42cm、Ｐ３は径22cm、深さ30cm、Ｐ４は径14cm、深さ40cmであった。貯蔵穴は竈西側に検出され、径42cm、深さ23cmを測る。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあり、袖材は褐色の粘性土で右袖材には木炭粒・焼土粒が多く入り、再築の可能性がある。

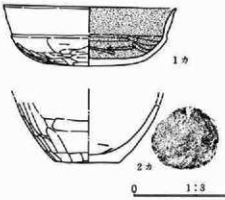


1．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。焼土・木炭粒入る。
2．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強い。
3．炭と関連土層。

第157図　ＳＪ76遺構図



1．暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム層ブロック多い。
2．暗赤褐色土。焼土を主とし、木炭粒入る。ブロック状焼土塊。
3．褐色土。ローム層ブロックを主とする軸材。



第158図　ＳＪ76遺物図

遺物　11点を掲げた。床面出土とされたのは１・２・５・７である。そのうち２は破片個体で本住居との関連が危ぶまれる。竈内から完器に近い出土がある。貯蔵穴内から11の出土がある。埋土中から４・６・８・９・10の出土があり、いずれも残存率が高く本住居との関連性が考えられる。

ＳＪ73

遺構　位置は41～43Ａ40～42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ61・70と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は重複と未調査地のため明瞭でない。主軸は南東壁下でＮ35°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.4＋α m、南東壁下で1.8＋α m、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で36cmを残す。施設として東隅部に周溝があり、貯蔵穴は検出されてない。

竈　竈は検出されてない。

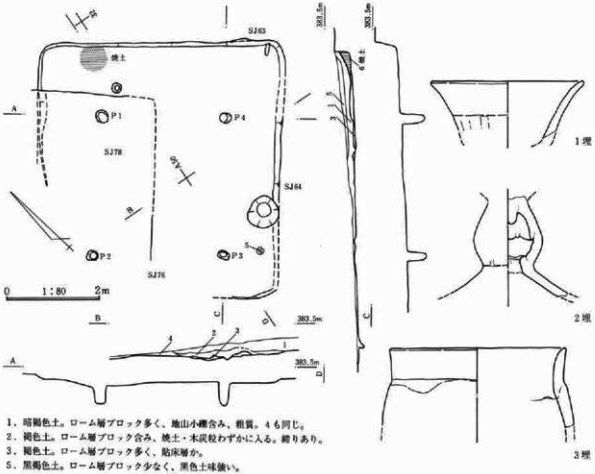
遺物　床面出土として１がある。調査時点の写真でもそのことが確認される。１は上半部のみの個体で下半を欠損するが欠損部と床面は接しているため、欠損状態で機能していたのであろう。

ＳＪ74

遺構　位置は41～43Ａ44～47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ61と重なるが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は長方形気味で、主軸は北東壁でＮ35°Ｗを測る。規模は北東壁下で3.7m、北西壁下で推定3.9m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18cmを残す。柱穴はあまり明瞭でないが、それに類した小穴が２箇所に検出され、Ｐ１は径13cm、深さは床面から35cm、Ｐ２は径18cm、深さ18cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深さ51cmを測る。

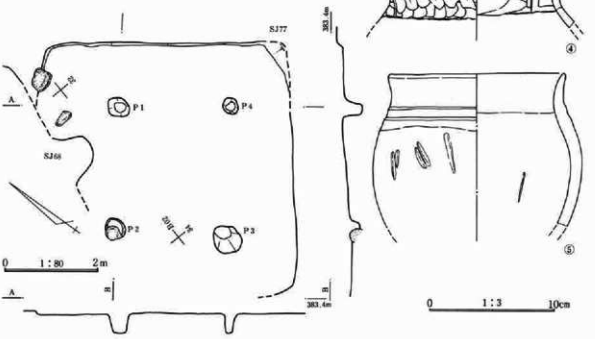
竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあったが竈実測図がなく明瞭でない。

遺物　２点を掲げた。ともに埋土出土である。



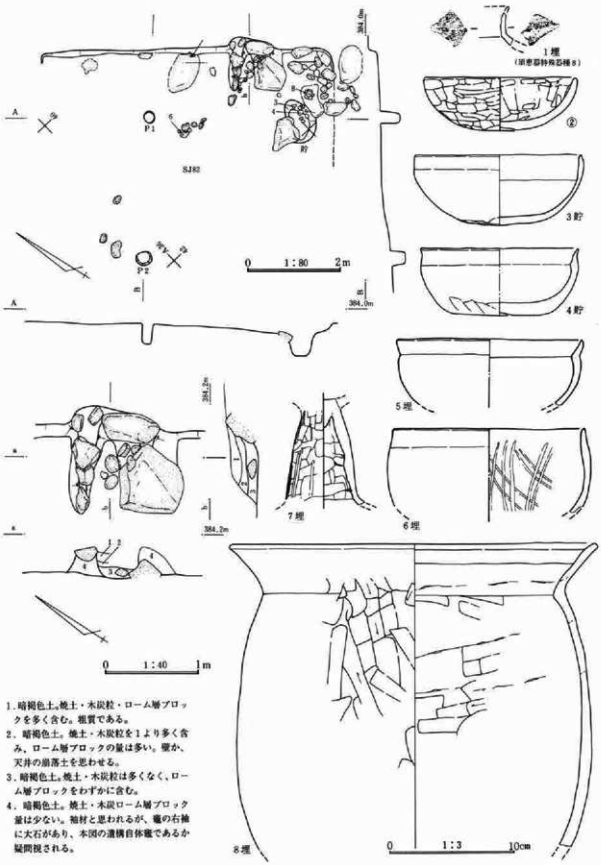
1．暗褐色土。ローム層ブロック多く、地山小礫含み、粗質。4も同じ。
2．褐色土。ローム層ブロック含み、焼土・木炭粒わずかに入る。縞りあり。
3．褐色土。ローム層ブロック多く、貼床層か。
5．黒褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強い。
6．暗褐色土。焼土粒を主体とした側所。竈跡か。

第159図　ＳＪ77遺構図



第160図　ＳＪ77遺物図

第161図　ＳＪ78遺構図



1. 暗褐色土。焼土・木炭粒・ローム層ブロックを多く含む。粗質である。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒を1より多く含み、ローム層ブロックの量は多い。僅かに天井の崩落土を思わせる。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒は多くなく、ローム層ブロックをわずかに含む。
4. 暗褐色土。焼土・木炭ローム層ブロック量は少ない。袖材と思われるが、竈の右袖に大石があり、本図の遺構自体竈であるか疑問視される。

第162図　ＳＪ79遺構図

第163図　ＳＪ79遺物図

ＳＪ75

遺構　位置は37～40Ａ46～49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半の削平化が顕著で明瞭でない。主軸は南東壁でＮ41°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.4ｍ、南東壁下で3.1＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で10cmを残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈　竈は検出されていない。

遺物　１点を図示した。住居内中央の小穴から１が出土している。

ＳＪ76

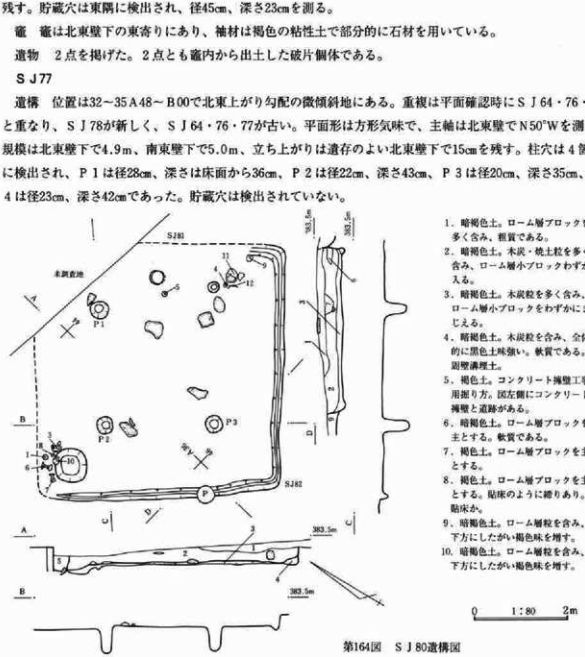
遺構　位置は34～37Ａ47～49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ64・77と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は削平化が顕著で明瞭でない。主軸は北東壁でＮ47°Ｗを測る。規模は北東壁下で3.8＋αｍ、南東壁下で2.9＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で12cmを残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径45cm、深さ23cmを測る。

竈　竈は北東壁下の東寄りにあり、袖材は褐色の粘性土で部分的に石材を用いている。

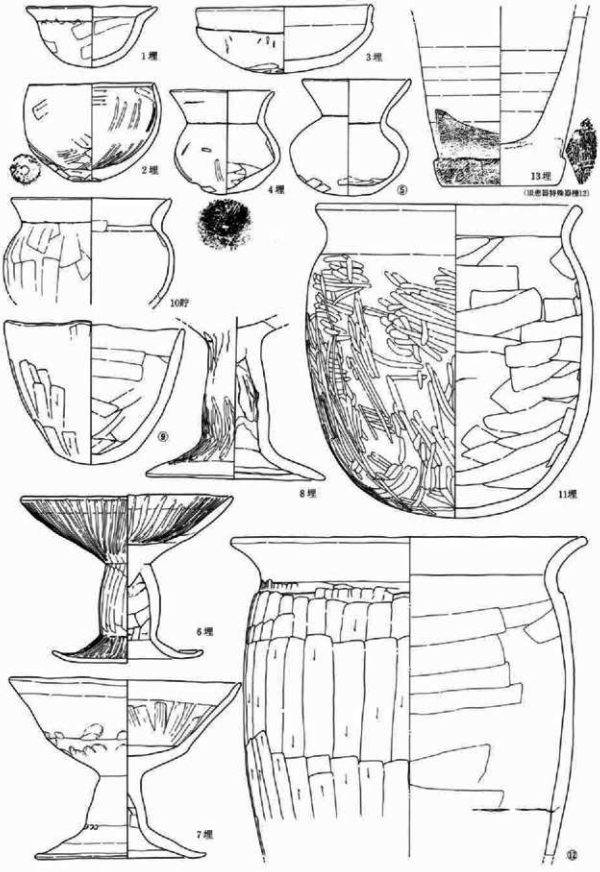
遺物　２点を掲げた。２点とも竈内から出土した破片個体である。

ＳＪ77

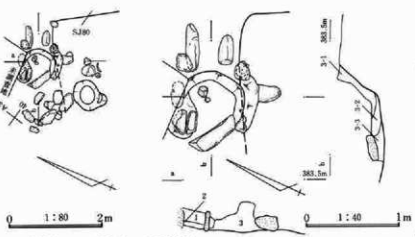
遺構　位置は32～35Ａ48～Ｂ00で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ64・76・78と重なり、ＳＪ78が新しく、ＳＪ64・76・77が古い。平面形は方形気味で、主軸は北東壁でＮ50°Ｗを測る。規模は北東壁下で4.9ｍ、南東壁下で5.0ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で15cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径28cm、深さは床面から36cm、Ｐ２は径22cm、深さ43cm、Ｐ３は径20cm、深さ35cm、Ｐ４は径23cm、深さ42cmであった。貯蔵穴は検出されていない。



第164図　ＳＪ80遺構図

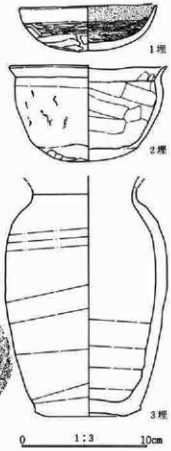


第165図　ＳＪ80遺物図

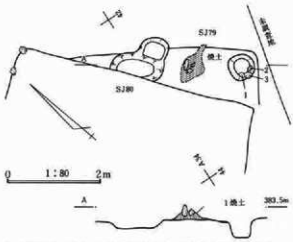


1．暗褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。
2．暗褐色土。ローム層ブロックは1よりもやや少ない。
3．3－1、暗褐色土。焼土・木炭粒はやや少ない。3－2、暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム層ブロック入る。3－3、暗褐色土。焼土・木炭粒多い。

第166図 ＳＪ81遺構図

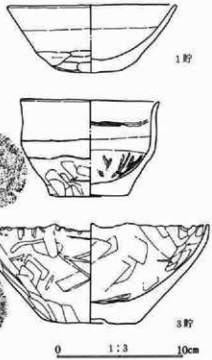


第167図 ＳＪ81遺物図

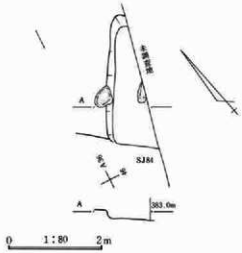


1．赤褐色土。焼土・木炭粒を主とする。焼土化の意とは異なる。

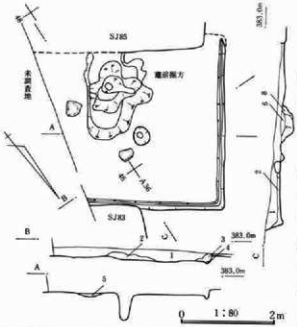
第168図 ＳＪ82遺構図



第169図 ＳＪ82遺物図



第170図 ＳＪ83遺構図



1．暗褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒含む。
2．褐色土。焼土・木炭粒入り、ローム層ブロックを主とする。
3．褐色土。2に似るが、黒色土ブロックわずかに入る。
4．黒褐色土。黒色味強く、焼土・木炭粒入る。周壁溝埋土。軟質。
5．褐色土。ローム層ブロック多く焼土・木炭粒わずかに入る。
6．褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒を含む。
7．暗褐色土。ローム層ブロック多く含み、黒色土味強い。
8．褐色土。ローム層ブロック多く含む。

第171図　ＳＪ84遺構図

竈　竈は検出されていない。

遺物　５点を掲げた。床面出土とされているのは４・５である。１・２・３は埋土中である。４・５は床面出土であるが現場写真がなく床面出土遺物の照合ができない。

ＳＪ78

遺構　位置は31～35Ａ49～Ｂ03で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ68・77と重なっているが、新・古の関係は不明瞭である。平面形はほぼ方形気味で、主軸は北東壁でＮ52°Ｗを測る。規模は北東壁下で5.0ｍ、南東壁下で5.2ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で20㎝を残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径42㎝、深さは床面から38㎝、Ｐ２は径40㎝、深さ18㎝、Ｐ３は径60㎝、深さ36㎝、Ｐ４は径23㎝、深さ40㎝であった。貯蔵穴は明瞭でない。

竈　竈は検出されていない。

遺物　床面出土とされた遺物はない。

ＳＪ79

遺構　位置は39～42Ａ33～35で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は削平化が著しく不明瞭である。主軸は北東壁でＮ34°Ｗを測る。規模は北東壁下で6.1ｍ、南東壁下で2.3＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18㎝を残す。柱穴は２箇所に検出され、Ｐ１は径25㎝、深さは床面から41㎝、Ｐ２は径30㎝、深さ30㎝であった。貯蔵穴は南東寄りに検出され、径100㎝、深さ35㎝を測る。

竈　竈は北東壁下の東寄りにあるが、竈実測図を見ると石袖に地山の大石があり、本図の遺構自体竈であるか疑問視される。

遺物　８点を掲げた。床面出土とされたのは２である。貯蔵穴内から３・４の出土がある。埋土中から１・５・６・７・８がある。

ＳＪ80

遺構　位置は41～45Ａ35～38で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ81・82と重なっているが、新・古の関係については不明瞭である。平面形は方形気味で主軸は北東壁でＮ33°Ｗを測る。規模は南東壁下で4.9ｍ、北東壁下で4.6ｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で30㎝を残す。施設として北東から南東にかけて周溝を施し、柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径35㎝、深さは床面から45㎝、Ｐ２は径32㎝、深さ55㎝、Ｐ３は径32㎝、深さ50㎝であった。貯蔵穴は南隅に検出され、径80㎝、深さ58㎝を測る。

竈　竈は明瞭でない。

遺物　13点を掲げた。床面から出土した遺物は５・９・12がある。貯蔵穴内から10、貯蔵穴周辺の床から少し離れた状態で１・３・６・７・８の出土がある。その５個体は貯蔵穴との因果において本住居に供伴した可能性が持たれる。２・４・11・13は埋土出土である。

ＳＪ81

遺構　位置は43・44A37・38で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ80と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は未調査地と接しており不明瞭である。主軸は東壁でＮ30°Ｅを測る。規模は東壁下で1.3＋αｍ、北壁下で0.5＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい東壁下で40cmを残す。貯蔵穴は南側に検出され、径55cm、深さ18cmを測る。

竈　竈前に用材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は淡褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含む。

遺物　３点を掲げた。３点ともに埋土出土であるが、遺存がよく本住居との関連を考える必要がある。

ＳＪ82

遺構　位置は42～44A35・36で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ80と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭であった。平面形はＳＪ80と重複するため不明瞭である。主軸は南東壁でＮ49°Ｅを測る。規模は北東壁下で4.0＋αｍを測る。貯蔵穴は南東隅に検出され、径60cm、深さ41cmを測る。

竈　竈は東壁下に焼土粒の多い箇所があり、竈跡と考えられる。

遺物　３点を掲げた。ともに貯蔵穴の埋土から出土しており、本住居との係わりを考えることができる。

ＳＪ83

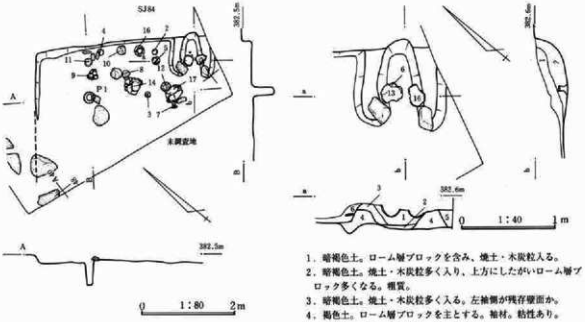
遺構　位置は44・45A35で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ84と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は東半に未調査地があり明瞭でない。主軸は北西壁でＮ48°Ｅを測る。規模は北西壁下で2.42＋αｍ、北東壁下0.20＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で20cmを残す。

竈　竈は検出されていない。

遺物　床面出土とされた遺物はない。

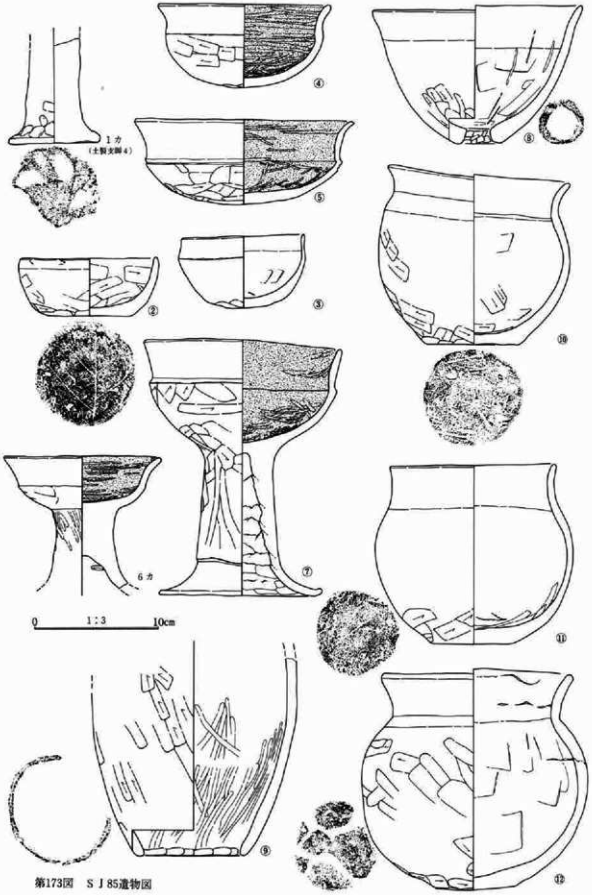
ＳＪ84

遺構　位置は45～47A35～37で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ83・85と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は未調査地が東半にあり明瞭でない。主軸は北東壁でＮ45°Ｗを測る。規模は北西壁下で3.5ｍ、北東壁下で2.7＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で40cmを残す。

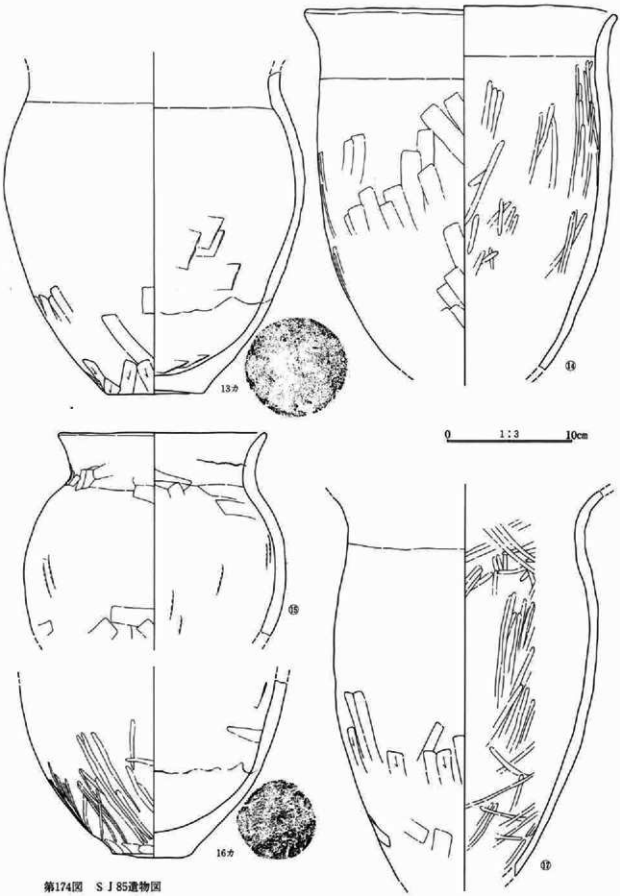


1．暗褐色土。ローム層ブロックを含み、焼土・木炭粒入る。
2．暗褐色土。焼土・木炭粒多く入り、上方にしたがいローム層ブロック多くなる。堆賀。
3．暗褐色土。焼土・木炭粒多く入る。左袖側が残存壁面か。
4．褐色土。ローム層ブロックを主とする。袖材。粘性あり。
5．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。粘性あり。
6．暗褐色土。ローム層ブロック少なく、焼土・木炭粒含む。

第172図　ＳＪ85遺構図



第173図　ＳＪ85遺物図



第174図 ＳＪ85遺物図

施設として北東から北西にかけて周溝がある。

竈　竈は検出されていないがその掘方と考えられる土壙がある。

遺物　床面出土の遺物はない。

ＳＪ85

遺構　位置は46～48Ａ35～38で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ84と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は未調査地に多くかかり明瞭でない。主軸は北東壁でＮ46°Ｗを測る。規模は北東壁下で3.6＋αｍ、北西壁下で2.55＋αｍ、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。柱穴と考えられる小土壙は１箇所に検出され、Ｐ１は径20cm、深さは床面から43cmであった。貯蔵穴は検出されていない。

竈　竈は北東壁下にあり、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖に褐色の粘性土で石材を部分に用いる。

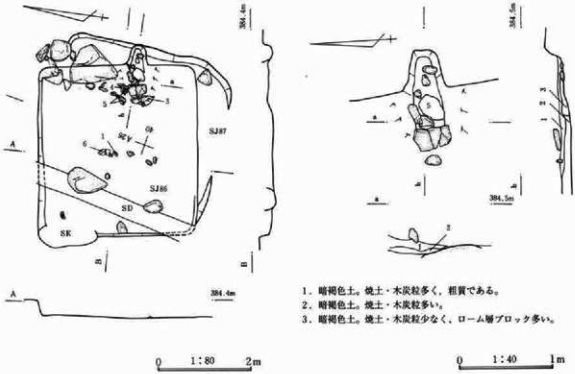
遺物　17点を掲げた。床面とされたのは２・３・４・５・７・８・９・10・11・12・14・15・17があり、竈内から１・６・13・16がある。

ＳＪ86

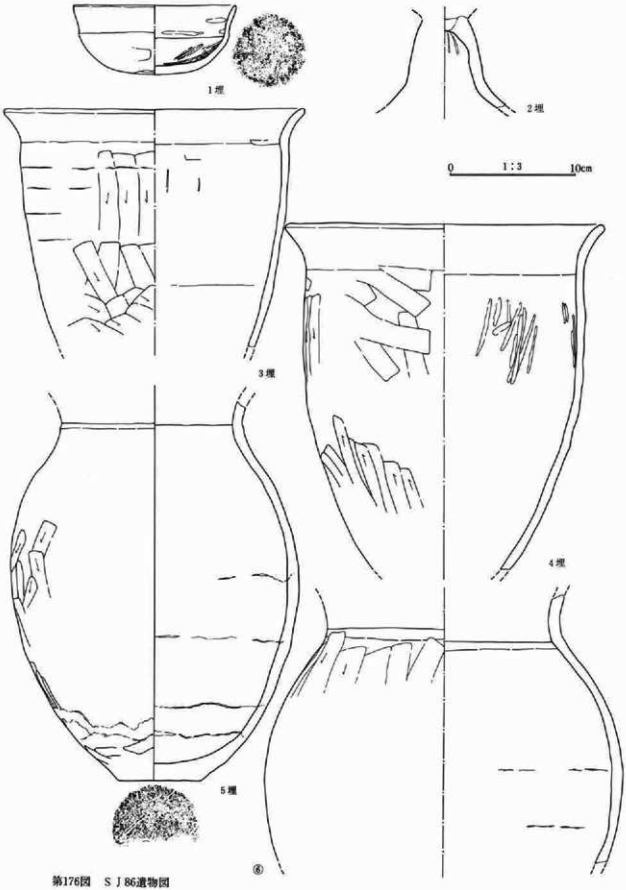
遺構　位置は38～40Ａ25～27で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ87と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭であった。平面形は長方形気味で、主軸は西壁でＮ９°Ｗを測る。規模は北壁下で3.3ｍ、東壁下で3.1ｍ、立ち上がりは遺存のよい北壁下で30cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈　竈は東壁下の南寄りにあり、竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土である。

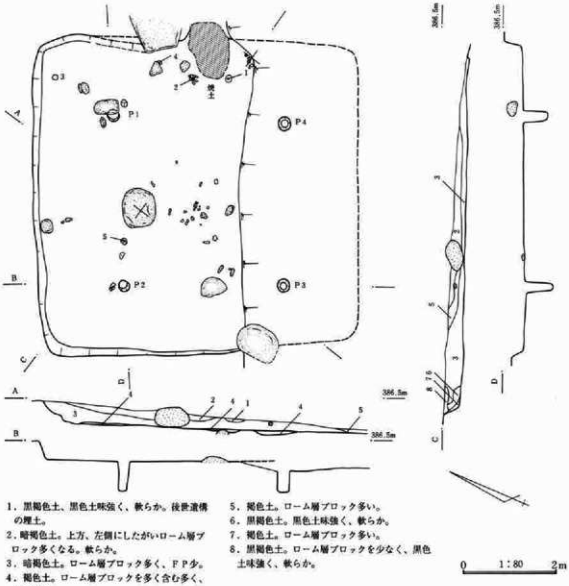
遺物　６点を掲げた。床面とされたのは６である。竈付近から出土した個体に１・３・４・５があり、竈との因果において本住居との関連性が考えられる。



第175図　ＳＪ86・87遺構図

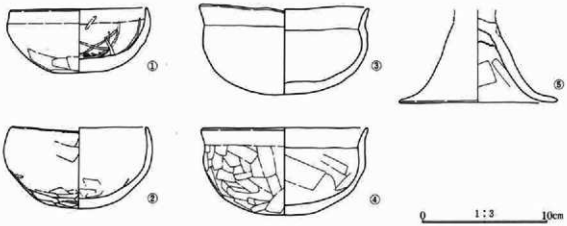


第176図 ＳＪ86遺物図



1．黒褐色土、黒色土味強く、軟らか。後世遺構の埋土。
2．暗褐色土。上方、左側にしたがいローム層ブロック多くなる。軟らか。
3．暗褐色土。ローム層ブロック多く、ＦＰ少。
4．褐色土。ローム層ブロックを多く含む多く、貼床層か。
5．褐色土。ローム層ブロック多い。
6．黒褐色土。黒色土味強く、軟らか。
7．褐色土。ローム層ブロック多い。
8．黒褐色土。ローム層ブロックを少なく、黒色土味強く、軟らか。

第177図　ＳＪ88遺構図



第178図　ＳＪ88遺物図

ＳＪ87

遺構　位置は38～40Ａ25～27で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にＳＪ86と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は隅丸方形と考えられ、主軸は東壁でＮ４°Ｅを測る。規模は東壁下で3.9m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で12cmを残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈　竈は検出されていない。

遺物　大半がＳＪ86と重なるため本住居の床面として取り上げられた遺物はない。

ＳＪ88

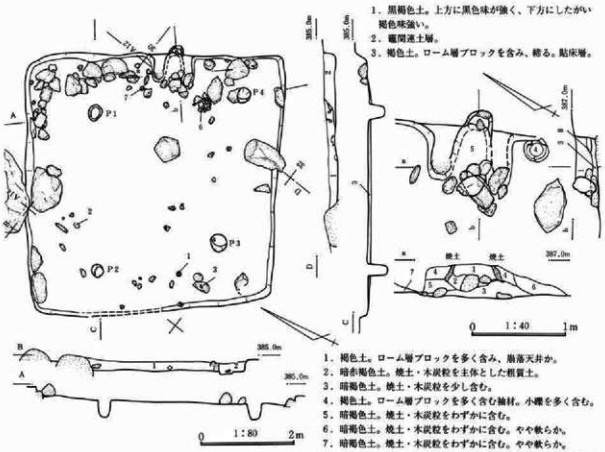
遺構　位置は22～26Ａ11～15で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主軸は南西壁でＮ26°Ｗを測る。規模は北西壁下で6.1m、南西壁下で3.9＋αm、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で40cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径25cm、深さは床面から48cm、Ｐ２は径22cm、深さは58cm、Ｐ３は径25cm、深さ42cm、Ｐ４は径26cm、深さ51cmであった。貯蔵穴は東半が削平されているため不明瞭である。

竈　竈は焼土粒の多い箇所が北東壁の中央にあり竈痕と考えられる。しかし竈実測図がないため不明瞭である。

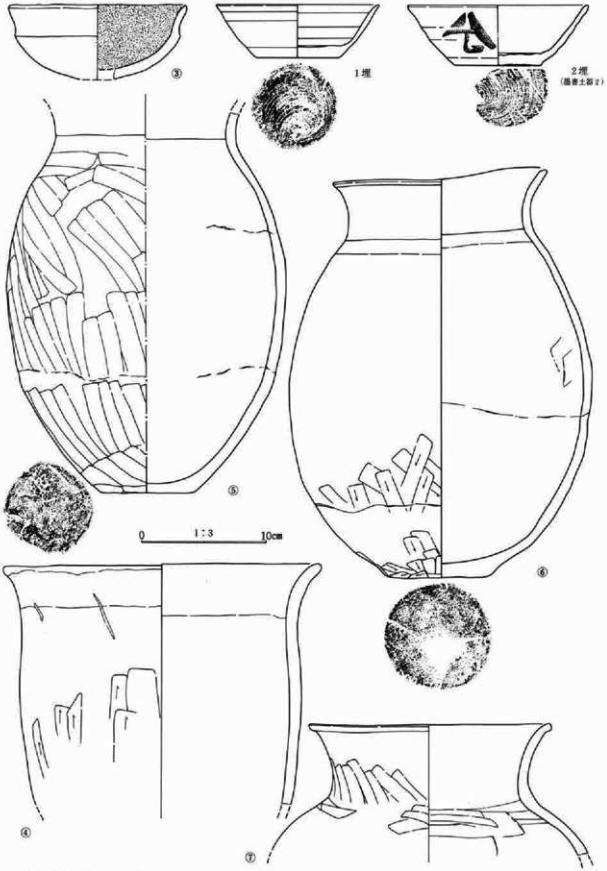
遺物　５点を掲げた。５を除き遺存率がよく、本住居との供伴が考えられる。

ＳＪ89

遺構　位置は29～32Ａ11～14で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主



第179図　ＳＪ89遺構図



第180図　ＳＪ89遺物図

北東壁でN25°Eを測る。規模は北東壁下で52m、北西壁下で5.1m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で25cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径28cm、深さは床面から32cm、P2は径24cm、深さ41cm、P3は径35cm、深さ50cm、P4は径30cm、深さ30cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈　竈は北東壁下のほぼ中央にあり、竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み、再築の可能性がある。

遺物　7点を掲げた。床面出土は3～7である。写真照合の結果からも床面と認められ本住居との供伴を考える事が出来る。1・2は埋土出土であり9世紀頃の別遺構の存在を思わせる。

ＳＪ90

遺構　位置は16・17B47～50で北東上がり勾配の微傾斜地にある。調査で住居番号は付されていない。重複は平面確認時にＳＪ12と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭。整理時に図面合成した結果、ＳＪ12の竈がＳＪ90内に喰込んで存在したことからＳＪ90が古く、ＳＪ12が新しいと捉えられた。遺物との比較はＳＪ90の床面から出土した遺物がないため明瞭でない。平面形は方形気味で、主軸は北西壁でN45°Wを測る。規模は北西壁下で0.2＋αm、立ち上がりは遺存のよい北壁下で7cmを残す。貯蔵穴は調査時点で図面記入はないが、写真に東壁南端にそれらしき凹みが写っている。推定竈跡が東壁と考えられるので南東隅に貯蔵穴の存在が考えられる。

竈　竈は東壁下に焼土粒を含んだ箇所が、調査時図面に記入されており、位置からして竈跡と考えられる。

遺物　床面から出土したとされる遺物はない。

井 戸 遺 構

ＳＥ01

位置は13～14B35～36に位置する。重複は4号住居と重なり、平面確認時に、新・古の関係は得られなかったが、土層断面からＳＪ04が古く、ＳＥ01が後出と確認されている。規模は最大径1.72m、深さは発見面から1.1mを測る。出土遺物は得られていない。埋土の質感は調査担当によれば粗質で住居跡を埋めていた様な古い堆積土ではなかったと言う。井戸とする根拠は井筒部底に小穴が設けられ、それが野井戸に似ているためである。したがって現地で井戸と認定されなかった以上、機能を究めての遺構名称ではない。

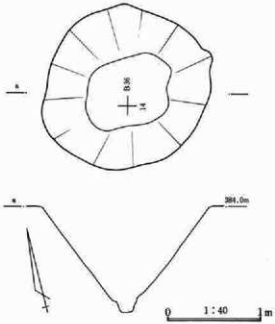
墓　　跡

ＳＺ01

位置は34A44に位置する。重複はＳＪ58と重なり、ＳＺ01が後出する。規模は長さ135cm、幅75cm、深さは発見面より25cmを測る。調査の際、人骨が出土している。さらに寛永通宝の出土がある。(第195図古銭1～6)

さ く 遺 構

全体で7群のさく状遺構が検出されている。各群はそれぞれ6条以上の単位を持ち、その平面観は畑のさく単位のあり方と同様であるため各群とも畑作に伴うさく痕と見なされる。出土遺物については遺構検出の時点において、遺構としての扱いを受けていなかったので取り上げられなかった。出土遺物のうち中・近世



第181図　ＳＥ01遺構図

遺物を見ると１点だけ15世紀の後半頃と考えられる鍋片（第192図1）があるほか、まったく認められなかった。そして近世になっての遺物が増加するのは18世紀以後であるので、そのことから推して調査地内の場所が畑地となったのは現在の師の集落が定着する江戸時代中期以後のことと推測された。

Ａ群

Ａ群は14～22Ｃ00～08までの間にある大・小合わせて13条の溝からなり、方向性はＮ81°Ｗ（Ｎ９°Ｅ）を測る。規模は長い溝で13.8ｍを測る。現在の耕地との関連からでは現（調査前）地境（じさかい）内におさまる。東にはＳＤ01が接し、Ａ・Ｂ群との地境の観を呈して存在する。ＳＤ01と現地境との関連は現農道がさらに東に１ｍ程寄って存在し不一致である。そのためＡ群・ＳＤ01とが関連して設けられたとすれば現在の耕作とは別の時点の所産と考えられる。

Ｂ群

Ｂ群は17～26Ｂ42～Ｃ01までの間に大小合せて12条の溝から成る。方向はＮ74°Ｗ（Ｎ16°Ｅ）である。発掘調査では北側に７条、南側に約5ｍの空間を置き５条の単位がある。方向性は両者ほぼ同じ方向性でＮ71°Ｗを測る。隣接した遺構として西側にＳＤ01がありさらにＡ群と続く。現地境との関連はＢ群の北から２条目の溝が農道下に入る。Ｂ群の南北東西の端を単位としてとらえると現畑地よりも単位が小さいためＢ群と現耕作とは異なる次元の所産と考えられる。またＳＤ01に画されＡ群と接している平面の状況はほぼ同じ次元の所産を思わせる。

Ｃ群

Ｃ群は14～18Ｂ34～39にあり６条の単位からなる。方向性はＮ64°Ｗをとる。現地境との関連では重複はないがＢ群との方向性は異なり別区画の畑作を考えることができる。そのため現耕作とは別の次元の所産と考えられる。またＡ群・Ｂ群等と同様であるが溝群の東西南北端を畑地の限界を示唆する単位とすれば現畑地単位よりも小区画である点が特徴であろう。

Ｄ群

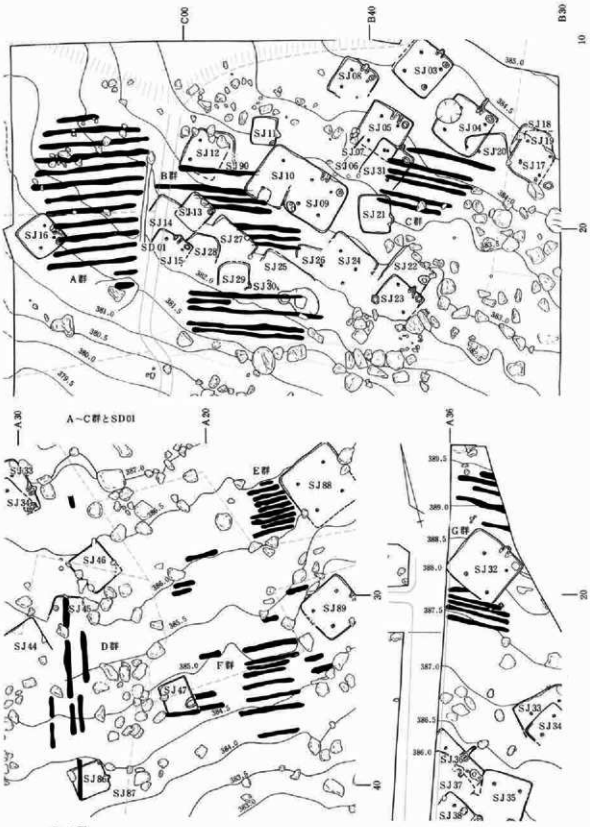
Ｄ群は30～41Ａ25～28にあり、断続的ではあるが４～５条の単位からなる。方向性は他の群とは異なりＮ12°Ｅを測る。現地境との関連では重複はないが溝の四方向の端までを単位としてとらえれば現耕作と異なる別区画の畑地を考えることができる。そのためＤ群も現耕作とは別の次元の所産と考えられる。

Ｅ群

Ｅ群は24～26Ａ15～17にある。大小９条の単位からなり、方向性はＮ89°Ｗをとる。現地境との関連は重複はなく、溝の四方向の端までを単位として捉えればＥ群の方が明らかに小単位で別の次元の所産と考えられる。

Ｆ群

Ｆ群は28～37Ａ13～21にあり、大小11条以上の溝からなる。Ｆ群を仔細に見ると大・小４群があるように



第182図 さく遺構図

0 1:400 20m

も見え、1つは28～30A20と、2つ目は33～34A14、3つ目31～37A15～17、4つ目33～35A19～21の以上4つである。方向性は各々多少異なっており、3つ目をとらえるとN84°Wを測る。現耕作地の地境とは3つ目、4つ目が重複しており現耕作とは別の次元の所産を思わせる。

G群

G群も北の一群と南の一群とからなり、11～20A32～35に位置する。南の一群はN63°W、北の一群はN60°Wを測り相互に6mの空間を置く、現地境とは重複していないが溝の4方の端を畑地の区画単位として捉えればG群は現在より遙に小さい区画であり別の次元の所産と考えられる。

特　殊　遺　物

特殊遺物は古代の竪穴住居跡出土遺物ばかりでなく、中・近世遺物も含みそれらを通史的に捉える意味で当遺跡出土遺物の総てを実見したうえで抽出した。古代遺跡のうち竪穴住居跡出土例は、本節と前節の両節に掲げ、利用の便に供した。特殊遺物は種によって総てを掲げた場合と、そうではない場合とがある。また小形種の古銭・鉄製鏃・石器について縮小率を変え1：2とした。

須恵器特殊器種　(第183図)

師遺跡出土須恵器は本書中に掲げた個体39点、未掲載資料の破片数97点が総てであり、大甕・甕片を除き古墳時代の須恵器はその一切を掲げた。第183図の中で5・6世紀代の須恵器はそう多くはなく、1～8・10・13～15があり、そのほか住居跡出土を加えても16点に過ぎない。9・11・12・16は8世紀以降の須恵器で11・12・16は月夜野窯跡群製と見られる須恵器である。1・9は本県の製品に見えないも密な胎土で県外からの搬入製品と思わせた。古墳時代の須恵器類について胎土分析と胎土の肉眼観察の結果、平野部にある太田金山窯跡群から多く供給されていたと推定され、当集落出土の古墳時代須恵器が思いのほか遠距離から運ばれたと考えられる。特殊器形としては第167図の3があり、本県を中心として5世紀終末頃から現われた特殊長胴壺の後出器形と考えられる。2・3は坏部の高さが浅く体部が底部先端側に向け直線的になっており、地域的特色でもある。6に見る列点刺突文と沈線2本を用いその間を巾広の隆帯状に見せる手法もそうである。12の鉢の底部粘土板の側部に見られる平行叩目は月夜野窯跡群中の沢入A支群中にその類例がある。

小形粗製土師器　(第184図)

小形粗製土師器は11点を掲げたが当遺跡の総てである。3は11点の中で最も精作で胎土も一種独特で平野部からの搬入が考えられる個体である。11は当遺跡出土例中、唯一の大形粗製であるので、この種にあえて含めた。9は未成物で粘土を押しつぶした個体で近接地での生産が示唆される。出土地の多くは古墳時代住居からでSJ03から2・4・7・9・10が出土したほかまとまった例はなくそれぞれ単独の出土である。小形粗製土器の類例は平野部の西毛・東毛地区よりも北毛地域に多く長野一群馬北部一福島に至る物質文化圏の一端を感じさせる。ひいては信仰の祭式表現が同一文化圏の流れにのっていたとも考えられるが同じ祭式用種の石製模造品の出土例が当遺跡では全くなく（隣接の後田遺跡では少量の出土があるので地域的に見て全く存在しないのではない)。祭式表現の形が福島県地方、信州地方が同様であったとするにはなおの検討の必要があろう。

竈土製支脚と用途不明土製品　(第185図)

土製支脚については6点を掲げた。3～6は当初から土製支脚として製作された個体でその全てを掲げた。

1・2は高坏脚部片であるが高温を受けた個所があり支脚片と考えられる。このほか高坏脚部を二次利用した場合も多くあったと考えられるが調整時点で確認作業がなされなかったので実態は不明である。7・8は用途不明の土製品である。7は粘土板で指頭圧痕が目立つ。焼上りの質は土師器で二次的被熱ははっきりしない。7に類した個体は隣接の『後田Ⅱ遺跡』P.526-56、57にも認められる。8の機能も不明で竈支脚とするには横断面形が異なるのと顕著の被熱がないので支脚ではないと考えた。1～8までの胎土は沼田盆地または月夜野地域に多く見られる白色鉱物粒を多く含み重みのある土味で在地製と考えられる。

土玉 (第186図)

1の焼上りは土師器である。この種の土玉は分布調査の表面採集や表土層出土の例で時折見られるが同僚職員に住居跡の床面から出土したのを直接目視した例があるか聞いたところ無く、近世以降の所産とも考えられる。器面は全体に擦れが認められ、胎土はこの地域の土味である。穴は一方向の焼成前穿孔である。

紡錘車 (第187図)

紡錘車は出土の全てを掲げた。2点とも蛇紋岩製で滑石に似て極めて軟質である。ともに整形時の擦痕を残す。2は竈内から出土し、1は住居跡埋土からの出土である。

砥石 (第188図)

砥石は出土の全てを掲げた。1は流紋岩製で小口・側部を除き表裏が使用面となっている。石質はやや細かく中砥または名倉砥の荒く軟かい級に相当するであろう。1は埋土出土であり、小口を見ると砥石成形時の削痕が見られ中世以降の所産かも知れない。2は使い込みが甘く小口面は原石面である。そのため古代の砥石の可能性が持たれる。3は流紋岩製の砥石で小口側部ともに丁寧に成形・整形がなされ中世以降の砥石の可能性がある。質は中砥または名倉級の荒く軟かい級に相当するであろう。4は安山岩製で表裏面のみの使用で側部小口ともに原石面で図左側を欠失する。原石面を残すため古代の所産であろう。質は荒く、荒砥または大村砥よりさらに荒い級に相当するであろう。

羽口 (第189図)

土師器高坏の脚部片であり、磨耗・風化のため割口は丸味をおびている。図の天側に強い被熱部分があり還元質の個所が認められるため羽口としたかあるいは竈支脚として高坏脚部を二次利用したものかも知れない。胎土はこの土地の土味である。

灰釉陶器 (第190図)

出土の全てを掲げた。1・2・3ともに外面側にも灰釉が施されいずれも口縁端部をわずかに外反する特色を持つ。1・3は胎土、釉調ともに共通し同一個所の可能性が高い。3点はいずれも9世紀後半頃の虎渓山1号窯の古様に相当する器形である。

墨書土器 (第191図)

2点ともに判読困難な墨書である。ともにわずか酸化気味の焼成で墨書を施された時点ではコントラストがあり強い印象で映じたであろう。文字は判読困難であったが文字または記号が大きいため文字であっても記号的な意味あいが強いと考えられる。そのことは2点の坏が個人別けのためではなく、何らかの形で作業工房または共同作業の中での使いわけのために墨書されたとも考えられる。

中・近世軟質陶器 (第192図)

出土の全てを掲げた。1は内耳鍋形の口縁耳部片である。断面図の破線は耳の接合面を示し、穴の向側の細線は見通しの高まりを示す。形状は体部側がわずかに外面に膨むため当地域の序例観すれば15・16世紀の所産である。15・16世紀とした場合、国産施釉陶器・焼締陶器や中国陶磁器が他に出土している訳ではない

ので調査地内における生活は極めて薄かったと考えられる。2は近世18世紀以降の箱物の破片である。1の胎土は平野部の前橋・高崎市をはじめ県内各地で見られる内耳鍋形と共通する。2の場合平野部からの搬入と考えられる。2もその意味において平野部の近世以降陶器の土味と共通する。2の場合は18世紀以降（近世軟質陶器の量産段階の当初）であるので他の近世陶磁器の存在とあわせ当遺跡内からその周辺に18世紀頃の生活があったと考えられる。

近世陶磁器　（第193図）

1～4・6～9は陶器片である。5・10～12は磁器片である。5を除き18世紀の製品は全てを掲げた。19世紀以降はこの他に若干の破片が存在する。観察表P.184、185中の釉調は一般的に呼ばれている質名称を用いた。備考欄に製作地名称の記入があるが美濃は美濃焼、波佐見は波佐見焼を示し、伊万里系は伊万里焼ではなく技術的な磁器系統をあらわす。県内における近世陶磁器の出土傾向は掘立柱民家建築が礎石建物へと変る18世紀代に大巾に増加し、18世紀後半には客組の個体量が多くなり民家での陶磁器のあり方が大きく変わる傾向にある。当遺跡出土の陶磁器片もそうした点と付合すかのように18世紀以降の存在が目立っている。なおこの一群の中に唐津系の6が含まれるが県内では17世紀の製品が多い場合に伴なう傾向があり、それからすると6は唐津系の製品が上州にもたらされた大量供給の終末の頃の製品であるかも知れない。

石板　（第194図）

1点のみ出土である。群馬県地域では昭和28・29年頃まで石板が使われていた。各遺跡の調査でも時折出土しており学校教育関連の遺物である。

古銭　（第195図）

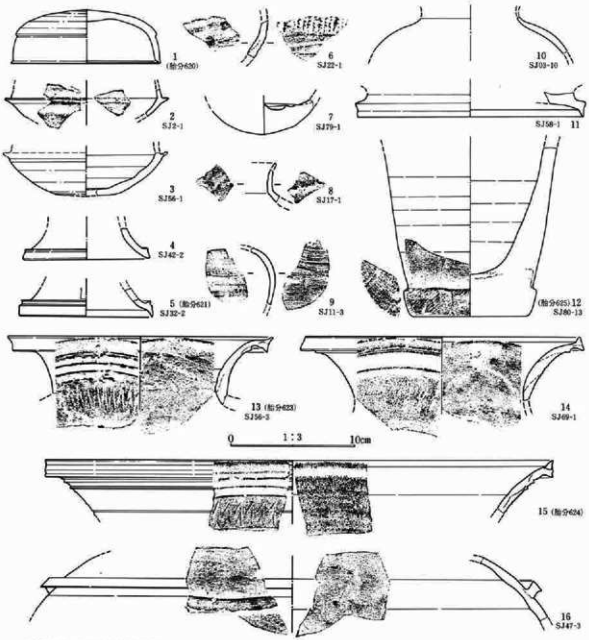
ＳＺ01から寛永通宝が出土している。古寛永・新寛永の両者が存在するようである。3は背面に「元」の施文字が見られる。

鉄製品　（第196図）

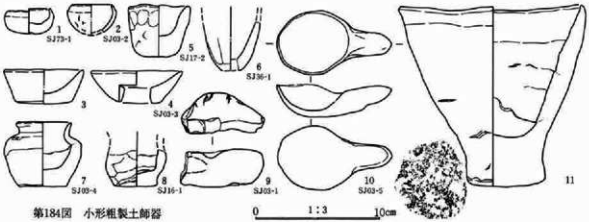
2点の出土がある。1は機能・用途不明である。2は平根、有孔、有柄鏃でＳＪ02の埋土から出土している。裏表の肉置を見ると側部に浅い稜が設けられ旧時の研出しの際にできた稜かも知れない。全体に扁平である。平の中央には一穴の孔が設けられ柄が取付いていたとするには不自然のようであるが陽抉の根元に柄の損傷れが認められる。

平野部からの搬入土師器とそれに類した胎土の一群　（第198図）

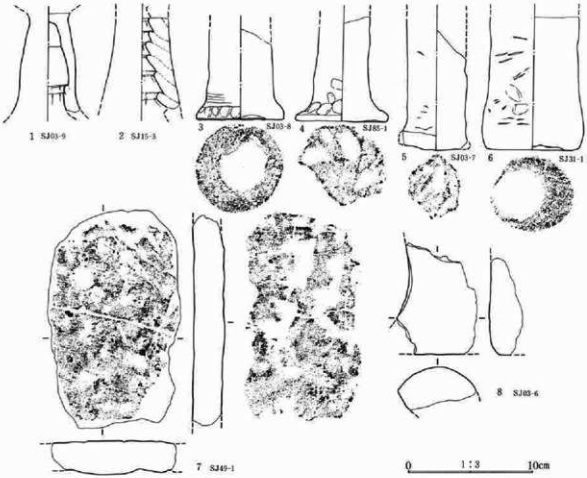
当遺跡出土こ土師器の胎土を見た時3群の土味があることに気付く。①は沼田盆地とその周辺にある白色鉱物粒を含み重味のある胎土の一群。②は夾雑鉱物粒が比較的少なく重みのない胎土の一群（第198）③は平野部からの搬入と考えられ、重みがなくち密な胎土の一群とに分けることができる。①はさらにいくつかの類に分けられそのいくつかが沼田盆地における土師器製作をあらわしていると考えられるが整理作業の時間の都合からその分離・細分はできなかった。しかし全体量からすれば少ないが29個体（本書掲載土師器中）の土器類について共通の胎土を確認でき、生産の一単位をとらえうるものと考えることができた。その一群は6世紀代を中心とし、土師器坏類の平底化の当初の頃と考えられる。ＳＪ79－4、丸底気味の小形坏、ＳＪ79－2の2点を新しい段階の例として認めうる。しかしＳＪ79－2の前段階の一群がこの胎土の一群の中に明瞭でないため②にＳＪ79－2は含まれず別単位の生産とも考えられる。第198図中～下段に示した一群は大むね6世紀代を中心に生産れたと考えられる。平野部からの一群は5点（第198図上段）しかなく量的に少ないが平野部との流通や沼田盆地と平野部との土師器の比較を行なう上では接触を示す例として重要である。この土味をもって製作地域を肉眼観察上から特定すれば吉井・藤岡方面の地域と見られる。



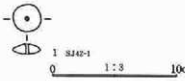
第183図 須恵器特殊器種



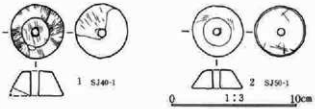
第184図 小形粗製土師器



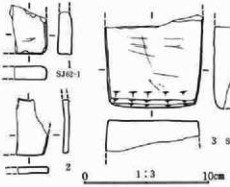
第185図　竈土製支脚と用途不明土製品



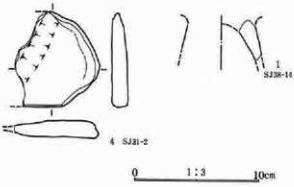
第186図　土　玉



第187図　紡錘車

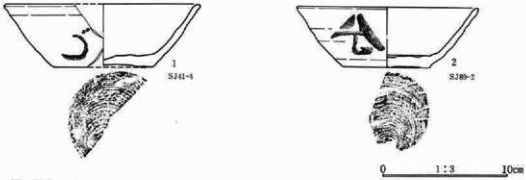


第188図　砥　石

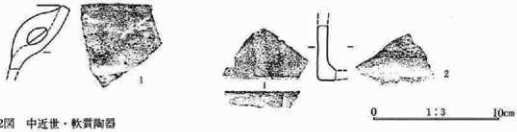


第189図　羽　口

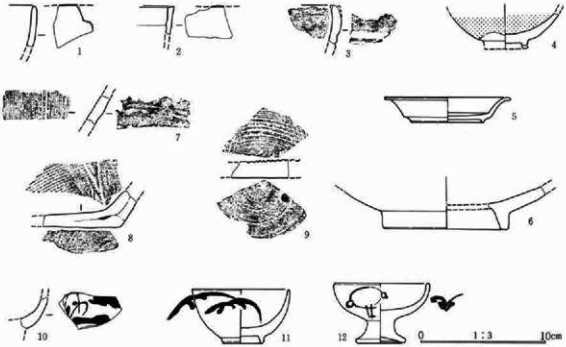
第190図 灰釉陶器



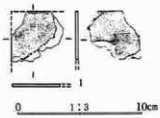
第191図 墨書土器



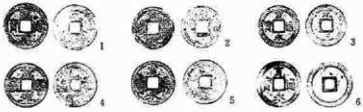
第192図 中近世・軟質陶器



第193図 近世陶・磁器

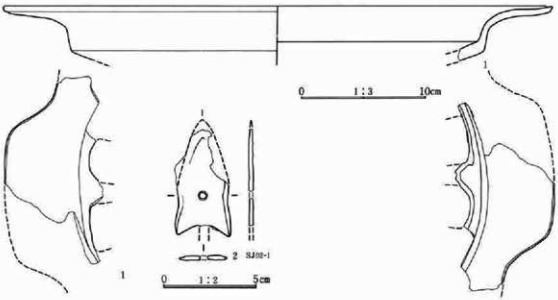


第194図　石　板

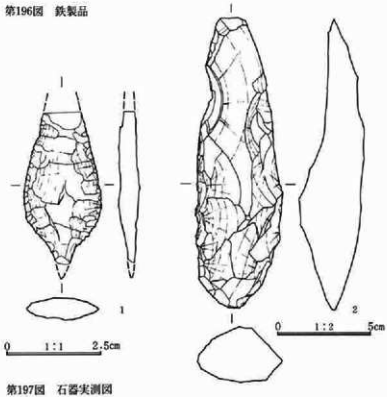


第195図　古　銭

0　1:2　5cm



第196図　鉄製品

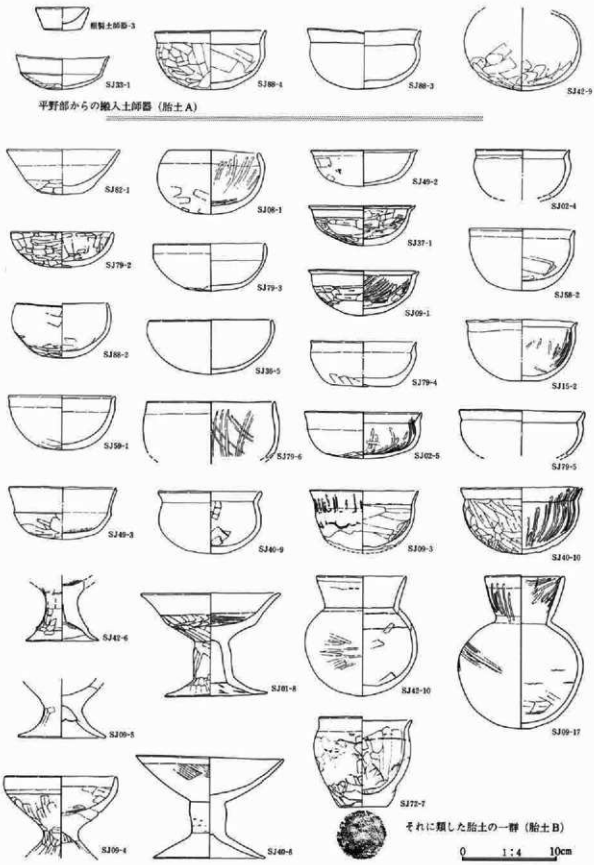


第197図　石器実測図

石器　（第197図）

当遺跡から出土した石器は２点である。数点の縄文式土器がこの他に存在している。１は有舌尖頭器で頁岩製である。先端部と茎尻を欠損している。側部の調整は細かく、また全体的な重みは薄く優れたできである。２は槍の石製穂先である。安山岩製であり先端部の尻先部を欠損しているように割れ口から見える。剥離は図平面側に高低差が顕著で不手際の多さのように見受けられる。

なお当遺跡において縄文時代の遺構の検出はなかったとされている。



第198図 平野部からの搬入土師器とそれに類した胎土の一群

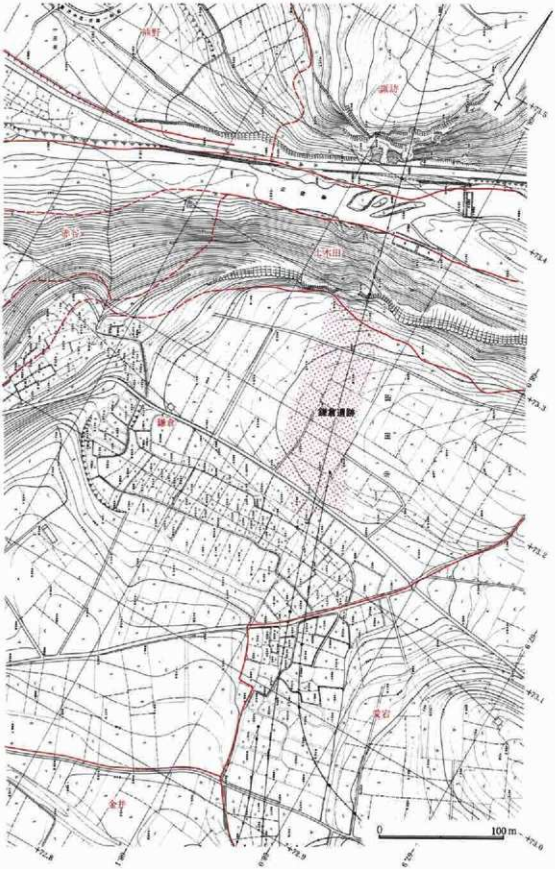
第2章　鎌倉遺跡

鎌倉遺跡は薄(すすき)根川によって開析された谷地形に北面し、上・下段丘面の上位段丘面に存在する。薄根川は鎌倉遺跡の北方延長上で発地(ほっち)知川と合流し、東方約600mには田沢川との合流点があり、それぞれ谷地形をひかえ、弥生時代以降、多くの遺跡をその中に見ることができる。その様は初根地方の生活・生産の基盤がいつの時代でも山地を除く限られた地帯にしなかったことを窺わせる。

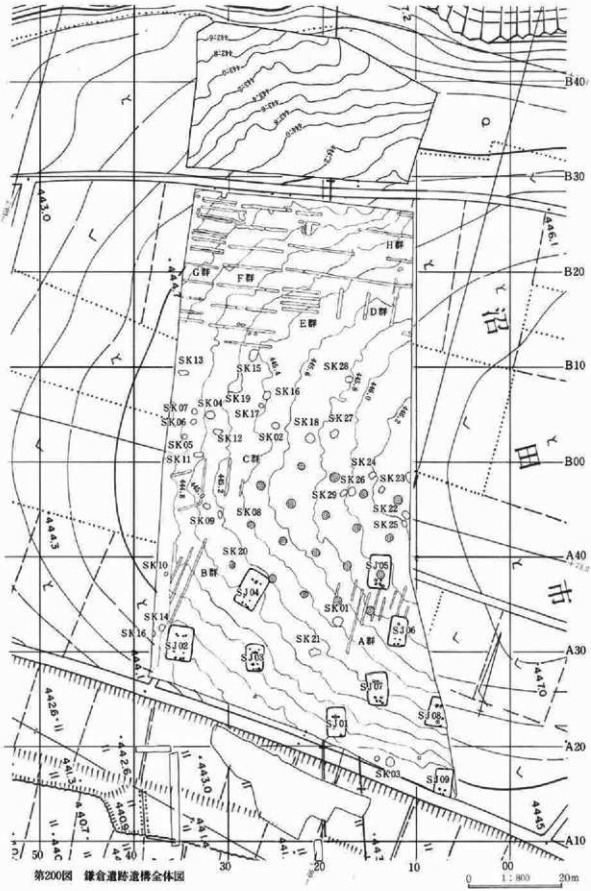
調査地の北方には薄根川に続く急斜地があり、南側には沼田台地上から薄根川に至る急斜地があり、南側には沼田台地上から薄根川に至る比高差約1.5mの浅い開析小谷地形が存在している。鎌倉遺跡の載る台地上の小字鎌倉地内には弥生式土器が散布しており、その一角を発掘したものである。調査結果は台地の南側に9棟の住居跡が検出され、開散としながらもさらに東・西の未調査地側に延びる様相を見せていた。集落の生産基盤を考える時、南接の小谷地形を利用した谷地形が想定されるが、調査時もその点が意識され、谷地中にトレンチと、A10～22拡張区が設けられ水田の有・無の確認作業が行われた。結果は山礫の流入などがあり否定的で、第3図はその際の土層断面である。現在の沼田台地上に多くの水田地帯が見られるが、大半は江戸時代初頭までに開析された真田(さなだ)用水による大規模用水灌漑水田で、さらに中期以降の水田が加わり、今日の景観のとおりである。

台地上の土地利用は、縄文時代の土壙からはじまり、弥生時代には集落化があり、古墳時代から中世までの間の明確な遺構は認められていないし、整理時点で実見した出土遺物中にそれ以降の遺物は含まれていなかった。調査で検出されたさく遺構、畑作を裏づけるものであるが調査時点で近代の所産と考えられ、遺構の扱いを受けなかったため、遺物出土の確認はなされなかった。整理時点で近世陶・磁器片は実見していない。そのさく跡と現代の土地区画とは不一致であり、しかも畑一面の単位が小さい点から見て、江戸時代でもある程度、遡った時期さらにはそれ以前に遡った時期の所産と類推された。

次に調査で検出された遺構にふれるが、その前に作成の実測図について凡例・例言を述べたい。遺構は発掘調査時点では掘られておらず、床面平面を基本図として掲げた。出土遺物は仮りに埋土出土遺物であっても住居壁上棚から落下した場合もあり得るので位置を記してある。遺物の中で石は点描、土器は線描を用いて区分した。柱穴は明らかな時はP1、P4などの番号を略記してあり、Pはピットの意味である。貯蔵穴は貯蔵機能を果すためであったか疑わしいが入口の補助柱穴脇に片寄って存在する。そうした土壙には貯と記入した。住居平面図・炉平面図の中のトーンは焼土を示し、各図中に例記してある。SJは竪穴住居跡、Pは小土壙、SDは溝遺構を表わす。出土遺物は破片個体で回転実測の個体は中軸を一点で、直接実測した場合は実線を用いている。一点鎖線は多かれ、少なかれ大破があり、各住居跡出土遺物の中で遺構共存がやや危ぶまれる。土器番号が○で囲まれているのは現場確認された個体で床面出土を表わし、埋とあるのは埋没土中、貯とあるのは貯蔵穴内、炉とあるのは炉中から、未記入は確定困難な場合を示している。トーンは黒色化の箇所を表わす。なお整理作業をへて現場所見と不一致の出土状態が認められた場合には整理時の確認を優先し、その理由については本文中に述べた。貯・炉・埋の略称については現場・整理の両者の結果をふまえ、読者に対し推薦し得る状況を表わした。



第199図　鎌倉遺跡周辺地形と小字区界図　1：3,000



第200図　鎌倉遺跡遺構全体図

住　居　跡

S J01

遺構　位置は17～19A21～24で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁でN15°Wを測る。規模は東壁下で5.8m、北壁下で3.4m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で50cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P1は径32cm、深さは床面から52cm、P2は径34cm、深さ25cm、P3は径34cm、深さ48cmであった。貯蔵穴は南壁下の東側にあり径54cm、深さ57cmを測る。

炉　炉跡はP1、P3の間にあり長径78cm、短径49cm、深さ5cmでわずかな凹みを持ち中央に焼土化した箇所がある。その南半部に炉石と考えられる小石が3個あり、さらに北側に数石の角礫が床面上から存在した。

遺物　37点を掲げた。床面から遺存のよい2・3・7が出土し、破片では11・15・16・18・19・23・33・37がある。2・3・7は写真照合からも床面とし得た。大形破片またはある程度遺存した個体の1・4・5・6などは床面から10cm以上離れている。

S J02

遺構　位置は33～36A29～32で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は北壁でN8°Wを測る。規模は東壁下で6.9m、北壁下で4.7m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で46cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径40cm、深さは床面から55cm、P2は径42cm、深さ52cm、P3は径39cm、深さ56cm、P4は径42cm、深さ47cmであった。南側の補助柱穴のうち東は長径42cm、深さは49cm、西側は52cmで深さは69cm、北半の東は径28cm、深さは44cm、西は径25cm、深さは55cmを測る。貯蔵穴は径44cm、深さ37cmであった。

炉　炉跡はP3、P4の間にあり床面上を炉としたもので9棟のうち最も浅く小規模である。焼土化した箇所を測定すると長径27cm、短径25cm、深さ3cmである。

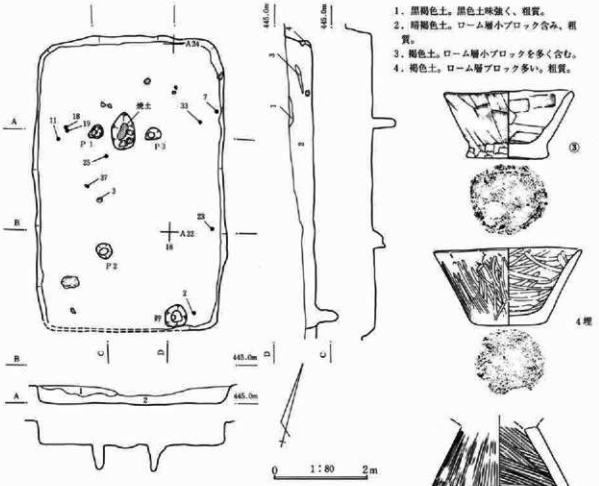
遺物　床面上から出土した遺物に3・4があり、写真照合と一致する。埋土中から出土した大形破片個体の1・2・5は床面から5cm以上離れた黒褐色土層から出土している。その他破片個体の6～22も埋土中からの出土である。なお貯蔵穴に接して粘土塊が長径38cm、短径29cm、最大厚13cmで置かれていた。

S J03

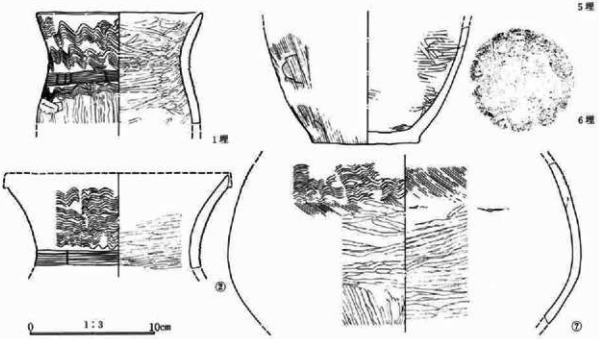
遺構　位置は26～28A27～30で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁はN17°Wを測る。規模は西壁下で5.3m、北壁下3.3m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で55cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径34cm、深さは床面から60cm、P2は径62cm、深さは48cm、P3は径50cm、深さ44cm、P4は径42cm、深さ54cmであった。南側にある補助柱穴のうち東側の柱穴は最大径28cm、深さ22cm、西側の柱穴は最大径35cm、深さ21cmを測る。貯蔵穴は東隅に検出され、径60cm、深さ40cmを測る。

炉　炉跡はP1、P4の間に検出され、規模は長径60cm、短径34cm、深さ38cmを測る。その内部に部分的に焼土と小礫が2個残存していた。

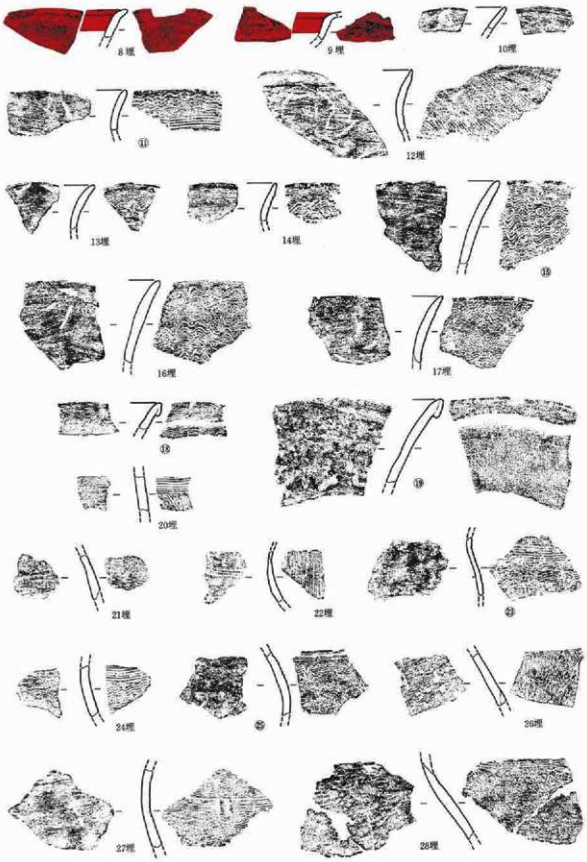
遺物　床面から出土した個体は大形もしくは遺存のよい個体に6・7がある。写真照合の結果は床面から数cm離れていたように見えたが、床面全体に凹凸が目立ち掘り過ぎの感がある。そのため6・7は床面出土としてよい。その他1～5、8～28は埋土中の出土である。1は鎌倉遺跡唯一の小形粗製土器で口縁部を若干欠損するが祭祀用土器として考えた場合には出土地が問題になる。1はP4からおよそ20cm東方で北に30cm離れた箇所の床面から31cm離れての出土である。



第201図　ＳＪ01遺構図

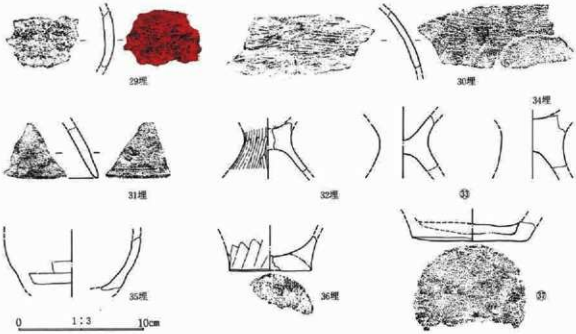


第202図　ＳＪ01遺物図



第203図 SJ01遺物図

0 1:3 10cm



第204図　ＳＪ01遺物図

ＳＪ04

遺構　位置は25～29Ａ34～38で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁でＮ12°Ｅを測る。規模は南東壁下で7.2ｍ、北東壁下で4.7ｍ、立ち上がりは遺存のよい西壁下で54cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径42cm、深さは床面から60cm、Ｐ２は径38cm、深さ56cm、Ｐ３は径30cm、深さ54cm、Ｐ４は径32cm、深さ56cmであった。南側の補助柱穴のうち東側の柱穴は長径34cm、深さ54cm、西側は長径40cm、深さ50cmを測る。貯蔵穴は南壁中央より東寄りに検出され、径50cm、深さ32cmを測る。なお本住居は焼失住居で多くの焼土と炭化木の出土があった。

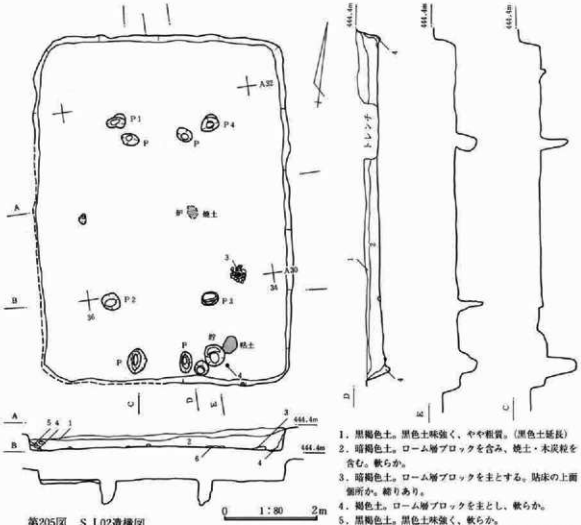
炉　炉跡はＰ１、Ｐ４の間に検出され規模は長径78cm、短径48cm、深さ14cmを測り、部分的に焼土が認められる。炉内より２・３・10・16の出土がある。被熱は顕著でない。

遺物　炉内より２・３・10・16の出土がある。いずれも大形壺であり同一個体と思えるが、接合接点が得られず同一個体であるかどうかは不明である。しかし胎土・焼成・色調からくる質感は同一個体の様に思える。床面出土の破片個体は５・８・13である。埋土出土遺物に１・４・６・７・９・11・12・14・15・17・18がある。

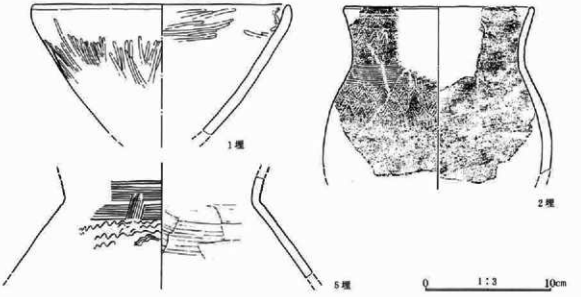
ＳＪ05

遺構　位置は12～15Ａ36～40で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は中央にリンゴ植栽のための土壙が掘られていた。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁でＮ８°Ｗを測る。規模は西壁下で6.6ｍ、北壁下で3.8ｍ、立ち上がりは遺存のよい西壁下で50cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径50cm、深さは床面から56cm、Ｐ２は径56cm、深さ58cm、Ｐ３は径72cm、深さ46cm、Ｐ４は径60cm、深さ64cmであった。南側に補助柱穴があり、東側の柱穴は長径74cm、深さ57cm、西側は長径55cm、深さ35cmを測る。貯蔵穴は南壁中央のやや東寄りに検出され、径70cm、深さ27cmを測る。

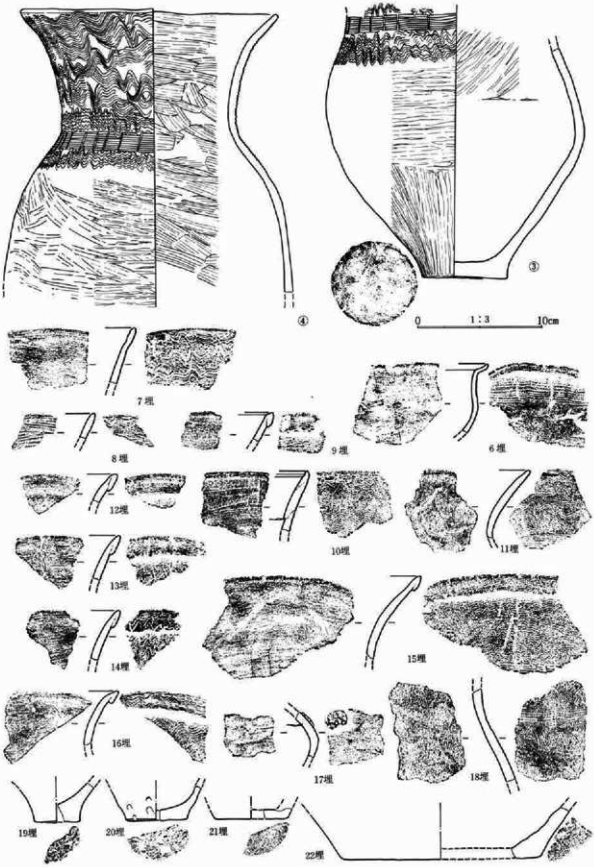
炉　炉跡はＰ１、Ｐ４の間に検出され規模は長径84cm、短径48cm、深さ５cmを測り、部分的に焼土化が見られる。



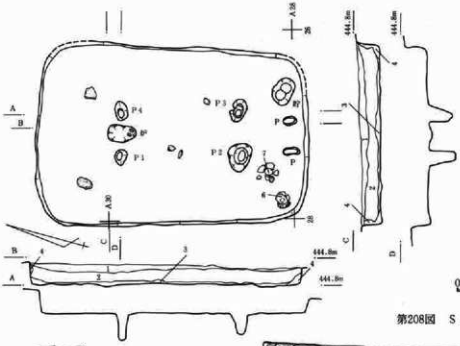
第205図 S J 02遺構図



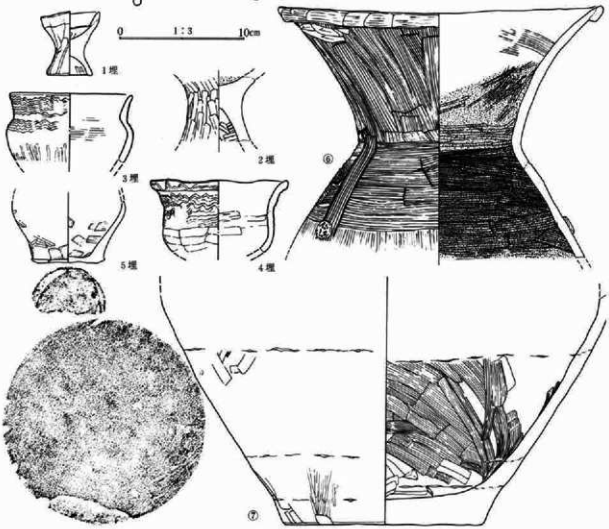
第206図 S J 02遺物図



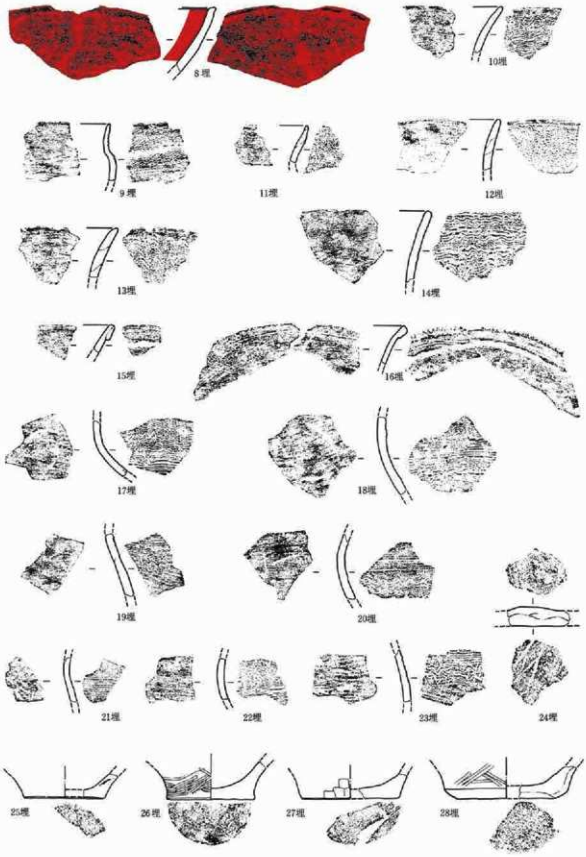
第207図　ＳＪ02遺物図



第208図 ＳＪ03遺構図

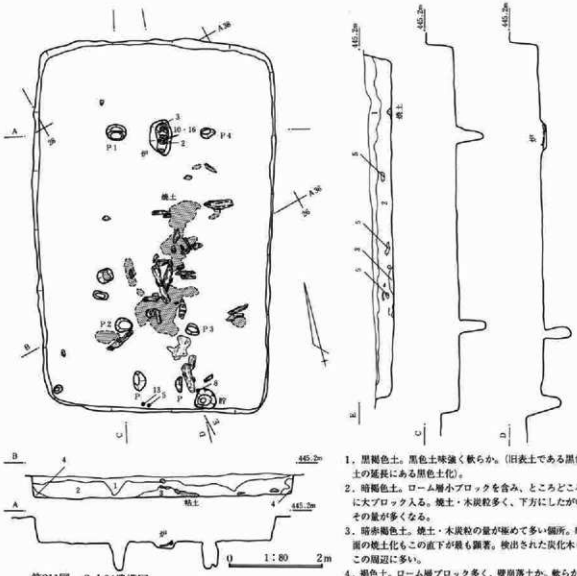


第209図 ＳＪ03遺物図



第210図　ＳＪ03遺物図

0　1:3　10cm



1．黒褐色土。黒色土味強く軟らか。(旧表土である黒色土の延長にある黒色土化)。
2．暗褐色土。ローム層小ブロックを含み、ところどころに大ブロック入る。焼土・木炭粒多く、下方にしたがいその量が多くなる。
3．暗赤褐色土。焼土・木炭粒の量が極めて多い個所。床面の焼土化もこの直下が最も顕著。検出された炭化木もこの周辺に多い。
4．褐色土。ローム層ブロック多く、壁崩落土か。軟らか。
5．褐色土。ローム層ブロック個所。

第211図　ＳＪ04遺構図

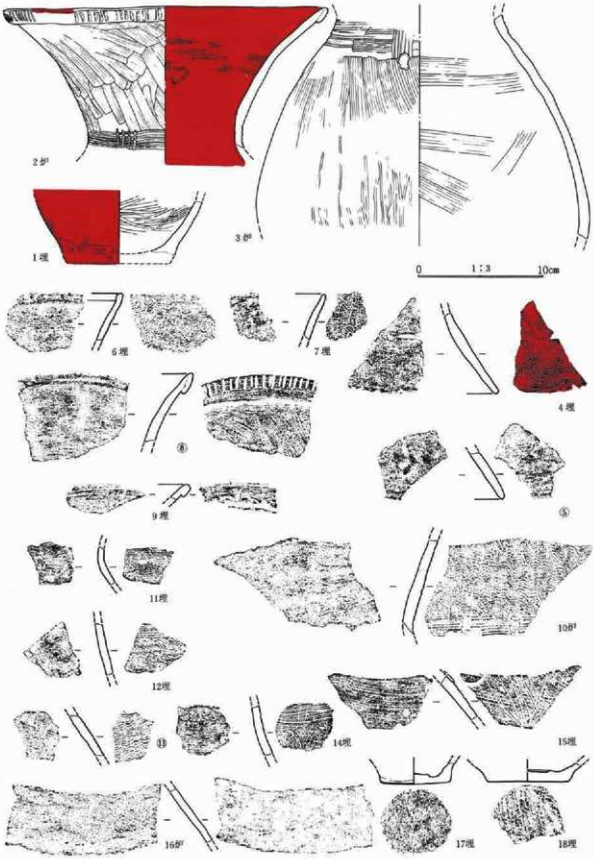
遺物　床面出土で遺存のよい個体に２・３があり、写真照合においても床面出土と認められた。破片個体では13・19・22が床面出土である。埋土出土は１・４－12・14～18・20・21・23～30がある。埋土出土の遺物の中で１は大形破片である。出土位置は床面より21cm離れて出土している。

ＳＪ06

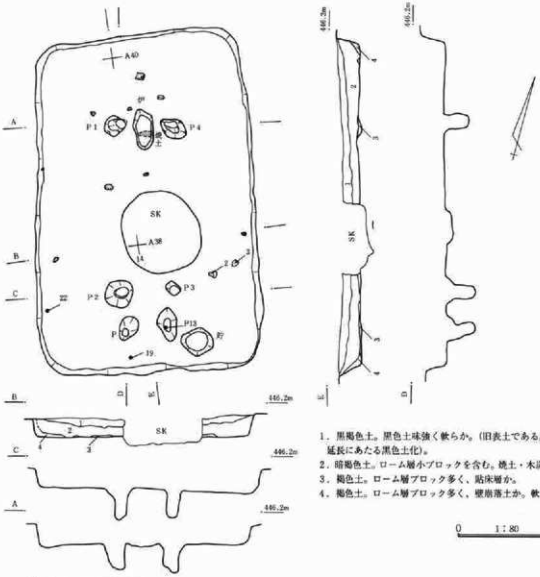
遺構　位置は10～13Ａ30～33で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁でＮ５°Ｗを測る。規模は西壁下で5.8m、北壁下で3.1m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で54cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径44cm、深さ床面から62cm、Ｐ２は径32cm、深さ64cm、Ｐ３は径34cm、深さ66cm、Ｐ４は径36cm、深さ61cmであった。南側に補助柱穴があり東側は長径34cm、深さ70cm、西側長径31cm、深さ59cmを測る。貯蔵穴は東寄りに検出され、径50cm、深さ48cmを測る。なお本住居は焼失家屋であるため多くの炭化材と焼土があり、炭化材のうち、特に西壁側に接した材は垂木材のようである。

炉　炉跡はＰ１、Ｐ４間の北壁に寄った位置にあり規模は長径52cm、短径47cm、深さ８cmを測る。焼土化は不明瞭であったが、炉石材と思える石材が１石存在した。

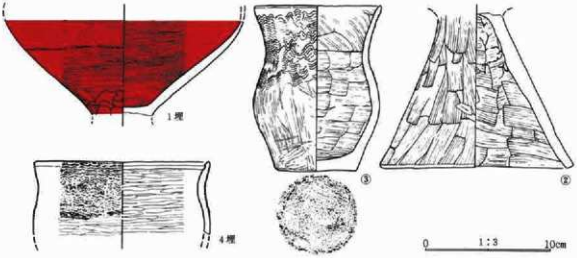
遺物　貯蔵穴内から７が出土し破片個体の13がある。７は据えられた様に置かれていた。床面からは３・



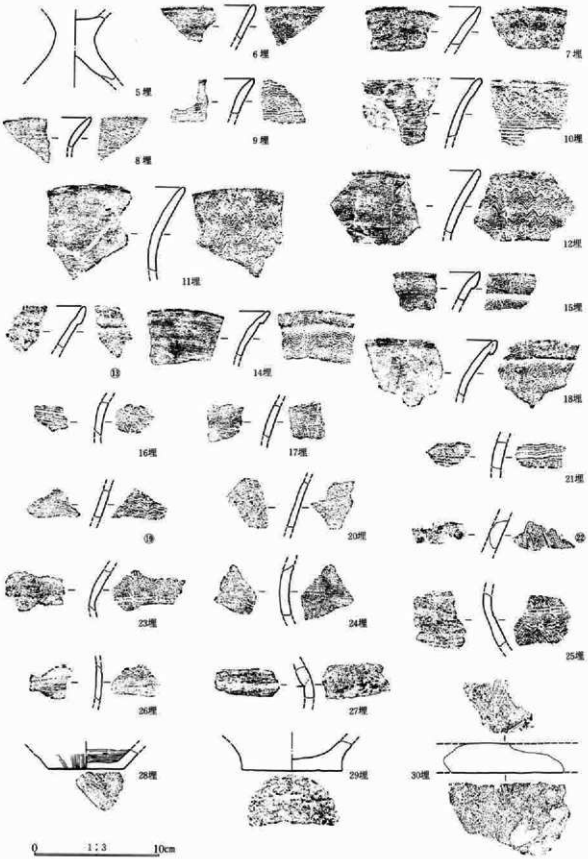
第212図　ＳＪ04遺物図



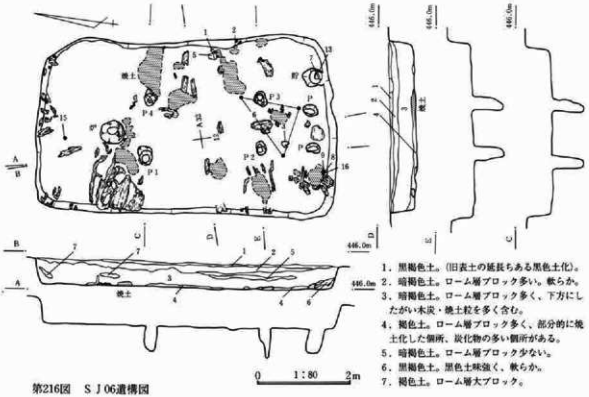
第213図 SJ05遺構図



第214図 SJ05遺物図

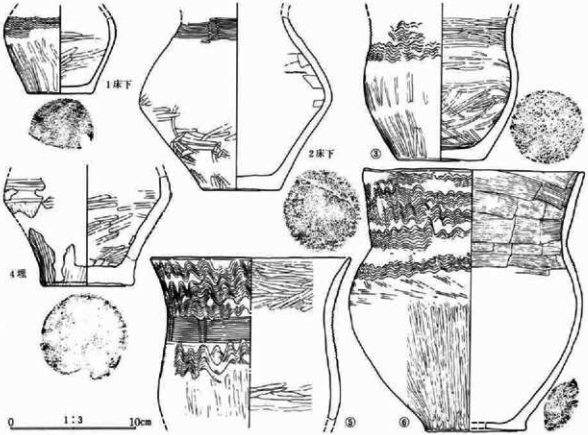


第215図　ＳＪ05遺物図

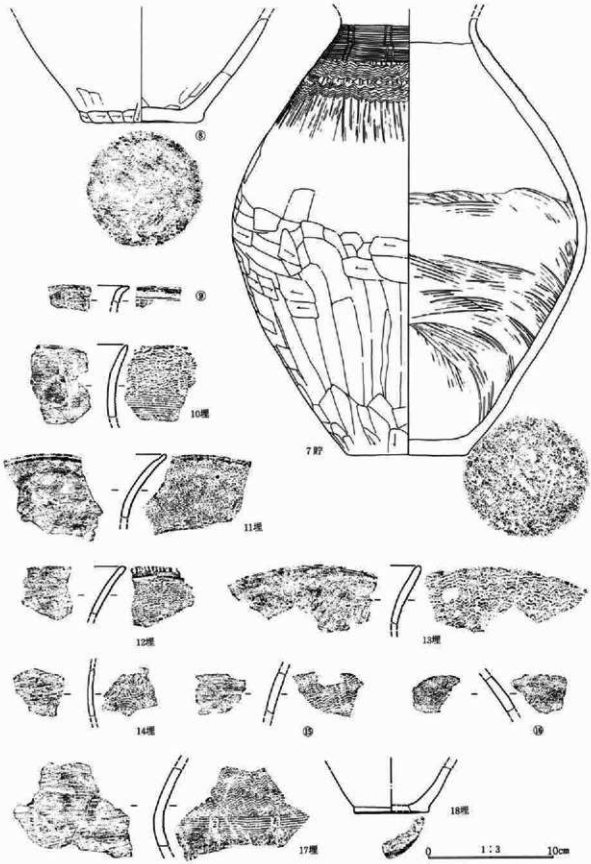


1．黒褐色土。(旧表土の延長ちある黒色土化)。
2．暗褐色土。ローム層ブロック多い。軟らか。
3．暗褐色土。ローム層ブロック多く、下方にしたがい木炭・焼土粒を多く含む。
4．褐色土。ローム層ブロック多く、部分的に焼土化した個所、炭化物の多い個所がある。
5．暗褐色土。ローム層ブロック少ない。
6．黒褐色土。黒色土味強く、軟らか。
7．褐色土。ローム層大ブロック。

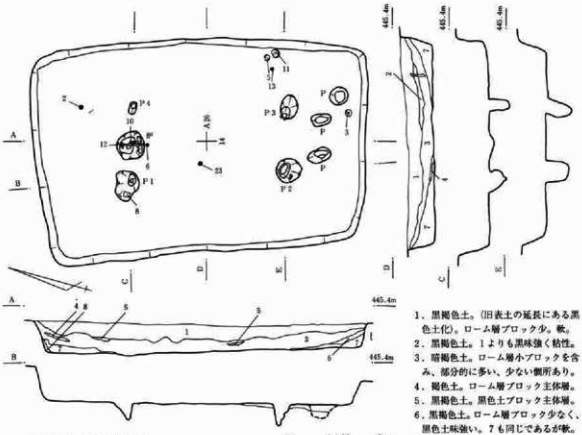
第216図　ＳＪ06遺構図



第217図　ＳＪ06遺物図



第218図　ＳＪ06遺物図



第219図　ＳＪ07遺構図

５・６・８の出土があり破片個体に９・15・16がある。埋土中から４があり、破片個体に10～12・14・17・18の出土がある。１・２は床下からの出土である。

ＳＪ07

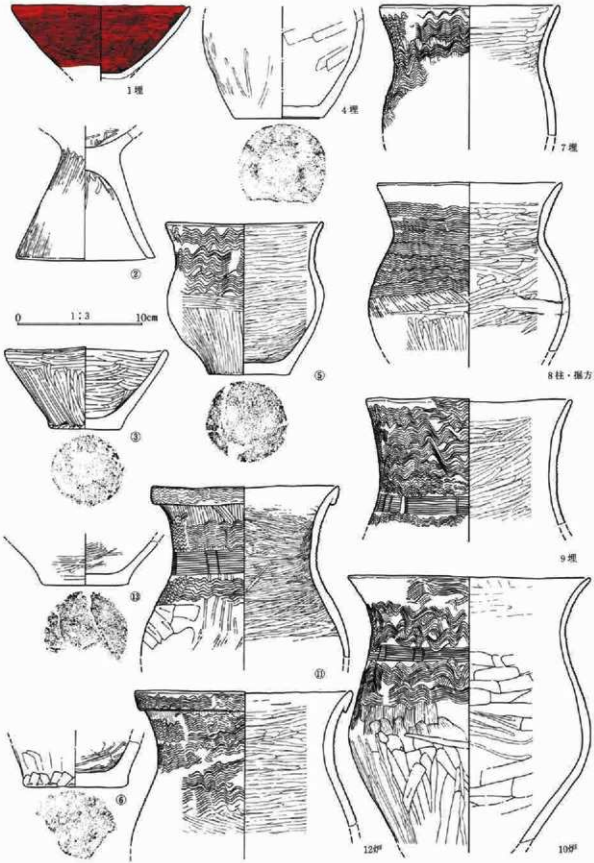
遺構　位置は12～15Ａ24～27で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は東壁でＮ15°Ｗを測る。規模は西壁下で6.1ｍ、北壁下で4.0ｍ、立ち上がりは遺存のよい西壁下で68cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径64cm、深さは床面から36cm、Ｐ２は径54cm、深さ52cm、Ｐ３は径50cm、深さ56cm、Ｐ４は径28cm、深さ46cmであった。南端に補助柱穴があり、東側の柱穴は長径44cm、深さ44cm、西側は長径51cm、深さ45cmを測る。貯蔵穴は南壁より東寄りに検出され、径40cm、深さ39cmを測る。

炉　炉跡はＰ１、Ｐ４の間にあり規模は長径57cm、短径56cm、深さ７cmを測る。炉内の焼土化は顕著でないが炉石材と思われる扁平な石材が１石残存していた。炉内からは10・12が出土しているが別個体である。

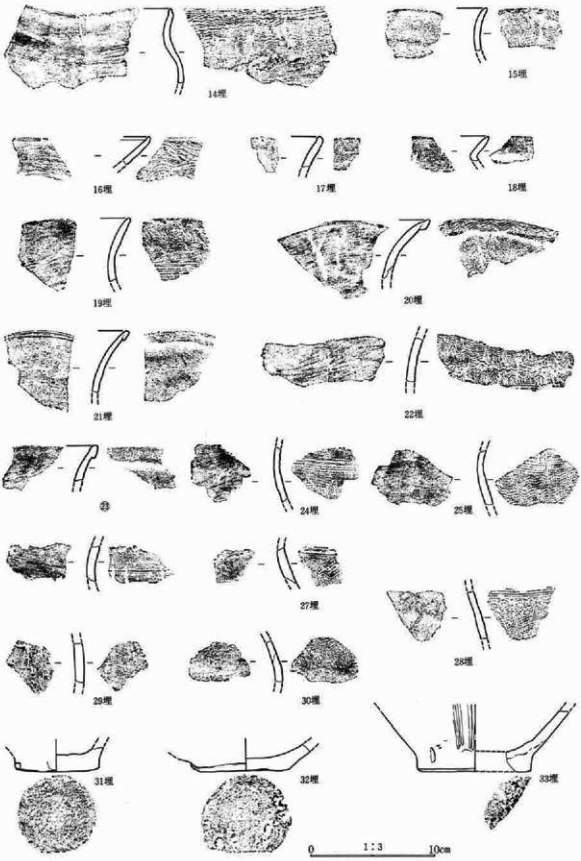
遺物　床面から出土した大形破片もしくは遺存のよい個体に２・３・５・６・11・13があり写真照合からも床面出土である。８はＰ１の埋土中からの出土である。埋土中から１・４・７・９の大形破片や遺存のよい個体があったが写真照合の結果からも床面出土ではなく、住居廃棄とは別の廃棄であろう。

ＳＪ08

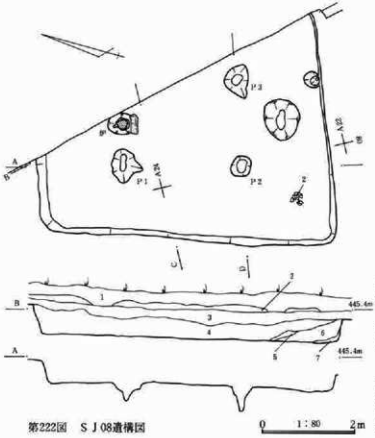
遺構　位置は06～09Ａ21～23で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は未調査地があり、不明瞭であるが一辺の長い長方形と考えられる。主軸は西壁でＮ０°Ｅ・Ｗを測る。規模は西壁下で5.9ｍ、南壁下で4.7ｍ、立ち上がりは遺存のよい西壁下で44cmを残す。柱穴は３箇所に検出され、Ｐ１は径74cm、深さは床面から38cm、Ｐ２は48cm、深さ52cm、Ｐ３は径70cm、深さ54cmであった。南半に補助柱穴があり長



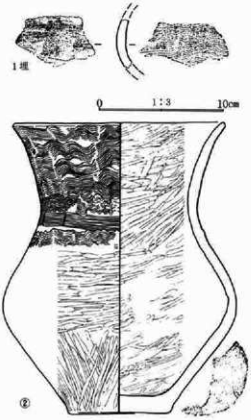
第220図　ＳＪ07遺物図



第221図 SJ07遺物図



第222図　ＳＪ08遺構図



第223図　ＳＪ08遺物図

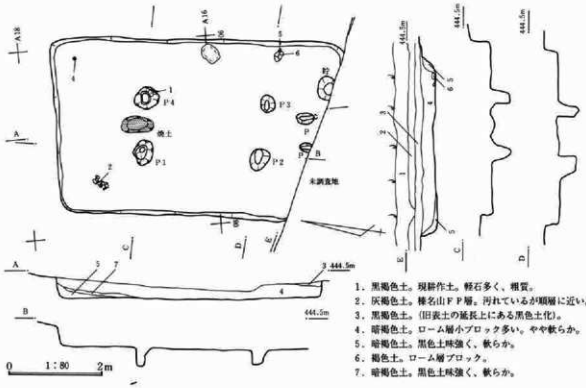
径33cm、深さ32cmである。貯蔵穴は検出されていないがＰ２、Ｐ３の南側に床下の小土壙があり長径85cm、短径76cm、深さ43cmを測る。

炉　炉跡はＰ１の東方にあり、規模は長径48cm、短径45cm、深さ７cmを測り、底面に焼土化が見られる。また炉石材がその南に接して１石残存していた。

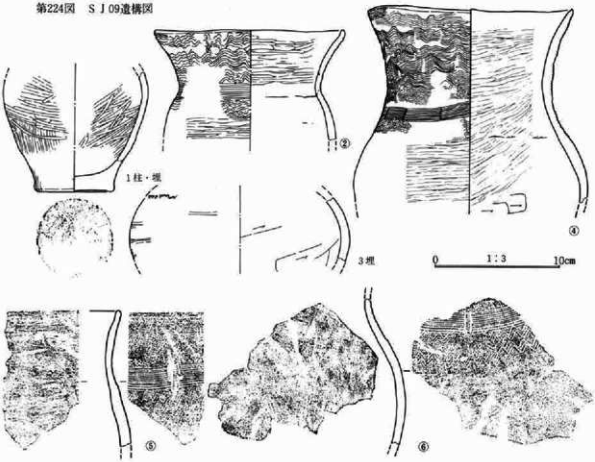
遺物　床面から出土した個体に２がある。写真照合の結果からも床面出土である。１は埋土出土である。

ＳＪ09

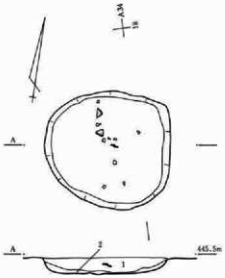
遺構　位置は06～08Ａ14～17で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は未調査地に一部かかるが柱穴からすれば隅丸長方形と考えられる。主軸は西壁でＮ８°Ｗを測る。規模は東壁下で6.0m、北壁下で3.4m立ち上がりは遺存のよい東壁下で40cmを残す。柱穴は４箇所に検出され、Ｐ１は径54cm、深さは床面から44cm、Ｐ２は径48cm、深さ38cm、Ｐ３は径40cm、深さ46cm、Ｐ４は径54cm、深さ42cmであった。補助柱穴は南端側にあり東側は長径48cm、短径23cm、西側は長径30＋αcm、短径19cmを測るが深さについては測定値がない。



第224図　ＳＪ09遺構図

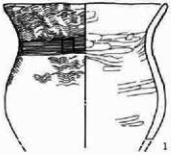


第225図　ＳＪ09遺物図

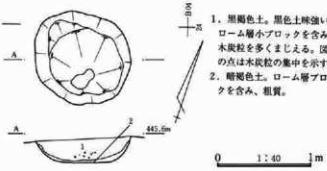


1．黒褐色土。根質で土器片を多く含み、ＮＯ１土器はここからの出土。黒色土味強い。
2．暗褐色土。黒色土小ブロック入る。

ＳＫ01遺構図　1：40

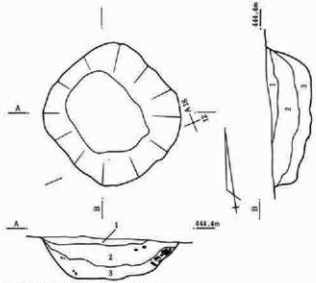


ＳＫ01遺物図　1：3



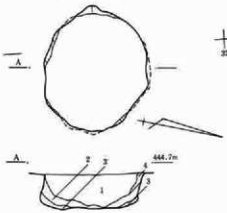
1．黒褐色土。黒色土味強い。ローム層小ブロックを含み、木炭粒を多くまじえる。図中の点は木炭粒の集中を示す。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを含み、根質。

ＳＫ02遺構図　1：40



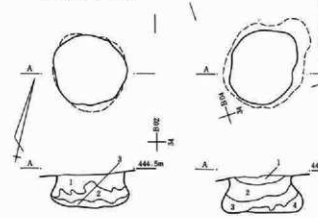
1．黒褐色土。黒色土味強い。締りあり。
2．暗褐色土。黒褐色土中にローム層小ブロック入る。図中の点はそれを示す。
3．暗褐色土。暗褐色土中に焼土・木炭粒を含む（図中の点）。さらにローム層小ブロックを多く含む。

ＳＫ03遺構図　1：40



1．暗褐色土。軽石を含み、やや根質。
2．暗褐色土。1に似るがローム層ブロック多い。
3．褐色土。ローム層ブロック多い。
4．暗褐色土。やや黒色土味強い。

ＳＫ04遺構図　1：40



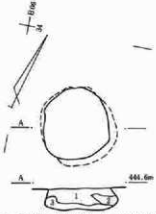
1．暗褐色土。軽石を多く含む。
2．黒褐色土。黒色土味強く、軽石を含。
3．褐色土。ローム層ブロックを多く含み、黒色土ブロック入る。

ＳＫ05遺構図　1：40

1．暗褐色土。軽石を多く含む。
2．暗褐色土。軽石を含む。
3．暗褐色土。黒色土味やや強い。
4．褐色土。ローム層ブロックを多く含。

ＳＫ06遺構図　1：40

第226図　土壙集成図　ＳＫ01～06

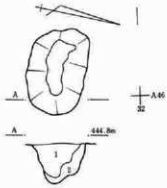


1．褐色土。軽石を含み、ローム層ブロック入る。
2．暗褐色土。軽石を含み、黒色土味強い。
3．暗褐色土。軽石・ローム層ブロック入る。

ＳＫ07遺構図　1：40

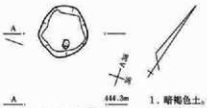
1．黒褐色土。全体的に黒色土味強く、やや軟らか。
2．暗褐色土。1より褐色味強い。

ＳＫ08遺構図　1：40



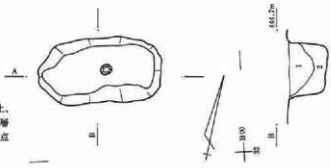
1．黒褐色土。黒色土味強く、弱粘性あり。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多くまじえる。

ＳＫ09遺構図　1：40



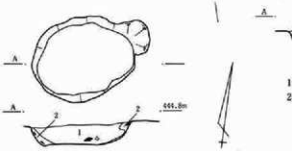
1．暗褐色土。軽石・焼土、木炭粒を含み、ローム層ブロック入る。図中の点はローム層ブロック。

ＳＫ10遺構図　1：40



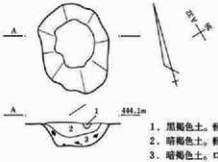
1．黒褐色土。黒色土味強く、軽石を含む。やや粗質。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、軽石を含む。粘性あり。

ＳＫ11遺構図　1：40



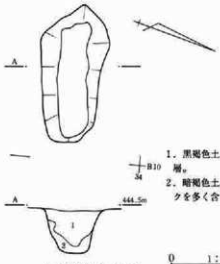
1．暗褐色土。黒色土味強く、軽石粒を含み、ローム層ブロック（図中のゴミ様の個所）入る。
2．褐色土。ローム層ブロックを多く含む（図中の点の個所）。

ＳＫ12遺構図　1：40



1．黒褐色土。軽石を含む。
2．暗褐色土。軽石を含む。
3．暗褐色土。ローム層ブロックを含む（図中のゴミ様の個所）。

ＳＫ14遺構図　1：40

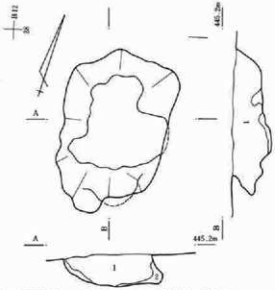


1．黒褐色土。黒色土味の強い層。
2．暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む層。

ＳＫ13遺構図　1：40

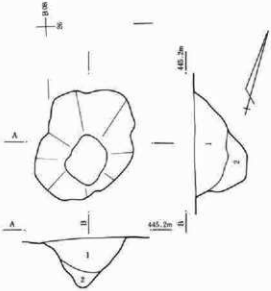
0　1：40　1m

第227図　土壙集成図　ＳＫ07～14



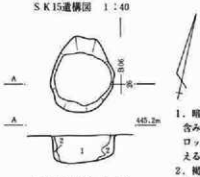
1．暗褐色土。ローム層小ブロックが全体的に多く入る。
2．褐色土。ローム層ブロックが多い。底面・掘り方は全体に不整形である。その中にもローム層ブロックは及ぶ。

ＳＫ15遺構図　1：40



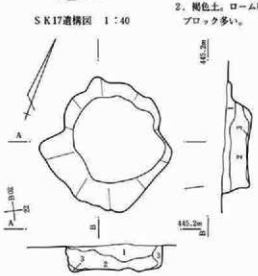
1．暗褐色土。ローム層小ブロックが多く入る。
2．褐色土。ローム層ブロックの混入が１よりも多い。

ＳＫ16遺構図　1：40



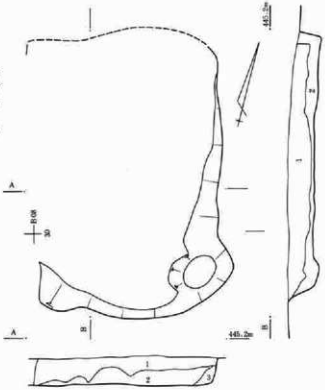
1．暗褐色土。軽石を含み、ローム層小ブロックを多量にまじえる。
2．褐色土。ローム層ブロック多い。

ＳＫ17遺構図　1：40



1．暗褐色土。軽石を含む。
2．褐色土。ローム層ブロック・軽石を含む。
3．褐色土。ローム層ブロックを多く含む、壁の崩落か。軟らか。

ＳＫ18遺構図　1：40

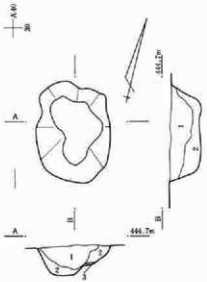


1．暗褐色土。ローム層ブロック、軽石を含む。
2．褐色土。ローム層ブロックを多く含む。
3．褐色土。ローム層ブロックを多く含み、黒褐色ブロック入る。

ＳＫ19遺構図　1：40

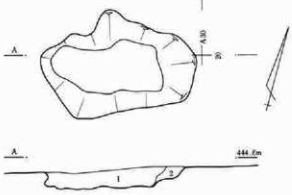
0　1：40　m

第228図　土壙集成図　ＳＫ15－19



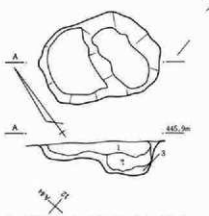
1．黒褐色土。黒色土味強く、軽石・ローム層ブロックを含む。
2．暗褐色土。ローム層ブロック多く含み褐色み強い。粘性あり。
3．褐色土。ローム層ブロック多く、褐色味強い。粘性あり。

ＳＫ20遺構図　１：40



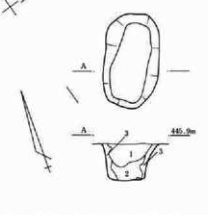
1．暗褐色土。黒色土味強く、軽石粒を含む。
2．暗褐色土。ローム層ブロック含むため、褐色味強い。

ＳＫ21遺構図　１：40



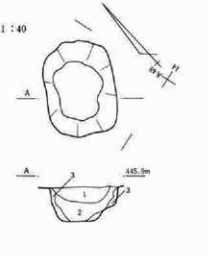
1．黒褐色土。ローム層ブロック少。軟らか。
2．黒褐色土。ローム層ブロック少。軟らか。
3．黒褐色土。ローム層・黒色土ブロック含。

ＳＫ22遺構図　１：40



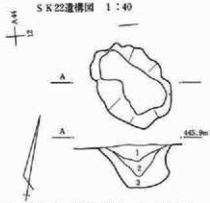
1．暗褐色土。ローム層ブロック少。軟質。
2．黒色土。ローム層ブロックなし。軟質。
3．暗褐色土。黒色土・ローム層ブロック。

ＳＫ23遺構図　１：40



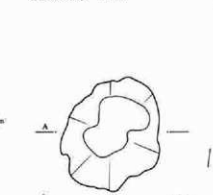
1．黒褐色土ローム層ブロック含む。
2．黒色土。ローム層ブロックなし。軟質。
3．暗褐色土。黒色土・ローム層ブロック。

ＳＫ24遺構図　１：40

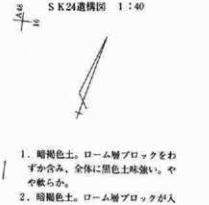


1．暗褐色土。黒色土味強く、ローム層ブロックわずかに入る。
2．暗褐色土。ローム層ブロック入らず、黒色味強い。
3．褐色土。ローム層ブロック多い。

ＳＫ25遺構図　１：40



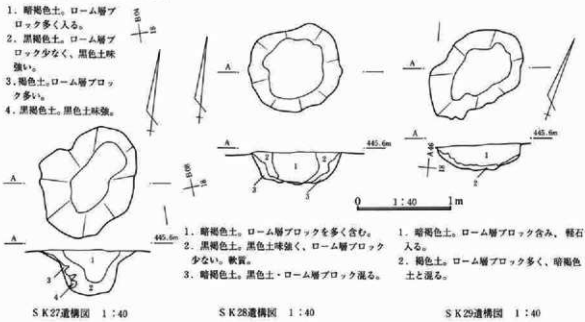
ＳＫ26遺構図　１：40



1．暗褐色土。ローム層ブロックをわずか含み、全体に黒色土味強い。やや軟らか。
2．暗褐色土。ローム層ブロックが入らず、黒色土味強い。全体的にやや軟らか。
3．褐色土。ローム層ブロック多く入るため褐色土味強い。全体的にやや粘性あり。

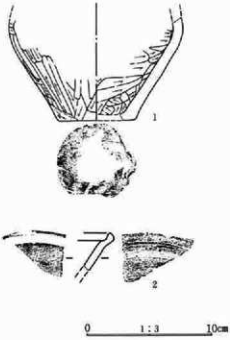
第229図　土壙集成図　ＳＫ20～26

0　1：40　1m



ＳＫ27遺構図　1：40　　ＳＫ28遺構図　1：40　　ＳＫ29遺構図　1：40

第230図　土壙集成図　ＳＫ27～29



第231図　土壙・グリット遺物図

炉　炉跡はＰ１、Ｐ４の間にあり規模は長径68cm、短径36cm、深さ10cmを測る。炉全体は焼土化しているが炉石材の残存はない。

遺物　床面出土の個体に、１・２・４・５・６がある。３は埋土からの出土である。写真照合の結果、１はＰ４の埋土出土でそのほかは床面出土である。

土　　壙

ＳＫ

鎌倉遺跡では全体で約50基の土壙が調査されている。そのうちＳＫ１～３については調査時点で弥生時代と判断されておりＳＫ４～29について年代観は明瞭でなくそれを除き12～30Ａ34～49の間に位置する19基について調査前に存在したリンゴ園のリンゴ植穴（第200図トーンの個所）との所見を得ている。

さ く 遺 構

全体で８群のさく状遺構が検出されている。各群はそれぞれ数条以上の単位と等間隔に近い規則性をもち、その平面観は畑のさく単位のあり方と同様であるため各群とも畑作に伴なうさく痕と見なされる。出土遺物については遺構検出の際、遺構としての扱いを受けていなかったので取り上げられなかった。また整理作業時においても古代以降・中・近世の遺物はなく、さく遺構がどの時代に属すのか明確でない。当地域においては18世紀以降に近世陶磁器の多用段階があり、それと同時に畑中にも多くの陶磁器片の出土を見ている。

そのため検出された8群の遺構について調査担当者の言うつい最近の耕作の跡とする所見も再考の余地を残している。

A群

A群は10～19A29～37までの間に大小合せて9条の溝からなり、長い溝で14mを測る。重複は後のリンゴ苗木植穴が溝を切っているため現リンゴ園よりも先行して溝がある。現在の耕作地地境との関連では第232図のとうりA群の中ほどに地境がある。さらに地境の方向性も現地境がN4°Eを指すのに対しA群の最長溝はN3°Wを測ることができ方向性は異なっている。そのためA群は現耕地区画とは別の所産と考えられる。

B群

B群は32～36A32～41にあり、西半が未調査地に入る。溝は3＋2α条からなり、最長の溝は長さ19.2mを測る。重複遺構はない。現耕作地境との関係は東側に現農道がわずかに重なり、また方向性は西側の現地境と農道とも異なるN6°Eを測るので現耕地区画とは別の所産と考えられる。8群の中で最長の南北走行の溝はこのB群の中にあり、ある程度長い畑地区画が想定される。またB群3条の北縁はN38°Eを指し、C群の南縁走行と近似の方向性にあるB群とC群とが共通した時代の所産にあり、両群との間の巾約6～7m空間は道または空地であったとも考えることができる。

C群

C群は28～35A45～B00にあり、大小合せて5条の溝からなる。長い溝で9.7mを測る。C群は最長の溝の南端に東西方向の溝が重なりさらに北側にも東西溝があるため、2群が重なっているかも知れない。最長の溝はN8°Wを測る。現地境との関連は現農道がC群の上に乗るためC群が先行して存在したと考えられる。

D群

D群は12～18B14～18にあり、3条の溝からなり、東方は未調査地に入る。北側と南側に方向性の異なる小溝があるがD群との関連性は薄いであろう。長い溝で6.5mを測る。現耕作地境との関連は現地境が重複するため直接の関連性はないと考えられる。しかし現地境がN4°WでD群もN4°Wでほぼ同じ方向にある。

E群

E群は20～24B15～18にあり、4条の溝からなり長い溝で8.3mを測る。現地境との関連は直接重複する地境はないが南側地境とE群とは方向性が異なり、異次元の所産であることがわかる。方向性はN80°Eを測る。

F群

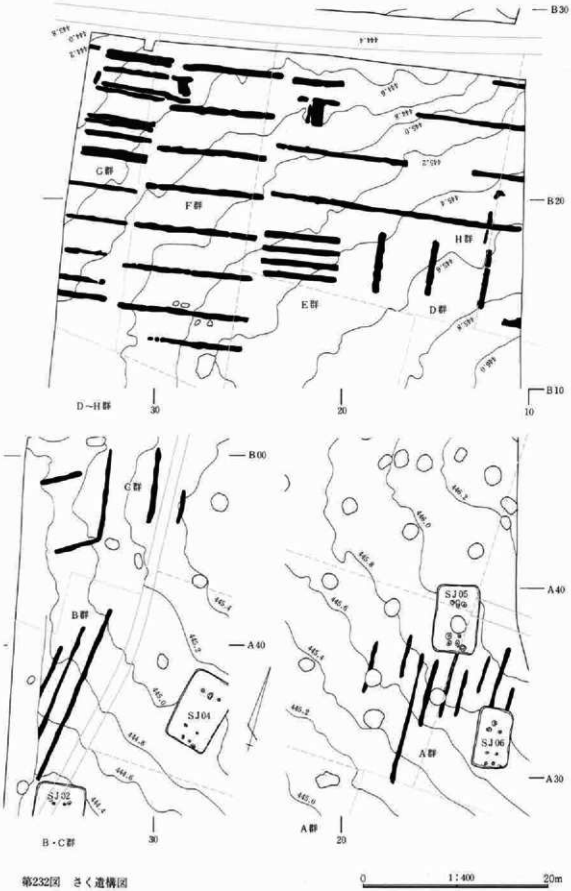
F群は23～31B12～27にあり、大小8条の溝からなり長い溝で14mを測る。現地境との関連は東端側に現地境が重複するため異なった次元の所産であることがわかる。方向性はN80°Eを測りE群・G群の方向性とほぼ一致する。全体単位を測ると東西14m、南北29.8mを測り、それは約50尺、100尺に相当する。

G群

G群は29～35B14～27にある。G群は北側に2条の溝が重複して存在するため2群の重複が考えられる。重複していても溝の長さはほぼ共通するため相互の年代的なひらきは少ないと考えられる。現地境との重複は東側で重なり異なる次元の所産であることがわかる。方向性はN80°Eを測る。またG群全体の単位を測ると東西7.4m、南北26.5mを測り、それは約25尺、90尺に相当する。

H群

H群は10～24B18～26にある。H群は間に溝のない箇所を置くため2群の重複が考えられる。南端の溝の長さは26.8mを測る。現地境との重複は東端で現地境と重複し、異なる次元の所産であることがわかる。H群の方向性はN84°Eを測りE・F・G群とやや方向性を異にする。

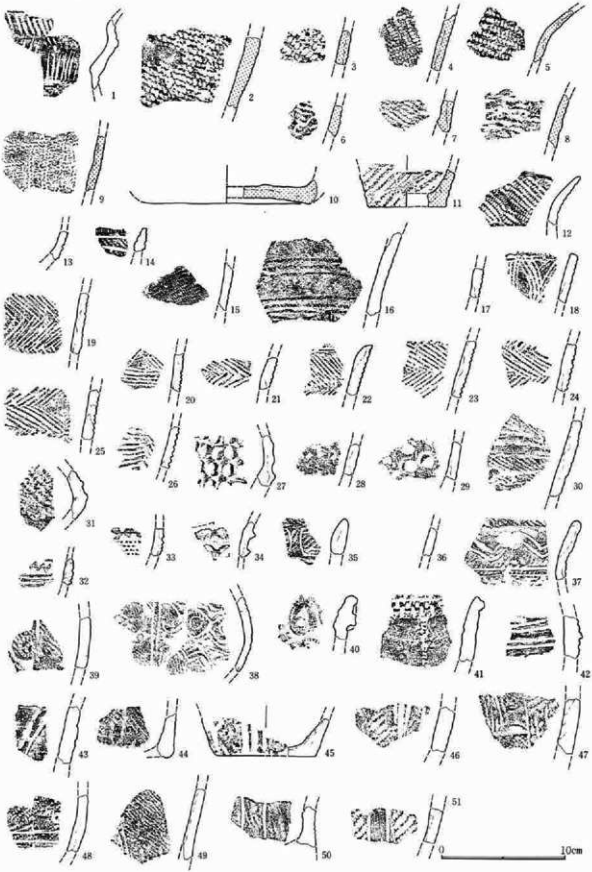

B30
B20
B10
G群
F群
H群
E群
D群
D～H群
30
20
10
B00
C群
B群
A40
SJ04
SJ05
SJ06
SJ02
A群
A30
B・C群
30
A群
20
0
1:400
20m

第232図　さく遺構図

縄 文 土 器

鎌倉遺跡の縄文時代の遺物はすべて破片資料で、出土量は233図に図化掲載した資料の2倍程度である。時期は早期から中期までみられるが、前期の遺物が主体を占めている。以下に概略を述べると、1は内外に「く」状の屈曲をもつ器形で、斜方向及び縦方向の平行沈線を施している。いわゆる早期沈線文系土器である。2～11は、胎土中に繊維を含むもので、2～4・6・7は縄文ＲＬを横位施文しており、5は結節の縄文ＲＬを横位施文している。8は条が波状になっており、付加条である可能性が強い。9は網目状の文様が施文されているが、交差する節が双方共明瞭であり付加条とは考えられず、絡条体Ｌを異方向から2回施文したものと思われる。9・10は底部で、9は上底状を呈し、10は縄文ＬＲを横位施文している。これらは黒浜式と考えられる。12～15は胎土に繊維を含まず縄文を地文するもので、12は外反する口縁部で縄文ＲＬを横位施文し、13・14は縄文ＲＬ施文後、沈線を横位施文し、15は縄文ＲＬを横位施文している。これらは諸磯ａ式と考えられる。16は器面の摩滅が激しいが付線文を数段施しており、諸磯ｂ式である。17～26も胎土に繊維を含まず、器面を条線状の沈線で矢羽根状の文様を施すものであるが、施文具が17～19が櫛状と考えられるのに対し、20～26は半截竹管の腹面を使用したものと考えられ、違いが明瞭である。17～19は諸磯ｃ式、20～26は十三菩提式であろうか。27～29は爪先で押圧したような文様を特徴とするものである。この文様は浮島式や諸磯式にも例があるが、ここでは興津式の範疇で捉えておきたい。30は結節の縄文ＲＬを数段施し、一部に細い粘土紐を鍔状に貼付しており、大木5式と考えられる。31は屈曲する胴部で、半截竹管の腹面を使用した結節付線文を斜方向に施している。32は半截竹管の腹面で施したと考えられる平行沈線と、三角除刻文を上下に施して鋸歯状とした文様で構成されている。33は結節付線文と三角除刻文の両方を施すものであり、31～33は十三菩提式と考えられる。34は粘土紐を横位に貼付し、指先で押圧を施している。35は口縁部で内面に肥厚がみられ、器面は縄文ＲＬ施文後細い沈線で文様施文している。36は非常に硬質に焼成され、器面を研磨後半截竹管の背面使用の沈線及び平行して端部の刺突を施している。37は「く」状に屈曲する口縁部で口唇部は平坦で焼成は36同様堅緻であり、文様は縄文ＲＬ施文後半截竹管の背面で口縁部に波状沈線、頸部に平行沈線を施文し、さらに端部で刺突を施している。縄文は口縁部上端にも施されるのが特徴である。38は縄文ＲＬ縦位施文後半截竹管の背面を使用した結節沈線で渦巻文を施しており、この渦巻文の周囲に三角除刻文がみられる。これらは胎土・焼成から34・35は前期的な、36～38は中期的な感じを受け、文様の点からも中間的な様相を窺えることから十三菩提式と五領ヶ台式の間に位置するものと思われる。39は地文施文後結節沈線で文様施文しており、三角除刻文がみられ胎土の感じが中期的であることから五領ヶ台式と考えられる。40は口縁部の突起で三叉文がみられ、勝坂Ⅰ式と考えられる。41は口縁部に沿って竹管で交互に押圧を施した隆帯を廻らし、結節沈線で文様施文している。また、結節沈線は内面にも一帯施されている。胎土中に雲母はみられないが阿玉台Ⅰａ式と思われる。42・43は隆帯に沿って42が結節沈線、43が沈線を施したもので、阿玉台Ⅱ式である。44は器面に隆帯を垂下後縄文し、Ｒを隆帯上にも縦位施文している。最終末の阿玉台式からみられる技法である。45～50は縄文ＲＬ施文後平行沈線を垂下するもので、加曽利Ｅ２式である。51は平行沈線垂下後縄文ＲＬを充填施文しており、加曽利Ｅ３式である。

以上のように前期後半から中期前半にかけてはほぼ連続した遺物が検出されている。(桜岡正信)



第233図　縄文土器図　1：3

第5篇 遺 物 観 察

第1章 師遺跡

師 ＳＪ01～ＳＪ20

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
8 －1 写11－1	土師器 坏	ＳＪ01 床面	口径 11.3 口縁一部欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	体部外面施削後撫。底部に凹み、内面には放射状研磨あり。	
8 －2 写11－2	土師器 坏	ＳＪ01 埋土	口径 11.8 口縁一部欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面から底部は篦削後撫。内面カセあり。	
8 －3 写11－3	土師器 坏	ＳＪ01 埋土	口径 12.2 ½欠損	夾雑物含。並。明褐。	体部内・外面篦削後撫。底部外面は篦削。	
8 －4 写11－4	土師器 甕	ＳＪ01 床面	口径 (13.3) ¼欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内面に継作痕。体部内・外面には指撫。底部外面は篦削。	穿孔一穴。
8 －5 写11－5	土師器 高 坏	ＳＪ01 床面	口径 15.8 脚・口縁端一部欠	夾雑物多。軟。橙。	体部外面篦削後撫。内面は丁寧な撫。坏底部内・外面に接合痕がある。	
8 －6 写11－6	土師器 高 坏	ＳＪ01 床面	口径 16.7 脚欠損	夾雑物含。軟。橙。	外面上方と内面丁寧な撫あり。外面下方に篦削による調整痕と接合痕がある。	
8 －7 写11－7	土師器 高 坏	ＳＪ01 床面	口径 16.4 脚端・口端一部欠	夾雑物多。軟。橙。	外面篦削後撫と継作痕。坏部内面は篦撫。脚部内面内は粘土絞痕。全体物にカセ荒れている。	
8 －8 写11－8	土師器 高 坏	ＳＪ01 床面	口径 16.8 脚端・口端一部欠	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面篦削後篦撫。坏部内面刷毛目・脚部内面は指による撫あり。	胎土Ｂ。
10 －1 写39－2	鉄製品 鎌	ＳＪ02 埋土	最大幅 4.5 11.5ｇ	平の中央に一孔あり、茎部は調査後の欠損。側部の稜部は甘く、顕著な研出であったとは思えない。		
10 －2 写39－3	石製品 砥 石	ＳＪ02 埋土	最大幅 7.65 196.6ｇ	裏面と上半を欠く。四半欠品で、側口は旧時である。表面に刃なら し傷あり。		流紋岩。
10 －3 写11－3	土師器 壺	ＳＪ02 埋土	口径 12.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部外面横撫。体部内・外面は篦撫。底部外面篦削。	
10 －4	土師器 坏	ＳＪ02 埋土	口径 (11.2) ¾欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面横撫。体部内・外面は撫。底部外面篦削。	胎土Ｂ。
10 －5 写11－5	土師器 坏	ＳＪ02 貯蔵穴	口径 13.8 ¾欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面横撫。体部外面撫。内面放射状研磨が施され、底部外面は篦削。	外面煤。 胎土Ｂ。
11 －6 写11－6	土師器 小形甕	ＳＪ02 埋土	口径 (17.2) ¾欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫。内面には篦削がある。	内・外面煤。
10 －7 写11－7	土師器 甕	ＳＪ02 貯蔵穴	口径 17.2 体部以下欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫後頸部篦撫を施す。頸部に接合痕あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
10 －8 写11－8	土師器 甕	ＳＪ02 貯蔵穴	口径 18.2 体部以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫後頸部に施撫を施す。頸部接合痕あり。	
11 －9 写11－9	土師器 高　杯	ＳＪ02 床面	口径 16.0 ¼欠損	夾雑物含。軟。橙。	内・外面の全体がカセているため脚整形が不明瞭である。脚部内面は指撫。	
11 －10 写11－10	土師器 甑	ＳＪ02 理土	口径 (26.8) ¼欠損	夾雑物多。並。明黄褐。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削と篦撫がある。底部内・外面篦削。	穿孔一穴。
13 －1 写40－9	土師質 粘度塊	ＳＪ03 理土	長6.5　厚2.8 完形	夾雑物多。並。にぶい橙。	手捏ねた粘度塊で、図断面左側に薄いすき間があり、小形粗整土師器を作る際に押しつぶした物か。表面に指圧痕あり。	
13 －2 写40－2	土師器 坏	ＳＪ03 理土	口径 (3.3) ¼欠損	夾雑物多。軟。橙。	小形粗整土師器。体部外面に粘土塊を板にし、それを成形する際に生じた捏合目痕。口縁部内・外に横撫あり。	
13 －3 写40－4	土師器 甑	ＳＪ03 理土	口径 8.4 口縁一部欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	小形粗製土師器。底部に穿穴一あり。口縁部の先端はやや尖る。	
13 －4 写40－7	土師器 壺	ＳＪ03 床面	器高 5.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	小形粗製土師器。体部の内・外面に絞作痕あり。体部外面に撫撫あり。	
13 －5 写40－10	土師器 鬲	ＳＪ03 床面	長口 9.1 口縁小欠あり	夾雑物多。並。浅黄橙。	小形粗製土師器。全面に指頭圧痕あり。全体の成形は丁寧である。	
13 －6 写41－8	土師質 不　明	ＳＪ03 床面	残存長 8.7 ¼以上欠損	夾雑物含。並。橙。	用途不明の土製品で、わずか被熱されている。全面に荒い撫あり。割は旧時である。	
13 －7 写40－5	土師質 支　脚	ＳＪ03 理土	最大径 5.2 大欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	竈用の土製支脚で、部分的に製作時の襞あり(乾燥時のヨレ)。被熱。欠損部は旧時。	
13 －8 写40－3	土師質 支　脚	ＳＪ03 理土	最大径 7.0 大欠損	夾雑物多。並。橙。	端部に指頭圧痕あり。その上方にヨレの襞あり。被熱。欠損は旧時。全体に滑らかである。	
13 －9 写40－2	土師質 支　脚	ＳＪ03 理土	残存高 (8.0) 脚端・上部欠損	夾雑物多。軟。黄橙。	高坏の脚部の転用。内面に絞作痕と指頭圧痕あり。全体的に被熱を受けるが羽口の様に高熱ではない。旧時欠損。	
13 －10	須恵器 短頸壺	ＳＪ03 理土	最大径 (15.5) 体部片	夾雑物含。硬。暗灰。	大形短頸壺の体部片で、内面に浅い轆轤目あり。外面は撫。後代の台付短頸壺ではなく、古墳時代の器形。	
14 －11 写12－11	土師器 坏	ＳＪ03 理土	口径 10.3 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。黒褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削があり、内面に撫と篦当痕。口縁部内面に浅い横あり。	内・外面に撫。
14 －12 写12－12	土師器 坏	ＳＪ03 竈・理	口径 (12.0) ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり、内面に篦研磨がある。	黒色処理。
14 －13 写12－13	土師器 坏	ＳＪ03 床面	口径 12.2 口縁部¼欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり、内面に篦研磨がある。	黒色処理。 外面黒塊。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 日(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と損要		備考
14 −14 写12−14	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり、内面に撫あり。	内・外面に煤。
14 −15 写12−15	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり、内面に篦研磨あり。	内・外面に煤。
14 −16 写12−16	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.4 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。黒褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり、内面わずかに研磨あり。	外面黒炭。内面横。
14 −17 写12−17	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削。内面に篦削研磨あり。	内面黒色処理。 底部外面黒炭。
14 −18 写12−18	土師器 坏	S J 03 床面	口径 13.0 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削と渦ハゼ。内面篦研磨あり。	内面黒色処理。
14 −19 写12−19	土師器 坏	S J 03 床面	口径 13.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削。内面に篦による撫あり。	
14 −20 写12−20	土師器 坏	S J 03 床面	口径 13.8 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削。内面篦撫あり。	内面黒色処理。外面煤。
14 −21 写12−21	土師器 坏	S J 03 床面	口径 14.2 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨あり。体部外面篦削が施されている。	内面黒色処理。外面煤。
14 −22 写12−22	土師器 坏	S J 03 規・床	口径 14.8 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦削後横撫。体部外面篦削、内面に篦研磨あり。	内面黒色処理。 外面黒炭。
14 −23 写12−23	土師器 坏	S J 03 床面	口径 14.5 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫・外面に紐作痕あり。体部外面篦削、内面篦撫と篦当痕。	内・外面煤。
14 −24 写12−24	土師器 坏	S J 03 床面	口径 14.5 完器	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫・外面に紐作痕。体部外面篦削、内面篦当と篦撫あり。	内・外面煤。
14 −25 写12−25	土師器 坏	S J 03 規・床	口径 11.5 完器	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨。体部外面篦削、内面に丁寧な篦研磨あり。	内面黒色処理。
14 −26 写12−26	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.0 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨。体部外面篦削、内面に丁寧な篦研磨がある。	内面黒色処理。平底。
14 −27 写12−27	土師器 高 坏	S J 03 床面	脚端 11.2 脚端一部・坏部欠	夾雑物多。軟。橙。	外面篦削後横撫。脚部接合痕。内面篦削後撫調整を施し脚端部に横撫あり。	
14 −28 写12−28	土師器 小形壺	S J 03 規・床	口径 12.5 体部一部欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削後撫。外面に紐作痕が見える。	内・外面煤。
14 −29 写12−29	土師器 鉢	S J 03 床面	口径 18.0 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、内面に接合・篦当・硝毛目痕あり。	平底本葉痕。外面煤。
14 −30 写12−30	土師器 鉢	S J 03 床面	口径 20.0 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削、内面に篦撫と篦当痕がある。	内・外面煤。平底。
14 −31 写12−31	土師器 鉢	S J 03 床面	口径 21.5 胴部一部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、内面丁寧な撫。底面に篦痕あり。	体部煤。平底。
15 −32 写12−32	土師器 小形壺	S J 03 床面	口径 9.3 口縁部ヶ欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部外面横撫、体部内・外面に篦研磨。底面は手持ち篦削がある。平底。	内面黒色処理。 内・外面煤。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
15 －33 写13－33	土師器 小形甕	S J 03 床面	口径 13.4 体部一部欠損	夾雑物多。硬。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面蛇腹後撫。内面に絞作痕と蛇当痕と蛇腹あり。	平底木葉痕。
15 －34 写13－34	土師器 小形甕	S J 03 床面	口径 13.6 口縁部一部欠損	夾雑物多。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面蛇腹後丁寧な撫と絞作痕が明瞭である。	内・外面横。平底で凹。
15 －35 写13－35	土師器 小形甕	S J 03 床面	器高 14.2 口縁部与欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面縦横方向の蛇腹、内面蛇腹後撫、絞作痕あり。	底部黒斑と平底。
15 －36 写13－36	土師器 甑	S J 03 埋土	器高 11.7 体部与欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面蛇腹後撫。内面蛇当痕と絞作痕が明瞭。	内・外面横。穿孔一穴。
15 －37 写13－37	土師器 甑	S J 03 床面	口径 20.5 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面蛇腹、内面蛇腹、蛇当痕と絞作痕がある。	底部黒斑。穿孔一穴。
15 －38 写13－38	土師器 甑	S J 03 床面	口径 24.0 口縁与欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面蛇腹。体部外面蛇腹、内面は丁寧に棒状様工具で研磨あり。	内・外面横。甑穴一。
15 －39 写13－39	土師器 壺	S J 03 竈	底径 6.2 体部下半以上欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	体部外面蛇腹後丁寧な撫、内面蛇腹、蛇当痕、絞作痕が明瞭に残っている。	内・外面横。平底。
16 －40 写13－40	土師器 甑	S J 03 床面	口径 22.3 口縁部与欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面絞作痕明瞭、内面丁寧な撫後棒状工具で研磨。	外面煤付着。甑穴一。
16 －41 写14－41	土師器 甑	S J 03 床面	口径 28.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面絞作痕明瞭、下半蛇腹。内面丁寧な撫。	外面煤付着、黒斑。甑穴一。
16 －42 写14－42	土師器 長　甕	S J 03 床面	口径 17.8 口縁一部、底部欠	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面撫後刷毛撫、絞作痕。底部内面蛇腹明瞭。	外面黒斑。
17 －43 写15－43	土師器 長　甕	S J 03 床面	口径 19.3 口縁・胴部一部欠	夾雑物。並。淡橙。	口縁部内・外面横撫。外面絞作痕、刷毛調整、蛇当痕。内面接合痕あり。	内・外面横。外面黒斑。
17 －44 写13－44	土師器 甕	S J 03 床面	口径 18.6 口縁部与欠損	夾雑物含。並。浅橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面蛇腹、下部に波ハゼ。内面刷毛調製、蛇腹。	外面煤。平底。
17 －45 写14－45	土師器 甕	S J 03 床面	口径 20.2 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面絞作痕。体部内・外面丁寧な撫と蛇当痕がある。	外面煤付着。平底木葉痕。
18 －46 写15－46	土師器 甕	S J 03 床面	口径 22.0 完器	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁内・外面横撫。体部外面絞作痕。内面丁寧な撫。底部蛇腹。平底。	体部外面煤付着。内・外面横。
18 －47 写14－47	短頸壺 底部	S J 03 床面	口径 15.7 完器	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面指おさえ後撫、頸部内面絞作痕。体部外面前後撫、内面指撫明瞭。	体部外面煤付着。丸底ぎみ。
18 －48 写15－48	土師器 長　甕	S J 03 床面	最大径 23.0 口縁部ほとんど欠	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面胴後撫内面波ハゼ。絞作痕。底部削。	丸底ぎみ。
20 －1 写15－1	土師器 坏	S J 04 埋土	口径 12.0 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に蛇腹、体部内面に蛇研磨がある。	黒色処理。外面黒斑。
20 －2 写15－2	土師器 坏	S J 04 床面	口径 13.5 口縁一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に蛇撫、下方に指頭圧痕。内面に蛇研磨。	黒色処理。平底。
21 －3 写15－3	土師器 高　坏	S J 04 埋土	口径 (17.6) 与欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面、脚部下方に横撫。坏部外面に蛇腹。内面に蛇研磨と蛇撫がある。	黒色処理。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
21 －4	土師器 甕	SJ04 覆	口径 (25.5) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面と内面に撫がある。	
21 －5 写15－5	土師器 甕	SJ04 埋土	口径 (20.7) 口縁～体部片	夾雑物多。並。橙。	体部外面に篦撫あり。口縁部内面には横撫。体部には篦当痕がある。	
21 －6 写15－6	土師器 甕	SJ04 床面	口径 (17.8) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦撫あり。	
21 －7 写15－7	土師器 甕	SJ04 埋土	口径 (25.5) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に接合痕と篦削が見られる。	内面撫。
23 －1	土師器 坏	SJ05 埋土	体部片	夾雑物微。並。橙。	体部内・外面に撫が見られる。口縁部端旧時欠損。	
23 －2	土師器 坏	SJ05 埋土	口径 (11.0) 口縁部片	夾雑物微。並。橙。	体部内面に粘土紐作痕が、外面に撫がある。	
23 －3	土師器 鉢	SJ05 埋土	残存高 6.0 体部片	夾雑物含。並。橙。	体部外面に撫あり。体部内面に紐作痕あり。	
23 －4 写15－4	土師器 高 坏	SJ05 覆	口径 19.6 1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	外面に横撫・紐作・篦削。内面に横撫・放射状研磨。脚内面に紐作・篦削。	
23 －5 写15－5	土師器 高 坏	SJ05 床面	器高 17.3 口縁部1/4欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部～脚部外面に篦研磨あり。口縁部内面に篦研磨・脚部に巻上痕あり。	黒色処理が二次的に赤変。
23 －6 写16－6	土師器 甕	SJ05 床面	器高 25.8 口縁1/2欠損	夾雑物微。硬。灰赤。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦撫あり。体部内に篦撫・篦当あり。	外面黒斑。内面撫。平底。
24 －7 写16－7	土師器 甕	SJ05 床面	器高 32.4 口縁～体上1/2欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦撫・篦削あり。体部内面紐作痕あり。	内・外面撫。平底。
26 －1	土師器 小形甕	SJ07 埋土	口径 (15.2) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部内・外面に撫が見られる。	外面撫。
26 －2	土師器 小形甕	SJ07 埋土	口径 (13.8) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部内面に撫が見られる。1と は別個体。	
26 －3	土師器 甕	SJ07 埋土	体部片	夾雑物微。並。にぶい黄橙。	体部外面に刷毛状工具による刷毛目がある。	
28 －1 写16－1	土師器 壺	SJ08 床面	口径 10.9 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方に凍ハゼが下方に篦削、内面に篦研磨。	外面黒斑。粘土B。
28 －2 写16－2	土師器 坏	SJ08 埋土	口径 16.0 口縁1/4欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に篦削、内面に篦撫後篦研磨あり。	黒色処理。
28 －3 写16－3	土師器 高 坏	SJ08 床面	脚端径 14.6 坏・脚端部1/4欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	脚端部内・外面に横撫。脚部外面下方に指頭圧痕、内面に篦撫と紐作痕。	
28 －4 写16－4	土師器 高 坏	SJ08 床面	残存高 13.9 坏・脚端部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚部外面摩耗しているため篦整形不明瞭。内面篦削後篦撫。	黒色処理。
28 －5 写16－5	土師器 短頸壺	SJ08 貯蔵穴	最大径 (17.9) 口縁・体部一部欠	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に篦削後篦撫。凍ハゼ。内面に篦撫、篦当痕。	平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
28　－6 写16－6	土師器 甕	S J 08 床面	最大径　(25.5) 口縁と体部½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面に篦撫後研磨、篦当痕あり。内面に篦撫と篦当痕が頸部に継作痕。	外面煤。 平底。
30　－1 写16－1	土師器 坏	S J 09 床面	口径　13.1 口縁端部欠損	夾雑物微。並。明褐。	口縁部内・外面横撫。外面篦削。内面篦撫後篦研磨を施す。	胎土B。
30　－2 写16－2	土師器 坏	S J 09 床面	口径　12.1 口縁½欠損	夾雑物微。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。外面上方粘土合目痕。下方篦削。内面篦撫。	平底本葉痕。
30　－3 写16－3	土師器 椀	S J 09 床面	口径　12.8 底・口縁一部欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	外面口縁下地に目刷毛整形。体部内・外面撫。粘土合目痕。底部凹ハゼ。	胎土B。
30　－4 写16－4	土師器 高　坏	S J 09 床面	口径　13.3 脚端・坏½欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。外面および坏・脚内面共に篦削。脚・坏部に継作痕。	胎土B。
30　－5 写16－5	土師器 高坏か	S J 09 床面	脚端径　10.4 坏部欠損	夾雑物微。軟。橙。	外面および脚内面篦による撫と接合痕がある。脚部の横撫不明瞭。	胎土B。
30　－6 写16－6	土師器 壺類か	S J 09 床面	口径　10.4 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面撫。底部外面篦削。内面刷毛撫。	
30　－7 写17－7	土師器 小形甕	S J 09 床面	口径　14.2 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部内・外指頭圧痕。体部外面刷毛目。内面放射状研磨。底部外面篦撫。	内面煤。 平底。
30　－8 写17－8	土師器 小形甕	S J 09 埋土	口径　14.0 ¼欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫。体部外面篦削刷毛目。内面撫。底部内・外面は篦削。	平底。
30　－9 写17－9	土師器 甕	S J 09 床面	口径　18.0 頸部下半欠損	夾雑物含。並。淡黄。	口縁部内・外面横撫後、外面口縁に模様を意識した刷毛撫あり。内面指頭痕。	
30　－10 写17－10	土師器 甕	S J 09 床面	口径　18.1 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫後、体部外面に刷毛撫。内面は篦削がなされる。	
30　－11 写17－11	土師器 甕	S J 09 竈	最大径　28.8 口縁と体部½欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	体部外面に篦撫。刷毛状工具による撫。下方に篦削。内面に篦撫あり。	外面煤。 平底。
31　－12 写17－12	土師器 壺	S J 09 貯・雑	口径　15.0 体部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面撫。内面継作痕あり。	内・外面煤。
31　－13 写17－13	土師器 甕	S J 09 床面	口径　21.2 体部わずか欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁内・外面横撫。体部外面頸部内面刷毛目・撫。体部下半内・外面篦削。	外面煤付着。 平底。
31　－14 写18－14	土師器 大　甕	S J 09 床面	口径　23.2 体部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部内・外面共に篦削後撫を施すが全体に肌荒れで整形不明。	外面煤。
32　－15 写18－15	土師器 甑	S J 09 埋土	口径　14.6 ¼欠損	夾雑物含。軟。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方と内面は篦削後撫。下方から底部は篦削。	甑穴一。
32　－16 写18－16	土師器 横瓶形	S J 09 床面	最大径　16.2 ½欠損・口縁なし	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面篦削後撫。内面指整形による掻落と圧痕あり。外面底部篦削。	
32　－17 写18－17	土師器 坩	S J 09 床面	口径　9.2 胴一部欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面篦研磨を施す。体部内面下方篦撫。上方指の整形痕。	胎土B。
32　－18 写17－18	土師器 甕	S J 09 竈	口径　22.8 ¼欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫後刷毛撫。口縁部内面横撫後体部篦撫。底部外面篦削。	内・外面煤。 平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	法 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
32 −19 写19−19	土師器 甑	S J 09 床面	口径 21.5 1/2欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面刷毛撫。内面撫後篦研磨。底部外面下方に篦削。	甑穴一。
32 −20 写18−20	土師器 甕	S J 09 埋土	口径 (24.0) 口縁・体部1/4欠損	夾雑物含。並。灰白。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削、内面に篦当痕あり。	
34 −1 写19−1	土師器 高 坏	S J 10	脚端径 12.1 坏部・脚端欠損	夾雑物多。並。橙。	脚部内・外面上方篦削後篦撫による篦当痕があり。下方は内・外面横撫。	
36 −1 写41−3	灰釉陶 壺	S J 11 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物なし。緻。淡灰。	体部外面轆轤目あり。内・外面施釉。刷毛塗。	
36 −2 写41−1	灰釉陶 壺	S J 11 埋土	口縁部片	夾雑物なし。緻。淡灰。	内・外面施釉。口縁端部外方に尖る。器肉調整極めて薄い。	
36 −3 写41−9	須恵器 瓶	S J 11 埋土	体部片	夾雑物微。緻。暗灰褐。	内・外面に轆轤目あり。外面上方に自然釉付着。	県外からの搬入製品か。
36 −4 写19−4	須恵器 坏	S J 11 床面	口径 13.3 1/2欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	内・外面摩耗しているため整形不明瞭。底面不定方向の篦調整。	
36 −5 写19−5	須恵器 壺	S J 11 床面	口径 (14.5) 1/2欠損	夾雑物多。軟。橙。	体部内・外面摩耗。外面に弱い轆轤目あり。底部篦調整。付高台。	
36 −6 写19−6	須恵器 壺	S J 11 貯蔵穴	口径 15.7 体部1/4欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	体部外面に轆轤目あり。内面摩耗している。底部回転糸切。右回転。付高台。	燒。
36 −7 写19−7	須恵器 羽 釜	S J 11 竈	最大径 (19.4) 体部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	体部外面に篦削あり。鍔は貼付。内面に紐作痕あり。	燒。
38 −1 写19−1	土師器 坏	S J 12 床面	口径 13.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり。体部内面に研磨あり。	黒色処理。
38 −2 写19−2	土師器 坏	S J 12 床面	口径 14.0 1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削あり。	
38 −3 写20−3	土師器 高 坏	S J 12 床面	口径 13.4 脚端部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁部内面全体に研磨あり。	黒色処理。
38 −4 写19−4	土師器 高 坏	S J 12 床面	口径 11.8 脚端部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。脚部外面に研磨あり。脚部内面に接合痕あり。	黒色処理。
38 −5 写20−5	土師器 小形甕	S J 12 床面	口径 16.0 口縁～頸部欠損	夾雑物多。並。灰白。	体部内・外面に絞作痕あり。体部外面に弱い篦削痕あり。	体部外面黒斑。平底。
38 −6 写19−6	土師器 短頸壺	S J 12 床面	口径 (15.5) 1/2欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削痕あり。体部内面に篦当痕あり。	内・外面燒。平底。
38 −7 写20−7	土師器 甕	S J 12 床面	口径 21.5 体部～底部欠損	夾雑物多。硬。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に篦撫あり。	内・外面燒。
39 −8 写19−8	土師器 甕	S J 12 床面	口径 20.6 底小欠あり	夾雑物多。並。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削後篦撫痕あり。	外面煤付着。
41 −1 写20−1	土師器 台付甕	S J 13 埋土	脚端径 8.4 1/4欠損	夾雑物微。並。橙。	体部内・外面に篦撫あり。脚部外面に脚部の接合痕あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
41 －2 写20－2	土師器 小形甕	S J 13 床面	口径 (11.0) 与欠損	夾雑物含。並。におい赤褐。	口縁部指頭圧痕。体部外面に篦撫と篦傷および接合痕、内面に篦撫あり。	内面に煤。
41 －3 写20－3	土師器 甕	S J 13 埋土	口径 16.7 与欠損	夾雑物含。軟。におい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に篦削、内面に篦撫と篦当痕あり。	
41 －4 写20－4	土師器 甕	S J 13 床面	最大径 24.0 上半欠損	夾雑物含。軟。淺黄橙。	体部内・外面に篦撫と縦作痕あり。底部篦削後撫あり。	平底。
43 －1	土師器 坏	S J 14 埋土	口径 (13.9) 口縁部片	夾雑物含。並。におい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部上方篦削後撫あり。	
45 －1 写20－1	土師器 坏	S J 15 覆	口径 (18.3) 与欠損	夾雑物含。軟。におい赤褐。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削、内面に篦撫と篦当痕あり。	内・外面煤。
45 －2 写20－2	土師器 坏	S J 15 床面	口径 (13.3) 与欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削後撫、内面に篦研磨あり。	胎土B。
45 －3 写40－1	土師質 支脚	S J 15 埋土	最大径 (6.2)	夾雑物含。並。淺黄橙。	外面は被熱によりカセている。内面に紐作痕と指の圧痕あり。	内面煤。
45 －4 写20－4	土師器 甕	S J 15 床面	口径 (21.2) 下半欠損	夾雑物含。硬。におい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削後撫。内面篦撫と篦当痕あり。	内・外面煤。
45 －5 写20－5	土師器 甕	S J 15 床面	最大径 21.7 体部片	夾雑物含。硬。灰赤。	体部外面上方に篦削後撫、下方に篦削。体部内面に篦撫と篦当痕及接合痕あり。	外面煤。丸底ぎみ。
47 －1 写40－8	土師器 小形壺	S J 16 埋土	最大径 (4.6) 与欠損	夾雑物微。並。淺黄橙。	小形粗製土師器で、内・外面に指痕あり。底面は平底。	
47 －2 写21－2	土師器 坏	S J 16 床面	口径 (10.8) 与欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。外面に篦撫・篦削痕あり。内面に篦研磨あり。	外面黒斑。
47 －3 写21－3	土師器 坏	S J 16 床面	口径 13.0 与欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に篦撫あり。外面に篦当痕あり。	
47 －4 写21－4	土師器 小形甕	S J 16 床面	口径 12.7 体部与欠損	夾雑物含。並。淡黄橙。	口縁部外面に横撫・篦撫あり。体部外面に研磨あり。体部内面に篦当痕あり。	外面煤。 平底。
47 －5 写21－5	土師器 小形甕	S J 16 床面	口径 (15.2) 口縁～体部与欠損	夾雑物含。並。赤橙。	体部外面に刷毛撫・篦調整あり。体部内面に篦撫・篦当痕あり。	内・外面煤。
47 －6 写21－6	土師器 甕	S J 16 埋土	残存高 12.3 口縁～体部欠損	夾雑物多。並。灰赤。	底部外面に刷毛撫あり。底部内面に篦撫・篦当痕あり。	内・外面煤。
48 －7 写21－7	土師器 甕	S J 16 床面	口径 (17.6) 体～底部欠損	夾雑物含。並。灰赤。	口縁部外面に横撫・刷毛目痕あり。口縁部内面に篦撫あり。	内・外面煤。
48 －8 写21－8	土師器 甕	S J 16 埋土	口径 16.0 体～底部欠損	夾雑物含。並。淺黄橙。	口縁～体部外面にかけて刷毛目痕あり。体部内面に縦作・指頭圧痕あり。	内・外面煤。
48 －9 写21－9	土師器 甕	S J 16 床面	口径 (19.7) 口縁与欠損	夾雑物含。並。灰赤。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面刷毛目痕あり。体部内面篦当痕あり。	内・外面煤。 刷毛目２種。平底。
48 －10 写21－10	土師器 甕	S J 16 床面	残存高 17.8 口～体部欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面に刷毛目・篦磨あり。体部内面に指頭圧・篦当・接合痕あり。	内・外面煤。 平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
48 －11 写21－11	土師器 甕	ＳＪ16 床面	口径 (19.5) 上半弓欠損	夾雑物含。並。淡赤橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に刷毛撫あり。底部内面に篦削あり。	内・外面煤。 甑穴一。
50 －1	須恵器 蓋	ＳＪ17 埋土	最大径 8.1 底部片	夾雑物含。硬。暗灰。	底部の粘土板片で大形蓋の底部片または小形瓷物の底部。内面コテの轆轤目あり。	轆轤左回転。
50 －2 写40－5	土師器 坏	ＳＪ17 埋土	口径 4.9 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	小形椀製土師器。外面に指圧痕と粘土のヨレあり。	外面煤。
50 －3 写22－3	土師器 坏	ＳＪ17 床面	口径 10.8 口縁部一部欠損	夾雑物微。並。明褐灰。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に篦削後撫あり。	
50 －4	土師器 坏	ＳＪ17 埋土	口径 (11.0) 弓欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削。内面に撫あり。	内・外面に煤。
50 －5 写22－5	土師器 坏	ＳＪ17 埋土	口径 (13.6) 弓欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に施調整あり。外面全体カセている。	黒色処理。
50 －6	土師器 坏	ＳＪ17 埋土	口径 (13.0) 口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削後撫、内面撫あり。	
50 －7 写22－7	土師器 小形甕	ＳＪ17 埋土	口径 (18.0) 弓欠損	夾雑物含。並。淡黄。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削と補作痕があり、内面篦削後撫撫あり。	内・外面に煤。
50 －8 写22－8	土師器 台付甕	ＳＪ17 埋土	脚端径 7.8 上半部欠損	夾雑物微。並。にぶい赤褐。	体部外面篦削、内面篦削後撫。脚部内・外面に横撫。外面凍ハゼあり。	

ＳＪ21～ＳＪ40

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
53 －1 写22－1	須恵器 坏	ＳＪ21 埋土	口径 (13.8) 弓欠損	夾雑物微。硬。明褐灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部左回転糸切あり。	
55 －1 写41－6	須恵器 蓋	ＳＪ22 埋土	体部片	夾雑物含。硬。暗青灰。	蓋の体部中位の破片で、内面に轆轤目、外面に列点刺突文あり。さらにその下方に２条の沈線があり、その間が浅い段帯となる。	在地性須恵器。
55 －2 写22－2	土師器 坏	ＳＪ22 埋土	口径 13.0 弓欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面下方に篦削、内面撫撫。全体にカセている。	
55 －3 写22－3	土師器 坏	ＳＪ22 床面	口径 14.2 口縁一部欠損	夾雑物微。軟。橙。	体部外面に篦削、内面に篦研磨あり。全体にカセている。	
55 －4 写22－4	土師器 坏	ＳＪ22 埋土	口径 14.5 弓欠損	夾雑物微。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部上方粘土合目痕、下方篦削。内面篦研磨あり。	
55 －5 写22－5	土師器 甕	ＳＪ22 竈	最大径 15.6 上半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面下方篦削。底部粘土のめくれあり。内面撫撫と篦当痕あり。	平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
55 －6 写22－6	土師器 甕	S J 22 竈	最大径　20.4 上半欠損	夾雑物多。並。にぶい褐。	体部外面下方施削および施撫あり。内面施撫あり。
56 －7 写22－7	土師器 甑	S J 22 床面	口径　22.5 口縁部一部欠損	夾雑物含。並。明灰褐。	口縁部内・外面横撫あり、体部内・外面施削後施撫。内面下方施削あり。	甑穴一。
58 －1 写22－1	土師器 坏	S J 23 竈	口径　13.8 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削、内面施研磨あり。	黒色処理。
58 －2 写22－2	土師器 坏	S J 23 埋土	口径　13.0 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削があり、内面施研磨あり。	黒色処理。
58 －3 写22－3	土師器 甕	S J 23 床面	最大径　29.6 口縁及下半欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	頸部内・外面横撫。体部外面上方撫と絃作痕、内面施撫。粘土のめくれあり。	
63 －1 写23－1	土師器 坏	S J 27 竈	口径　11.7 1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に施削、内面に研磨あり。	糠。
63 －2 写23－2	土師器 甕	S J 27 竈	口径　15.4 口縁部欠損	夾雑物含。並。にぶい赤褐。	口縁部内・外面に横撫、外面に施偽あり。体部外面施撫、内面下方に施偽あり。	平底。
63 －3 写23－3	土師器 甕	S J 27 竈	器高　30.9 口縁から頸部1/4欠	夾雑物多。並。にぶい褐。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面に施撫と施偽がある。	木葉痕。 平底。
65 －1 写23－1	須恵器 坏	S J 28 埋土	口径　(11.7) 1/4欠損	夾雑物含。軟。にぶい黄橙。	内・外面に轆轤目あり。底部回転糸切。右回転。	
65 －2 写23－2	須恵器 坏	S J 28 埋土	口径　13.0 1/4欠損	夾雑物含。並。灰白。	外面に強い轆轤目、内面に弱い轆轤目あり。体部内面と底部に凍ハゼあり。	
67 －1 写23－1	土師器 高　坏	S J 29 西P	口径　(19.3) 坏列・脚部欠損	夾雑物含。並。橙。	坏部内・外面に接合痕。坏部外面下方に施削、内面上方に粘土めくれ痕あり。	
67 －2 写23－2	土師器 高　坏	S J 29 埋土	残存高　11.4 坏・脚端部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	脚部外面研磨、下方横撫後研磨。内面、下方施削、刷毛状工具の撫。絃作痕。	
69 －1 写23－1	須恵器 蓋	S J 30 埋土	口径　12.6 完器	夾雑物多。並。明オリーブ灰。	体部外面上方に回転施削、内面轆轤目あり。轆轤右回転。	
69 －2 写23－2	須恵器 蓋	S J 30 埋土	口径　16.2 口縁欠損	夾雑物含。並。灰。	体部外面上方に回転施削、内面に不定方向の撫。轆轤右回転。	
69 －3 写41－試627	須恵器 蓋	S J 30 埋土	口径　17.5 口縁欠損	夾雑物含。並。灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。外面上方に回転施削。轆轤左回転。	胎土分析番号627。
69 －4	須恵器 中形甕	S J 30 埋土	残存高　20.5 口縁・体部3/4欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面平行叩目あり。その後撫。内面に青海波の当目あり。	
69 －5 写23－5	土師器 坏	S J 30 埋土	口径　(15.1) 口縁2・体部1/4欠	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面施削、内面撫。	
69 －6 写23－6	土師器 坏	S J 30 床面	口径　13.6 口縁部一部欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面粘土捏合目痕、施撫と施削。内面に施撫。	糠。 平底。
69 －7 写23－7	土師器 坏	S J 30 床面	口径　(16.2) 1/4欠損	夾雑物多。並。にぶい赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面施撫、粘土捏合目痕。内面摩耗研磨不明瞭。	黒色処理。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
69 －8 写23－8	土師器 高 坏	S J 30 床面	脚端径 11.5 坏・脚端部一部欠	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁端部内・外面に横撫あり。脚部内・外面に篦撫あり。
69 －9 写23－9	土師器 甑	S J 30 埋土	口径 (14.0) ½欠損	夾雑物多。軟。明黄褐。	体部外面摩耗しているため整形不明瞭。内面に篦撫と篦当痕あり。	穿孔一穴。黒斑。
69 －10 写23－10	土師器 短頸壺	S J 30 床面	口径 (13.2) ½欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面粘土接合目痕あり。内面篦撫。
69 －11 写23－11	土師器 短頸壺	S J 30 埋土	口径 (14.2) 口縁⅓・体部⅓欠	夾雑物多。軟。橙。	体部外面摩耗しているため整形不明瞭。焼ハゼあり。内面撫撫と篦当痕あり。
69 －12 写23－12	土師器 甕	S J 30 床面	最大径 20.3 体部上半以上欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面篦削、撫撫あり。内面に篦撫、紐作痕と全体的に凍ハゼあり。	平底。
71 －1 写40－6	土師質 支 脚	S J 31 埋土	最大径 8.2 大欠損	夾雑物含。並。橙。	外面に指頭圧痕と粘土のヨレあり。小口面に凹あり。
71 －2 写39－4	石製品 砥 石	S J 31 埋土	最大幅 7.7 91.7 g	表・裏面に使用痕あり。側部・小口面に草石面あり。このため自然の利用砥。図平面の左側に使用の凹あり。	多孔質安山岩。
71 －3 写24－3	土師器 坏	S J 31 埋土	口径 (13.3) ½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。外面に篦傷・篦削あり。内面に研磨あり。	黒色処理。
71 －4 写23－4	土師器 坏	S J 31 床面	口径 (14.7) ½欠損	夾雑物含。硬。明褐。	外面に横撫・篦所あり。内面に研磨あり。	黒色処理。
71 －5 写24－5	土師器 高 坏	S J 31 竈	残存高 12.0 坏部欠損	夾雑物含。並。淡橙。	脚部外面に篦研磨・横撫あり。脚部内面に巻上痕あり。脚端部内面篦撫あり。	内面煤。
71 －6 写24－6	土師器 小形甕	S J 31 床面	器高 (16.7) 口縁½欠損	夾雑物含。並。赤橙。	口縁部内・外面横撫と粘土合目痕あり。体部内・外面に篦削後篦撫あり。	内・外面煤。平底。
72 －7 写24－7	土師器 甕	S J 31 床面	口径 (15.6) 口縁⅓・体½欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面撫後に篦調整・指頭圧痕あり。	内・外面煤。
72 －8 写24－8	土師器 甕	S J 31 竈	器高 34.0 口縁½欠損	夾雑物多。並。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦削あり。体部内面に篦削後撫あり。	外面黒斑。平底。
74 －1 写41－3	須恵器 盞坏身	S J 32 埋土	最大径 (13.2) 体部片	夾雑物含。並。暗青灰。	器肉調整は極めて薄い。立上は体部側に乗せて貼り付ける。	在地製。
74 －2 試621	須恵器 高 坏	S J 32 埋土	脚端径 (10.5) 脚部片	夾雑物含。並。淡灰。	短脚高坏の脚部で、透も入る。脚端部は尖る。	在地製。 胎土分析番号621。
74 －3 写41－試622	須恵器 瓶	S J 32 床面	残存高 13.8 口縁一部欠損	夾雑物含。硬。暗青灰。	頸部立上に波状文が巡る。胴部中位に列点刺突文あり。	在地製。 胎土分析番号622。
74 －4 写24－4	土師器 坏	S J 32 床面	口径 (14.5) ½欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦所あり。体部内面に篦研磨がある。	黒色処理。 外面黒斑。
74 －5 写24－5	土師器 坏	S J 32 埋土	口径 (14.5) ½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面に撫あり。体部内面に篦研磨が施される。	黒色処理。
74 －6 写25－6	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 15.9 坏・脚一部欠損	夾雑物多。並。橙。	脚部外面に篦研磨あり。内面に篦削と接合痕がある。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	法量(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
74 －7 写25－7	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 (20.0) 坏・脚部片欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	底部下方内・外面に横撫が見られる。底部内面に絞作痕がある。	
74 －8 写24－8	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 (21.5) 坏・脚部片欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	脚部内・外面に篦削あり。脚部外面下方に横撫。内面には絞作痕がある。	
75 －9 写25－9	土師器 小形甕	S J 32 竈	口径 13.0 ¼欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面下方に篦撫、絞作痕、粘土はり合痕。	
75 －10 写25－10	土師器 甕	S J 32 竈	口径 (18.8) ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面下方に篦削。体部内面に篦当痕あり。	平底。
75 －11 写25－11	土師器 甕	S J 32 竈	最大径 21.1 頸部上半欠損	夾雑物多。並。明黄褐。	体部外面上方に絞作痕、下方に篦削あり。体部内面に篦当痕、下方に絞作痕。	外面黑斑。 内面煤。平底。
75 －12 写24－12	土師器 甕	S J 32 竈	底径 8.5 体部上半欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面下方に篦削あり。体部内面下方に篦撫と篦当痕がある。	本葉痕２葉。 平底。
77 －1 写25－1	土師器 坏	S J 33 床面	口径 (11.0) ¼欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面下方に篦削がある。	胎土分析番号619。 胎土Ａ。
77 －2 写25－2	土師器 坏	S J 33 貯蔵穴	口径 11.8 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面下方に篦削。体部内面に篦研磨・撫あり。	黑色処理。
77 －3 写25－3	土師器 坏	S J 33 床面	口径 (12.4) ¼欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦傷と篦削。体部内面に篦研磨がある。	黑色処理。
77 －4 写25－4	土師器 坏	S J 33 床面	口径 13.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削。体部内面に篦研磨がある。	黑色処理。
77 －5 写25－5	土師器 坏	S J 33 床面	口径 12.7 ⅓欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削、下方に篦研磨。体部内面に篦研磨。	黑色処理。
77 －6	土師器 坏	S J 33 貯蔵穴	口径 (13.8) 口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削。体部内面に篦研磨あり。	黑色処理。
77 －7 写25－7	土師器 甕	S J 33 床面	口径 14.3 体部下半欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。口縁部内面には絞作痕がある。	
79 －1 写26－1	土師器 甑	S J 34 床面	残存高 27.0 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面磨毛撫。内面篦削後研磨を施し、底部内・外面は篦削。	甑穴一。
81 －1	土師器 坏	S J 35 床面	口径 (17.0) 口縁部片	夾雑物含。硬。橙。	外面下半篦削。内面に丁寧な撫。頸部外面の稜は指撫により形成。	
81 －2 写26－2	土師器 短頸壺	S J 35 床面	器高 14.5 口縁一部欠損	夾雑物含。並。黄橙。	体部外面は篦研磨。内面は撫で頸部に接合の際の指頭圧痕。底部外面篦削。	
81 －3 写26－3	土師器 甕	S J 35 理土	口径 20.5 体部上方以下欠損	夾雑物多。並。橙。	横撫後頸部下から体部上方外面にかけて篦削。補補。	
83 －1 写40－6	土師器 甑	S J 36 理土	最大径 4.6 体部下半部片	夾雑物含。並。橙。	小形埴製土師器で外面に指撫痕あり。内面はやや平滑である。	
83 －2 写26－2	土師器 坏	S J 36 床面	口径 13.6 口縁½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面横撫。内面には全体に篦研磨を施す。底部外面篦削。	黑色処理。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	法　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
83 －3	土師器 坏	S J 36 竈	口径 14.0 1/4欠損	夾雑物含。並。黒褐。	口縁部外面横撫。内面は全体に施研磨を施す。底部外面は施削。	黒色処理。
83 －4	土師器 坏	S J 36 竈	残存高 4.8 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	頸部内・外面横撫。内面には撫があり、底部外面は施削されている。	
83 －5	土師器 坏	S J 36 竈	口径 14.6 体部以上欠損	夾雑物微。並。橙。	底部外面施削後撫撫されている。内面には施撫の際の施当が見られる。	胎土B。
85 －1 写26－1	土師器 坏	S J 37 床面	口径 12.8 口縁端部一部欠損	夾雑物微。並。明赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面は施削後撫。内面施撫。	胎土B。
85 －2 写26－2	土師器 小形甕	S J 37 床面	器高 8.5 1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面施削後施撫。内面底部は施撫。	
87 －1 写26－1	須恵器 蓋	S J 38 竈	口径 13.8 完器	夾雑物多。硬。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方回転施削。轆轤右回転。	窯焼ぐれ。
87 －2 写26－2	須恵器 蓋	S J 38 竈	口径 15.8 完器	夾雑物含。並。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方回転施削。轆轤左回転。	
87 －3 写41－試626	須恵器 蓋	S J 38 床面	口径 15.0 1/4欠損	夾雑物含。並。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方回転施削。轆轤左回転。	胎土分析番号625。
87 －4 写26－4	土師器 坏	S J 38 竈	口径 15.2 口縁端部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面は施削。内面施撫。	
88 －5 写26－5	土師器 坏	S J 38 床面	口径 (13.4) 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面施削後撫。内面は施撫後施研磨。底部外面は施削。	
88 －6 写26－6	土師器 坏	S J 38 床面	口径 12.0 完器	夾雑物含。並。明赤褐。	外面施削後口縁部から底部にかけ内・外面施研磨。	
88 －7 写26－7	土師器 坏	S J 38 埋土	口径 11.8 口縁端部一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部から底部にかけての内・外面共に施削後全体に施研磨を施す。	
88 －8 写26－8	土師器 坏	S J 38 床面	口径 12.3 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面施削後撫で、粘土合目痕。内面施撫後研磨。	底に凹。
88 －9 写26－9	土師器 鉢	S J 38 床面	口径 13.3 口縁端一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面撫による撫。外面底部粗雑な施削。	底に凹。
88 －10 写26－10	土師器 坏	S J 38 埋土	口径 (15.4) 1/4欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面粘土合目痕と下方施削。内面放射状の研磨。	平底。
88 －11 写39－1	土師器 高　坏	S J 38 埋土	最大径 (6.4) 脚部小片	夾雑物含。並。明赤褐。	内・外面カセて成形。整形不明瞭。くびれ部が高熱変とやや退光部あり。	羽口か。
88 －12 写27－12	土師器 高　坏	S J 38 床面	残存高 7.2 坏・脚端欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面施削後撫。脚部内面上方はっきりした撫。下方には施による撫あり。	
88 －13 写26－13	土師器 脚付皿	S J 38 床面	脚端径 11.0 脚端・口縁欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面上半撫。体部下半・脚部は施削。内面体部放射状研磨。脚内は施撫。	
88 －14 写27－14	土師器 短頸壺	S J 38 埋土	残存高 8.6 口縁・体部1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面刷毛目による撫。内面施撫後研磨。底部外面施削。	内面撫。 平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と施文		備考
68　−15 写27−15	土師器 小形甕	S J 38 床面	口径　14.0 体一部欠損	夾雑物含。並。橙。	頸部外面指頭圧痕。体部内・外面丁寧ナデ。底部はやや丸底ぎみ。	
68　−16 写27−16	土師器 小形壺	S J 38 理土	残存高　12.2 口縁・体部欠損	夾雑物含。硬。赤褐。	体部外面丁寧ナデ。内面指成形後刷毛・丁寧ナデ。底部内面格子状の刻みあり。	平底ぎみ。
68　−17 写27−17	土師器 小形甕	S J 38 床面	口径　13.8 口縁端部一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面は丁寧ナデ。底部外面丁寧ナデ。頸部に絞作痕。	平底。
89　−18 写27−18	土師器 短頸壺	S J 38 床面	口径　(13.4) 写残存	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面丁寧ナデ後丁寧ナデ。内面絞作痕。丁寧ナデ。	
89　−19 写27−19	土師器 甕	S J 38 床面	口径　(15.8) 写欠損	夾雑物含。並。橙。	体部内・外面丁寧ナデ。外面さらに刷毛状の傷あり。	外面煤。
89　−20 写27−20	土師器 長甕	S J 38 床面	器高　35.4 写欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	内・外面丁寧ナデ・研磨・丁寧ナデ。撫後丁寧研磨。内面に研磨・絞作痕あり。大きく歪がある。	
92　−1 写39−1	石製 紡錘車	S J 40 理土	最大径　(4.1) 44.4 g	内・外面に成形時の擦痕あり。図平面右側に欠損部あり。欠損は旧時である。穿孔は直径変化の少ない一方向から。稜部や端部に使用の光沢あり。	蛇紋岩。	
92　−2 写28−2	土師器 坏	S J 40 床面	口径　11.9 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面丁寧ナデ。外面に丁寧研磨あり。	黒色処理。
92　−3 写28−3	土師器 坏	S J 40 理土	口径　12.9 写欠損	夾雑物含。並。灰褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面丁寧ナデと丁寧ナデ。内面丁寧研磨と丁寧ナデ。底部丁寧ナデ。	黒色処理。
92　−4 写28−4	土師器 坏	S J 40 理土	口径　15.2 写欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫あり。外面丁寧ナデ後撫、内面撫あり。	黒色処理。
92　−5 写28−5	土師器 高　坏	S J 40 理土	口径　(14.4) 坏部写欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。坏部内・外面丁寧ナデ。脚部外面刷毛目調著。内面絞作痕。	将棋的な脚部。
92　−6 写28−6	土師器 高　坏	S J 40 理土	口径　17.4 坏部口縁一部欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面に刷毛目と脚部接合の指撫。全体にカセている。	胎土B。
92　−7 写28−7	土師器 高　坏	S J 40 覆土	脚端径　13.8 坏部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	脚部外面上方丁寧ナデ、下方横撫あり。内面に絞作痕と指撫あり。	
92　−8 写28−8	土師器 高　坏	S J 40 床面	脚部径　15.7 坏部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	坏部内面丁寧研磨。脚部外面丁寧ナデ。内面絞作痕と指撫と指圧痕あり。脚部下方内・外面横撫。	
92　−9 写28−9	土師器 坏	S J 40 理土	口径　(12.2) 写欠損	夾雑物微。並。にぶい赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面丁寧ナデ後撫、内面丁寧撫あり。	胎土B。
92　−10 写28−10	土師器 坏	S J 40 理土	口径　14.2 写欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面丁寧ナデ。内面放射状丁寧研磨あり。	胎土B。
92　−11 写28−11	土師器 短頸壺	S J 40 理土	最大径　12.4 写欠損	夾雑物含。軟。にぶい赤褐。	頸部内・外面横撫あり。体部外面上方刷毛目、下方丁寧研磨あり。内面に丁寧撫。	平底。
92　−12 写28−12	土師器 甕	S J 40 理土	口径　21.2 下半欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面丁寧ナデ後撫、内面撫あり。	内・外面に煤。13と同一個体。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
92 －13 写28－13	土師器 甕	ＳＪ40 床面	残存高 19.0 上半欠損	夾雑物多。軟。明赤褐。	体部外面に施削あり。内面に施削後撫あり。	平底。 内・外面に撫。

ＳＪ41～ＳＪ60

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
94 －1 写28－1	土師器 坏	ＳＪ41 埋土	口径 11.4 ½欠損	夾雑物微。軟。明赤褐。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削後撫無。内面に撫あり。	
94 －2 写28－2	土師器 高坏	ＳＪ41 埋土	脚端径 11.0 坏部欠損	夾雑物微。並。橙。	体部外面施研磨、内面に撫あり。体部下方内・外面に横撫あり。	
94 －3 写28－3	須恵器 壺	ＳＪ41 床面	口径 13.4 口縁部欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	体部内・外面轆轤目あり。底部は回転糸切後付高台。轆轤右回転。	内・外面に撫。
94 －4 写40－1	須恵器 壺	ＳＪ41 床面	口径 (15.2) ½欠損	夾雑物含。軟。淡灰褐。	底部は高台剥落。糸切轆轤右。体部外面に墨書あり。墨痕薄く判読不明。	墨書土器１。
94 －5 写28－5	須恵器 甑	ＳＪ41 床面	底径 18.6 上半欠損	夾雑物含。硬。灰白。	体部外面轆轤目あり、内面轆轤成形後指撫あり。内面完遂しない穴２。	甑穴一。
94 －6 写29－6	須恵器 羽釜	ＳＪ41 床面	口径 (15.2) ½欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面上方に横撫あり。体部外面に施削、内面撫と接合痕あり。	
95 －1 写39－1	土師質 土玉	ＳＪ42 埋土	直径 2.1 3.21ｇ	土師器と同じ酸化気味の焼き上りで、窯はない。穿孔は生乾きの際一方向から行なわれている。		
95 －2 写41－4	須恵器 高坏	ＳＪ42 埋土	脚端径 (10.1) 脚部片	夾雑物含。軟。淡灰。	短脚高坏片である。透しの個所は無く判然としない。	
95 －3 写29－3	土師器 坏	ＳＪ42 埋土	口径 13.0 ½欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に施撫と施削がある。	
95 －4 写29－4	土師器 坏	ＳＪ42 床面	口径 (12.6) ½欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面に施削があり。体部内面に施研磨がある。	
95 －5 写29－5	土師器 坏	ＳＪ42 床面	口径 (10.5) ½欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫と経作痕。体部外面に施削。体部内面に施研磨がある。	黒色処理。平底。 外面黒斑。
95 －6 写29－6	土師器 高坏	ＳＪ42 覆	脚端径 (8.4) 坏部・脚下方欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部内・外面に施削。内・外面下方に横撫。坏部内面に施研磨がある。	胎土Ｂ。
95 －7 写29－7	土師器 壺	ＳＪ42 埋土	最大径 8.2 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に施削。内面に粘土のめくれと施削がある。	平底。
95 －8 写29－8	土師器 小形甕	ＳＪ42 覆	口径 7.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫と経作痕。体部外面に施削。内面に施当痕と施撫。	
95 －9 写29－9	土師器 壺	ＳＪ42 床面	残存高 9.3 口縁・体部上半欠	夾雑物微。並。黄橙。	体部内・外面に施撫が見られる。体部内面には施当痕が見られる。	胎土Ａ。
95 －10 写29－10	土師器 壺	ＳＪ42 覆	口径 (10.6) ½欠損	夾雑物少。並。橙。	口縁部外面に経作痕と横撫。体部外面に施研磨。体部内面に経作痕と施当。	胎土Ｂ。
95 －11 写29－11	土師器 短頸壺	ＳＪ42 覆	口径 9.8 ½欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に刷毛状工具による撫と施削。内面に施撫。	内・外面撫。平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
97 －12 写29－12	土師器 小形壺	S J 42 竈	口径 13.7 口縁・胴一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫。口縁部内面に横撫と施撫。体部に施研磨と施撫。	平底。
97 －13 写29－13	土師器 小形甕	S J 42 竈	口径 14.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に施撫と横撫。体部外面に刷毛目と波ハゲ。体部内面に紐作痕。	平底。
97 －14 写29－14	土師器 甑	S J 42 床面	口径 15.0 口縁・胴一部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷毛目。内面に紐作。穴際に施削。	甑穴一。
97 －15 写29－15	土師器 甑	S J 42 竈	口径 16.3 ヶ欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部外面に横撫と紐作。体部内・外面に施削。内面穴際に施削。	甑穴一。
97 －16 写29－16	土師器 甑	S J 42 床面	口径 18.2 ヶ欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に一定方向の研磨。内面穴際に施削。	甑穴一。
97 －17 写30－17	土師器 甕	S J 42 竈	口径 17.8 ヶ欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内面に施削がある。	内・外面煤。 平底。
97 －18 写29－18	土師器 甕	S J 42 床面	最大径 25.6 口縁・体部ヶ欠損	夾雑物多。並。橙。	体部外面に施研磨、刷毛状工具による撫と施削。体部内面に紐作痕がある。	内面煤。 平底。
99 －1 写30－1	須恵器 羽釜	S J 43 床面	口径 (17.4) 口縁一体部片	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部外面に横撫と紐作、粘土のめくれ。体部外面施削。内面紐作と施撫。	
103 －1 写30－1	土師器 高　坏	S J 46 埋土	脚端径 12.6 坏部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚端部内・外面横撫あり。脚部内面に指の接痕痕、施当痕あり。	
103 －2	土師器 小形甕	S J 46 埋土	口径 (13.3) 口縁・体部片	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内面粘土捏合目痕あり。	
105 －1	須恵器 坏	S J 47 埋土	底径 (6.9) 底部片	夾雑物微。並。黄灰。	底部内面に轆轤目あり。底部回転糸切。轆轤右回転。	
105 －2	須恵器 坏	S J 47 埋土	底径 5.3 口縁・体部ヶ欠損	夾雑物含。硬。灰白。	体部内・外面に弱い轆轤目あり。底部回転糸切。轆轤右回転。	
105 －3	須恵器 大形瓶	S J 47 埋土	突帯部径 (39.7)	夾雑物含。硬。暗灰。	肩の突帯部片である。器肉は極めて薄く稀作。内面の当目不明瞭。	
107 －1	土師器 高坏か	S J 48 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物微。硬。にぶい赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面撫、内面に単位不明瞭な研磨あり。	外面煤。
109 －1 写41－7	土師質 粘土板	S J 49 床面	長17.0　厚2.7 580 g	夾雑物含。硬。淡褐。	用途は明瞭でない。薄状。内・外面に指の圧痕が多く残される。側四面欠損。	
109 －2 写30－2	土師器 坏	S J 49 床面	口径 12.6 口縁ヶ体部ヶ欠損	夾雑物微。並。明赤褐。	口縁部外面横撫。体部外面施撫、粘土捏合目痕あり。内面撫。	胎土Ｂ。
109 －3 写30－3	土師器 坏	S J 49 床面	口径 12.6 ヶ欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面施削、内面に施撫後研磨。	胎土Ｂ。
109 －4 写30－4	土師器 高　坏	S J 49 床面	口径 17.4 坏ヶ・脚部欠損	夾雑物微。硬。浅黄橙。	口縁部外面横撫後施研磨。坏部内・外面に施研磨あり。出稍あり。	
109 －5 写30－5	土師器 壺	S J 49 床面	口径 (17.0) 体部・底部欠損	夾雑物含。並。浅橙。	口縁部内・外面横撫。頸部外面に指による撫、施当痕あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
109 －6 写30－6	土師器 甕	S J 49 床面	最大径 16.6 体部上半以上欠損	夾雑物多。並。にぶい赤褐。	体部外面施削後施研磨あり。内面施削、施当痕あり。底部施削。	内・外面煤。
109 －7 写30－7	土師器 甕	S J 49 床面	口径 (23.2) 口縁一部・体部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に施撫と施削、内面施撫と施当痕。接合痕。	外面黒斑。
111 －1 写39－2	石製 紡錘車	S J 50 竈	直径 3.9 35.5 g	内・外面の成形時に擦痕が残る。穿孔はほぼ同じ直径であるが一方向から。稜部には使用時点の純の光沢あり。		蛇紋岩。
111 －2 写30－2	土師器 坏	S J 50 床面	口径 15.2 ¼欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に施撫、内面に施研磨あり。	黒色処理。
111 －3 写30－3	土師器 坏	S J 50 貯・竈	口径 (22.0) ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい赤褐。	口縁部外面横撫。体部外面施削、粘土接合目痕、施当痕。内面撫、施当痕。	外面煤。
111 －4 写30－4	土師器 短頸壺	S J 50 床面	口径 13.4 体部½欠損	夾雑物多。軟。明黄褐。	体部外面に施削後施撫あり。内面に施撫、施当痕あり。	平底。
111 －5 写30－5	土師器 高 坏	S J 50 竈	脚端径 13.0 坏部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁端部内・外面横撫あり。脚部外面施削後撫。内面に絞作痕あり。	
111 －6 写30－6	土師器 高 坏	S J 50 貯蔵穴	脚端径 (14.4) 坏・口縁端部½欠	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁端部内・外面横撫。脚部外面施削、内面施削、絞作痕と下方に施当痕あり。	黒色処理。
111 －7 写30－7	土師器 高 坏	S J 50 竈	脚端径 14.2 坏部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁端部内・外面横撫。脚部外面施撫、内面上方絞作痕、下方施削。	
111 －8 写31－8	土師器 甕	S J 50 床面	口径 21.4 口縁½体部½欠損	夾雑物多。並。にぶい赤褐。	口縁部外面横撫。体部外面施撫、下方剥離、内面施削。施当痕、絞作痕。	外面黒斑。
114 －1	土師器 甑 か	S J 52 埋土	口径 (19.0) 底・½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面横撫。体部外面に刷毛目、施削後撫撫、内面に施撫、施当痕。	
114 －2 写31－2	土師器 甕	S J 52 床面	口径 24.2 体部以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。器面荒れている。頸部に施当痕あり。頸部内面に施削。	外面黒斑。
116 －1 写31－1	土師器 壺	S J 53 54埋土	口径 15.0 口縁½体部以下欠	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁内・外面に横撫あり。内・外面に刷毛状工具による撫あり。	
116 －2	土師器 壺	S J 53・ 54埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物含。並。橙。	器面荒れている。口縁部外面に格子状の刷あり。内面にわずか刷毛目あり。	
118 －1 写31－1	土師器 坏	S J 55 床面	口径 12.7 口縁部一部欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面施削、内面施撫後施研磨あり。	
118 －2	土師器 坩	S J 55 埋土	最大径 (7.0) ¾欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面剥落横撫不明、内面あり。頸部施当痕。体部内面絞作痕、施撫。	
118 －3 写31－3	土師器 坩	S J 55 埋土	最大径 8.2 口縁部½欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方撫、下方施削。内面施当痕。	外面黒斑。 平底ぎみ。
118 －4 写31－4	土師器 短頸壺	S J 55 床面	口径 13.3 口縁・体部一部欠	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面施当痕、内面施撫、粘土接合目痕。	内面煤。
118 －5 写31－5	土師器 甕	S J 55 埋土	口径 14.4 体部上半½以下欠	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁内・外面施撫、施削。外面絞作痕、施撫。内面粘土のめくれ痕、施刷。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
118 －6 写31－6	土師器 甕	ＳＪ55 埋土	口径　21.6 口縁、体部一部欠	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面横撫。体部外面施削、内面施研磨。穴際施削。	甑穴一。 内・外面黑斑。
120 －1	須恵器 坏	ＳＪ56 埋土	最大径　(12.3) 体部片	夾雑物多。並。灰。	蓋付の身部下半片で、内・外面に轆轤目。体部外面下半に轆轤左回転施削。	在地製。
120 －2 写31－2	須恵器 高　坏	ＳＪ56 埋土	脚端径　10.0 坏部欠損	夾雑物含。焼締。灰。	脚端部縦い立上。脚部内に浅い轆轤目あり。	外面自然釉付着。
120 －3	須恵器 甕	ＳＪ56 埋土	口径　21.0 口縁部片	夾雑物含。緻。暗灰。	頸部立上外面に波状文あり。全体的にシャープである。	在地製、胎土分析番号623。
120 －4 写31－4	土師器 高　坏	ＳＪ56 埋土	口径　17.0 脚部・口縁½欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面施撫と研磨。内面施撫と施当痕と研磨。	
120 －5 写31－5	土師器 甑	ＳＪ56 埋土	口径　(18.0) 体部½欠損	夾雑物含。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面施撫、内面施撫と施撫。穴際施削あり。	口縁部煤付着。 甑穴一。
120 －6 写31－6	土師器 壺	ＳＪ56 埋土	最大径　28.0 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	体部外面丁寧な刷毛撫、内面も丁寧な撫と接合痕明瞭。	内・外面煤。 平底。
121 －1	土師器 坏	ＳＪ57 埋土	口径　(13.0) 口縁～体部片	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部外面に横撫が見られる。体部内面に施研磨が施されるが単位不明。	黑色処理。
121 －2	土師器 長　甕	ＳＪ57 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫が見られる。口縁部外面に施削がある。	
121 －3	土師器 短頸壺	ＳＪ57 埋土	口径　(14.0) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁部内面に施削がある。	
121 －4	土師器 甕	ＳＪ57 埋土	口径　(21.9) 口縁部片	夾雑物微。並。にぶい褐。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁部外面に刷毛工具による撫がある。	
123 －1 写41－11	須恵器 壺	ＳＪ58 埋土	台部径　18.2 台部片	夾雑物含。緻。灰。	刺落した台は短頸壺の脚部片で貼付部の刺落。	在地製。
123 －2 写32－2	土師器 坏	ＳＪ58 埋土	口径　12.4 ½欠損	夾雑物微。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削後施撫あり。	胎土Ｂ。
125 －1 写32－1	土師器 坏	ＳＪ59 埋土	口径　12.6 口縁部一部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削後施撫。内面施撫。	胎土Ｂ。
127 －1	土師器 坏	ＳＪ60 竈	口径　12.0 ½欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面カセている。内面に施研磨あり。	黑色処理。
127 －2 写32－2	土師器 埦	ＳＪ60 埋土	口径　15.0 ½欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面施削後施撫あり、内面に施研磨あり。	黑色処理。
127 －3 写32－3	土師器 甕	ＳＪ60 床面	口径　16.4 下半欠損	夾雑物微。軟。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削、内面に施撫と施撫あり。	
128 －4 写32－4	土師器 甕	ＳＪ60 竈	口径　20.0 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面上方施研磨、下方に施削後撫。内面施撫。	平底。
128 －5 写32－5	土師器 甕	ＳＪ60 竈	口径　20.3 口縁部½欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面上方施削後施撫、下方接合痕。内面施撫と施撫。上方カセている。	木葉痕二条。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
130 －1	土師器 器台	S J 61 埋土	最大径 (5.8) 脚部片	夾雑物微。並。橙。	三方向に円形の透あり。外面に研磨痕あり。内面施削痕あり。	
130 －2 写32－2	土師器 甕	S J 61 床面	最大径 14.3 底部片	夾雑物含。軟。橙。	外面施削あり、内面に施撫と施当痕あり。底部中央に凹あり。	
130 －3 写32－3	土師器 甕	S J 61 埋土	最大径 24.8 体部から底部片	夾雑物多。軟。にぶい褐。	体部外面施削後施撫あり。内面に施撫と施当痕。	内・外面に横。 平底。
132 －1 写39－1	石製 砥石	S J 62 埋土	厚 1.5 19.1 g	小形の砥石片で割は旧時。表・裏面使用痕あり。全体的に使用は丁寧で隅部は極端に丸くない。		流紋岩。
132 －2 写32－2	須恵器 壺	S J 62 埋土	口径 15.3 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。灰褐。	内・外面に轆轤目あり。底部回転糸切後付高台。轆轤左廻。	黒色処理外面横。
132 －3 写32－3	土師器 坏	S J 62 埋土	口径 14.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。橙。	体部外面施削、内面に施撫あり。内・外面全体にカセている。器肉薄い。	
132 －4	土師器 器台	S J 62 埋土	残存高 6.2 脚欠損	夾雑物微。並。にぶい褐。	外面施研磨、内面絞作痕あり。欠失した脚上部を振り二次利用。	
132 －5	土師器 高坏	S J 62 埋土	残存高 5.8 脚欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	外面施削後施研磨あり、内面絞作痕あり。	透し推定5単位。
132 －6	土師器 小形甕	S J 62 埋土	口径 (11.6) 口縁部から体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内面に横撫あり。体部外面施削後撫。内面に撫あり。	
132 －7	土師器 短頸壺	S J 62 埋土	口径 (16.0) 口縁部片	夾雑物含。並。灰黄褐。	外面施研磨、内面に撫あり。全体に横がかかり、器肉が薄い。	赤色顔料塗彩。
132 －8	土師器 甕	S J 62 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい褐。	複口縁部内・外面に刷毛目あり。器面が荒れている。	
132 －9	土師器 甕	S J 62 埋土	口径 15.8 口縁・一部体部片	夾雑物多。軟。にぶい褐。	複口縁部外面横撫あり。内面施撫あり。体部外面施削、内面撫あり。	
132 －10 写32－10	土師器 甕	S J 62 床面	口径 15.8 底部欠失損	夾雑物含。軟。赤橙。	口縁部外面に施文様の施傷。体部外面刷毛目後施研磨、内面施研磨。	
135 －1	土師器 坏	S J 64 埋土	口径 (14.8) 脚欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面施削、内面に単位不明の施研磨あり。	黒色処理。
135 －2	土師器 坏	S J 64 埋土	口径 (15.0) 口縁・一部体部片	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面施削後撫、内面に単位不明の施研磨。	
135 －3 写33－3	土師器 高坏	S J 64 埋土	残存高 10.5 口縁・底部欠損	夾雑物多。軟。橙。	坏部外面刷毛撫。脚部外面施研磨、内面接合痕あり。上部に凸柄あり。	
137 －1 写33－1	土師器 坏	S J 65 埋土	口径 (13.5) 体部欠失損	夾雑物多。軟。橙。	口縁外面に接合痕。体部は全体に丁寧な撫。内面には施当痕がある。	外面黒斑。
137 －2	土師器 高坏	S J 65 貯蔵穴	脚端径 (14.0)	夾雑物多。軟。橙。	脚端部内・外面横撫。体部外面施削と櫛目あり。内面絞作痕と指おさえ明瞭である。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
137 －3	土師器 小形壺	ＳＪ65 埋土	最大径 13.7 体部¼欠損	夾雑物多。秋。橙。	口縁部内・外面横撫。体部は篦撫、内面は丁寧な撫あり。底部器肉厚。	外面黒斑。
139 －1 写33－1	土師器 台付甕	ＳＪ66 埋土	口径 15.7 口縁部¼・体部	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面丁寧な刷毛目、内面撫。器肉特に薄。	
139 －2 写33－2	土師器 坏	ＳＪ66 埋土	口径 11.6 口縁部¾欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。底部外面篦削。内面撫あり。器肉厚。	
139 －3	土師器 小形壺	ＳＪ66 埋土	口径 (12.4) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に格子状の刻あり、内面は横撫あり。	内・外面撫。
139 －4 写33－4	土師器 坏	ＳＪ66 埋土	口径 (16.6)	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。底部篦削。内面篦撫と篦当痕あり。	内・外面撫。
139 －5 写33－5	土師器 鉢か	ＳＪ66 埋土	口径 17.4 口縁¼欠損	夾雑物多。並。橙。	体部外面篦削後撫、内面には篦撫が見られる。	内・外面撫。
139 －6	土師器 甕	ＳＪ66 埋土	口径 27.8 体部¼欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面縦横方向の削後撫。内面は丁寧な撫。	
141 －1	土師器 坏	ＳＪ67 埋土	口径 (12.0) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面削後撫、内面篦研磨がある。	内面黒色処理。 外面煤付着。
141 －2	土師器 坏	ＳＪ67 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部から底部は篦削。体部内面は篦研磨がある。	内面黒色処理。 外面煤付着。
141 －3	土師器 甕	ＳＪ67 埋土	頸部径 (14.0) 肩部～胴部¾欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面凍ハゼ。体部内面ひどく荒れている。	
143 －1 写33－1	土師器 高坏	ＳＪ68 覆	口径 17.4 口縁¼・脚部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部摩耗。体部外面篦削と格状篦研磨、内面篦撫、器面荒れている。	
145 －1 写41－試623	須恵器 小形壺	ＳＪ69 埋土	口径 (21.8) 口縁部片	夾雑物含。締。暗灰。	外面立上に波状紋あり。断面に経作痕あり。	在地製。
145 －2	土師器 甕	ＳＪ69 床面	口径 (21.0) 口縁部片	夾雑物含。並。灰黄。	口縁部内・外面横撫あり。頸部は典型的なくの字口縁。	
145 －3	土師器 甕	ＳＪ69 床面	口径 (24.0) 口縁～体部少々片	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部内・外面横撫。体部外面刷毛目、内面篦撫あり。	口縁部煤付着。
148 －1 写33－1	土師器 坏	ＳＪ71 埋土	口径 (13.0) 口縁一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面は篦削、内面は篦研磨がある。	黒色処理。
150 －1 写40－1	土師器 坏	ＳＪ72 床面	口径 3.6	夾雑物微。硬。橙。	小形粗製土師器である。全体に捏合目あり。	
150 －2	土師器 坏	ＳＪ72 床面	稜部径 (12.9) 体部片	夾雑物微。並。明赤褐。	体部外面に篦削が見られる。体部内面に丁寧な撫が見られる。	平野部の土師器。
150 －3 写33－3	土師器 坏	ＳＪ72 覆	口径 (11.8) ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に篦削。体部内面に篦研磨あり。	黒色処理。
150 －4 写33－4	土師器 坏	ＳＪ72 埋土	口径 13.2 口縁一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面篦削。体部内面に篦研磨がある。	黒色処理。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
150 －5 写33－5	土師器 高 坏	S J 72 床面	口径 18.3 口縁部以下欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫あり。坏部外面に施削。内面に施撫がある。	
150 －6 写33－6	土師器 高 坏	S J 72 埋土	脚端径 15.6 坏・脚端部1/4欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面に施研磨と施撫。脚部内面に絞作痕と施撫がある。	
150 －7 写33－7	土師器 小形甕	S J 72 床面	口径 11.0 口縁一部欠損	夾雑物微。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫。体部外面絞作痕、捏合目痕、施撫。内面施撫、絞作痕。	平底。 胎土B。
150 －8 写33－8	土師器 鉢 形	S J 72 埋土	口径 14.5 口縁部1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面刷毛目、施研磨、施削。内面施撫、絞作痕。	
150 －9 写33－9	土師器 鉢	S J 72 埋土	口径 15.4 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。刷毛状工具による撫。内面に施当痕と施削がある。	平底。
150 －10 写33－10	土師器 小形甕	S J 72 埋土	口径 13.8 口縁部1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に指頭圧痕。体部外面に絞作と施削。体部内面に施研磨がある。	内面燃。平底。 外面黑斑。
150 －11 写33－11	土師器 甕	S J 72 貯蔵穴	口径 17.0 体部上半以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に施撫がある。	
152 －1	土師器 甕	S J 73 床面	口径 (16.0) 口縁・体下方欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁一体部外面に刷毛状工具による撫。口縁部内面に横撫と刷毛目がある。	外面煤付着。
154 －1	土師器 高 坏	S J 74 埋土	残存高 8.6 坏・脚底部欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	脚部外面に撫があり。脚部内面に絞痕と絞作痕がある。	
154 －2 写34－2	土師器 坏	S J 74 埋土	口径 13.7 1/4欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に施削、内面に施研磨がある。	黑色処理。
156 －1 写34－1	土師器 甕	S J 75 P内	口径 (17.2) 体部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫。体部外面に施削、内面に絞作痕と施当がある。	
158 －1 写34－1	土師器 坏	S J 76 竈	口径 (13.8) 口縁～体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に施削、内面に施研磨がある。	黑色処理。
158 －2 写34－2	土師器 坏	S J 76 竈	底径 5.0 1/4欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面に施削があり、内面に施当痕がある。	平底。
160 －1	土師器 坏	S J 77 埋土	口径 (12.0) 1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面は施削後施撫。	
160 －2	土師器 高 坏	S J 77 埋土	残存高 7.6 坏・脚底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面施削後撫。脚部内面に接合時粘土のめくれと出柄あり。	
160 －3	土師器 短頸壺	S J 77 埋土	口径 (14.0) 口縁から体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面施削後撫。	
160 －4 写34－4	土師器 甕	S J 77 床面	口径 15.8 頸部以下欠損	夾雑物含。並。黄灰。	口縁部内・外面横撫後施削。頸部内・外面は施削されている。	内・外面燃。
160 －5 写34－5	土師器 短頸壺	S J 77 床面	口径 (14.0) 体部下半以下欠損	夾雑物含。並。にぶい黄褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面施削で施傷がある。内面施撫。	
163 －1 写41－8	須恵器 短頸壺	S J 79 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。暗灰。	器肉調整が極めて薄く、6世紀代の大形短頸壺片を思わせる。	在地製。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　Ⅱ(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
163 －2 写34－2	土師器 坏	S J 79 床面	口径　12.0 ⅓欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部から底部にかけ内・外面に施削がある。	胎土B。
163 －3 写34－3	土師器 坏	S J 79 貯蔵穴	口径　13.2 ほぼ完器	夾雑物含。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面施撫。底部外面施削。	胎土B。
163 －4 写34－4	土師器 坏	S J 79 貯蔵穴	口径　(12.6) ⅓欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面施削後撫。底部外面施削。	胎土B。
163 －5	土師器 坏	S J 79 埋土	口径　(14.7) 口縁破片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面施削後施撫。	胎土B。
163 －6	土師器 坏	S J 79 埋土	口径　(15.2) 口縁破片	夾雑物含。並。橙。	外面施削後施撫。内面施撫後施研磨。胴部から口縁部立上は特徴的。	胎土B。
163 －7 写34－7	土師器 高坏	S J 79 埋土	残存高　8.0 坏・脚底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面施削後施研磨。内面指撫。脚部内面上方出柄あり。	
163 －8 写34－8	土師器 甕	S J 79 埋土	口径　(29.0) 体部下方以下欠損	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面に施削。内面に絞作痕あり。	
165 －1 写34－1	土師器 坏	S J 80 埋土	口径　10.4 完器	夾雑物多。軟。橙。	器面荒れている。内・外面粘土捏合目痕、施撫あり。	
165 －2 写34－2	土師器 埦	S J 80 埋土	口径　10.0 ⅓欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	外面施削後施研磨、内面施撫後放射状研磨。	外面黑斑。
165 －3 写34－3	土師器 坏	S J 80 埋土	口径　(14.0) 口縁部⅓欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面粘土捏合目痕、下方に施削。内面施撫。	
165 －4 写34－4	土師器 坩	S J 80 埋土	口径　8.3 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁内・外面横撫、外面絞作痕と施削。体部外面施撫、下方に施削。内面施削。	
165 －5 写34－5	土師器 坩	S J 80 床面	口径　8.6 完器	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方施当痕下方施削、粘土合目痕。内面撫。	
165 －6 写34－6	土師器 高坏	S J 80 埋土	口径　16.6 坏部⅓底部⅓欠損	夾雑物含。硬。橙。	口縁内・外面横撫。外面研磨、黑当痕、内面坏部研磨、脚部施削、脚端部横撫。	
165 －7 写34－7	土師器 高坏	S J 80 埋土	口径　18.5 ⅓欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁・脚端部内・外面横撫。外面指頭圧痕、絞作痕、内面磨痕撫、施削。	
165 －8 写35－8	土師器 高坏	S J 80 埋土	脚端径　14.2 坏・脚端部⅓欠損	夾雑物微。硬。橙。	脚端部内・外面横撫。脚部外面施削、施研磨、内面撫部痕、撫。	
165 －9 写35－9	土師器 鉢	S J 80 床面	口径　14.3 完器	夾雑物多。並。明赤褐。	外面施削、粘土捏合目痕、内面上方横方向の施撫、下方施削。	内面煤。
165 －10 写35－10	土師器 小形甕	S J 80 貯蔵穴	口径　12.7 底部、体部⅓欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部内・外面横撫。頸部外面に絞作痕。体部外面施撫、内面施撫。	内面煤。
165 －11 写35－11	土師器 甕	S J 80 埋土	口径　21.2 口縁・体部一部欠	夾雑物含。硬。にぶい赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面施研磨、内面施削後施撫。	内・外面煤。
165 －12 写35－12	土師器 甕	S J 80 床面	口径　(28.6) 口縁・体部⅓片	夾雑物多。並。にぶい赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面施削、内面施撫、絞作痕。	内・外面煤。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
165 －13 写41～図25	須恵器 鉢	S 180 埋土	最大径 13.6	夾雑物微。緻。暗灰。	底部突帯面に平行叩目あり。内・外面に轆轤目あり。	在地製。胎土分析番号625。

S J 81～S J 89

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
167 －1 写35－1	土師器 坏	S J 81 埋土	口径 11.0 口縁部1/4欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面横撫。体部外面上方に篦研磨、下方に篦削。内面に篦研磨。	黒色処理。
167 －2 写35－2	土師器 坏	S J 81 貯蔵穴	口径 12.5 口縁一部欠損	夾雑物含。硬。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面粘土接合目痕、経作痕、篦削。内面篦撫。	
167 －3 写35－3	須恵器 甕	S J 81 埋土	底径 8.3 口縁・体部1/4欠損	夾雑物多。硬。暗灰。	体部内・外面轆轤目あり。上方に回転篦削。轆轤右回転。底部調整不明。	
169 －1 写35－1	土師器 坏	S J 82 貯蔵穴	口径 (13.2) 口縁1/4体部1/4欠損	夾雑物含。硬。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面粘土接合目痕、下方篦削。内面撫。	胎土B。
169 －2 写35－2	土師器 坏	S J 82 貯蔵穴	口径 11.0 口縁1/4体部1/4欠損	夾雑物含。硬。灰黄。	口縁部内・外面横撫。体部外面経作痕、篦撫、指撫。内面篦撫、篦削。	内・外面煤。
169 －3 写35－3	土師器 鉢	S J 82 貯蔵穴	口径 18.4 口縁・体部1/4欠損	夾雑物含。硬。	口縁に棒状工具による押圧、外面上方に経作痕。篦撫。篦当痕。内面篦撫あり。	外面煤。
173 －1 写40－4	土師 支脚	S J 85 竈	最大径 7.2 大欠損	夾雑物含。並。淡橙。	外面に指頭圧痕。端部小口にも指頭圧痕あり。	
173 －2 写35－2	土師器 坏	S J 85 床面	口径 10.8 完器	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部内面横撫。体部外面篦削後指撫、体部下方篦削、内面篦撫、篦当痕あり。	大黒斑。平底。外面黒斑。
173 －3 写35－3	土師器 坏	S J 85 床面	口径 9.6 口縁部1/4欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。底部外面篦削。体部内面篦撫と篦当痕あり。	
173 －4 写36－4	土師器 坏	S J 85 床面	口径 13.6 口縁部1/4欠損	夾雑物多。並。浅黄橙	口縁部外面横撫。体部外面篦削後撫、内面は棒状篦研磨がある。	内面黒色処理。
173 －5 写36－5	土師器 坏	S J 85 床面	口径 17.4 口縁部一部欠損	夾雑物多。硬。橙。	口縁部横撫。体部篦削後撫。底部は篦削。内面は棒状篦研磨がある。	内面黒色処理。
173 －6 写36－6	土師器 高坏	S J 85 竈	口径 12.6 口縁1/4・脚端部欠	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面横撫。脚部外面研磨、内面削。坏部内面は棒状篦研磨あり。	内面黒色処理。
173 －7 写36－7	土師器 高坏	S J 85 床面	口径 15.7 口径1/4欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁・脚端部外面横撫。脚部外面削後撫。坏部内面篦研磨。脚部内面経作痕あり。	内面黒色処理。
173 －8 写36－8	土師器 甑	S J 85 床面	口径 16.9 口縁部1/4欠損	夾雑物含。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部下半篦削、穿孔部内面篦削。内面篦撫と篦当痕。	穿孔一穴。
173 －9 写36－9	土師器 甑	S J 85 床面	底径 9.0 体部上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	体部外面篦削、内面篦研磨あり。底部内・外面篦削がある。	体部外面黒斑。甑穴一。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
173 －10 写36－10	土師器 甕	S J 85 床面	最大径　24.0 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部下半・底部篦削。内面篦削と篦当痕がある。	平底。
173 －11 写36－11	土師器 甕	S J 85 床面	底径　6.3 口縁部ほとんど欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下半篦削、内面篦撫と篦当痕あり。	木葉痕。平底。外面煤。
173 －12 写36－12	土師器 小形壺	S J 85 床面	口径　15.0 完器	夾雑物合。並。橙。	口縁部内・外面横撫、内面に絞作痕。体部外面篦削、内面に篦当痕がある。	内・外面煤。平底。
174 －13 写36－13	土師器 甕	S J 85 竈	最大径　23.8 体部上半部欠損	夾雑物合。並。浅黄橙。	体部外面篦削後撫である。内面篦撫と篦当痕がある。	内・外面煤。平底。
174 －14 写37－14	土師器 甑　か	S J 85 床面	口径　24.8 口縁片・下半欠損	夾雑物合。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦撫、内面篦研磨。	外面煤付着。
174 －15 写36－15	土師器 甕	S J 85 床面	口径　(16.7) 口縁片・体下半欠	夾雑物合。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削と篦当痕あり。内面篦撫と絞作痕あり。	
174 －16 写37－16	土師器 甕	S J 85 竈	最大径　21.2 体部上半欠損	夾雑物合。並。浅黄橙。	体部外面研磨、凍ハゼ。内面篦撫と篦当痕・絞作痕あり。	平底。
174 －17 写37－17	土師器 甕	S J 85 床面	残存高　30.0 口縁部・底部欠損	夾雑物合。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下方篦削、内面篦研磨がある。	外面煤付着。
176 －1 写37－1	土師器 坏	S J 86 埋土	口径　12.8 片欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫不明。体部外面篦削、内面に篦研磨。	黒色処理。
176 －2	土師器 高　坏	S J 86 埋土	残存高　7.2 坏・脚底欠損	夾雑物合。並。橙。	脚部外面篦削後撫。脚部内面指による撫あり。	
176 －3 写37－3	土師器 甑　か	S J 86 埋土	口径　(23.8) 体部下半以下欠損	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削。内面篦撫。内・外面に絞作痕あり。	外面煤付着。
176 －4 写37－4	土師器 甑	S J 86 埋土	口径　(25.4) 底部なし片欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫。内面は篦撫後研磨。	外面煤。
176 －5 写38－5	土師器 甕	S J 86 埋土	最大径　22.8 口縁部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部外面横撫。体部外面篦削、内面は篦撫。体部内・外面絞作痕あり。	外面煤と煤付着。平底。
176 －6 写37－6	土師器 甕	S J 86 床面	最大径　28.4 口端・体下以下欠	夾雑物多。並。明黄褐。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦撫と絞作痕あり。	
178 －1 写38－1	土師器 坏	S J 88 床面	口径　11.0 片欠損	夾雑物多。並。淡黄。	体部外面肌荒ひどく整形不明。内面篦研磨。	内・外面黒斑。
178 －2 写38－2	土師器 坏	S J 88 床面	口径　11.0 片欠損	夾雑物合。軟。明黄褐。	口縁部から体部内・外面に横撫あり。底部内・外面は篦削。	内・外面黒斑。胎土B。
178 －3 写38－3	土師器 坏	S J 88 床面	口径　13.6 一部欠損	夾雑物合。軟。明黄褐。	口縁部から体部内・外面に横撫あり。底部内・外面は篦撫。	胎土A。
178 －4 写38－4	土師器 坏	S J 88 床面	口径　13.4 片欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部外面横撫。体部内・外面篦撫。底部内・外面篦削。	胎土A。
178 －5 写38－5	土師器 高　坏	S J 88 床面	脚端径　12.6 坏・脚端部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚部外面肌かセていて整形不明。内面篦撫と絞作痕がある。	

図番号 写真番号	種 器 形	出 土 位 置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 ・ 焼 成 ・ 色 調 と 摘 要		備 考
180 －1 写38－1	須恵器 坏	ＳＪ89 埋土	口径 13.0 体部与欠損	夾雑物多。並。灰。	口縁部から体部にかけて内・外面轆轤目あり。底部回転糸切。轆轤左回転。	
180 －2 写40－2	須恵器 坏	ＳＪ89 埋土	口径 14.5	夾雑物含。軟。灰。	外面に浅い轆轤目あり。墨書が見られるが、文字不明。轆轤は左回転。	墨書土器。
180 －3	土師器 坏	ＳＪ89 覆	口径 14.0 ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄褐。	口縁部外面横撫。体部外面箆削後撫、内面箆研磨。	黒色処理。外面撫。
180 －4 写38－4	土師器 甑 か	ＳＪ89 床面	口径 25.3 体部下半以下欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面箆削後撫。	外面黒斑。内面撫。
180 －5 写38－5	土師器 甕	ＳＪ89 床面	最大径 22.1 口縁・体¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	体部外面上方箆撫。下方・底部は箆削。体部内面箆撫。	内・外面撫。平底。
180 －6 写38－6	土師器 甕	ＳＪ89 床面	最大径 17.2 ¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下方箆削。内面箆撫。底部外面箆削。	外面撫。平底。
180 －7 写38－7	土師器 甕	ＳＪ89 床面	最大径 19.2 体部上半以下欠損		頸部外面から口縁部立上にかけ櫛毛撫あり。頸部内面箆撫あり。	外面煤付着。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
183－2 ～14・16 写41	須恵器 特殊器 種			2はＳＪ32－1、3はＳＪ56－1、4はＳＪ42－2、5はＳＪ32－2、6はＳＪ22－1、7はＳＪ17－1、8はＳＪ79－1、9はＳＪ11－3、10はＳＪ03－10、11はＳＪ58－1、12はＳＪ80－13、13はＳＪ56－3、14はＳＪ69－1、16はＳＪ47－3を参照。		5．胎分析621。 12．胎分析625。 13．胎分析623。
183－1 写41－試619	須恵器 坏蓋	B区 表採	口径　11.9 ¼欠損	轆轤左廻。夾雑鉱物は極めて少。石英粒と白色鉱物粒があり、黒色の鉱物は目立たない。素地中に白色鉱物粒を特徴的に含。重さは焼締られていないため並。灰色。		胎土分析番号620。
183－15 写41－試624	須恵器 大甕	29Ａ－31	口径　(40.5) 口縁部片	夾雑鉱物粒は少。素地に大・小の白色鉱物粒が多。他に黒・灰色鉱物粒は見られない。特徴はまったく622、623に似る。小気泡を含。硬質。暗色で焼かかる。		胎土分析番号624。
184－1・ 2・4～10 写40	小形粗 製土師 器			1はＳＪ73－1、2はＳＪ3－2、4はＳＪ3－3、5はＳＪ17－2、6はＳＪ36－1、7はＳＪ3－4、8はＳＪ16－1、9はＳＪ3－1、10はＳＪ3－5を参照。		
184－3 写40－3	土師器 坏	32Ｃ－17	口径　(6.2) ¼欠損	夾雑物微。軟。橙。	底面剥離、内・外面撫。粗製土師器の中では、もっとも丁寧。	胎土Ａ。
184－11 写40－11	土師器 鉢	24Ｂ－38	口径　14.7 口縁部欠損	夾雑物多。並。淡黄灰。	粘土紐作明瞭。内・外面粗雑な撫。底面に砂付着。	黒斑。平底。
185－1 ～8	竈支脚 他			1はＳＪ3－9、2はＳＪ15－3、3はＳＪ3－8、4はＳＪ85－1、5はＳＪ3－7、6はＳＪ31－1、7はＳＪ49－1、8はＳＪ3－6を参照。		写40－1～6・写41－7・8。
186－1	土玉			1はＳＪ42－1を参照。		写39－1。
187－1・2	紡錘車			1はＳＪ40－1、2はＳＪ50－1を参照。		写39－1・2。
188－1・ 3・4	砥石			1はＳＪ62－1、3はＳＪ2－2、4はＳＪ31－2を参照。		写39－1・3・4。
188－2 写39－2	砥石	表採	残存最大長　4.4 7.7g	図の表面側のみ使用。摩耗は浅。割口は旧時の欠損。図天の小口は原石面。原石面を残すため古代の砥石か。		泥岩。
189－1	羽口			1はＳＪ38－14を参照。		写39－1。
190－1・ 3	灰釉陶 器			1はＳＪ11－2、3はＳＪ11－1を参照。		写41－1・3。
190－2 写41－2	灰釉陶 器	20～30・ Ｃ00～Ｃ 10	口縁部片	内・外面施釉。刷毛塗か。器内は薄。釉は淡黄緑色を呈し釉掛は薄。		
191－1・2	墨書			1はＳＪ41－4、2はＳＪ89－2を参照。		写40－1・2。
192－1 写42－1・2	軟質陶 器	31Ａ－47	内耳鍋の口縁部片	内面に耳が貼付され、耳外面に穿孔あり。外面に煤付着。全体的に焼きれる。割口は灰褐色で硬質。		15・16世紀。平野部製のような胎土。
192－2	同上	Ｂ区	箱物の底部片	内・外面撫。外面撫。胎土は夾雑物多、淡褐色で並質。		18世紀頃。在地製。
193－1 写42－1	近世陶 磁器	Ｂ区表 採	碗口縁部片	内・外面に鉛釉。口縁部にやや白土に近い釉掛を行い、口塗をする。体部外面に工具による轆轤目あり。陶器。		18世紀頃。瀬戸・美濃。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	法 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
193 －2 写42－2	近世陶 磁器	20～30 B30～40	香炉・碗の口縁部片	内・外面に濃目の釉を施す。内・外面に轆轤目あり。口縁部は外面側にやや尖り、特徴的。陶器。	18世紀頃。製作地不明。
193 －3 写42－3	近世陶 磁器	45A34	小形壺 口縁部片	内・外面に鉄釉。下方に2条の沈線があり、口縁端部は平となる。陶器。	18世紀以後。製作地不明。(堺港か)
193 －4 写42－4	近世陶 磁器	10～20 B15～20	残存高1.2 小碗 体部下半片	小碗の与個体で高台部外面が露胎となり、他は透明釉が施される。貫入多。陶器。	18世紀頃。美濃。
193 －5 写42－5	近世陶 磁器	10～20 B15～20	口径10 小皿口縁部～底部片	型押の伊万里系塗付皿。内面に文様不詳の染付施文あり。口縁部が大きく外反し特徴的。染付絵器。	19世紀前半。伊万利系。
193 －6 写42－6	近世陶 磁器	10～20 B15～20	底径(10) 底部片	内面に鉛釉、外面に鉄釉の刷毛掛がなされる。高台は貼付削出。高台端部に凝ハゼあり。	18世紀前半頃。唐津系。
193 －7 写42－7	近世陶 磁器	表 採	体部片 擂鉢	内面に6＋α条の卸目あり。内・外面酸化気味。外面に指痕圧痕あり。焼締陶器。	18世紀頃。信楽焼。
193 －8 写42－8	近世陶 磁器	22～26 C38	底部片 擂鉢	内面に13＋α の卸目あり。内面に擦痕あり。内・外面に鉄釉が施され、底面は拭い取られる。陶器。	18世紀頃。美濃。
193 －9 写42－9	近世陶 磁器	36～38 A36	底部片 擂鉢	内面に10＋α条の卸目あり、内・外面に鉄釉が施され、底面は拭われる。底面に同心円状の工具痕あり。陶器。	18世紀頃。製作地不明。(堺港か)
193 －10 写42－10	近世陶 磁器	表 採	体部片 碗	外面に草文を染付する。呉須は淡青色を呈し、発色は良。他は白磁釉。	18世紀前半。伊万里系。(波佐見)
193 －11 写42－11	近世陶 磁器	表 採	口径7.7 碗	外面に笹葉か竹葉を染付施文し、他は白磁釉を施す。高台端部のみ露胎。磁器。	18世紀前半。伊万里系。(波佐見)
193 －12 写42－12	近世陶 磁器	表 採	口径7.6 仏飯器	底部外面のみ露胎で、他は白磁釉。蝶文、意味不明の染付あり。全体に黒色鉱物粒を含。	18世紀頃。伊万里系。(波佐見)
194 －1 写39－1	石 板	表 採	小片 厚 0.25	石板石の隅部で図左側が表面、石側が裏面。裏面は平部隅に削取があり、やや薄。表面側の端に3～5mm巾で都取の細線が刻まれる。表裏共に平滑で砥石等による水磨が施されている。側部には鋸か鑢跡の際に生じた細かい挽目がある。割口は旧時の欠損。	結晶岩。
195 －1	古 銭	SZ01	2.6g 径 2.4	新寛永のように見える細い書体である。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 －2	古 銭	SZ01	2.5g 径 2.3	書体は太くもなく細くもない。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 －3	古 銭	SZ01	2.6g 径 2.2	やや小ぶりで書体はやや細い。背面「元」。	地金白目の銅色。
195 －4	古 銭	SZ01	2.7g 径 2.3	書体は太く古寛永を思わせる。背面無文。	地金真鍮色。写39。
195 －5	古 銭	SZ01	2.2g 径 2.2	書体は細く新寛永のように見える。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 －6	古 銭	SZ01	2.3g 径 2.4	書体は細く新寛永のように見える。背面無文。	地金黄味の銅色。
196 －1 写39－1	鉄製品 不 詳	31A44	最大径 (43.7) 耳部片	錆化の状態は方向性がなく、鋳物か。図のように把手状の耳部が残り、内側には2個所透し部が見られる。どちらが表裏か不明であるが、断面図のように片側が凹む。	
196 －2				2はSJ2－1を参照。	写39－2。

第2章　鎌倉遺跡

鎌倉　ＳＪ01～09・ほか

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　H(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
202 －1 写48－1	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	口径　(13.2) 体部下半欠損	夾雑物微。並。橙。	頸部刷毛痕後８＋α条で２段以上の波状文を上から下に施し、下方に３連止12＋α単位の櫛状文と６＋α単位の波状文が施される。内面横位の施研磨。	内・外面煤。
202 －2 写48－2	弥生土器 甕	ＳＪ01 床面	残存高　7.2 頸部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部は剥離。板口縁。下方に９＋α条を単位とする３段以上の波状文を上から下に施し、その下方に１連止の６＋α単位の櫛状文。内面横位の施研磨。	
202 －3 写48－3	弥生土器 坏	ＳＪ01 床面	口径　(10.4) 体部¾欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面刷毛目。内面刷毛痕。器全体が歪む。器肉全体は肥厚し粗雑である。底部がめくれている。底面も施削。	内・外面煤。 平底。
202 －4 写48－4	弥生土器 坏	ＳＪ01 埋土	口径　11.8 ¾欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面縦方向の施研磨、内面は横方向の施研磨。底面は不定方向の研磨。	外面煤。 平底。
202 －5 写48－5	弥生土器 脚部	ＳＪ01 埋土	脚端径　13.0 上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面縦方向の刷毛目。内面は横方向の刷毛目明瞭で端部に粘土めくれ。	
202 －6 写48－6	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	底径　8.6 体部上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面刷毛目、内面横方向の施研磨。底部内面は施削。	内・外面煤。 平底。
202 －7 写48－7	弥生土器 甕	ＳＪ01 床面	最大径　(28.0)	夾雑物多。並。橙。	頸部刷毛痕後７＋α条を単位とする４段以上の波状文を施し、体部は刷毛痕後施研磨、内面も刷毛痕後不安方向の施研磨。	内・外面煤。
203 －8	弥生土器 高坏？	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫、顔料も剥落し器面は荒れ素文である。	赤色顔料塗彩。
203 －9	弥生土器 高坏？	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面施研磨、内面横撫、うっすらと波状文が残る。	赤色顔料塗彩。
203 －10	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物微。硬。赤褐。	口縁部内・外面横撫で割口が非常にシャープである。	
203 －11	弥生土器 甕	ＳＪ01 床面	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に７＋α条の波状文があり、下方に５＋α条の櫛状文が施されている。内面に施研磨あり。	
203 －12	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面は刷毛状工具による撫、内面は丁寧な施研磨が施されている。	外面煤付着。 内面煤。
203 －13	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に７＋α条の波状文が施されている。内面には撫がある。	
203 －14	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	口縁部外面に６＋α条の波状文が施されている。内面は横撫がある。	
203 －15	弥生土器 甕	ＳＪ01 床面	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部外面は６＋α条を単位とし５段以上の波状文を上から下に施される。内面は丁寧に研磨されている。	口縁部煤付着。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
203 −16	弥生土器 甕	SJ01 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	外面は6＋α条を単位とし4段以上の波状文が施されている。内面は横撫。	
203 −17	弥生土器 甕	SJ01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面刷毛撫後6＋α条を単位とし3段以上の波状文が施されている。内面は横撫あり。	
203 −18	弥生土器 甕	SJ01 床面	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	復口縁で、6＋α条を単位とする波状文が口縁部外面にある。内面は横撫。	
203 −19	弥生土器 甕	SJ01 床面	口縁部片	夾雑物多。軟。黄橙。	復口縁で、内・外ともに煮文。器面は荒れている。	
203 −20	弥生土器 甕	SJ01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。黄橙。	外面に7＋α条の簾状文を施し下方に斜の線刻文が施されている。	
203 −21	弥生土器 甕	SJ01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面に波状文が施されているが単位は不明。内面は施研磨がある。	内・外面撫。
203 −22	弥生土器 甕	SJ01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面上方に整垂文と簾状文、下方に刷毛目あり。内面にも刷毛目が施される。	
203 −23	弥生土器 甕	SJ01 床面	頸部一体部片	夾雑物含。並。橙。	頸部外面に単位不明の波状文。下方に6＋α条の簾状文、6＋αの波状文がある。内面には刷毛目が施されている。	
203 −24	弥生土器 甕	SJ01 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。浅黄。	6＋α条の簾状文を施し、その下方に5＋α条の波状文あり。内面施研磨。	内・外面撫。
203 −25	弥生土器 甕	SJ01 床面	体部片	夾雑物含。硬。橙。	2＋α条の簾状文が施され下方に5＋α条の波状文。内面に施研磨あり。	内・外面撫。
203 −26	弥生土器 甕	SJ01 埋土	体部片	夾雑物含。硬。浅黄。	外面には刷毛目が施され、内面は刷毛撫がある。	
203 −27	弥生土器 甕	SJ01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。浅黄。	不明瞭な波状文があり中位に2連止の簾状文で、下方に波状文。内面研磨。	内・外面黒斑。
203 −28	弥生土器 甕	SJ01 埋土	体部片	夾雑物多。並。浅黄。	簾状文と下方に単位不明な波状文あり。内・外面ともに器面荒れる。	
204 −29	弥生土器 甕	SJ01 埋土	体部片	夾雑物多。並。橙。	5＋α条の波状文がある。内面には施研磨が施されている。	内面撫。
204 −30	弥生土器 甕	SJ01 埋土	体部片	夾雑物多。並。浅黄。	単位等不明瞭な波状文が施されている。内面には刷毛撫がある。	外面撫。
204 −31	弥生土器 高 坏	SJ01 埋土	脚部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	外面施脚後撫、端部は横撫。内面にも横撫が施されている。器肉は厚。	
204 −32	弥生土器 高 坏	SJ01 埋土	脚部片	夾雑物含。硬。浅黄。	外面に細かく丁寧な研磨を施し、内面も研磨が見られる。	
204 −33	弥生土器 高 坏	SJ01 床面	脚部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面に刷毛目を施し脚部内面は施撫、坏部は研磨してある。器肉は全体的に厚い仕上げである。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
204 －34	弥生土器 高　坏	ＳＪ01 埋土	脚部片	夾雑物多。並。橙。	脚部内・外面施文があり。坏部内面に擦あり。	
204 －35	弥生土器 坏　か	ＳＪ01 埋土	体部片	夾雑物含。並。橙。	外面に施朋がある。内面は施擦あり。全体的に粗雑である。	
204 －36	弥生土器 甕	ＳＪ01 埋土	底部片	夾雑物多。硬。橙。	外面に横擦あり。内面は施研磨が施されている。素文である。底面は厚。	内・外面煤。 平底。
204 －37	弥生土器 甕	ＳＪ01 床面	底部片	夾雑物多。並。黄橙。	外面は施朋が見られ、内面は丁寧に擦である。器内は厚い仕上げである。	平底。
206 －1 写48－1	弥生土器 鉢　か	ＳＪ02 埋土	口径　(20.5) 底部、体部¼欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	外面施朋後上・下方向の施研磨が施される。内面横方向の施研磨。	外面煤。 内面黒斑。
206 －2	弥生土器 甕	ＳＪ02 埋土	口径　(15.0) 口縁～体部片	夾雑物微。並。にぶい橙。	頸部立上と肩部に９＋α条で２段以上の波状文を上から下に施し、その後頸部に12＋α条で２連止とし２＋α単位の櫛状文を施す。内面施研磨。	内・外面煤。
207 －3 写48－3	弥生土器 甕	ＳＪ02 床面	底径　6.8 口縁～体部¼欠損	夾雑物含。硬。にぶい赤褐。	頸部に８＋α条で１連止７＋α単位の櫛状文を施し後に立上と体部に波状文を施す。立上の波状文は単位不明。肩部８＋α条で２段の波状文は下から上に施す。内・外面施研磨。	外面煤。
207 －4 写48－4	弥生土器 甕	ＳＪ02 床面	口径　20.4 体部下半欠損	夾雑物含。硬。橙。	頸部に９＋α条で全周26ヶ所の多連止櫛状文、後に頸部立上に10＋α条７段、肩部に８＋α条１段の波状文。外面横方向に施研磨と刷毛目、内面刷毛撫。	内・外面黒斑。
206 －5 写48－5	弥生土器 甕	ＳＪ02 埋土	頸部径　15.6 頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	頸部に連止のない８＋α条の櫛状文が２段入りその間２＋α単位で上・下方向の７＋α条を単位とする懸垂文が入る。肩部波状文入るが単位不明瞭。内面凑ハゼと刷毛撫。	
207 －6	弥生土器 台付甕	ＳＪ02 埋土	口縁～体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部立上に波状文が入るが不明瞭。その後頸部に８＋α条で１連止とし２＋α単位の櫛状文を施す。内面施研磨。	内面黒斑。
207 －7	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	頸部立上に７＋α条を単位とし３段以上の波状文を施す。内面施研磨。	
207 －8	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部立上に５＋α条を単位として２段以上の波状文を施す。内面刷毛撫。	
207 －9	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。軟。浅黄橙。	口縁部立上に波状文が施されるが風化のため単位不明瞭。複口縁。	
207 －10	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。明赤褐。	頸部立上に８＋α条を単位とし３段以上の波状文を施す。内面刷毛撫。	
207 －11	弥生土器 甕	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物微。硬。にぶい赤褐。	立上に６＋α条を単位とし４段の波状文を施す。頸部に７＋α条で欠損し、連止単位不明の櫛状文。内面施研磨。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
207 －12	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。灰褐。	口縁部複口縁で横撫あり。外面素文。内面撫。	
207 －13	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部複口縁。口縁部立上に波状文あるが器面荒れて単位不明瞭。	
207 －14	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部複口縁で６＋α条の波状文あり。頸部立上に７＋α条の単位で２段以上の波状文が施される。	
207 －15	弥生土器 甕	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部複口縁で波状文あり。頸部立上７＋α条を単位とし３段以上の波状文が上から下に施される。頸部に４＋α条で２連止で１＋α条の撫状文あり。	
207 －16	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部複口縁で６＋α条の波状文。立上に７＋α条単位で２段以上の波状文が施される。	
207 －17	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	体部片	夾雑物含。並。にぶい赤褐。	ボタン状貼付文あり、中に刺突による施文が施される。	多面燒。
207 －18	弥生土器 甕	ＳＪ02 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	立上に７＋α条で２段以上、肩部に７＋α条の波状文。頸部に８＋α条で１連止の撫状文あり。内面施研磨。	内・外面燒。
207 －19	弥生土器 甕・鉢	ＳＪ02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	内・外面に丁寧な施研磨が施される。底面施調整。	平底。
207 －20	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	外面施削後刷毛状工具により撫。粘土捏合目痕。内面指撫。	平底。
207 －21	弥生土器 甕・壺	ＳＪ02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい黄橙。	外面に丁寧な撫が施される。粘土の合目で剥離されている。	平底。
207 －22	弥生土器 壺	ＳＪ02 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	外面に刷毛状工具による撫が施される。底部施削。内面剥離されている。	平底。
209 －1	弥　生 高　坏	ＳＪ03 埋土	口径　4.8 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。淡褐。	薄なく重い。小形祖製の高坏で、坏部内面に折り返し。指頭圧痕多。脚部外面に絞目あり。	本遺跡で小形祖製土器は本例のみ。
209 －2 写48－2	弥生土器 高　坏	ＳＪ03 埋土	現存高　5.2 坏・底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面に施削がある。内面に刷毛状工具による撫がある。	黒色処理化。
209 －3 写48－3	弥生土器 小形甕	ＳＪ03 埋土	口径　(9.7) 口縁一体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部に７＋α条単位の波状文。体部上方に５＋α条単位の波状文。その下方に施研磨がある。内面に施研磨あり。	
209 －4 写48－4	弥生土器 小形甕	ＳＪ03 埋土	口径　(11.0) 口縁一体部片	夾雑物含。並。橙。	複口縁部に３＋α条単位の波状文。頸部に４＋α条単位の波状文が３段施される。体部に刷毛状工具による撫があるが単位不明瞭。内面に施削あり。	
209 －5 写48－5	弥生土器 坏	ＳＪ03 埋土	底径　(9.0) 体部列・底部写欠	夾雑物含。並。橙。	体部外面に刷毛目後施研磨。底部に施削あり。内面に刷毛目がある。	黒色処理化。 平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
209 －6 写48－6	弥生土器 壺	ＳＪ03 床面	口縁　(26.0) 体部下半欠損	夾雑物微。並。浅黄橙。	複口縁部に刷毛による削。頸部立上に施削と刷毛目。体部上方による条痕文あり。その間に６＋α条を単位とする懸垂文が入りその下に円形貼付ボタン文。内面に施研磨、刷毛目。	黒色処理化。(内面部分)
209 －7 写48－7	弥生土器 鉢	ＳＪ03 床面	底径　16.0 上半欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面に縦作、施削、施研磨。内面に縦作、刷毛目、施撫がある。	内面煤。平底。 外面黒斑。
210 －8	弥生土器 鉢　か	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁の摩耗が著しく横撫は不明である。外面の施研磨は、単位不明瞭である。	外面黒斑。 赤色顔料塗彩。
210 －9	弥生土器 小形壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部から体部上方にかけ不明瞭な波状文が施される。	
210 －10	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部に４＋α条を単位として４段以上の波状文が施される。	内面黒斑化。
210 －11	弥生土器 小形壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。橙。	口縁部に波状文が施されているが単位は不明瞭である。	内・外面煤。
210 －12	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。褐。	口縁部に６＋α条を単位として４段以上の波条文が施される。	内・外面煤。
210 －13	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部に５＋α条を単位として３段以上の波状文が施される。	内・外面煤。
210 －14	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部に６＋α条を単位として４段以上の波状文が施される。	
210 －15	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい黄橙。	口縁部は複口縁であり、内・外面は素文である。	
210 －16	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	複口縁で、口縁端部に刻目がある。内面に横撫が見られる。	
210 －17	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物微。並。橙。	頸部に５＋α条単位の波状文３段以上。その下方に単位不明の簾状文あり。	
210 －18	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部上方に不明瞭な波状文。頸部に８＋α条の簾状文あり。その下方に８＋α条単位の波状文が２段以上施される。	
210 －19	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物微。並。浅黄橙。	頸部に７＋α条の簾状文。下方に５＋α条を単位、２段以上の波状文。	
210 －20	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物含。並。橙。	頸部に８＋α条の簾状文、下方に５＋α条を単位、２段以上の波状文。	
210 －21	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物微。並。橙。	頸部上方に不明瞭な波状文あり。頸部に８＋α条の簾状文を施す。その下方に不明瞭な波状文がある。	
210 －22	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物含。並。橙。	頸部立上に６＋α条単位の波状文が４段以上施される。頸部に８＋α条の簾状文がある。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
210 －23	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	頸部片	夾雑物含。並。におい黄橙。	頸部に５＋α条の簾状文あり。その下に５＋α条単位の波状文が３段以上施される。	
210 －24	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	底部片	夾雑物多。並。橙。	器肉は厚、接合痕が見られる。内・外面は素文である。	平底。
210 －25	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	底部片	夾雑物含。並。におい橙。	底部に施削が施される。内面は風化し整形不明瞭である。	平底。
210 －26	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	底部片	夾雑物微。並。におい黄橙。	体部外面下方から底部にかけ施研磨が施される。	平底。
210 －27	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	底部片	夾雑物含。並。におい黄橙。	体部外面下方に施削が施される。内面には撫が見られる。	平底。
210 －28	弥生土器 甕・壺	ＳＪ03 埋土	底部片	夾雑物含。並。におい黄橙。	体部外面下方に施研磨が施される。内面には撫が見られる。	平底。
212 －１ 写49－１	弥生土器 小形壺	ＳＪ04 埋土	底径　(8.2) 口縁～底部欠損	夾雑物含。並。暗赤。	体部外面下方に施削後施研磨あり。内面体部下方に施研磨あり。	赤色顔料塗彩。
212 －２ 写49－２	弥生土器 壺	ＳＪ04 炉	口径　(26.0) 口縁部½以下欠損	夾雑物含。並。橙。	複口縁で口縁部に刻あり。その下に刷毛撫あり。頸部に簾状文が８＋α条単位の４連止が推定４連位巡る。口縁部内面に研磨・凍ハゼあり。	赤色顔料塗彩。
212 －３ 写49－３	弥生土器 壺	ＳＪ04 炉	胴径　(26.7) 体上面½以下欠損	夾雑物含。並。赤褐。	頸部に連止のない７＋α条の懸垂簾状文が入り、その間２単位で上・下方向の７＋α条を単位とする懸垂文も入り、その下方に円形貼付ボタン文あり。内面に刷毛撫あり。	
212 －４	弥生土器 高　坏	ＳＪ04 埋土	底部片	夾雑物含。並。橙。	底部外面に研磨あり。底部内面に施削・刷毛状工具により撫あり。	赤色顔料塗彩。
212 －５	弥生土器 高　坏	ＳＪ04 床面	底部片	夾雑物含。並。赤褐。	底部外面に施削・施撫あり。底部内面に施撫あり。	
212 －６	弥生土器 壺	ＳＪ04 埋土	口縁部片	夾雑物多。軟。暗赤。	口縁部に７＋α条を単位とする波状文が下から上に入る。内面には施撫あり。	
212 －７	弥生土器 壺	ＳＪ04 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。褐。	口縁部に６＋α条を単位とする波状文が入る。内面には接合痕あり。	
212 －８	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 床面	口縁部片	夾雑物含。並。褐。	複口縁で口縁部に刻が施される。その下に７＋α条の刷毛目痕あり。	
212 －９	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部は複口縁である。内面には施削あり。	
212 －10	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 炉	頸部片	夾雑物含。硬。赤褐。	頸部に５＋α条で２連止の簾状文を施す。その下に６＋α条の波状文あり。	
212 －11	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。赤褐。	頸部に７＋α条で１連止の簾状文を施す。その下に７＋α条の波状文あり。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
212 －12	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	体部片	夾雑物含。並。褐。	頸部に８＋α条の櫛状文あり。下に８＋α条の波状文あり。内面に施撫あり。	
212 －13	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 床面	体部片	夾雑物含。並。褐。	頸部に３＋α条の櫛状文あり。その下に７＋α条の波状文あり。	
212 －14	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	体部片	夾雑物含。並。明赤褐。	頸部に10＋α条の櫛状文あり。２連止１個所あり。下部に10＋α条波状文有。	内面煤。
212 －15	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	体部片	夾雑物含。並。橙。	体部外面に鋸歯文帯と鋸状貼付文あり。内面に刷毛目痕あり。	
212 －16	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 炉	体部片	夾雑物多。並。褐。	体部外面に刷毛状工具による刷毛撫あり。内面に刷毛目痕あり。	外面煤。
212 －17	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	底径　2.8 底部片	夾雑物多。並。赤褐。	底部外面に刷毛目痕あり。内面に施削痕あり。割口に接合痕あり。	内・外面煤。 平底。
212 －18	弥生土器 甕・壺	ＳＪ04 埋土	底径　(3.3) 底部片	夾雑物含。硬。赤。	底部外面に刷毛状工具による刷毛撫あり。内面に施削あり。接合痕あり。	平底。
214 －1 写49－1	弥生土器 高　坏	ＳＪ05 埋土	残存高　7.5 脚・坏ﾖ欠損	夾雑物含。硬。赤褐。	体部外面刷毛撫後施研磨あり。内面に施研磨あり。	赤色顔料塗彩。
214 －2 写49－2	弥生土器 高　坏	ＳＪ05 床面	底径　15.0 坏部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	内・外面に刷毛撫あり。上方に粘土接合目痕あり。	
214 －3 写49－3	弥生土器 小形甕	ＳＪ05 床面	口径　10.0 口縁部一部欠損	夾雑物微。並。浅黄橙。	口縁部から頸部にかけ５＋α条を単位とする波状文が６段以上ある。体部外面に刷毛撫後施研磨。内面刷毛撫あり。	
214 －4 写49－4	弥生土器 小形甕	ＳＪ05 床面	口径　(14.0) 口縁～体部片	夾雑物含。軟。橙。	口縁部から頸部にかけ４＋α条を単位とする波状文が５段以上ある。体部内・外面に施研磨あり。風化。	胎土分析番号616。
215 －5	弥生土器 高　坏	ＳＪ05 埋土	残存高　3.1 脚部片	夾雑物微。硬。にぶい赤褐。	坏底部内面施研磨。体部外面に施研磨、内面に絞作痕あり。	
215 －6	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部内・外面素文であり、割口はシャープである。	
215 －7	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	口縁端部内・外面横撫あり。内・外面にやや煤がかかる。	
215 －8	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁～頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部に４＋α条の波状文が２段以上ある。頸部に３＋α条の櫛状文あり。	
215 －9	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁～頸部片	夾雑物含。並。灰褐。	頸部に２連止で７＋α条の櫛状文あり。その後に６＋α条の波状文が２段以上ある。内面施研磨。	外面に煤。
215 －10	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁～頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	頸部に８＋α条の櫛状文。後に６＋α条の波状文が２段以上。内面施研磨。	
215 －11	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 埋土	口縁～頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	刷毛撫後４＋α条の波状文が６段以上。後３＋α条の櫛状文。内面施研磨。	内面に煤。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
251 －12	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	外面に５＋α条の波状文が５段以上ある。内面施研磨。	内面に煤。
215 －13	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 床面	口縁部片	夾雑物多。軟。淡橙。	内・外面共風化。制口の摩耗が著しい。複口縁である。	
215 －14	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄褐。	複口縁に4＋α条の波状文あり。その下に７＋α条の波状文が２段以上ある。	
215 －15	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	複口縁に４＋α条の波状文が２段以上ある。その下に６＋α条の波状文あり。	
215 －16	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物含。並。褐灰。	外面に４＋α条の波状文が３段以上ある。内面刷毛施あり。	内・外面煤。
215 －17	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物含。並。褐灰。	外面に５＋α条の波状文が３段以上ある。内面施研磨あり。	内・外面煤。
215 －18	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄褐。	複口縁に６＋α条の波状文が２段以上ある。その下に８＋α条の波状文が４段以上ある。内面施研磨。	
215 －19	弥生土器 甕	ＳＪ05 床面	頸部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	外面に５＋α条の波状文が２段以上ある。内面施撫あり。	
215 －20	弥生土器 甕	ＳＪ05	体部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	外面に不明瞭な波状文がある。内面には撫がある。	
215 －21	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物微。並。浅黄橙。	頸部に７＋α条の簾状文がある。その下方に不明瞭な波状文が施される。	
215 －22	弥生土器 壺	ＳＪ05 床面	体部片	夾雑物微。並。にぶい褐。	外面に刷毛状工具による撫あり。内面は素文である。	
215 －23	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	頸部立上に５＋α条の波状文が２段以上。頸部に２連止５＋α条の簾状文。	
215 －24	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物微。並。にぶい褐。	頸部立上に５＋α条の波状文が２段以上。頸部に２連止10＋α条の簾状文。	
215 －25	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄褐。	頸部立上に４＋α条の波状文。頸部に６＋α条の簾状文がある。その下方に４＋α条の波状文が施される。	内面煤。
215 －26	弥生土器 甕	ＳＪ05 理土	体部片	夾雑物微。並。にぶい黄褐。	体部上方に不明瞭な波状文あり。その下方に施研磨が施される。内面に黑煤。	内・外面煤。
215 －27	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	体部片	夾雑物微。並。にぶい黄褐。	外面には不明瞭な波状文が施され、内面には撫が見られる。	外面煤。
215 －28	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	底部片	夾雑物含。並。明赤褐。	体部外面下方から底部にかけ施研磨が施される。内面に施研磨がある。	平底。
215 －29	弥生土器 甕・壺	ＳＪ05 理土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	内・外面素文である。体部外面下方にわずか調整が見られる。	平底。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
215 －30	弥生土器 大形壺	ＳＪ05 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄褐。	内・外面素文である。内面が剥離されている。	
217 －1 写49－1	弥生土器 小形甕	ＳＪ06 床下	残存高　6.0 口縁部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部上方に３＋α条を単位とする波状文が下から上に施文。それ以下上下方向の蕨研磨、内面横方向の研磨。	平底。
217　2 写49－2	弥生土器 壺	ＳＪ06 床下	残存高　13.8 口縁部欠損	夾雑物含。硬。にぶい黄橙。	頸部外面12＋α条の簾状文が２連止でなされるが単位不明。外面蕨研磨、内面刷毛施してあるが肌荒れしている。	平底。
217 －3 写49－3	弥生土器 小形甕	ＳＪ06 床面	残存高　11.2 口縁部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部外面に７＋α条を単位とする波状文がなされる。外面上下方向の蕨研磨、内面不定方向の蕨研磨。	内・外面橫。 平底。
217 －4 写49－4	弥生土器 壺	ＳＪ06 埋土	残存高　8.6 上半欠損	夾雑物含。硬。にぶい赤褐。	外面上下方向の研磨後上方に横方向の研磨あるが、焼・凍ハゼにより器面荒れている。内面は蕨研磨。	平底。
217 －5 写49－5	弥生土器 甕	ＳＪ06 床面	残存高　12.7 下半欠損	夾雑物含。並。にぶい。	頸部に６＋α条の２連止の単位不明の簾状文が２段ありその後に６＋α条を単位とする波状文が口縁に３段体部に２段ある。その下は外面上下方向、内面横方向の蕨研磨がある。	
217 －6 写49－6	弥生土器 甕	ＳＪ06 床面	器高　21.0 ↓欠損	夾雑物多。並。橙。	外面刷毛施後口縁部にむかって６＋α を単位とする波状文がなされる。下方は上下方向の蕨研磨。口縁部から頸部内面にかけてはっきりとした刷毛施。	内・外面部分橫。 平底。
218 －7 写49－7	弥生土器 壺	ＳＪ06 貯蔵穴	残存高　34.5 口縁欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面刷毛施後、頸部に８＋α を単位とする２連止の簾状文が推定10単位で２段にあり、その下に７＋α条の波状文が２段、体部下方は蕨削。内面上は蕨施、下は刷毛施がなされている。	外面体部下半橫。
218 －8 写49－8	弥生土器 壺	ＳＪ06 床面	底径　9.5 上半欠損	夾雑物多。並。にぶい黄。	体部内・外面蕨施。底部外面蕨削される。内・外面ともに肌荒れしている。	平底。
218 －9	弥生土器 小形甕	ＳＪ06 床面	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい赤褐。	口縁部外面に簾状文がある。内面は蕨研磨。	内・外面橫。 平底。
218 －10	弥生土器 甕	ＳＪ06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	頸部に簾状文を施し、その後口縁部に波状文がある。単位不明。内面蕨研磨。	
218 －11	弥生土器 甕	ＳＪ06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄。	口縁部外面に６＋α条の波状文がある。その下方に簾状文があり内面は蕨研磨。	内面橫。
218 －12	弥生土器 甕	ＳＪ06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁端部刻目痕あり。口縁部外面４＋α条を単位とした波状文。内面蕨削。	
218 －13	弥生土器 甕	ＳＪ06 貯蔵穴	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄橙。	口縁部外面立上に上方へ向かって６＋α条の波状文がある。内面蕨研磨。	
218 －14	弥生土器 甕・壺	ＳＪ06 埋土	体部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	外面に４＋α条を単位とした波状文がある。内面に蕨研磨あり。	外面橫。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
218 －15	弥生土器 甕・壺	ＳＪ06 床面	体部片	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	外面に６＋α条単位の波状文が３段以上施される。内面研磨。	
218 －16	弥生土器 壺	ＳＪ06 床面	体部片	夾雑物合。並。浅黄橙。	外面に不明瞭な波状文が施されている。内面は素文。	
218 －17	弥生土器 甕・壺	ＳＪ06 埋土	頸部片	夾雑物微。並。橙。	頸部立上に６＋α条の波状文が３段以上、下方に７＋α条単位の櫛状文が２連止。内面篦研磨。	
218 －18	弥生土器 甕・壺	ＳＪ06 埋土	体部下方・底部片	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	体部外面下方は素文である。内面に紐作痕がある。	内面煤。 平底。
220 －１ 写50－１	弥生土器 鉢	ＳＪ07 埋土	口径　14.2 底部欠損	夾雑物合。硬。赤。	内・外面ともに磨研を意識した研磨が施される。口縁・底部煤ハゼあり。	赤色顔料塗彩。
220 －２ 写50－２	弥生土器 高　坏	ＳＪ07 床面	底径　11.0 坏部½欠損	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	外面上方刷毛状工具による撫。坏・脚部内面篦研磨。	
220 －３ 写50－３	弥生土器 鉢	ＳＪ07 床面	口径　12.7 口縁部½欠損	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	口縁部横方向・体部上下方向の篦研磨。底部粘土のめくれあり。内面篦研磨。	外面煤・黒斑。 平底。
220 －４ 写50－４	弥生土器 小形甕	ＳＪ07 埋土	底径　7.0 体部上半欠損	夾雑物合。並。にぶい褐。	体部外面上・下方向の篦研磨。底面篦研磨。内面篦撫。	内・外面煤。 平底。
220 －５ 写50－５	弥生土器 小形甕	ＳＪ07 床面	口径　12.6 ½欠損	夾雑物合。並。にぶい橙。	口縁部から頸部９＋α条の単位で３段以上の波状文。体部外面上方横方向、下方上・下方向の篦研磨。内面篦研磨。	内・外面煤。 平底。
220 －６ 写50－６	弥生土器 小形甕	ＳＪ07 床面	底径　(8.2) 底部片	夾雑物合。並。にぶい黄橙。	外面篦撫。篦削、紐作痕あり。内面篦撫後篦研磨。	平底。
220 －７ 写50－７	弥生土器 甕	ＳＪ07 埋土	口径　14.2 上半½・下半欠損	夾雑物合。並。にぶい橙。	口縁部から頸部にかけ刷毛撫後、15＋α条で４段以上の波状文、その下に篦研磨を施す。内面横方向の研磨。	
220 －８ 写50－８	弥生土器 甕	ＳＪ07 柱・掘	口径　(14.8) 上半½・下半欠損	夾雑物合。並。淡橙。	口縁部下から頸部に刷毛撫後、７＋α条で７段以上の波状文。体部上下方向の篦研磨。内面篦研磨。	内・外面煤。
220 －９ 写50－９	弥生土器 甕	ＳＪ07 埋土	口径　16.5 体部下半欠損	夾雑物合。硬。にぶい赤褐。	頸部に９＋α条で全周20＋α ケ所の多連止櫛状文を施し後に頸部立上に８＋α条で６段以上・肩部に欠損のため単位不明の波状文。内面篦研磨。	外面煤。 器形やや特殊。
220 －10 写50－10	弥生土器 甕	ＳＪ07 炉	口径　(19.3) 口縁½・底部・体部一部欠損	夾雑物合。並。にぶい橙。	口縁部から頸部に刷毛撫。頸部に８＋α条２連止で推定12単位の櫛状文を施し、後に立上に７＋α条で５段以上、肩部に７＋α条で２段以上の波状文を施す。体部下半・内面篦撫。調整荒らい。	内・外面煤。
220 －11 写50－11	弥生土器 甕	ＳＪ07 床面	口径　15.0 体部下半欠損	夾雑物合。並。浅黄橙。	複口縁で７＋α条の波状文。口縁部から肩部に刷毛撫。頸部に11＋α条で２連止３単位、１連止８単位計11単位の櫛状文を施し後に、肩部立上に10＋α条各１段の波状文。内面篦研磨。	内面煤付着。 胎土分析番号617。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
220 －12 写50－12	弥生土器 甕	S I 07 炉	口径 17.4 体部下半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	複口縁で8＋α条の波状文。口縁部下刷毛施。頸部より上方に9＋α条で4段以上の波状文。内面下方蕨研磨。	外面煤。
220 －13 写50－13	弥生土器 壺	S I 07 床面	底径 6.8 底部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	底部内・外面に蕨削後横方向の蕨撫を施す。	
221 －14	弥生土器 小形甕	S I 07 埋土	口縁～体部片	夾雑物含。並。橙。	器面風化し荒れている。口縁部から頸部にかけ波状文があるが単位2段以上。	
221 －15	弥生土器 甕	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。赤。	頸部立上に6＋α条で2段以上の波状文が施される。	
221 －16	弥生土器 甕・壺	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。暗赤褐。	口縁部に4＋α条で2段以上の波状文が施される。内面蕨研磨。	
221 －17	弥生土器 甕	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁端部に刻目痕あり。外面波状文があるが風化し単位不明瞭。	
221 －18	土師器 短頸壺	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁端部尖る。	
221 －19	弥生土器 甕	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。明赤褐。	立上に5＋α条で2段の波状文。頸部に5＋α条の簾状文。	
221 －20	弥生土器 甕	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	複口縁で5＋α条の波状文。立上に11＋α条で2段以上の波状文。	
221 －21	弥生土器 甕	S I 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	複口縁。頸部立上刷毛状工具による撫。内面横方向の蕨研磨。	
221 －22	弥生土器 甕	S I 07 埋土	頸部片	夾雑物含。並。橙。	頸部立上に6＋α条で2段以上の波状文。頸部に簾状文、欠損し単位不明。	
221 －23	弥生土器 甕	S I 07 床面	口縁部片	夾雑物含。硬。暗赤褐。	複口縁で6＋α条の波状文。頸部立上に4＋α条で2段以上の波状文。	
221 －24	弥生土器 甕	S I 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。にぶい赤褐。	頸部に5＋α条の簾状文。上・下に波状文。内面蕨研磨。	
221 －25	弥生土器 甕	S I 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。淡黄。	9＋α条を単位とする簾状文が2連止で、下方に6＋α条単位の波状文が2段以上ある。内面蕨研磨あり。	内・外面煤。
221 －26	弥生土器 甕	S I 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。浅黄。	6＋α条を単位とする波状文があり、下方に6＋α条単位の簾状文で1連止、内面に研磨が施されている。	内・外面煤。
221 －27	弥生土器 甕	S I 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。橙。	5＋α条の簾状文、下方に8＋α条の波状文あり。内面は研磨がある。	外面煤。
221 －28	弥生土器 甕	S I 07 埋土	体部片	夾雑物含。硬。淡黄。	5＋α条の簾状文。下方は5＋α条の波状文が2段以上。内面研磨がある。	外面煤。
221 －29	弥生土器 甕	S I 07 埋土	体部片	夾雑物多。並。淡黄。	外面に粗雑な刷毛目がある。内面には丁寧な斜の刷毛目がある。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量　目(cm) 口径・器高・底径 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備　考
221 －30	各土器 奥・壺	ＳＪ07 埋土	体部片	夾雑物含。金。淡黄。	８＋α条を単位とする波状文が２段以上ある。内面は研磨がある。	内・外面横。
221 －31	各土器 奥	ＳＪ07 埋土	底部片	夾雑物多。硬。淡黄。	底面は摩耗している。内面はざらざらして荒れている。	平底。
221 －32	各土器 壺	ＳＪ07 埋土	底部片	夾雑物多。金。橙。	体部外面は篦削で、底面は凸凹多い。内面に指痕。	平底。
221 －33	各土器 奥・壺	ＳＪ07 埋土	体部～底部片	夾雑物多。金。浅黄。	体部外面篦削。内面は指撫である。底部外面篦削で底面の器肉は厚。	平底。
223 －１	各土器 奥	ＳＪ08 埋土	頸部片	夾雑物含。金。にぶい橙。	４＋α条を単位とし３段以上の波状文。櫛状文は４＋α。内面研磨。	
223 －２ 写50－２	各土器 奥	ＳＪ08 床面	口径　(16.5) ½欠損	夾雑物含。金。淡黄。	口縁部に10＋α条を単位とし６段以上の波状文を施し、11＋α条の櫛状文、下方に細かい10＋α条の波状文が、肩部には横方向の研磨、その下方には縦の研磨。内面は丁寧な篦研磨。	内・外面横。 胎土分析番号618。
225 －１ 写50－１	各土器 小形壺	ＳＪ09 柱・現	底径　(6.0) 体部上半欠損	夾雑物含。硬。橙。	肩部外面横方向の研磨、その下方に縦方向の研磨がある。内面は方向不明な篦研磨。底部外面にも篦研磨がある。	
225 －２ 写50－２	各土器 奥	ＳＪ09 床面	口径　(14.8) 体部下半欠損	夾雑物多。硬。橙。	口縁部に７＋α条で２連止３段の波状文。下方に７＋α条の櫛状文、その下方に６＋α条の波状文が施される。内面に篦研磨がある。	内面横。
225 －03 写50－３	各土器 壺	ＳＪ09 埋土	残存高　(6.0) 体部片	夾雑物含。金。にぶい橙。	頸部に２条の波状文がある。下半は研磨。内面篦撫と研磨が施されている。	
225 －04 写50－４	各土器 奥	ＳＪ09 床面	口径　16.2 体部下半欠損	夾雑物含。金。にぶい橙。	口縁部外面11＋α条を単位とし６段以上の波状文。下方に11＋α条１段の波状文、その間に11＋α条の櫛状文で１連止が不規則にある。頸部に７＋α条の波状文。内面には丁寧な研磨。	外面煤付着。
225 －05	各土器 奥	ＳＪ09 床面	口縁部～体部片	夾雑物微。金。淡黄。	口縁部外面に７＋α条を単位とし４段以上の波状文が、下方に12＋α条の櫛状文が２連止にある。体部に６＋α条の波状文が２段以上ある。内面研磨。	内面横。 外面煤付着。
225 －６	各土器 奥	ＳＪ09 床面	頸部～体部片	夾雑物含。金。淡黄。	外面に不明瞭な波状文、下方に10＋α条の櫛状文が２連止にある。その下方に７＋α条の波状文。内面横方向研磨。	
226 －１ 写50－１	各土器 小形奥	土壙 床面	口径　(12.8) 口縁～体部片	夾雑物含。金。にぶい橙。	８＋α条単位の波状文が３段以上。下方10＋α条の２連止櫛状文。内面研磨。	
231 －01 写50－１	各土器 小形奥	グリット	底径　6.2 体部上半欠損	夾雑物多。金。橙。	体部内・外面に篦削が施されている。底面にも篦削が見られる。器肉は厚。	
231 －２	陶器 擂鉢	グリット	口縁部片	夾雑物微。金。淡黄灰。	内・外面に淡鉄釉を施し、内面に細かい11＋α条の卸目あり。	美濃焼18世紀。

第6篇　師・鎌倉・後田遺跡出土土器の胎土分析

花　岡　紘　一（群馬県工業試験場）
大　江　正　行（群馬県埋蔵文化財調査事業団）

はじめに

1979年からはじめた胎土分析は約600点を越え、現在に至っている。その結果、県内10個所に存在する窯跡群のうち吉井・乗附（観音山）・秋間・中之条・月夜野・笠懸窯跡群について傾向・領域を知るとともに消費地出土須恵器の製作地同定を可能にし、さらに各窯跡群の胎土傾向は立地基盤層と有機的な関係にある点も次第に分かってきた。今回の分析は師・鎌倉遺跡出土の須恵器と弥生式土器を扱い、補足として、師遺跡に近接してある後田遺跡出土古瓦を加えた。

なお、本稿の化学上の記述を花岡が、考古学上の記述を大江が分担した。

1．試料の選択

今回の分析試料は鎌倉遺跡から弥生式土器3点、師遺跡から須恵器8点、土師器1点、後田遺跡から古瓦3点を抽出した。それぞれ遺跡を代表する意味を持たせ、あるいは遺跡の性格付けに寄与しうる背景にある個体を選んだ。各試料の肉眼観察の所見と肉眼による製作地推定は附表1のとおりである。

2．分析の目的と意図

ケイ光X線による定性（原素）分析の有効性は製作地の同定と原料の推定にあるため、今回の分析目的をそこに置いた。具体的な内容に関しては下記のとおりである。

① 試料№616～618は鎌倉遺跡出土の弥生式土器は県内平野部の弥生式土器よりも嵩（かさ）がなく（重い）陶土原料を思わせる。陶土原料とすれば既分析に月夜野窯跡群の成果があり、それと比較したい。

② 試料№619は師遺跡出土の土師器坏である。胎土の質感は軽く（嵩あり）、師遺跡の主体をなす重い土師器とは異なり、それは県内平野部に一般的な質と共通するので平野部産と見られる。土師器既分析値と比較したい。

③ 試料№620～627の7点は師遺跡出土で古墳時代から8世紀の須恵器である。それぞれ肉眼観察を通し、推定される窯跡群名を附表1に示してみた。このため既分析の各窯跡群領域と一致するかを見たい。

④ 試料№628～630は後田遺跡出土の8世紀前半の瓦片である。後田遺跡は師遺跡と地続きの大集落跡で村落内寺院が想定されており、試料はその所用瓦である。この地域の造瓦生産の主体は月夜野窯跡群にあり、同窯跡群の領域と一致するか知りたい。

3．分析方法及び測定条件

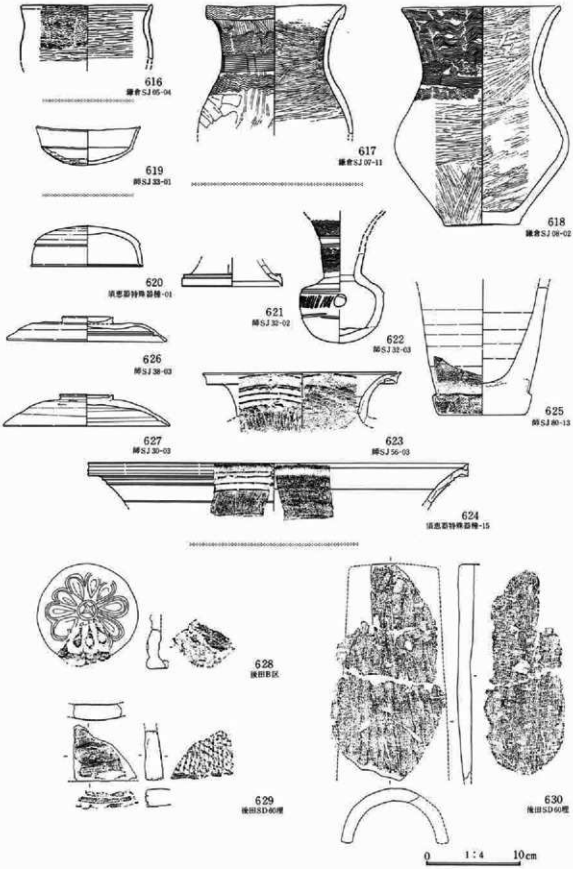
蛍光X線分析　分析用試料は各試料を10μm以下に粉砕し、5～10gを径4cmの円板に成型して使用した。測定条件は次の通りである。

蛍光X線分析装置；理学電機㈱製KG－4型

X線管球；銀対陰極　50KV、20mA

分光結晶；Fe、Sr、RbにはLiF（2d＝4.028Å）

附図1　胎土分析試料


616
鎌倉SJ 05-04
617
鎌倉SJ 07-11
618
鎌倉SJ 06-02
619
師SJ 33-01
620
須恵器特殊器種-01
621
師SJ 32-02
622
師SJ 32-03
626
師SJ 38-03
625
師SJ 80-13
627
師SJ 30-03
623
師SJ 56-03
624
須恵器特殊器種-15
628
後田B区
629
後田SD 60埋
630
後田SD 60埋
0
1:4
10cm

附表1　観察要目一覧

番号	種別	出土地	製作年代	摘要および胎土の肉眼観察の所見	推定製作地
616	弥生土器 短頸壺	鎌倉ＳＪ ５―４	３世紀	体部上半に波状文と簾状文。以下と内面に篦研磨が施された小形壺である。夾雑鉱物は多くない。石英粒をわずかに含み、白・灰・黒色鉱物粒もわずかに含む。重みは軽くもなく、重くもない。	利根地方の製作か。
617	弥生土器 壺	鎌倉ＳＪ ７―11	３世紀	外面に波状紋と簾状文。内面に篦研磨あり。夾雑鉱物をわずか含む。石英粒は微、白・灰・黒色鉱物粒はほとんど見えない。重みは前同。	利根地方の製作か。
618	弥生土器 壺	鎌倉ＳＪ ８―２	３世紀	外面に波状文と簾状文。内面に篦研磨あり。夾雑鉱物をわずか含む。石英粒は見えない。白・灰・黒色鉱物粒をわずか含む。制孔口はクレーター状に見える凹みが多く、鉱物脱落ではなく性質。前２点に近似。	利根地方の製作か。
619	土師器 坏	師ＳＪ33 ―1	７世紀中頃	小形化傾向があり、体部外面の稜は鋭くはない。夾雑鉱物粒をわずか含む。赤褐色円粒鉱物が目立つほか、灰・白色鉱物は微細粒がほんのわずか含まれる。重さは軽く、洪積台地の粘土か。軽石粒見えない。	渋川市以南の平野部からの搬入土器か。
620	須恵器 坏蓋	師　Ｂ区 ―括	５世紀末～６世紀初頭	轆轤左廻り。夾雑鉱物は極めて少なく、石英粒と白色鉱物粒があり、黒色の鉄分は目立ない。素地中に白色鉱物の微粒を特徴的に含む。重さは焼締られていないためか並。灰色。	乗附窯跡群製（板鼻層群）か。
621	須恵器 短脚高坏	師ＳＪ32 ―２	６世紀前半	夾雑鉱物は多いが、素地の粒状に近い白色鉱物で、それが特徴的であり、乗附窯跡群の可能性もあるが、器表は滑らかなので、他窯群の可能性もあり。焼並。暗色気味であり燃かかる。暗灰色。	①乗附窯跡群製か。 ②藤岡窯跡群製か。 ③太田窯跡群製か。
622	須恵器 碗	師ＳＪ32 ―３	６世紀中頃	夾雑鉱物を含む。白色の大小鉱物粒の夾雑が目立つ。素地中も白色の微粒多い。白色鉱物粒は石英が少なく長石が多い。他に黒色・灰色鉱物粒は見えない。小気泡多い。焼並。暗色で燃かかる。暗灰色。	太田・金山窯跡群製か。
623	須恵器 壺	師ＳＪ56 ―３	６世紀前半	夾雑鉱物粒を含む。白石の大小鉱物粒の夾雑が目立つ。素地中も白色の鉱物粒多く、まったく622に似る。小気泡焼締りのため特に多いが供積や粘土のそれとは異なる質感。焼締。暗色で燃かかる。	太田・金山窯跡群製か。
624	須恵器 壺	師29Ａ31	６世紀前半	夾雑鉱物は少ない。素地に大・小の白色粒子が多い。他に黒色・灰色鉱物粒は見られない。特徴は622・623に似る。小気泡を含む。硬質。暗色で燃かかる。	太田・金山窯跡群製か。
625	須恵器 鉢	師ＳＪ80 ―13	８世紀前半	夾雑鉱物は少ない。白色の大小の粒子と黒色（$Fe^{2}O^{3}$ と SiO^{2} か）物質が目立つ。気泡は多くＸ15では軽石状に見えるが焼締が作用している。焼締りあり。自然釉。灰色で還元気味。	月夜野窯跡群製か。
626	須恵器 坏蓋	師ＳＪ38 ―３	８世紀前半	夾雑鉱物は少ない。白色の大・小粒子と黒色円粒状質が目立つ。灰色鉱物粒もわずかみる。気泡は土の練目にそって走るが少ない。土味は焼が並の割りに、ねっとりした感じ。灰色で還元気味。	月夜野窯跡群製か。
627	須恵器 坏蓋	師ＳＪ30 ―３	８世紀前半	夾雑鉱物は少ない。白色の粒子は多い。黒色・灰色鉱物粒は見えない。気泡は多くＸ15では軽石状が多いが焼締はなく、625に近似している。焼は並。灰色か還元気味。	月夜野窯跡群製か。
628～630	628　鍔瓦 629　宇瓦 630　男瓦	628Ｂ区 ―括 629ＳＤ 60埋104 Ｂ02・03 630同上	８世紀前半	628は『後田遺跡Ⅱ』（御都馬黒埋蔵文化財調査事業団）1987、Ｐ.5186ゥ9、629はＰ.5198ゥ15、630はＰ.896ゥ49である。３点とも胎土に白色鉱物粒を多く含み、625・627に近似する。白色鉱粒は石英粒少なく、長石粒多い。黒色物質は円粒状で629の還元状態で黒色、628・630のやや酸化気味で暗赤褐色となるが、量は目立ない。灰色鉱物粒は見えない。含まれる気泡は土の練目にそって走り、その特徴も、626や627に共通するが、入り方は多くない。629・630は粘土紐作りで、後田遺跡出土の小仏堂が示唆される。瓦は一元供給か。 628は焼並。灰褐色。重さは並。629は焼硬。灰色。重さはややあり。630は焼並。灰褐色。重さは並。	月夜野窯跡群製か利根地方の製作。

Ca、K、Ti、Si、Al には EDDT (2d=8.808Å)

Mg には ADP (2d=10.648Å)

検出器；LiF を使用したとき、S.C. EDDT、ADP を使用したとき、P.C

時定数；1

計数法；Fe、Ca、K、Ti、Sr、Rb はチャートにより、Si、Al、Mg は定時計数法によった。なおチャートは4°／min とした。

波高分析器；積分方式

測定線；FeKα、CaKα、KKα、TiKα、AlKα、MgKα、SrKα、RbKα の各1次線を使用した。

X線対照射面積；20mmφ

標準試料；群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼を受けた土器6点(295・310・366・345・360・380)を化学分析し標準試料とした。

4．結果

分析結果値は附表2のとおりで、Ca／K：Sr／Rb の関係については附図2－1に示した。また肉眼観察で推定され、比較に必要な既分析値と窯跡群別 Ca／K：Sr／Rb の値を附表3、附図2－2・3に示し、その比較

附表2　分析結果値

試料＼成分	SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
616	62.4	18.3	3.64	0.52	1.03	0.47	1.75	2.66	0.78
617	68.3	17.7	3.28	0.58	1.56	0.76	1.85	3.54	1.14
618	62.5	19.3	5.76	1.01	0.98	0.80	0.83	2.25	1.51
619	59.6	17.9	9.56	1.50	0.96	0.41	1.95	1.20	0.66
620	72.1	18.6	5.25	0.68	0.13	0.41	1.45	0.37	0.11
621	68.1	18.6	6.69	0.77	0.81	0.43	1.16	1.87	0.92
622	67.4	18.6	9.13	0.87	0.45	0.78	1.16	1.10	0.49
623	70.8	18.1	5.50	0.83	1.03	0.65	1.17	1.80	1.16
624	67.9	20.5	6.47	0.84	0.87	0.81	0.98	2.60	1.15
625	70.0	16.3	5.83	0.90	0.98	1.38	1.62	1.58	0.81
626	62.1	24.8	7.44	0.98	0.61	0.75	0.99	1.18	0.79
627	69.9	20.7	5.72	0.85	1.02	0.79	1.08	3.00	1.23
628	63.8	22.2	7.34	0.86	0.92	0.82	1.04	2.22	1.18
629	68.2	19.6	5.06	0.80	0.85	1.77	1.48	2.00	0.75
630	63.1	20.1	4.35	0.78	0.91	1.70	1.58	2.33	0.76

附表3　各窯跡群を中心とする既分析値

弥生式土器

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
	坂匙 2	66.1	17.0	5.19	0.78	3.23	1.24	0.85	5.12	9.84
	坂匙 3	64.7	18.7	7.50	0.83	3.02	1.16	1.34	3.09	7.34
	坂匙 4	67.4	20.2	3.58	0.80	2.33	1.24	1.44	2.24	3.53
	坂匙 5	65.8	18.2	6.42	1.06	2.20	3.49	1.86	1.65	1.59
	616	62.4	18.3	3.64	0.52	1.03	0.47	1.75	0.78	2.66
	617	68.3	17.7	3.28	0.58	1.56	0.76	1.85	1.14	3.54
	618	62.5	19.3	5.76	1.01	0.98	0.80	0.83	1.51	2.25

土師器類

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
下東西	336	56.9	19.9	11.10	1.26	1.41	1.16	1.31	1.42	1.98
〃	337	57.2	18.9	11.05	1.22	1.57	0.77	1.28	1.61	2.35
〃	338	61.3	17.8	8.20	1.15	1.48	0.69	1.51	1.30	1.72
〃　暗文	339	60.3	13.5	9.27	1.09	2.99	1.27	1.19	3.28	2.34
〃　〃	340	59.5	14.1	8.95	1.15	4.80	1.26	1.16	5.39	2.62
〃　〃	341	61.1	13.7	9.00	1.06	2.84	1.14	1.15	3.22	2.02
〃　微内黒人	342	55.1	18.1	12.90	1.08	1.67	0.52	0.83	2.63	5.25
〃　〃	343	55.1	17.6	13.40	1.22	1.95	0.72	1.15	2.09	4.34
〃　土師質内黒(須恵)	367	63.9	14.9	11.60	1.73	2.25	0.44	1.08	2.75	3.31
〃　〃	368	74.8	17.9	3.80	0.92	0.46	0.58	0.88	0.70	1.42
〃　〃	369	64.5	16.8	5.85	0.86	1.36	1.57	1.38	1.29	1.54
鳥羽　暗文	438	60.3	13.0	9.45	1.34	3.63	2.00	1.74	3.89	2.80
飯田	飯田24	62.7	23.0	5.80	0.81	0.65	0.58	1.86	0.47	1.03
飯田東	飯田東11	63.7	19.2	5.73	0.80	1.70	0.67	1.49	1.59	2.74
戸神源助	448	56.6	19.4	8.68	1.28	1.77	2.60	1.77	1.17	2.44
〃	449	57.2	17.6	8.30	1.01	1.91	2.21	1.43	1.66	2.40
〃	450	58.9	18.2	8.50	1.09	1.59	2.37	2.04	0.98	1.51
鄙	619	59.6	17.9	9.56	1.50	0.96	0.41	1.95	0.66	1.20

中之条窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
天代支群1号窯　瓦	天代 4	68.6	17.4	4.67	0.67	0.94	1.15	1.73	0.71	1.38
〃　瓦	天代 5	68.9	21.4	2.70	0.88	0.29	0.59	1.46	0.26	2.79
〃　瓦	天代 6	66.0	18.0	6.60	0.89	0.95	1.02	1.21	1.40	1.95
中之条湯成粘土	天代 7	63.3	12.7	5.60	0.23	6.97	3.44	2.21	4.15	1.90
〃	天代 8	64.1	22.5	4.21	0.79	1.69	1.08	1.13	1.98	4.08
折田醫第3紀粘土	天代 9	64.5	21.2	6.37	0.67	0.96	1.36	1.79	0.70	2.25

月夜野窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
沢入A支群　月夜野窯跡群	3	70.6	18.4	2.96	0.67	0.57	0.76	1.75	0.43	1.92
〃　〃	4	66.5	20.5	5.14	0.73	0.83	0.75	1.32	0.83	2.21
〃　飯田東2-41		68.2	18.5	2.42	0.64	0.50	0.46	1.96	0.36	2.10
〃　〃2-42		66.0	21.0	5.19	0.66	0.78	0.45	1.45	0.76	2.84
〃　飯田4-29		65.8	21.4	4.14	0.75	0.45	0.57	1.33	0.47	1.00
〃　〃4-30		66.2	18.0	4.15	0.73	0.80	0.61	1.36	0.82	2.02
〃　村主9-11		69.1	24.0	3.95	0.71	0.58	0.43	0.88	0.87	1.76

〃	〃9-12	77.8	18.0	3.50	0.68	0.51	0.84	0.90	0.77	2.29
〃	〃9-13	77.4	17.5	2.76	0.62	0.48	0.41	0.56	1.14	2.50
深沢B支群	〃9-18	71.5	22.9	4.55	0.94	0.99	0.93	1.31	1.00	1.29
〃	〃9-19	67.0	22.0	3.75	0.89	1.06	0.31	1.24	1.14	1.94
〃	〃9-20	69.5	22.9	4.64	0.85	0.85	0.17	1.49	0.76	1.86
深沢C支群	飯田東2-43	65.2	21.0	2.94	0.67	0.78	0.38	1.38	0.79	2.43
〃	〃2-44	66.1	23.0	2.41	0.66	0.90	0.43	1.46	0.84	3.24
〃	〃2-45	64.2	20.4	3.04	0.64	0.77	0.30	1.38	0.77	2.97
〃	〃2-46	66.0	20.3	2.23	0.62	1.05	0.40	1.46	0.99	3.04
飯田東遺跡3住	飯田東2-32	67.0	18.0	4.56	0.65	0.41	0.45	1.51	0.38	1.90
〃	〃2-33	66.3	20.0	4.20	0.68	0.48	0.50	1.76	0.36	1.63
〃	〃2-34	66.0	19.2	3.36	0.70	0.48	0.44	1.46	0.44	1.42
〃	〃2-35	66.4	21.4	4.39	0.74	0.45	0.51	1.36	0.46	1.75
〃	〃2-36	66.2	22.8	3.60	0.76	0.40	0.50	1.43	0.39	1.45
同　遺跡6住	〃2-37	67.1	18.5	5.53	0.66	0.46	0.43	1.60	0.39	1.27
同　遺跡5住	〃2-38	65.0	24.0	3.30	0.66	0.98	0.45	1.31	1.01	2.83
〃	〃2-39	63.1	21.0	4.36	0.74	0.77	0.40	1.61	0.65	2.14
〃	〃2-40	66.2	21.5	3.65	0.75	0.68	0.56	2.15	0.43	1.41
飯田東遺跡採掘坑粘土	〃2-52	65.2	20.2	4.40	0.75	0.59	0.49	1.62	0.50	1.08
飯田表採	月夜野窯跡群5	69.1	19.2	4.29	0.75	0.54	0.72	1.71	0.42	1.40
〃	月夜野窯跡群6	64.7	20.3	4.94	0.81	0.47	0.36	1.24	0.50	1.69
飯田遺跡	飯田東4-21	65.1	19.5	7.36	0.66	0.39	0.49	1.15	0.46	1.08
〃	〃4-22	65.0	23.2	3.77	0.81	0.60	0.50	0.86	0.91	1.28
〃	〃4-23	63.4	21.9	8.20	0.76	0.39	0.45	1.04	0.51	1.37
〃	〃4-25	64.7	20.2	5.26	0.74	0.45	0.55	1.76	0.34	0.78
〃	〃4-26	63.5	22.0	6.04	0.77	0.38	0.60	1.84	0.28	0.79
〃	〃4-27	65.3	20.2	6.36	0.76	0.44	0.45	1.15	0.52	1.38
〃	〃4-28	66.0	18.5	4.00	0.80	0.91	0.64	1.40	0.89	2.16
鎮磨野A支群	村主9-30	69.9	22.0	3.95	0.78	1.02	0.06	1.64	0.83	1.69
〃	〃9-31	71.6	21.4	3.10	0.78	1.01	0.07	1.64	0.82	1.40
〃	〃9-32	69.5	22.8	3.90	0.93	0.87	0.25	1.43	0.80	1.70
〃	〃9-33	69.9	24.5	3.85	0.93	1.01	0.39	1.43	0.93	1.58
洞A支群	月夜野窯跡群1	68.6	18.4	4.29	0.82	0.70	1.12	1.49	0.62	1.79
〃	〃2	65.7	18.7	5.51	1.02	0.48	0.97	1.36	0.47	0.86

太田・金山窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
吉沢支群	坂遺20	64.3	21.7	7.64	1.09	0.74	2.75	1.91	0.54	1.51
〃	坂遺21	67.0	18.5	6.91	0.96	0.85	2.03	2.19	0.54	1.10
〃	391	61.0	20.7	9.00	1.08	0.81	0.65	1.52	0.71	1.58
亀山支群	坂遺22	68.0	18.9	6.51	0.87	0.53	0.94	1.42	0.51	1.69
大道西遺跡	坂遺15	69.7	18.4	3.93	0.70	0.26	1.00	2.61	0.14	1.30
〃	坂遺16	66.5	21.0	5.05	0.89	0.84	0.77	1.36	0.85	1.77
〃	坂遺17	67.1	20.1	5.66	1.09	0.90	2.23	1.94	0.65	1.59
〃	坂遺19	69.3	19.2	3.58	0.70	0.40	0.91	2.34	0.24	1.41

笠懸窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
山際支群	須恵器 201	64.6	22.5	7.45	0.96	1.02	1.01	1.48	0.79	2.31
〃	〃 202	62.7	24.4	7.73	0.93	0.97	0.62	1.34	0.83	3.17
〃	瓦 392	65.9	23.9	6.35	1.14	1.04	0.84	1.52	0.94	1.45
〃	〃 393	67.9	19.1	6.92	1.08	1.08	0.87	1.53	0.97	1.65
〃	〃 394	61.6	24.0	8.85	1.04	1.29	0.78	1.50	1.18	2.24
〃	〃 395	64.5	22.1	6.85	1.16	0.80	0.70	1.14	0.97	1.51
〃	〃 396	63.7	22.8	8.10	0.90	1.09	0.51	1.62	0.92	2.18

〃	〃	397	63.4	23.7	8.71	1.07	1.35	0.63	1.24	1.49	2.93
〃	〃	398	63.8	23.2	10.40	1.03	1.84	0.27	1.98	1.31	2.30
〃	〃	399	60.7	26.7	8.52	1.11	1.59	1.11	1.93	1.14	3.58
〃	〃	400	62.9	26.2	8.60	1.20	1.64	1.15	1.14	1.98	3.86
〃	土師質内黒(須恵)	401	57.9	19.8	11.00	1.17	1.36	0.47	1.20	1.57	2.10
〃	須恵器	402	63.9	21.0	10.70	1.05	1.62	0.57	1.40	1.58	3.73
〃	〃	403	61.2	26.5	8.61	0.97	1.13	1.14	1.55	1.02	3.16
〃	〃	404	67.4	19.9	7.52	1.02	0.86	1.04	1.74	0.69	1.44

秋間窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
苅根支群1～皿灰原	塚跡07	66.9	23.0	4.48	1.09	0.46	1.69	1.19	0.53	0.78
〃	塚跡08								0.55	0.77
〃	塚跡11								0.79	0.71
〃	塚跡12	68.9	20.0	4.76	0.89	0.30	1.14	1.75	0.24	0.46
〃	411	76.0	15.8	3.83	0.88	0.49	0.88	1.75	0.39	0.55
〃	412	61.6	26.3	8.95	1.38	0.38	0.88	1.70	0.31	0.64
〃	413	69.9	19.8	5.13	0.96	0.40	1.00	1.52	0.36	0.68
〃	414	65.0	20.9	8.21	1.03	0.51	0.82	1.42	0.50	0.58
〃	瓦 415	66.9	18.9	7.15	0.92	0.44	0.86	1.31	0.46	0.58
〃	瓦 416	71.1	20.7	3.95	0.98	0.24	0.93	1.24	0.27	0.68
八重巻支群	瓦 405	71.6	20.5	6.50	1.03	0.61	0.53	1.32	0.64	0.72
〃	406	72.3	21.3	4.43	0.85	0.37	1.06	1.95	0.26	0.51
〃	407	73.8	17.1	5.05	0.92	0.40	0.69	2.03	0.28	0.54
〃	408	71.6	19.0	5.75	1.01	0.73	0.89	1.57	0.64	0.75
日向支群	409	74.2	19.5	3.95	0.95	0.58	0.84	1.69	0.23	0.48
〃	410	74.6	15.1	4.42	0.93	0.45	0.82	2.19	0.28	0.79
道場	塚跡09								0.35	0.40
〃	塚跡10	68.9	13.9	5.24	1.00	0.35	1.20	1.57	0.31	0.56

吉井窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
五反田支群	日高 8	67.3	17.7	3.00	0.74	0.53	0.83	2.13	0.33	1.40
青龍寺支群	日高 9	69.8	20.2	3.30	0.87	0.36	0.49	1.54	0.30	3.16
長尾根支群	292	71.3	17.0	4.02	0.95	1.39	0.82	1.55	1.19	2.65
〃	瓦 293	57.5	21.3	7.45	1.16	2.19	0.60	0.78	3.68	3.28
末沢支群	294	61.8	18.0	7.80	1.17	1.51	2.50	1.55	1.28	1.71
〃	瓦 295	63.7	23.8	6.70	1.21	0.66	0.73	1.35	0.65	2.39
〃	296	60.3	18.0	6.00	1.20	1.73	3.23	1.62	1.41	1.85
長尾根支群	297	71.3	15.7	4.25	0.68	1.39	0.70	1.47	1.25	2.40
末沢支群	瓦 298	65.7	17.2	7.52	1.15	1.76	1.67	1.71	1.35	2.23

乗附窯跡群

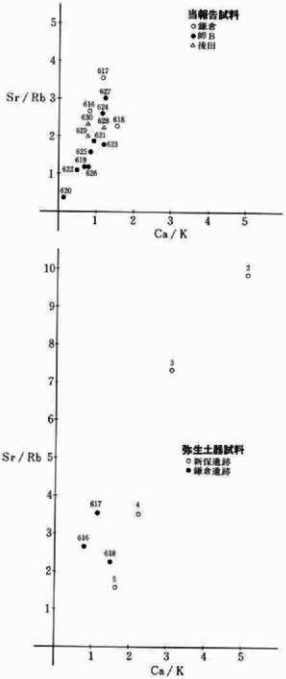
試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
南陽台支群	203	75.2	16.2	2.75	0.99	0.29	1.28	2.25	0.14	0.51
〃	204	69.6	20.6	4.26	0.96	0.52	0.77	1.64	0.36	1.00
小塚支群	417	66.9	18.0	7.25	0.97	1.18	1.17	1.15	1.41	1.82
〃	418	70.2	15.7	5.61	0.87	0.61	0.97	1.85	0.45	1.15
〃	419	69.3	17.5	6.45	0.78	0.44	0.98	2.78	0.22	1.00
〃	瓦 420	72.7	16.6	4.25	0.81	0.35	0.64	1.96	0.24	0.78
〃	瓦 421	71.6	18.8	3.75	0.88	0.36	0.83	1.53	0.32	0.75
でえせえじ支群	瓦 497	66.6	21.1	5.82	0.90	0.45	1.18	1.16	0.46	0.97
〃	498	68.4	17.6	5.35	1.27	1.07	1.09	1.18	1.20	2.45
〃	499	75.4	17.0	3.12	0.82	0.19	0.38	1.71	0.13	0.47

〃	500	69.6	21.8	4.00	0.82	0.33	0.90	1.29	0.31	0.85
〃	501	69.4	17.2	6.02	1.26	1.11	1.07	1.08	1.25	2.40
〃	502	73.1	17.2	5.20	0.82	0.31	1.11	2.13	0.18	0.48

藤岡窯跡群

試料＼成分		SiO_2(%)	Al_2O_3(%)	Fe_2O_3(%)	TiO_2(%)	CaO(%)	MgO(%)	K_2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
釜沢支群	212	65.7	22.7	6.85	1.28	0.87	0.68	0.94	1.07	2.15
金山支群	213	64.1	18.3	11.35	1.31	0.85	0.68	1.13	0.88	1.92

附図2　Sr/RbとCa/Kクラブ　その1



の要点は下記のとおりで番号は設問番号に一致する。

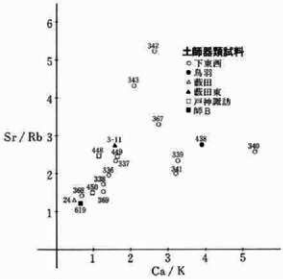
① 弥生式土器の既分析は新保遺跡例4点（注1—a）№2～5があり、高崎市近郊の弥生式土器成分の一端を知ることができるが、鎌倉遺跡例616～618よりも、Sr / Rd の値が高い傾向にある。今回も Sr / pb の傾向が陶土基盤にある県内の主要窯跡群よりもやや高く、一傾向が示された。月夜野窯跡群との比較からは深沢B支群の領域に616が入る。

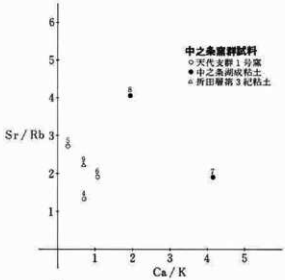
② 平野部の伝統的な土師器の分析例は下東西遺跡（注1—0）336～338と暗文の入る土師器339～341、内黒処理された367～369、鳥羽遺跡（未発表・整理担当綿貫邦夫氏の好意による）暗文の土師器438、沼田盆地での平野部からの搬入の可能性のある戸神諏訪遺跡の土師器448～450、同じく薮田東遺跡（注1—e）11、同じく薮田遺跡№24試料があり計15点の既値に限られる。その中では Sr / Rb の値が最も低く、下東西遺跡の368、369、338など平野部の一群に近接の位置にあるが現状では地域別傾向を得るまでには至っていないので平野部の土師器であるか特定できない。

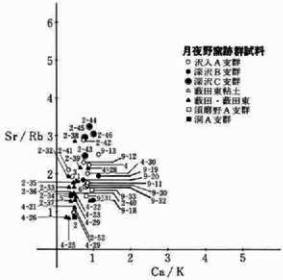
③ 試料№628～627は古墳時代～8世紀代の須恵器である。肉眼観察からの推定では月夜野窯跡群製が625、626、627、太田・金山窯跡群製が622、623、624、乗附窯跡群製が620、乗附窯跡群・藤岡窯跡群・太田・金山窯跡群のいずれかと見られる621がある。

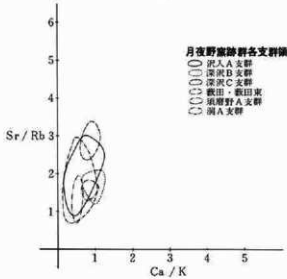
(1) 625、626、627は県内窯跡群中では625は秋間窯跡群を除く、太田・金山、笠懸、中之条天代支群、月夜野、乗附、吉井の各窯跡群領域中に入る。626は秋間、吉井、笠懸、中之条天代支群、

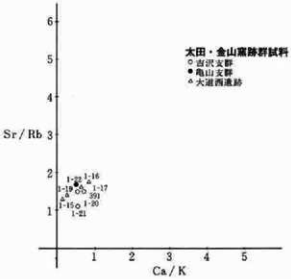
Sr/RbとCa/Kクラブ　その2

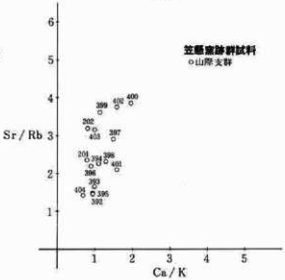




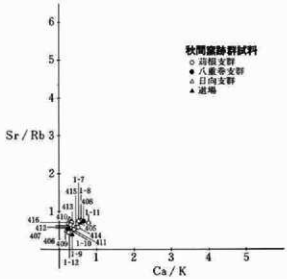


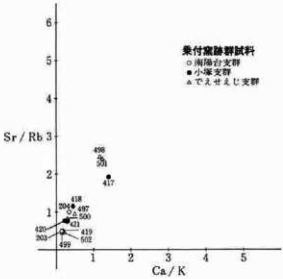


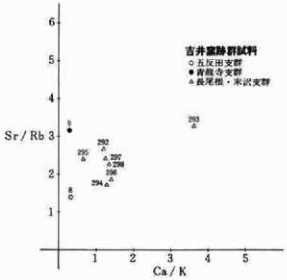


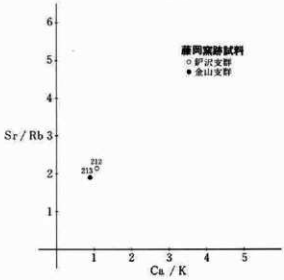


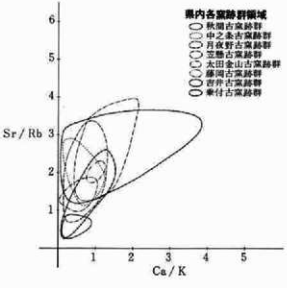
Sr/RbとCa/Kクラブ　その3











太田・金山の各窯跡群を除く、乗附・月夜野窯跡群の領域中に入る。627は秋間、乗附、太田・金山、中之条天代支群の窯跡群を除く、月夜野・笠懸・吉井窯跡群の領域に入る。

月夜野窯跡群領域に限定すれば625は深沢B、薮田、須磨野支群の領域内にあり、沢入A支群の領域に近接する。

626は薮田領域内に入り、沢入A、深沢B、須磨野支群が近接してある。

627は深沢C支群の領域に入り沢入A支群が近接してある。

(2) 622、623、624は県内窯跡群中では622は吉井

中之条天代支群、笠懸の各窯跡群を除く、太田・金山、秋間、乗附、月夜野窯跡群の領域中に入る。623は秋間、太田・金山、中之条天代支群の各窯跡群を除く月夜野、笠懸、吉井、乗附の各窯跡群の領域に入る。624は秋間、太田・金山、中之条天代支群の各窯跡群を除き月夜野、笠懸、吉井、乗附の各窯跡群の領域に入る。

太田・金山窯跡群領域に限定すれば622は太田・金山窯跡群の領域内に入る。

623、624は太田・金山窯跡群領域から外れる。

(3)　620は県内窯跡群中では秋間窯跡群の領域に入り、乗附窯跡群領域に近接する。月夜野、中之条天代支群、笠懸、太田・金山、吉井、乗附、秋間の各窯跡群領域から外れる。

(4)　621は秋間窯跡群の領域からは外れ、太田・金山、笠懸、月夜野、中之条天代支群、乗附、吉井の各窯跡群の領域に入る。乗附、太田・金山、藤岡の各窯跡群のうち藤岡窯跡群は領域設定がなされていないため比較はできないが太田・金山、乗附窯跡群の領域内に入る。

④　試料№628～630と月夜野窯跡群領域の比較においては628は月夜野窯跡群領域から外れるが近接し、629、630は入る。629、630は藪田・沢入Ａ支群の領域内に入る。628は月夜野窯跡群領域からわずか外れるが沢入Ａ群に最も近接している。

５．問題点

今回分析依頼内容に太田・金山窯跡群との比較があったが、太田・金山は地学上、秩父・古生層と金山流紋岩類層、軽石凝灰岩層（薮塚層ほか）で構成されている。そのうち既分析試料は秩父・古生層に係わる一群で、全体領域設定には金山流紋岩類層、軽石凝灰岩層に係わる試料が不足している。また太田・金山の北延長上には同じ基盤を持つ笠懸窯跡群があるが、両窯跡群の領域は各々異なっており、不一致の傾向をみせる。笠懸窯跡群試料は金山流紋岩層にある山際支群試料である。このため両窯跡群はほぼ同じ領域傾向となることが予測され、試料の補充が必要となっている。そのように各生成基盤にしたがっての製作地試料は不足しており、さらに今後、試料補充されなければならない。

注１

a)「土器の胎土分析」『塚廻古墳群』（群馬県教育委員会）1980年　花岡紘一・石塚久則
b)「瓦の胎土分析」『天代瓦窯遺跡』（中之条町教育委員会）1982年　花岡紘一・大江正行
c)「温井遺跡出土須恵器の胎土分析」『温井遺跡』（群馬県教育委員会）1981年　花岡紘一・真下高幸
d)「瓦の胎土分析について」『山王廻寺跡第７次発掘調査報告書』（前橋市教育委員会）1982年　花岡紘一
e)「土器の胎土分析について」『清里・鉢場遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年　花岡紘一・中沢悟
f)「薮田東遺跡出土土器の胎土分析」『薮田東遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年　花岡紘一・中沢悟・原雅信
n)「日高遺跡出土須恵器と瓦の胎土分析」『日高遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1982年　花岡紘一・平野進一・大江正行
g)「大釜遺跡・金山古墳群出土土器の胎土分析」『大釜遺跡・金山古墳群』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1983年　花岡紘一・大西雅広
h)「奥草・古墳群出土須恵器の胎土分析」『奥草古墳群』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1983年　花岡紘一・石塚久則
i)「月夜野古窯跡群の胎土分析」『土器部会研究資料№２』（群馬歴史考古同人会）1983年　花岡紘一・大江正行
p)「須恵器の胎土分析について」『三ツ木遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1984年　花岡紘一・飯田陽一
j)「糸井宮前遺跡出土須恵器の胎土分析」『糸井宮前遺跡Ⅰ』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1985年　花岡紘一・山口逸弘
k)「土器の胎土分析について」『吉田遺跡』（境町教育委員会）1985年　花岡紘一・加部二生
l)「村主遺跡出土土器を中心とした胎土分析」『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1986年　花岡紘一・中沢悟
m)「古墳出土須恵器の胎土分析」『下触平伏遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1986年　花岡紘一・小島敦子
o)「胎土分析」『下東西遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1987年　花岡紘一・三浦京子

第7篇 ま と め

Ⅰ 鎌倉遺跡における弥生時代の遺構と遺物

鎌倉遺跡の発掘調査によって検出された弥生時代の遺構は、後期の櫛式土器を出土する竪穴住居跡9軒、土坑3基である。以下、その要点をまとめると次のとおりである。

1）集落の立地

本遺跡は薄根川右岸の段丘上に立地している。北側は薄根川の急峻な段丘崖と、南側は幅30mほどの谷地に狭まれた、幅40mほどの東西に伸びる台地上を集落の場にしている。この台地は、東から緩やかな勾配を示す傾斜地形となっている。

本調査の調査範囲は、関越自動車道の路線幅60mほどで、この台地を東西に横断する区域である。その調査面積は約8,000㎡である。

この地内に検出された弥生時代の遺構は、後期の櫛式土器を出土する第1～9号まで竪穴住居跡と土坑3基である。住居跡の分布は、段丘崖から離れて東西方向に走る谷地の南側傾斜面に重複することなく検出された。また、土坑もそれぞれが離れて単独で検出された。これら遺構分布の在り方は、集落の存続期間も短く、また小規模な構成であるものとされる。集落の広がりは、台地の延びる東西方向に広がりをみせるものと考えられるが、遺物の散布は極めて希で、試掘調査が行われるまで遺跡の性格は不明であった。

2）住居の規模と構造

検出された住居跡は長方形の竪穴住居跡で、住居の長軸、短軸の相関表のとおりである。表に示すとおり、その規模は長辺5.3～7.2m、短辺3.1～4.7mほど範囲にあり、やや隅丸長方形を呈する竪穴住居跡である。住居の長辺、短辺の比は、1対1.5～1.9ほどにある。なお、8号住居跡は1対1.25ほどで、やや長方形に近い形状を示している。最も規模の大きい4号住居跡は、長辺7.2m、短辺4.7m、最も小さい3号住居は長辺5.3、短辺3.3mで、櫛式土器を出土する弥生後期の竪穴住居跡に通常みられる規模と構造を示している。

住居跡の長軸方位は住居跡の主軸方位図に示すように、8号住居を除いてN－5～17°－Wの間にあり、西からやや北方向に向いている。8号住居の方位は、N－87°－Wとその長軸をほぼ磁北方向に向けている。検出された住居の長軸方位は、南側の沢地を隔てて広がり、生活の主要な活動領域と推定される低地部分と、西北から吹き上げて来る季節風に対して最も理に適った方向と考えている。

主柱穴は、この時期にみられる竪穴住居跡と同様に4本柱を基本としている。確認面での柱穴は直径12～18cmほどの円形で、その掘り方は径30～50cm、深さ40～60cmほどである。

入り口方向にあたる住居南側の壁面近くに小規模な2本の長円形のピットが対にみられる。このピットは竪穴住居の昇降にかかわり掘られたものと考えられる。本調査にあたりその確証を得るため、比較的遺存状態の良好な2号・5号・6号・7号住居ピットの立ち割りを実施した。その結果、周壁に向かって傾斜する掘り方を確認している。また、9号住居では、掘り方の中に割り材を思わせる痕跡が認められた（9号住居平面図）。これらの所見を照合すると、入り口部分の模式図にみられるように竪穴住居跡の昇降のために使われた施設の存在が推定された。想像をたくましくすれば、板材を加工した階段が設置されたものと考えている。ピット内の板材は高崎市新保遺跡218号住居でも検出例がある。[1]

炉址は、入り口部分と反対方向の西、北側の短壁よりの柱穴の中間にある。炉址の形態は、やや楕円形に掘りくぼめられた「地床炉」である。地床炉には住居の内側よりには長辺、楕円形の河原石を据えた「枕石」

を配するものが多い。樽式土器を出土する住居のなかにあって、柱穴と炉跡との位置関係は、古い段階にあっては、奥行き柱穴間から中央部分に向かって位置し、新しい段階は本住居にみられるように中央部分、あるいは奥壁寄りに位置することは幾つかの論考で既に指摘されるところである。本住居にみられる柱穴と炉址との位置関係は後期後半にみられるものである。

住居の中で火災を受けた4号、6号住居跡は炭化した家屋材や焼土が認められ、2号も火災を受けた可能性がある。

3）出土土器の特徴

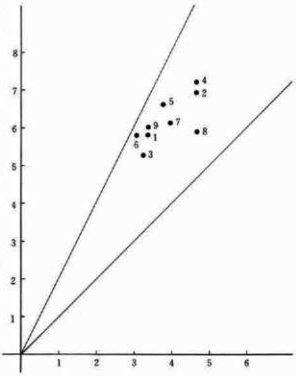
弥生土器は縄文土器と合わせて住居覆土の上層～下層にかけて出土したが、その多くは小破片で流れ込みによるものと推定された。したがって住居と共伴する遺物は住居が廃絶する際に投げ捨てられたか、取り残された土器と考えられるものであった。

住居から出土した弥生土器はすべて樽式土器である。図示したように、その器種組成は壺・甕・小型壺・小型甕・高坏・小型台付甕・浅鉢と祭しに使用されたであろう粗雑な小型高坏がある。

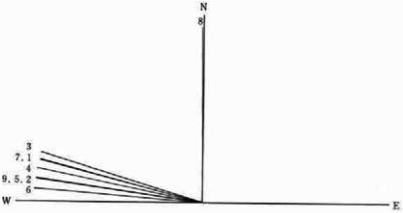
壺は、いわゆる折り返し口縁もち口唇部に刻目(1)、肩部にT字文(2)もつもの、口縁部を欠失しているが平縁口縁をもち、頸部に2連止め簾状文、2段の波状文を巡らしたもの(3)、後期前半に高崎周辺の西毛地域で盛行した鋸歯文が施された破片(4)などがある。

小型壺はより小型のもの(5)、「くの字」状を呈するもの(6)、赤色塗彩されるもの(7)がみられる。

甕は、口縁部が平縁のもの(8.9.10.11)、折り返し口縁をもつもの(12.13)がある。器形は最大幅が中位置にあり、また球胴化の傾向がある。文様は口唇部から胴下半部まで櫛描文波状文を施している。頸部に古い段階にみられる等間隔止め簾状文のみられるもの(8)など、古い施文手法がみられるものもある。



住居跡長軸、短軸の相関表



住居跡の主軸方位

小型甕(14.15)、丹塗り高坏(16.17)、高坏、台付甕(21.22)なども、その特徴は後期後半にみられる形態、特徴を示している。

これらの土器の諸特徴は、後期弥生土器を新旧2時期に区分した場合、その新しい段階にある。また水田稔氏の分類による沼田市石墨遺跡Ⅰ群土器[23]、相京建史・三宅敦気氏によるⅣ期区分の[24]Ⅲにあたり、後期後半に位置付けられる。なお、わずかではあるが、折り返し口縁部に刻目をもつ壺、後期前半に盛行した鋸歯文をもつ壺破片、頸部に等間隔止め簾状文が施された甕(8)にみられるようにやや古い手法が残るのも本遺跡の出土土器の特徴と考えている。

4）生活基盤

遺跡地南側に幅20mほどの谷地が東西方向に延びている。本遺跡に住み搬式土器を使用した弥生人の水田跡の可能性を考えて、谷地を横切るように2本のトレンチを設定したが、水田耕作を思わせる遺構、土壌とも検出できなかった。しかし、この谷地が西方に向かって、急激に勾配があり、たとえ水田耕作が行われたとしても、洪水等の自然災害により壊されている可能性は大である。事実、土層の堆積状態は長期にわたって定安した土壌の堆積はみられないものと観察された。

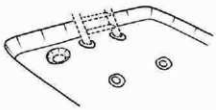
谷地を隔てて南側は平坦地形が広がるので、本遺跡にかかわる生産の場が考えられるものの、試掘調査、踏査等の観察でも未確認であった。

5）弥生集落の存続期間

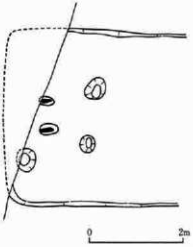
弥生集落が成立する以前は、縄文時代の陥し穴、縄文前期から中期にかけての土器破片の出土があり、隣接して縄文集落の存在が考えられが、弥生集落成立するまで、集落立地の上では空白期間となっている。

弥生集落は他地域からの弥生人の移住により成立している。その時期は後期後半の中にあり、集落構成、出土遺物から、存続期間も短く小規模な集落であったものと考えられる。

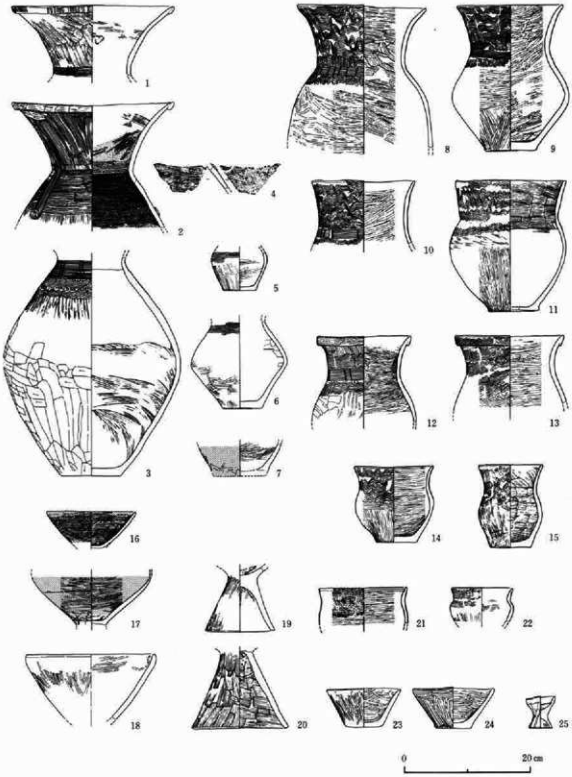
集落の終焉は、この地域で検出された石墨遺跡Ⅱ・Ⅲ群土器、利根郡昭和村糸井宮前遺跡[24]、中棚遺跡にみられる弥生土器の要素が残る古墳前期の土器[25]はみられない。したがって、本遺跡の終焉は後期後半の中にあ



入口部分模式図



9号住居跡平面図



1号(23)、2号(8、18)、3号(2、22、25)、4号(1、4、7)、5号(15、17、21)
6号(3、5、6、11、20)、7号(10、12、13、14、16、19、24)、8号(9)

弥生土器の組成図

るものと考えている。住居跡から出土した遺物は少なく、その多くは集落移動の折りに持ち運ばれたものと考えている。また、火災住居の存在は集落移動の折りに、住居を消失させた可能性も考えてよいであろう。移動の理由は不明であるが、いずれにしても、本遺跡の存続期間は、後期後半の中にあり、その期間も限られた短い時期にあったものと考えている。

Ⅱ　師遺跡の生産基盤

本遺跡の集落は、古墳時代中期から平安時代にわたる6世紀から10世紀にかけて形成されている。その後方にそびえる三峰山の崩落にともなう落石が群集しているため、その間隙の空間部分に住居がつくられている。集落跡の中心は、既に大江正行氏により述べられているように、さらに後方に広がる上位段丘面の後田遺跡[5]を中心として師地域に全体に広がる大集落の南部分を占めたものと考えられる。

本遺跡の立地する段丘面は南面に広がる利根川低段丘の水田地帯と接して、極めて眺望の良い場所にある。南面に広がる利根川低段丘地帯は今日においても、この地域の穀倉地帯となっている。

本調査では水田遺構は確認されないため推定の域をでないが、遺跡周辺には後方三峰山から流れる小河川より形成された谷地形には各所に水田が営まれている。現在と同様、本遺跡の水田農耕を考える上で、利根川低段丘地帯と谷地形はその最適地であろう。

参考文献

(1)　群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『新保遺跡Ⅱ―関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集―』1988

(2)　沼田市教育委員会『石墨遺跡―関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書―』1985

(3)　相京建史・三宅敦気『聊式土器の分類―横名山東南麓中心として―』「第三回三県シンポジウム」群馬県考古学談話会　1980

(4)　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『赤井宮前遺跡Ⅰ―関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第８集―』1985

(5)　昭和村教育委員会『中棚遺跡―関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書―』1985

(6)　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『後田遺跡Ⅱ―関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集―』1988

写 真 図 版

御遺跡と利根川・三国連山　　南上空　→

御遺跡と後田遺跡　　北西上空　→

師遺跡を北上空より望む　　後方にＪＲ上越線と国道17号線が見える。

師遺跡を西上空より望む　　段丘は水田地帯と桑園地帯となり明瞭。

師遺跡A区近景　　西 →

師遺跡B・C区近景　　北西 →

ＳＪ01遺物出土状態　北東 →

ＳＪ02遺物出土状態　北東 →

ＳＪ03遺物出土状態　西 →

ＳＪ03竈周辺遺物近接　西 →

ＳＪ04遺物出土状態　西 →

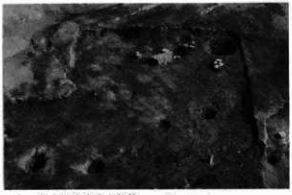
ＳＪ08竈近景　西 →

ＳＪ09・10遺物出土状態　南 →

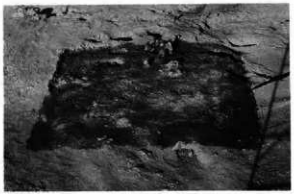
ＳＪ09竈近景　西 →

ＳＪ11遺物出土状態　　南 →

ＳＪ12・90床面状態　　南西 →

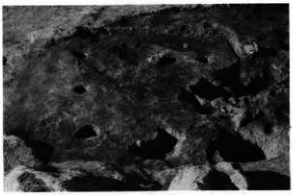


ＳＪ13遺物出土状態　　西 →



ＳＪ15遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ16遺物出土状態　　東 →



ＳＪ23床面状態　　南東 →

ＳＪ29床面状態　　西 →

ＳＪ30遺物出土状態　　西 →

ＳＪ32遺物出土状態　東 →

ＳＪ32竈周辺遺物近景　西 →

ＳＪ33・34遺物出土状態　西 →

ＳＪ35遺物出土状態　北西 →

ＳＪ36・37遺物出土状態　東 →

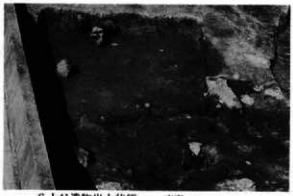
ＳＪ36竈近景　西 →

ＳＪ38遺物出土状態　南東 →

ＳＪ38遺物出土状態　北東 →

ＳＪ39・40遺物出土状態　　西 →

ＳＪ40竈周辺遺物近景　　南東 →



ＳＪ41遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ42遺物出土状態　　西 →

ＳＪ42竈周辺遺物近景　　南 →

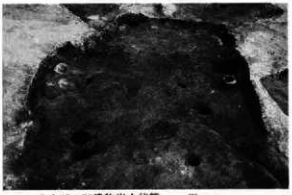
ＳＪ47床面状態　　南 →

ＳＪ49遺物出土状態　　南西 →

ＳＪ49竈近景　　南西 →

ＳＪ50遺物出土状態　　西 →

ＳＪ51床面状態　　南西 →



ＳＪ48・52遺物出土状態　　西 →

ＳＪ55遺物出土状態　　南西 →

ＳＪ56遺物出土状態　　西 →

ＳＪ58床面状態　　西 →

ＳＪ60遺物出土状態　　南西 →

ＳＪ60竈近景　　西 →

ＳＪ59・72遺物出土状態　南西 →

ＳＪ61遺物出土状態　北西 →

ＳＪ62遺物出土状態　東 →

ＳＪ64遺物出土状態　南西 →

ＳＪ65床面状態　西 →

ＳＪ72竈周辺遺物近景　西 →

ＳＪ74床面状態　西 →

ＳＪ75床面状態　南西 →

ＳＪ76遺物出土状態　　西 →

ＳＪ79床面状態　　南西 →

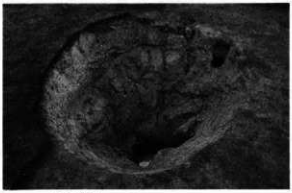
ＳＪ80遺物出土状態　　南 →

ＳＪ84・85遺物出土状態　　南 →

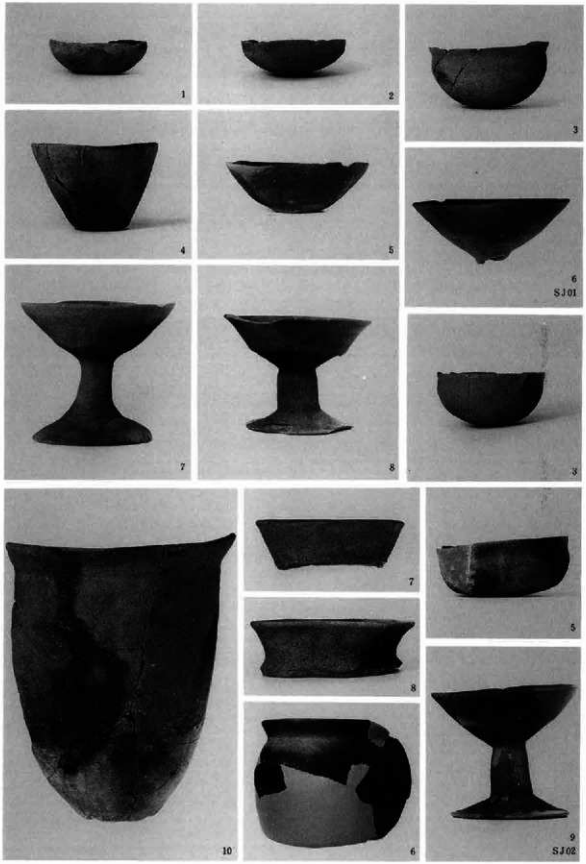
ＳＪ86遺物出土状態　　西 →

ＳＪ88遺物出土状態　　西 →

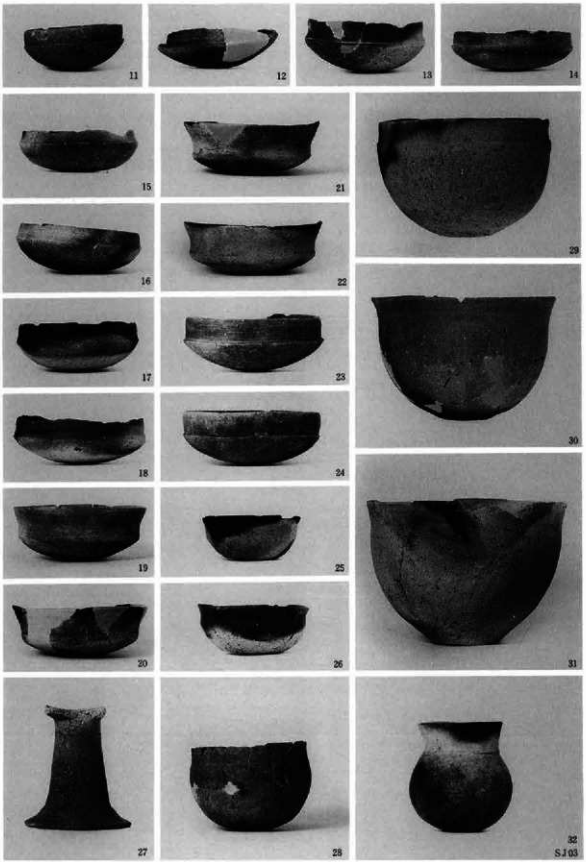
ＳＪ89遺物出土状態　　西 →



ＳＥ01近景　　南 →



ＳＪ01・02遺物　　１：４



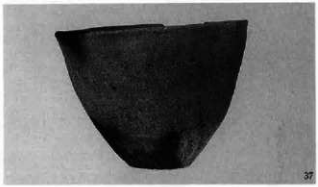
ＳＪ03遺物　　１：４

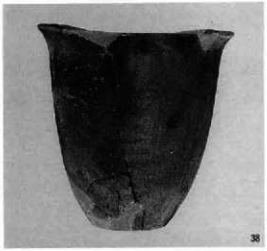
33

34

35

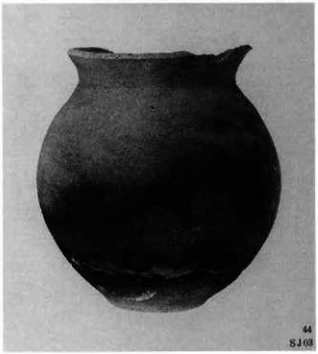
36


37

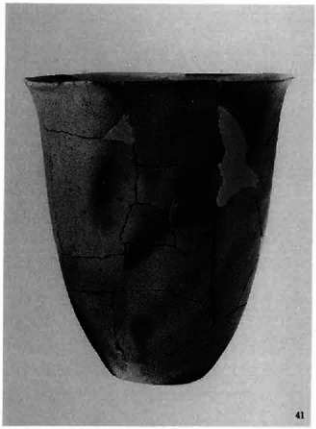

38

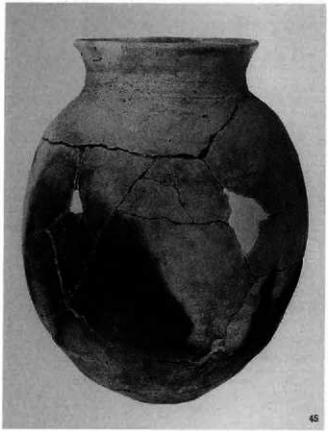
39

40

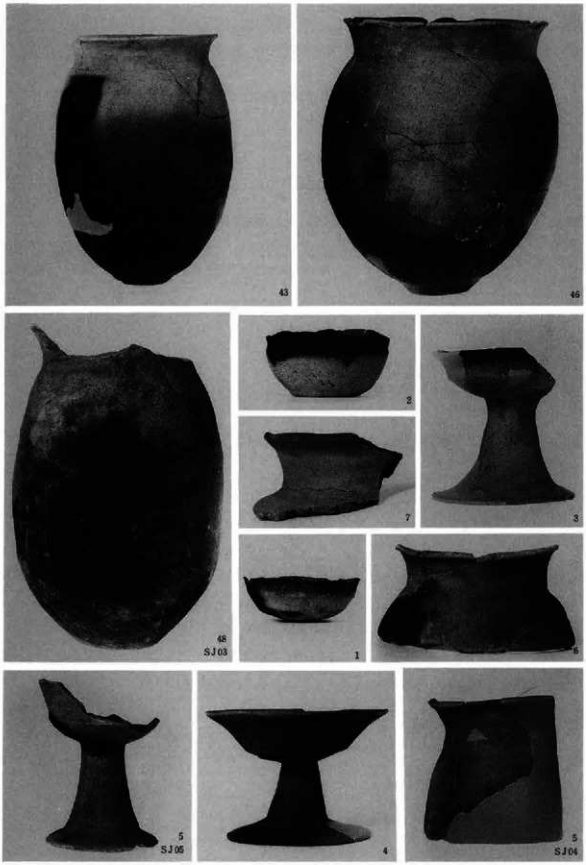

44
SJ03

ＳＪ03遺物　　1：4

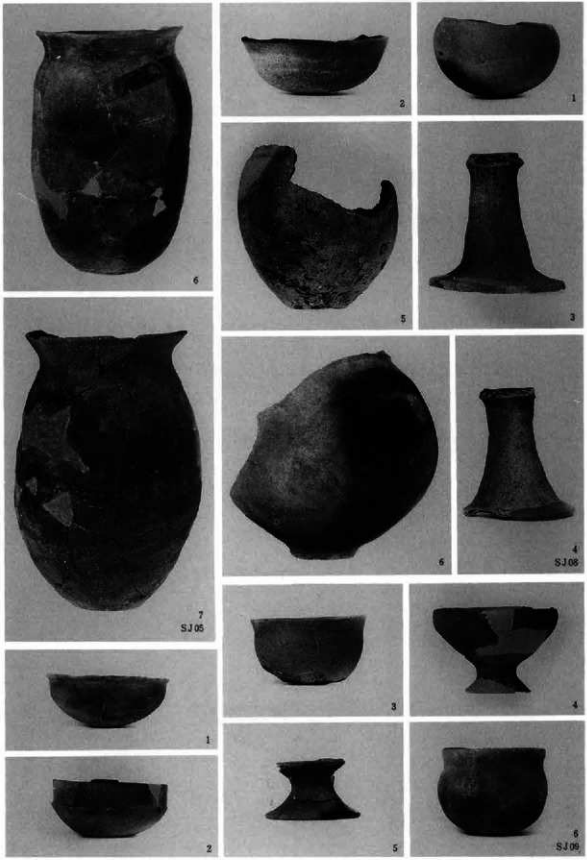




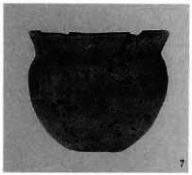
ＳＪ03遺物　　１：４

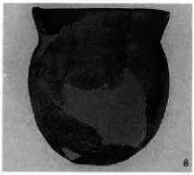


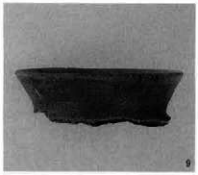
S J 03・04・05遺物　　1：4

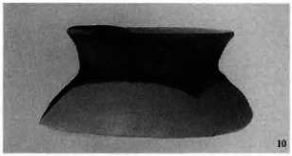


ＳＪ05・08・09遺物　　1：4


7


8


9


10

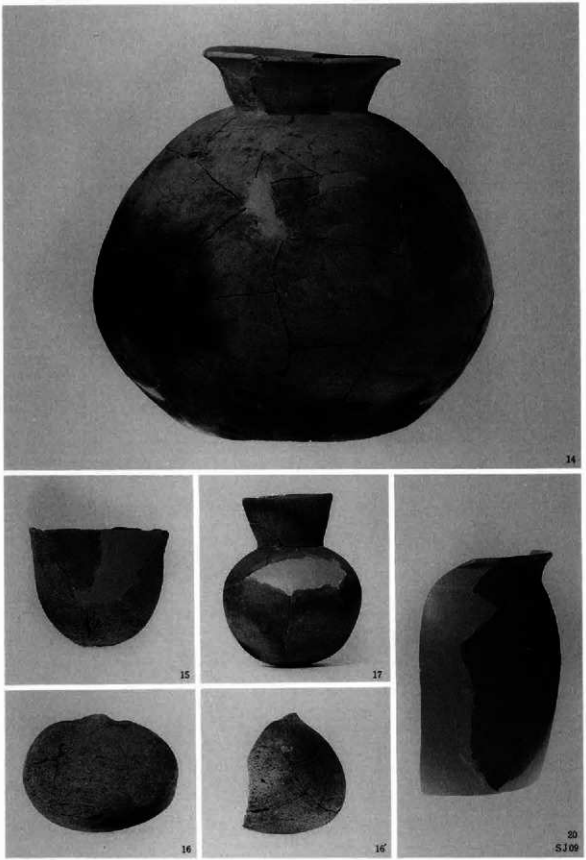
11

12

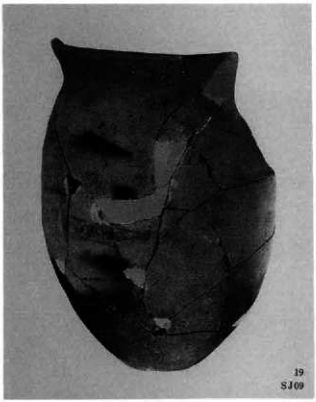
18

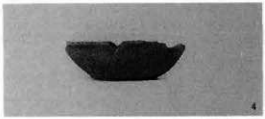
13
SJ09

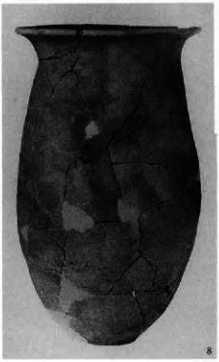
ＳＪ09遺物　　１：４



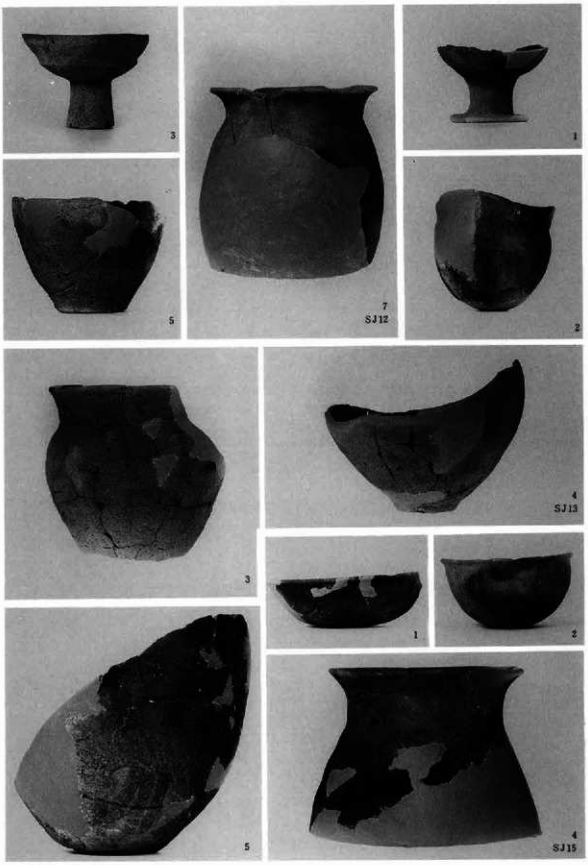
ＳＪ09遺物　　1：4



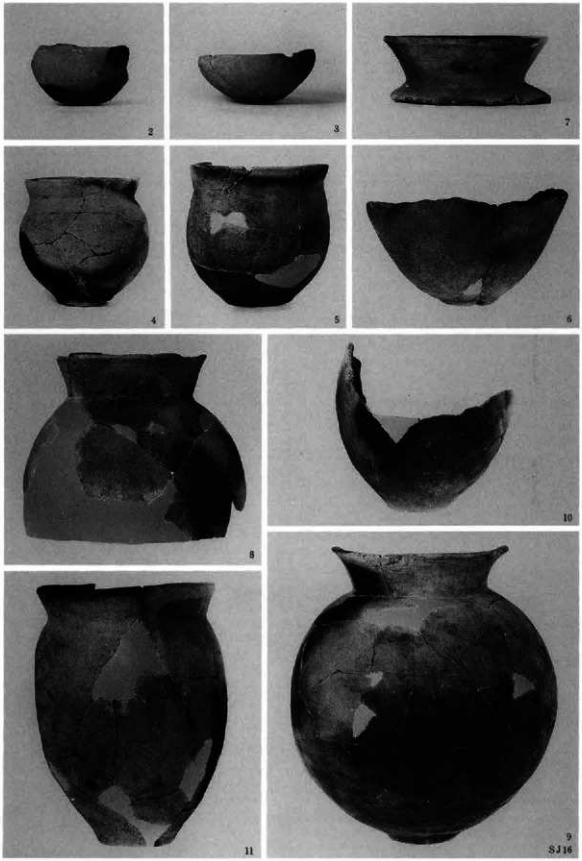




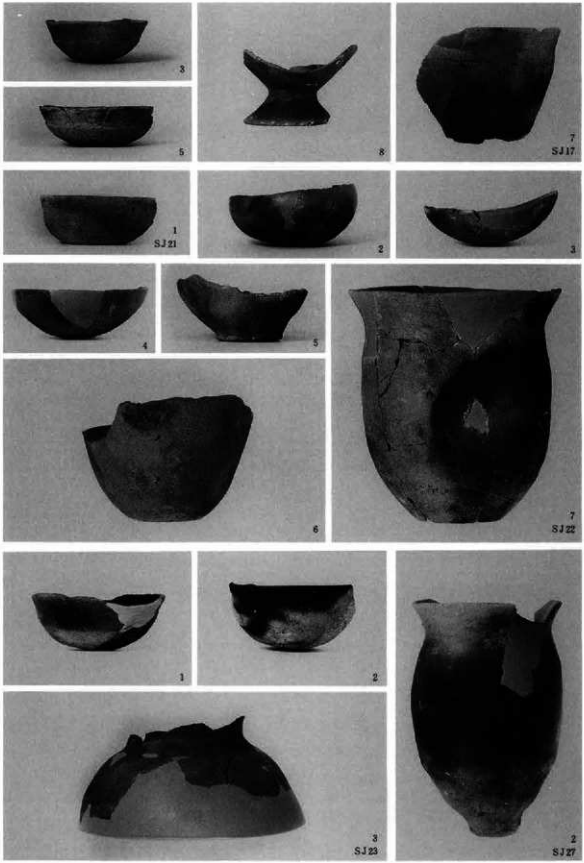
S J 09・10・11・12遺物　　1：4



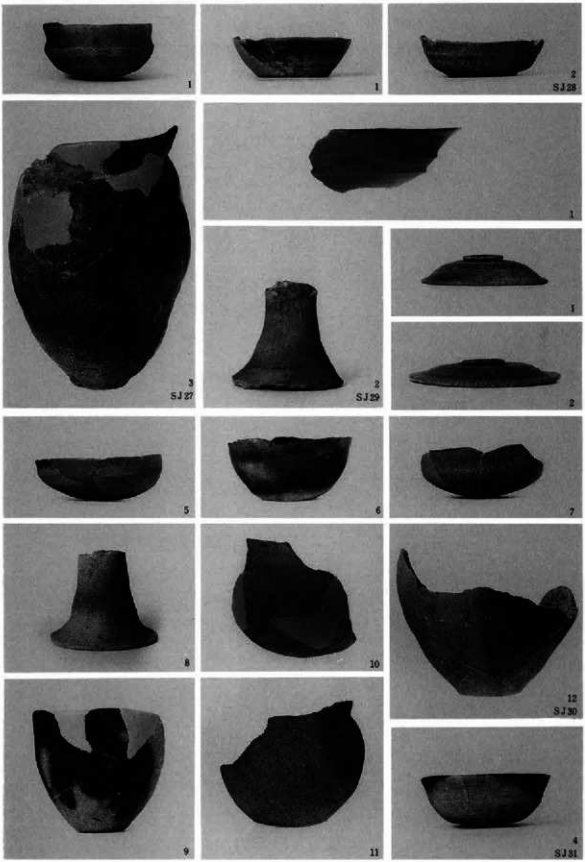
ＳＪ12・13・15遺物　　1：4



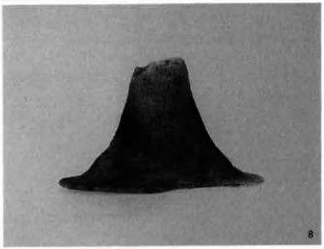
ＳＪ16遺物　　1：4

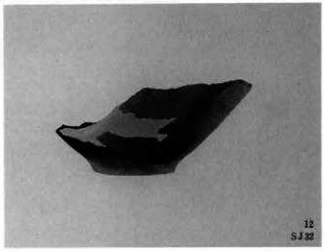


S J 17・21・22・23・27遺物　　1：4

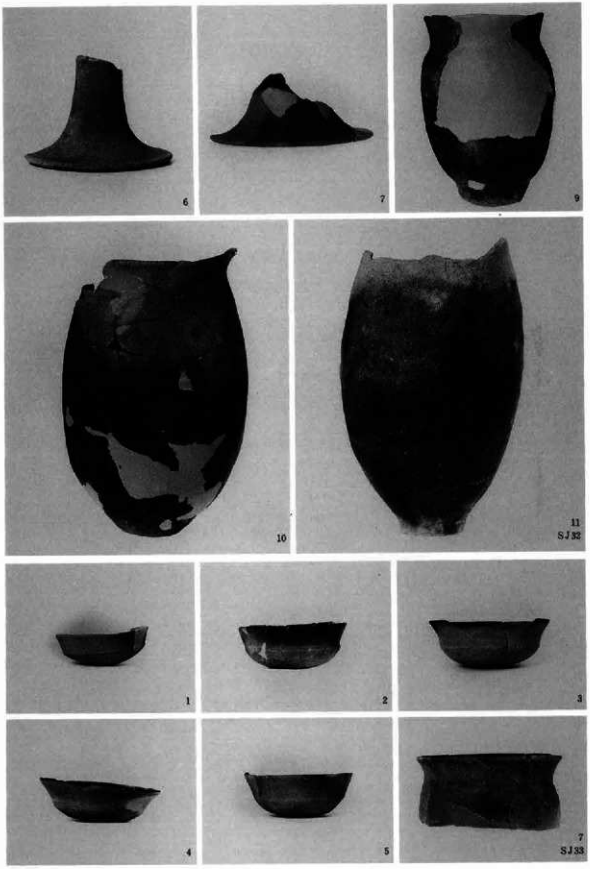


S J 27・28・29・30・31遺物　　1：4

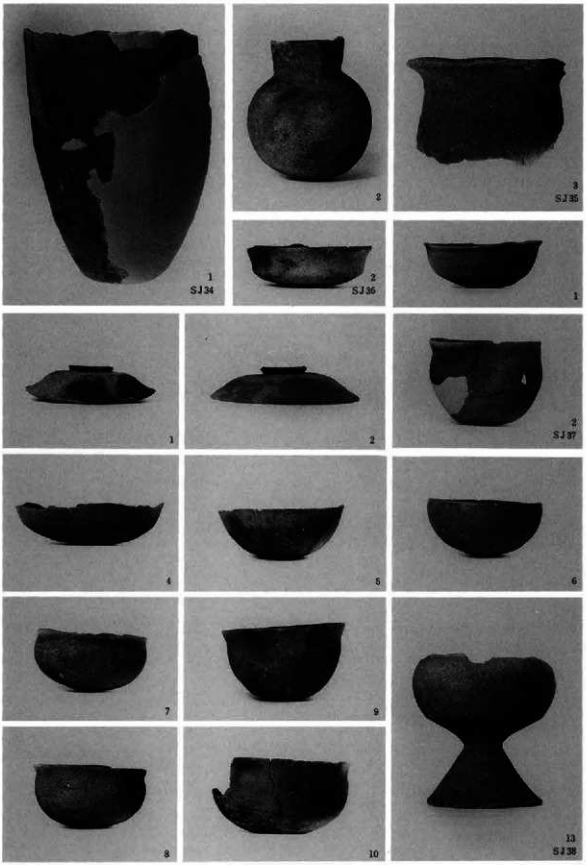




ＳＪ31・32遺物　　1：4

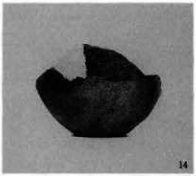


ＳＪ32・33遺物　1：4

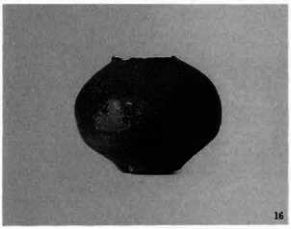


ＳＪ34・35・36・37・38遺物　　1：4

12

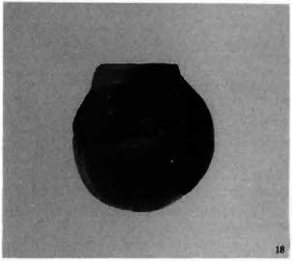

14

15


16

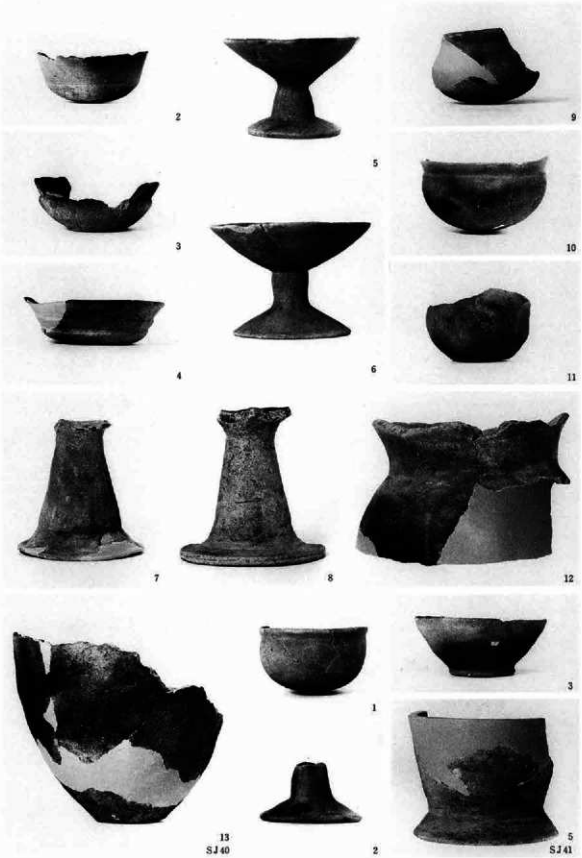
19

17

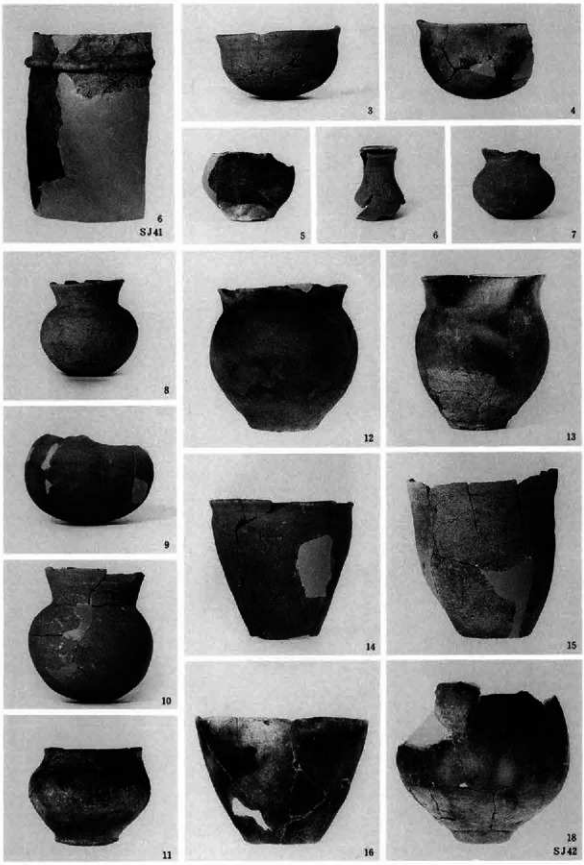

18

20
SJ39

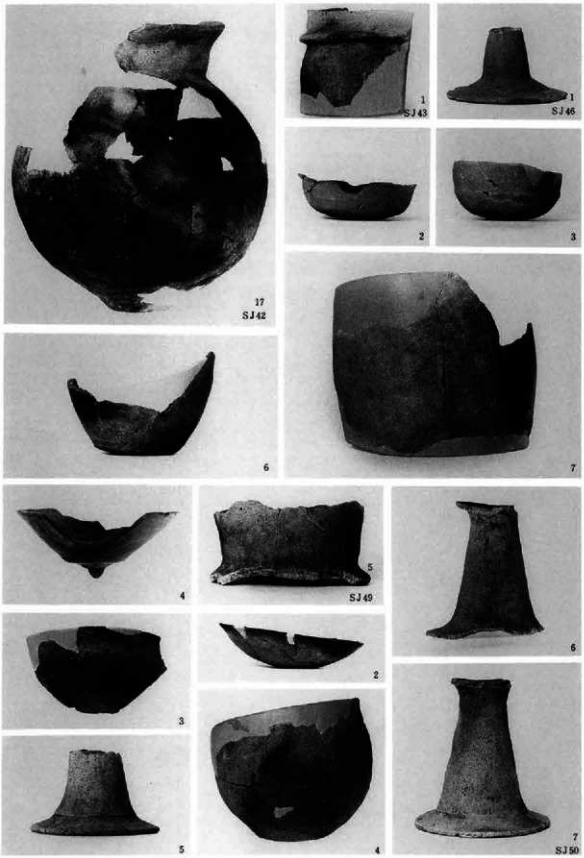
SJ39遺物　1：4



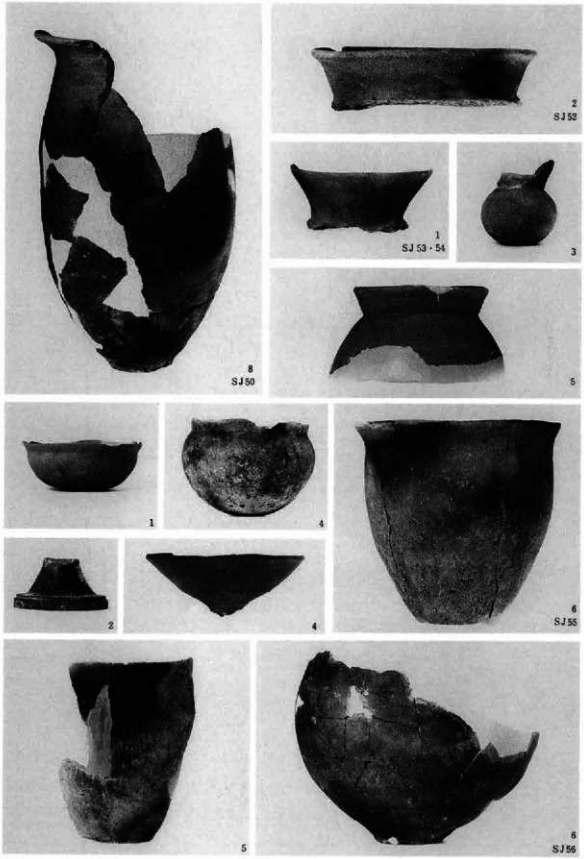
ＳＪ40・41遺物　１：４



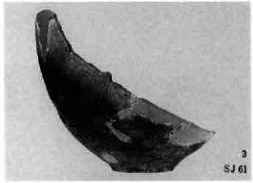
ＳＪ41・42遺物　　1：4



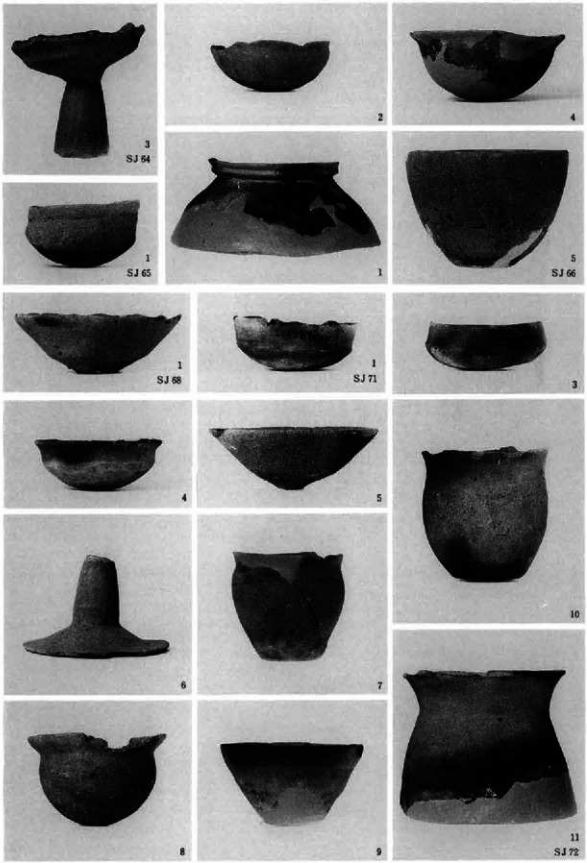
S J 42・43・46・49・50遺物　　1：4



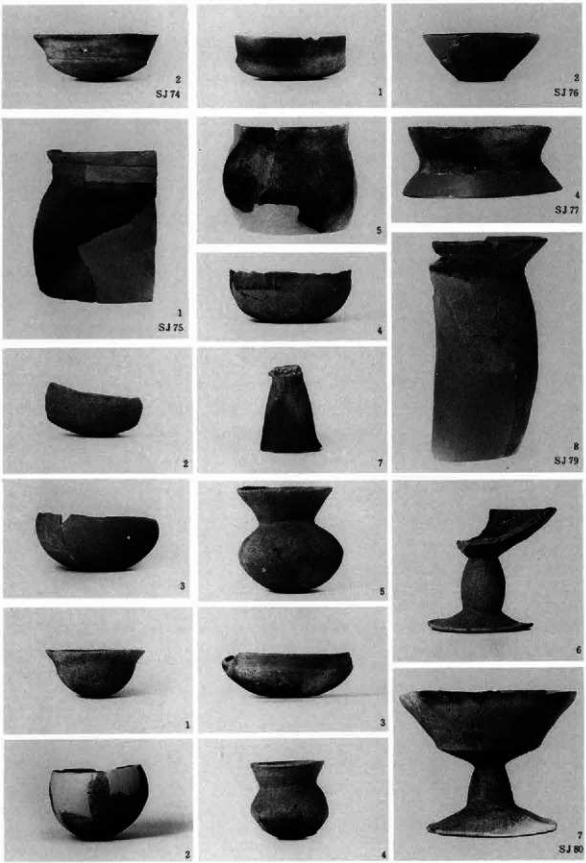
SJ50・52・53・54・55・56遺物　1：4



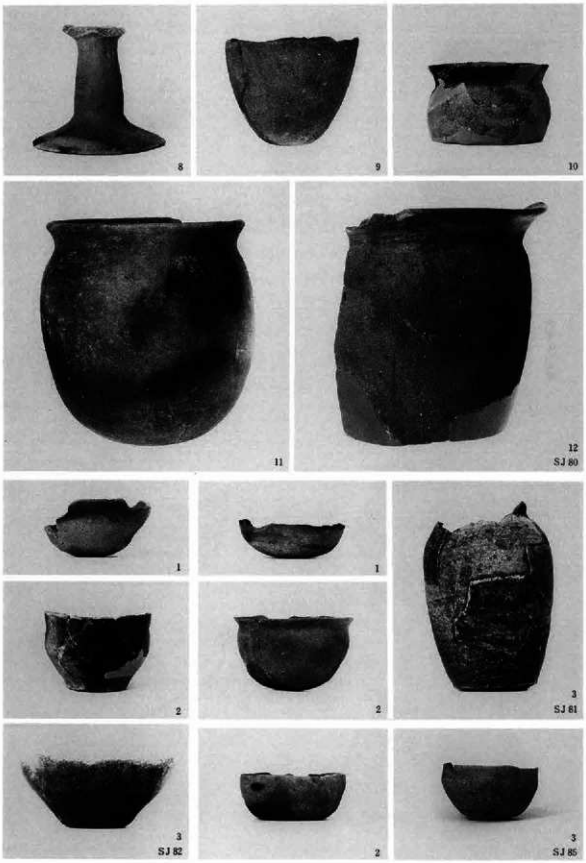
ＳＪ58・59・60・61・62遺物　　1：4



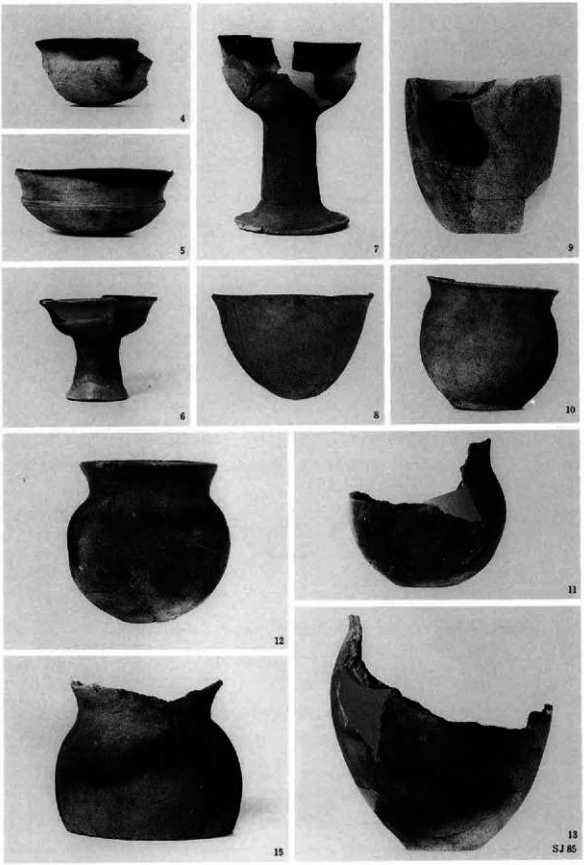
S J 64・65・66・68・71・72遺物　　1：4



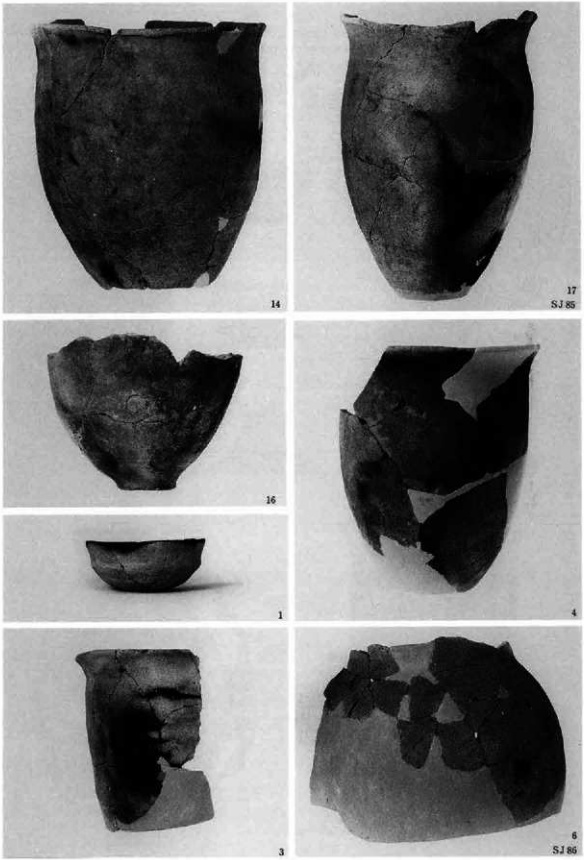
S J 74・75・76・77・79・80遺物　　1：4



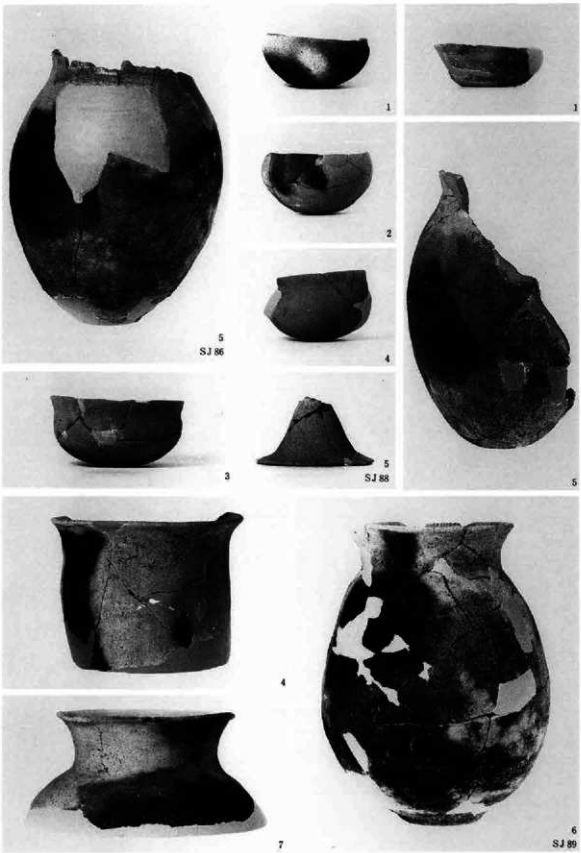
S J 80・81・82・85遺物　　1：4



ＳＪ85遺物　　1：4



SJ85・86遺物　1：4



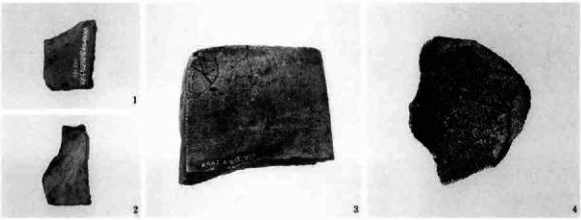
ＳＪ86・88・89遺物　　1：4

石器　1：2

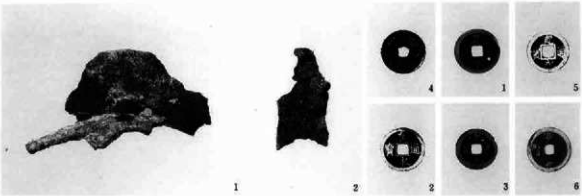
石器　1：2　　石　珪化木　1：2　　石　軟質ひすい　1：2

有孔土製品　1：2　　紡錘車　1：2

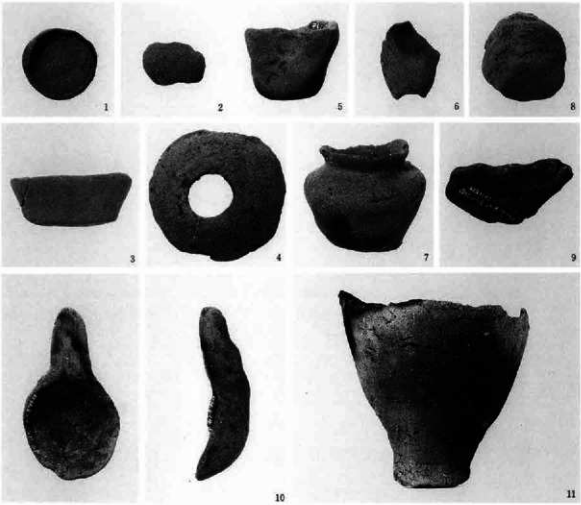
石板　1：2　　羽口　1：3



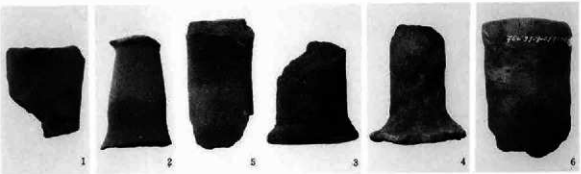
砥石　1：2



鉄製品　1：3　　古銭　1：2

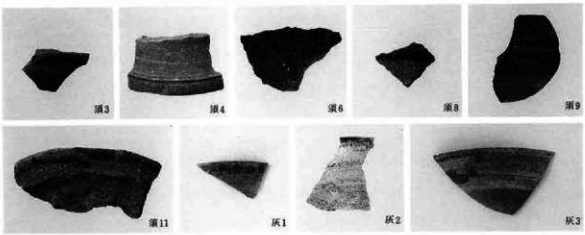


小形粗製土師器　1：2



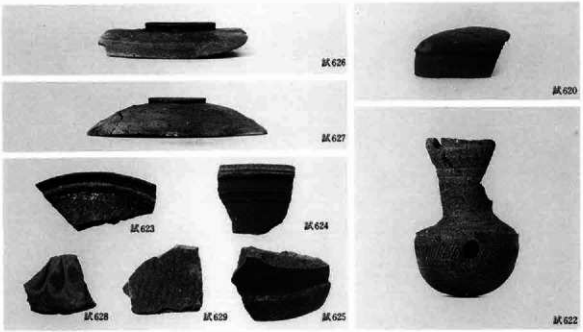
竈土製支脚　1：3

墨書土器　さくら赤外750(文字のみ)　土器1：3

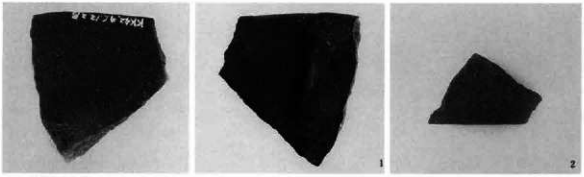


須恵器特殊器種・灰釉陶器　1：3

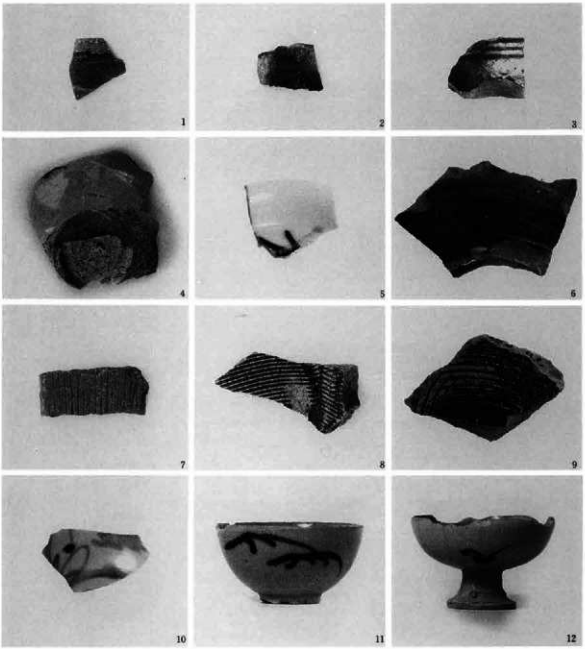
用途不明土製品　1：3



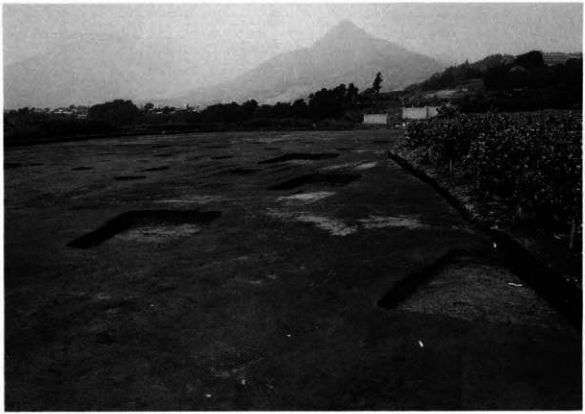
胎土分析試料　1：3



中世軟質陶器　1：2



近世陶・磁器　1：2



調査地近景　　南東　→　後方右に戸神山

調査地近景　　南　→

ＳＪ01遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ01床面状態　　南東 →

ＳＪ02遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ02床面状態　　南東 →

ＳＪ03遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ03床面状態　　南東 →

ＳＪ04遺物出土状態　　南 →

ＳＪ04床面状態　　南 →

ＳＪ04入口の柱穴状態　　北 →

ＳＪ04炉跡近景　　南 →

ＳＪ05遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ05炉跡近景　　北 →

ＳＪ06遺物出土状態　　南 →

ＳＪ06床面状態　　南 →

ＳＪ06炭化垂木出土状態　　北東 →

ＳＪ06入口の柱穴状態　　北 →

ＳＪ07遺物出土状態　　南東 →

ＳＪ07床面状態　　南東 →

ＳＪ07炉跡近景　　南東 →

ＳＪ07遺物出土状態近景　　北西 →

ＳＪ08床面状態　　南 →

ＳＪ08遺物出土状態近景　　北 →

ＳＪ09遺物出土状態　　西 →

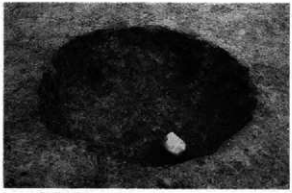
ＳＪ09床面状態　　西 →

ＳＫ01近景　　東 →

ＳＫ02近景　　東 →

ＳＫ03近景　　北東 →

ＳＫ04近景　　北 →

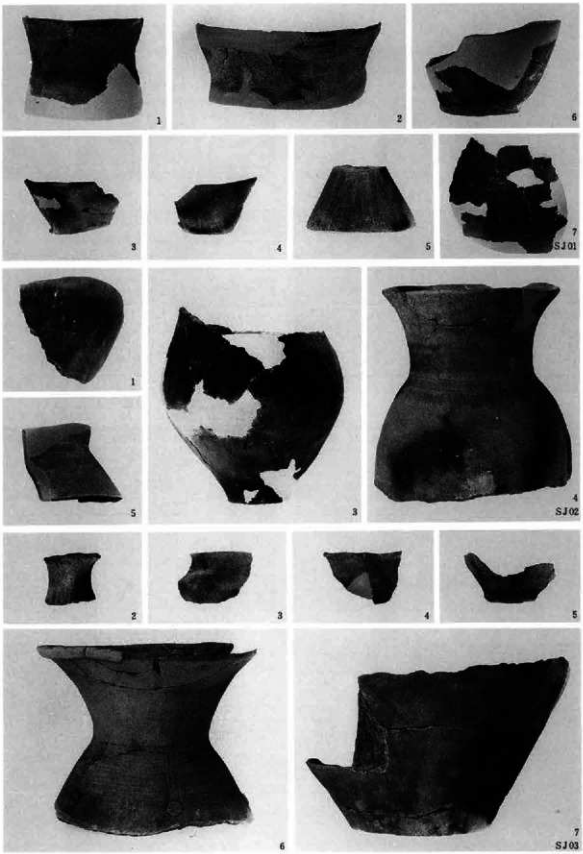


ＳＫ10近景　　南 →

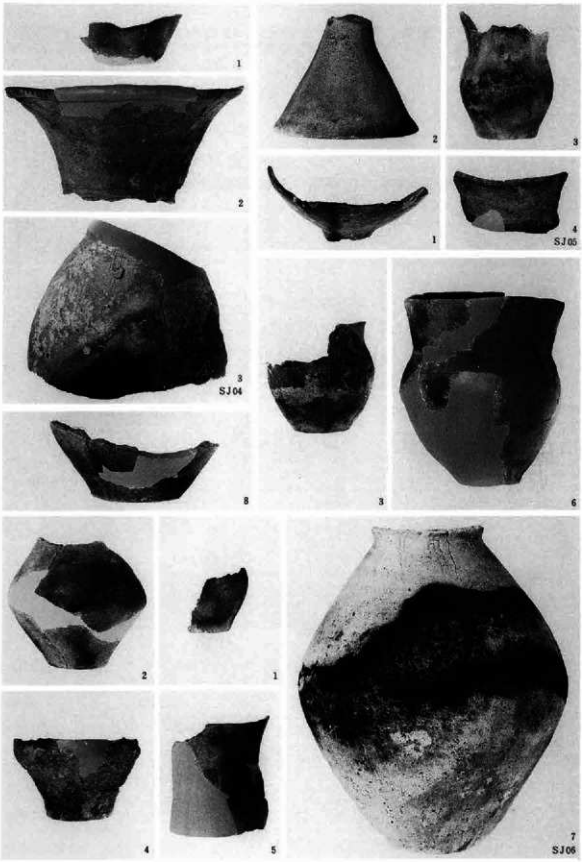
ＳＫ11近景　　西 →

ＳＫ24近景　　南東 →

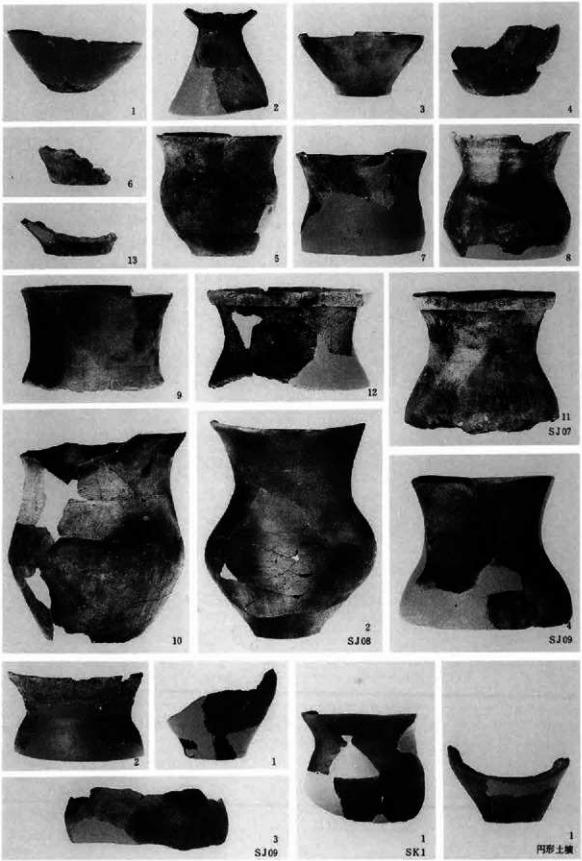
ＳＫ28近景　　南西 →



ＳＪ01・02・03遺物　　1：4



ＳＪ04・05・06遺物　　1：4



ＳＪ07・08・09・ＳＫ１・円形土壙遺物　１：４

—㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書第96集—

—関越自動車（新潟線）地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第28集—

平成元年9月25日　印刷
平成元年9月29日　発行

編集・発行／群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話（0272）23—1111

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話（0279）52—2511

印刷／株式会社 前橋印刷所